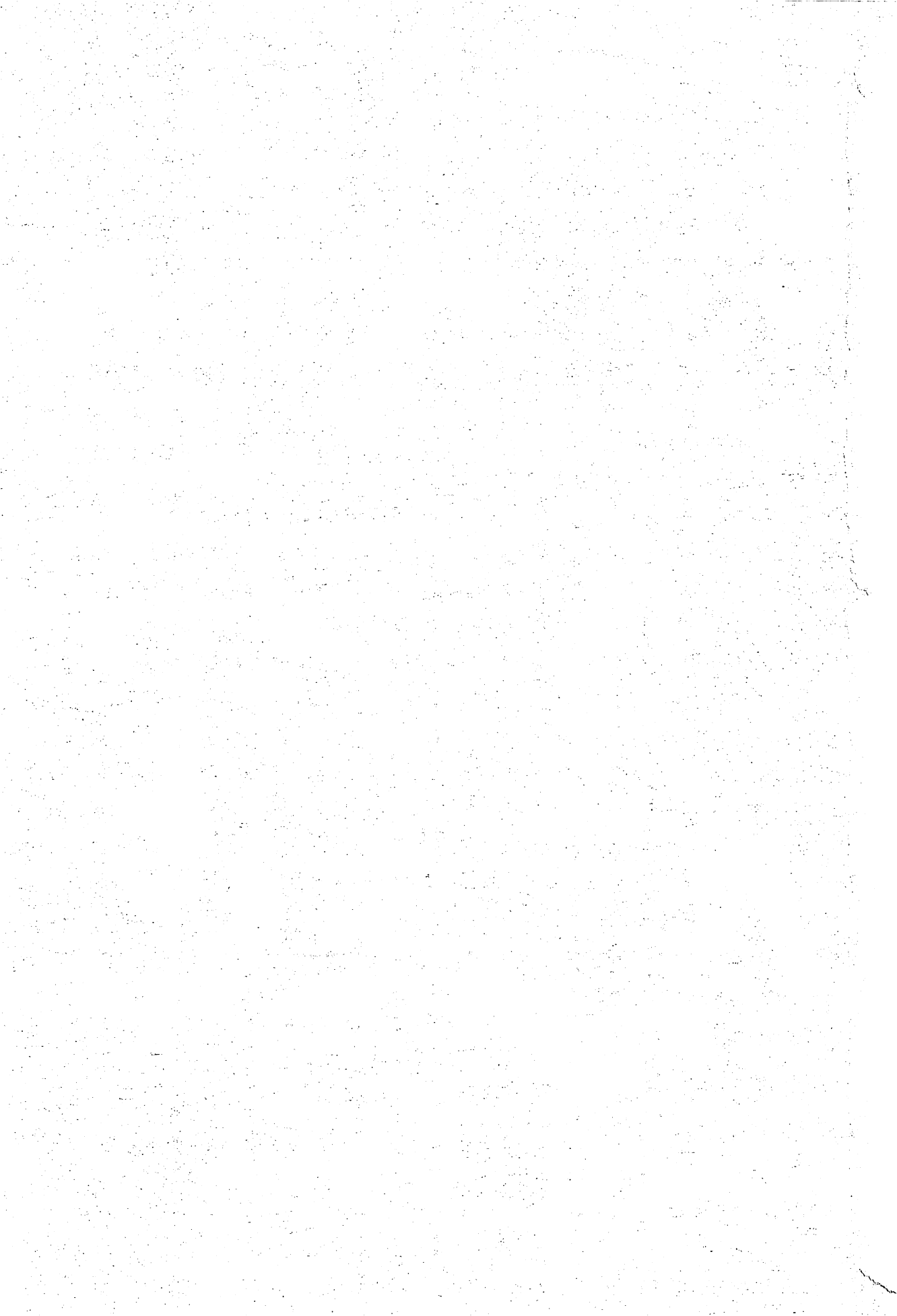


平成二十一年三月  
津山郷土博物館紀要第二十三号

寛政十一年（一七九九）

津山松平藩町奉行日記 十七

津山郷土博物館



津山松平藩町奉行日記 十七

# 目次

町奉行御用日記

寛政十一年

.....

# 凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫から、「町奉行日記」寛政十一年正月く十二月を収録した。  
一、本文の表現は、つとめて原文の形にそうようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として常用漢字（人名用漢字を含む）に改めたが、他は正字体とした。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。なお、誤字ではあるが、沙駄・算櫛・百性については筆者が常用としており、煩雑さを避けるため、注記しなかった。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。  
体てい 扣ひか 嚙あつか 歟か 喧嘩けんか 音物いんぶつ 稠敷ちゆうふ 又候またさう 風かぜ 風かぜ 舩ふね 舩ふね 持かぎ 糝かき 綺いろう

5 変体がないは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而て、江え、者は、茂も、与と及び片仮名のニ、并は、小活字で示した。

ろろ（より）、メメ（しめ）、ソソ（して）、卍卍（とも）は、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（~~）を付し、右側に訂正の文字を記した。また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。~~

7 虫損・破損などで解読できない文字は、字数を推定して「」で括り、虫損・破損によらない場合は、右傍らに（不詳）と注記した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、（表紙）のように注記した。

9 日記の天の小口には小見出しの付箋が貼られており、はがれて各丁の綴じ目に挟んであるものも多いが、元の場所に残って文字を記してあるものは、その箇所に○として示した。

10 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のように示した。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま掲げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻・編集は尾島 治が担当した。

寛政十一己未年

町奉行御用日記

五十 増見右門

(表紙)

寛政十一己未年

正月小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 黒田要人殿

大目附 松岡治部助

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

正月元 庚申旦 晴

一年頭御祝儀御嘉例之通惣登城御礼式諸事別帳之通無滞相済

正月二日 雪

一大年寄早朝罷出町方御静謐之段相届候

一御用初 = 付例刻登城諸事別帳御嘉例之通無滞相済

一御蔵米六拾壹匁町米五拾七匁

正月三日 快晴

一村尾左右衛門方返書到来住屋市左衛門出坂日延之願御番所<sub>江</sub>相届

濟候段申来

正月四日 快晴

一田中幸助方旧臘廿四日出之返書到来古借金銀出入取捌之義御近国をも承合候処大坂ハ兎も角も公儀触達之趣取用不取上候様 = 取計可然旨申来尤三浦連名 = 付右書面三浦へ相廻候

一 右同人ら船出入書面相廻致披見候由少之存寄申来候 = 付太田舎人  
江差出候

一 東西新町塩商売仕候もの共賞詞申渡候様旧臘廿八日申渡置候所町  
方繁用之時分 = 付今日左之もの共呼出し申渡候由大年寄届出候

東新町 並屋忠兵衛 藁屋与七郎 野村屋忠助 水口屋茂兵衛

松木屋新六 鍋屋平藏 種屋恵左衛門 高原屋夫兵衛

綿屋忠兵衛 広戸屋利兵衛 松屋吉兵衛 播磨屋宗十郎

岩屋文藏 鋼屋宗兵衛

西新町 木和屋源兵衛 飯綱屋定七 清水屋吉兵衛 玉木屋伝吉

湊屋清左衛門 備前屋市右衛門 沖屋庄助 富士屋清助

一 江戸小勘者相田茂市神村平兵衛ら大年寄共献上物代例年之通金式

百疋相廻候様返書差越候 = 付大年寄へ相達候

一 勝山渡部唐兵衛榊原九郎左衛門ら例年之通年頭祝書来及返書

一 昨年中之錢相場書大年寄差出候

正月五日 快晴

一 旧格之通大年寄札元諸吟味年頭初 而 謁盃遣ス礼式別帳之通

当病不参 茂渡兵吉

一 先格之通組中大年寄牢番三軒屋へ年頭札 = 相越候

一 福渡町阿賀屋助五郎屋守忠助借屋住岩松屋由兵衛方へ旧臘廿六日

夕表口錠をねし窃盜賊這入締入羽織一兩羽織一錢五百文銀札拾三

匁五分盜取候届書差出来ル八日可及御沙駄候

一 福渡町右同人借屋住世木屋清吉母さつ方へ右同様 = 盜賊這入旧臘

廿九日夕布子二くるり拾一女帯二蒲団一足袋一錠一ツ盜取候届書

差出候是又来ル八日可及御沙駄候

一 目明孫兵衛病氣 = 付悴差出福渡町斧屋清吉母被盜もの不殘三町目  
川口藤左衛門方 = 質 = 有之置主上紺屋町万五郎と有之由届出候 =

付早速文藏又六差向候所上紺屋町灰屋借屋住中津屋万五郎と申も  
の手錠懸ケ組合預ケ申付置候追 而 吟味之上可及御沙駄候

一 牢番加人土井林藏引込候 = 付井汲庄平来

正月六日 快晴

一 例年之通御藏元惣町年寄人馬問屋大保頭目明年礼受之諸事別帳之  
通但惣町年寄三拾七人出ル

当病 御藏元兩人 年寄二拾六人 大保頭老人

目明三人 不参也

一 上紺屋町灰屋与右衛門借屋住綿打屋栄藏方へ旧臘十九日夕盜賊這

入くり綿疋貫三百式拾匁被盜取候届書差出即日御用番へ差出大目

附へ相届候

一 小頭代部屋目附兼新治齋藤孫右衛門玉置六郎左衛門宮田喜左衛門

出番栄治左五兵衛下役新左衛門立合昨日召捕置候上紺屋町万五郎

呼出し遂吟味候処左之通但六郎左衛門義ハ為見習呼出し候

上紺屋町灰屋与右衛門借屋住

不及白状候得共吟味筋

中村屋

一々申披無之昨今届出候

万五郎

三軒之盜賊万五郎 = 無相違趣 = 付

入牢申付候

右之段御用番 并 大目附へ相届昨日之盜賊届書共御用番へ差出候

正月七日 快晴

一 西川平沢助八高橋金治の例年之通年頭之祝書来及相答

一 坪井滝口与次右衛門の例年之通年頭祝書来及相答

一 生野御代官稲垣藤四郎殿手代中沢良右衛門高橋督三郎勝部三五兵衛の例年之通去年中之錢相場書左ニ差越自分奥書ニ而例歳之通相

廻ス

正月八日 曇

一 御用日登城

一 橋本町蓬萊屋佐市役介佐太郎義去歳八月出奔例之通百日尋申付候

処弥行衛不相知候ニ付除帳願旧臘廿九日差出今日相伺候御聞濟

ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一 祇園三位御札藏合孫左衛門迄差出候段大年寄申出其段大目附へ相

届候

一 玉置源五兵衛御城御門通札返納仕六郎左衛門へ御渡被下候様孫右

衛門の申出中奥目附渥美源五郎へ差出候所名面認かへ差越候ニ付

同人江相渡候

一 来ル十六日御具足御祝之日例年之通登城之町人名面書付大年寄差

出候ニ付中奥目附へ相渡候

一 左義長町触例年之通差出候

一 船出入之義田中幸助の存寄申越候書面去ル四日太田舎人江差出候

所返書下案認出候様申来依之返書下案相認今日舎人江差出候

一 来ル廿日過ニ者因州へ利左衛門丈兵衛受取ニ可差遣候間大脇新左

衛門へ被仰付候様大目附へ相達置候

一 牢番加人永々受取有之儀右衛門義も急ニ出勤之程も難見江隔日之

勤ゆへ御使組も甚難義仕度々引込候様ニ相成候間加人兩人ニ而為

相勤度之旨御使組小頭与八の孫八江内々申出候由申聞候付勘定奉

行平井半平へ及内談候処向方江も申出尤以後共当分些之間之加人

ハ矢張是迄之通一人ニ而相勤候得共今般之様ニ先之見へぬ永き節

者兩人ニ仕度旨申出訳立候義ニ而少も不苦旨挨拶ニ付其段小頭へ

申達候

一 野部文治昨年入牢之服薬代在方へ懸合候得共不差越旨牢番山七届

出候ニ付三浦伴左衛門へ申達候

一 紺屋町万五郎義明九日於牢屋可遂吟味候間非人兩人召連出候様

夫々手配孫八江申付候

一 右万五郎町方ニ質置候品も有之候ハ、可申出旨相触候所川口藤左

衛門と打穴屋長七の外ニ者質物候もの無之道具屋ニ而者玉屋弥平

衛買取候品有之由夫々届書大年寄差出候

一 銀札場奉行清水勇馬栗原衛守の広戸辺ニ贖札師有之由ニ付目明相

類差遣度旨紙面ニ而申来候ニ付承知候旨及返書并小頭孫八の委

細申出候ニ付目明甚七罷越候様ニ可申付旨申達尤孫兵衛病氣ニ付

甚七留主中仮目明孫兵衛悴岩吉江申付候様申達

正月九日 快晴

一 九時出宅牢番へ相越新左衛門孫八左十郎出番文藏左五兵衛立合左

之もの遂吟味及白状尤非人三人差出牢間取計候

去十二月下紺屋町 上紺屋町

仁助方并綿打栄蔵方并

中津屋



福渡町斧屋三軒へ盜賊ニ這入 万五郎  
盜取候段及白状

一 御使組笹岡与三兵衛明日の牢番加人ニ罷出兩人ニ而相勤候段届来候

一 烏散成無宿者老人孫兵衛悴岩吉召捕二夜小屋ニ預ケ置相糺候得とも不埒之義も無之ニ付追払可申付旨孫八の申出承り届

正月十日 晴

一 藏合孫左衛門申出ニ者はた商内者懸合問屋とハ訳違候事ニ而風義不亘義ニ付井上時分停止被仰出猶又後藤時分ニも夫々咎等も有之急度御停止被仰出候処昨年の内々相始候様趣ニ相聞不埒之義ニ付急度糺之上御咎被仰出候而も可然義ニ者候得共夫ニ而者甚下之痛

ニ相成候義有之少々差合候意味も有之候ニ付大年寄場合ニ而此節の内々遂吟味候趣ニ為相響置来月朔日頃已来急度相止先前之御触之通相守候様内々相移候ハ、諸方無難ニ而已後之メニも可相成旨考申出至極尤之存寄ニ付其段亘取計候様ニ及差図候

正月十一日 大雪

正月十二日 大雪

一 吹屋町釜屋市郎右衛門悴清吉義売用ニ付大坂大川町綿屋義兵衛方へ廿日計之逗留ニ而明十三日出立願書大年寄差出承り届二月六日帰ル

一 長岡之船頭藏合孫左衛門方へ来昨年竜野の罷帰候節来三月可呼出旨役人申聞候由相咄候旨同人認出候翌十三日太田舎人ニ差出

一 玉置六郎左衛門義今般大年寄役被仰付候御役之御礼等も可有之

義与先例取調候処宝曆五亥年九月八日玉置忠兵衛役義御免跡役悴太郎一江被仰付右御礼先格之通纏節一折江戸表へ差上度同月十四日御用所同済ニ而江戸御奏者番中へ及文通候義有之其後ハ當時之三人役義御礼申上候義不相見候ニ付大年寄共へ相尋候処安永三年十一月二日玉置広四郎役義被仰付候節大沢三平の平井郷左衛門遂相談候処先格候得者献上もの有之候而も可然候得共當時殿敷御檢約中ニ付及其義間敷御用所御沙駄も有之候ハ、亘可申達置旨之由被仰聞其後御役御礼申上候もの無之旨ニ付今般も其儘ニ致置候一牢舎人猶兵衛療治二廻り相済未相勝旨双方の申出代リ医申付候様申達

三月十三日 晴雪

一 京町北山修斎娘たい義備前岡山家中片岡久左衛門貫度申候ニ付差遣申度人別除願御用番御聞済ニ付大目附へ差出置御聞届之旨大年寄へ申達候

一 船出入一件之義田中幸助へ之返書下案認差出置候処思召ニ不叶さつと一ト通りニ相認差出候様被仰出旨太田舎人申聞候

一 船出入運賃上ケ之義ニ付懸合被仰付兩度飛脚差遣候賃錢拾九匁之受取証文差出奥書取計候

一 牢舎扶持三俵之内貸証文差出奥書取計候尤来月へ四斗八升六合式勺五才指越候積也

一 贖札吟味ニ差遣候目明甚七昨日罷帰り江戸辺致吟味候処元久田杉野村幾之助と申もの致贖札候由ニ者候得共當時因州の方へ罷越候由ニ而得召捕不申罷帰候由小頭の届出候

一町方関貫入用年賦銀去暮五拾匁致上納候処今日銀札場を請取書相廻り大年寄へ相渡候尤加藤広治致持參候

正月十四日 雪

正月十五日 雪

一自分具足鏡開ニ付例年之通九時を書役組中牢屋三軒屋呼出し致至膳部出之諸事例年之通式之通也尤当病無之且又牢番和田義右衛門久々之病中ニ付不罷出加人御使組兩人罷出ル且又書役新左衛門義当年者下役ニ相成候事故相改第一番ニ座敷ニ呼出し組之時とハ少席をかへ南北ニ斜ニ着座土器ニ而致盃其後ハ組中と一所ニ膳部出候事

正月十六日 小雪

一御具足御祝ニ付御嘉例之通五半時揃惣登城御祝義無滞相濟諸事旧例別帳之通也

一町人并町医師登城御奏者番伊達与吉郎謁諸事先格別帳之通無滞相濟但当病不参左之面々也

藏合孫左衛門 山本三郎左衛門 熊野屋文五郎

姫路屋伝六 北山修齋 北山修伯

一江戸御奏者小須賀貢を大年寄共歳末献上遂披露候段申来大年寄へ申達候

一小須賀一学殿三月出府被仰付候旨大目附を演説有之三奉行相揃御用所ニ罷出自分御悅挨拶申述候

一大目附太田舍人右同断出府被仰付候

一船出入一件田中幸助へ之返書差出置候所思召ニ不叶向方を申越候

趣も御評議有之候事ニ候得共何角当り障も有之義ニ付是迄之通ニ

仕向有之義ニ御座候委細之義ハ入組之義ニ而難認取無程太田舍人

出府ニ付同人を御聞候様ニと可申遣之旨御用番中御差図之由太田

舍人被申聞候

一船出入一件竜野吟味詰口書写大秘書太田舍人被差戻候ニ付大切之

もの候義故藏合孫左衛門へ早速戻置候

一古道具屋改帳例年之通大年寄を差出候

正月十七日 快晴

一松岡治部助を昨夜宵之内ニ同人長屋中間部屋へ盜賊入込左之四品盜取候ニ付早々申越候由申来尚又大目附太田舍人右之段御用番

へ相届候処役筋ニ而盜取計候様可相達御差図之旨申来早々目明へ

申付候様小頭へ申付ル

看板 卷ツ 番脇差 一腰 木綿わた入 一 八丈昼夜 帯

一筋

一二町目福永屋吉兵衛借屋住西屋重藏夫婦娘二人右家内四人旧臘十

四日罷出不罷帰出奔之旨届書差出候ニ付例之通百日尋申付候

一去年年中町方生死人別出入改左之通

一他所より受 百五拾人 内 男七拾六人 女七拾四人

一出生百七拾六人 内 男九拾人 女八拾六人

〆三百式拾六人

一他所より引越 九拾七人 内 男五拾三人 女四拾四人

一死失 百五拾五人 内 男七拾貳人 女八拾三人

〆式百五拾貳人

右差引 〆七拾四人増

右人別改書

正月十八日 曇

一 御用日登城申上候御用向無之尤今朝大目附松岡治部助〆今日〆字  
治橋之間講釈始ニ付麻上下着用登城候様三奉行連名ニ而右之段為  
知申来候

一 関貫番賃銀百四拾五匁五分真北類藏〆差越受取置

正月十九日 晴

正月廿日 晴

一 松岡治部助長屋盜賊ハ必定已前人屋ものニ而河合元碩家来ニ相成  
居候茂藏と申ものニ而可有之同人義久世勝山新城之方へ鍛冶手間  
ニ罷越候由聞出候ニ付孫兵衛倅岩吉并茂藏見知候早助并非人壱人  
右三人可差遣旨文藏并孫八〆申出承り届銀札三拾匁孫右衛門〆受  
取為持遣候様及差図

一 勢州一志郡八智村達都と申座頭神戸院庄〆一ノ宮之方致勸進沼村  
〆東新町へ送り来候得共先格之通相對ニ而勸化不相成旨申達在分  
江送り出し可申哉之旨大年寄伺出宜取計候様ニ申達ス

正月廿一日 快晴

正月廿二日 曇

一 元魚町糺屋伊助倅幸吉義商用ニ付大坂大川町綿屋義兵衛方江四十  
日計之逗留ニ而明廿三日出立願書大年寄承り届差出  
一 播州広峰魚住藏人〆年頭之祝書来及相答

一 坪井町吉野屋六右衛門家屋敷南側ニ而表口三間裏行拾七間但菅軒

役也西隣ハ阿賀屋六兵衛東隣ハ増野屋喜助也右家屋敷質物ニ書入  
一ヶ月巻歩半之利足ニ而来ル西十一月迄三ヶ年之間銀札三百匁町  
内羽織屋治右衛門取次ニ而借受度願書承り届翌廿三日日本証文差出  
文化四卯年十二月七日元利濟差返ス

一 新職人町滝本屋平四郎持来候古道具屋株二階町山本屋栄吉讓受度  
願書差出承り届株札名面相改相渡候

一 牢屋油樽損候ニ付相伺度小頭〆申出承り届

一 牢屋ニ而取計等有之節前夜及深更穢多共へ申遣候義有之候節番子  
差遣候ニ焼灯無之是迄ハ牢番共之持合ニ而も貸候得共何卒焼灯被  
仰付候様ニと牢番共申出候段小頭〆申出候ニ付穢多共之燃候焼灯  
ニ候得者御相印ハ不相成候間小田原焼灯相調牢屋と相認渡候様ニ  
と孫八江申付候

一 一目孫兵衛不快ニ付源之丞仮目明申付今夕受廻り為仕候段孫八〆  
申出候尤非人二組差出候事

一 京町年寄若松屋善左衛門昨夜病死候旨大年寄届出候

一 西今町庭瀬屋佐助妻旧臘出産産婦死去之処右小兒を組合紙屋六藏  
直屋市郎左衛門山際屋和助常屋文兵衛保頭庄七右五人殊之外深切  
ニ致世話候ニ付庄七江者五百文跡四人江者御賞御座候様仕度旨大  
年寄伺出奇特之義ニ者候得共申上候程之義ニ而も無之候ニ付場合  
切ニ而賞シ庄七江者工面もの内〆五百文差遣候様ニ申達候

正月廿三日 快晴

一 御用日登城

一 吹屋町吹屋八右衛門方へ去ル廿一日之夕八ツ時過裏之溝〆盜賊這

一 吹屋町吹屋八右衛門方へ去ル廿一日之夕八ツ時過裏之溝〆盜賊這

入銀札三百匁余被盜取候由届書差出御用番中へ申達大目附へ差出置

一 大隅宮於社地二月中旬頃晴天三日花相撲興行仕度願書伏見町小車

「吉差出候由岡田繁太郎差出候付付寺社取次引合之上大目附

江も及」置御用番中へ差出候所御聞濟付右願書大目附へ差出置御聞濟」岡田繁太郎呼出し申達候

一 盜賊召捕去ル廿日差出候孫兵衛倅岩吉非人今曉罷歸リ三加茂

新城迄跡を追參候所右茂藏義何方も不差置候付生国雲州今市

へ罷歸候由米子へ越候由夫切いたし罷歸候由申出其段大目

附へも及噂御用所も及御噂候所以後可罷越義も可有之候間永尋

之心得而心付可申之由被仰聞候

一 盜賊市五郎召捕候為手段渥美源五郎長屋住治助義出牢可申付旨去

冬相伺候所一学殿先春迄ハ其儘差置候様御差図付其通いたし

置候得共市五郎義も最早遠国へ立去り候由相聞候付於別席一

学殿へ其段相伺候処左様之趣も候ハ、最早出牢申付候も可然

間月番江申候様と被仰聞候付其段於御席御用番中へ相伺候処伺

之通取計候様御指図付大目附へも及噂置右之段渥美源五郎へも

懸合明廿四日九時家来被指出候ハ、相渡可申旨申達置治部助役

介請人召連出候様大年寄へ申達小頭も夫々手配申付候

一 旧臘廿八日大目附達有之候村上清太夫組西村八兵衛渡り屋敷

居候浅次郎と申もの郡代所博奕懸り合之もの付遂吟味候様達有

之其節者相届候ハ、差出候様可相達旨大目附被申聞候付明廿四日

可遂吟味候間被指出候様大目附へ申達候所村上清太夫手紙

懸合来候付明廿四日」時受人差添被差出候様申遣候尤右手配も小頭へ申達置候

一 因州へ丈兵衛利左衛門受取来月上旬之内者可差遣候間下役大

脇新左衛門被指遣候様被仰付候様大目附へ相談之上御用番中へ相

伺候処御聞濟而右等之義近例ハ支配頭不及達上役可申達義

相成候間拙者より新左衛門へ可相達旨御用番中被仰出候付其段

大目附へ相達勘定奉行へも及通用置其段新左衛門へ申達候且同

心組小頭共五人目明一人非人三人可差遣旨御用番大目附へも

申達置候尤小頭も平組同様道中ハ不寝番警衛いたし候先格付

其段申達候

因州へ丈兵衛利左衛門 町奉行下役 大脇新左衛門

受取被差遣候間万端引受 罷越可受取候 小頭

因州へ丈兵衛利左衛門受取 三船孫八

差遣候間受取道中不寝 平組

番等いたし大切致警衛 萩野藤藏

受取可罷歸候 中山百藏

但小頭孫八義道中ハ平組 神田栄治

同様致不寝番警衛可 御使組

相動候 前原斉治

目明

小頭申付候様 一人

申達候

非人

三人

小頭孫八因州行留主中

三船新治

小頭仮役申付候

△右之通新左衛門被仰付候所是迄ケ様之懸合ハ何れも肩衣致着用

候由昨年因州方来候小倉要助も肩衣致着用候■段々承り合由

「処昨年江見貞右衛門郡代所御代官所へ差出候節も所々參

候所此方様之差遣候もの計肩衣不致着用候而も如何も有之且

先方へ対し候而も御失礼も候間十郎左衛門御用番中へ申

達同濟而懸合中ハ肩衣御免被成候由付右之訳等も大目附へ

申談候得共大目附中ハ左様之義ハ一向不存由而殊之外六ケ敷

引纏候様相成相談も出来兼候付相考候所昨年小倉要助ハ肩

衣致着用候へ共「懸ケ之義殊今般ハ他役所之ものと出会も無

之此方切之事候得肩衣着用も及間敷哉存候付御用所

而右之訳申達候処「之通他之役所へ出候義候ハ、肩衣着

用不致候而ハ相濟間敷御免も」成義候得共今般ハ左様之訳

而も無之候故肩衣着用及間敷旨一学殿被仰間候付其段大

目附へも及噂置新左衛門へも申達候

△右付同心組雨具持之赤合羽并弓張焼灯并繩等も入用付追而

大目附へ可申達候間致用意被置候様大納戸能理政治へ懸合候

△右付道中渡方之義ハ新左衛門懸合候様申達置候

△右之通下役へ旅御用申渡候古格ハ支配頭■御用番中御達有

之候処昨年江見貞右衛門被仰付候節上ハ役場合申付候形

相極候由

一 牢浚昼廻り新治文蔵申付候所無別条段届出候

一 昨夜受廻りいたし候所無別条段目明甚七届出候

一米中買共相相場式拾式冊昨年差出上原彦蔵へ相廻置候処差戻候

付大年寄齊藤孫右衛門へ相渡候

一 御飛脚仕廻付田中幸助へ船出入一件之義及返書并大年寄献上も

の代金貳百疋小勘者へ相廻候

正月廿四日 晴

一下役新左衛門小頭孫八部屋目附左十郎立合出番藤蔵栄治而左之

通取計候

吟味筋相濟候付 渥美源五郎長屋住

牢番預ケ差免主人源

五郎方へ差戻候

右母妻子ハ受人兩人召連出右之通申渡畢而玄関前而小頭孫八

より源五郎家来相渡候尤源五郎方家来差出候段手紙来候付

其旨及返書候右取計相濟候段御用番并大目附へ手紙而相届候

盜賊市五郎舅付他参留 新職人町

申付置候処他参留差免候 清助

右者大年寄申渡候様申付ル

浅次郎義一ノ宮出茶屋 村上清太夫組

いたし居離別之父七右衛門

博奕一件付右出茶屋泊り

居候所被召捕候付右始末遂

西村八兵衛渡り屋敷住

浅次郎

受人兩人差添

吟味口書印形取之候

右<sup>者</sup>受人兩人差添村上清太夫<sup>を</sup>差出<sup>并</sup>西村八兵衛も罷越候得共入用之義も無之<sup>ニ</sup>付差戻候右口書印形取之其儘差歸し又候呼出候義も可有之候間此砌「」方へ不參様<sup>ニ</sup>可致旨受人共<sup>江</sup>も申付帰候尤清太夫<sup>江</sup>も吟味相済<sup>ミ</sup>差返候得共又候御裁許之節可呼出義も可有之旨手紙<sup>ニ</sup>而申遣置候

右口書ハ郡代所<sup>江</sup>相廻候

一 上紺屋町牢舍人盜賊万五郎相借屋独身亀吉と申ものへ万五郎<sup>が</sup>諸道具預ケ置候様風聞有之候<sup>ニ</sup>付番藤藏栄治差向家内諸道具迄為相改候処桶鉢道具之分廿品預り居候得共疑敷ものハ無之<sup>ニ</sup>付左之通申付置候段出番<sup>る</sup>届出候

盜賊万五郎諸道具預り居候付

上紺屋町

他參留申付候

亀吉

一 明廿五日九時<sup>ら</sup>牢屋吟味<sup>ニ</sup>相越候間夫々手配申付候様孫八<sup>江</sup>申達ス

正月廿五日 晴

一 九時<sup>ら</sup>下役新左衛門小頭孫八部屋目附左十郎出番為治百藏召連牢屋へ罷越万五郎義水責取計候

一 遂牢問候得共先日白状之外

上紺屋町

罪状無之

万五郎

一 牢屋へ呼出し一ト通り相糺候処万五郎

同人

盜賊仕候義一向不存候

妻

一 万五郎諸道具預り候訳相糺候処

同町

家財相改候後万五郎妻<sup>ら</sup>売払具候様  
相頼預ケ候由

亀吉

一 無宿清藏と申もの召捕右ハ寛政五年安岡町森永屋<sup>ニ</sup>而正米盜取候もの<sup>ニ</sup>而又候立帰候<sup>ニ</sup>付下方<sup>ニ</sup>而蔽敷糺申付候得共今般ハ一向悪事ハ不致由<sup>ニ</sup>候得共立帰りもの<sup>ノ</sup>義<sup>ニ</sup>付入牢申付其段御用番<sup>并</sup>大目附へ相届候

無宿

入牢申付候

清藏

一 吹屋町吹屋八左衛門方之盜賊之義下人栄吉と申もの疑敷旨尤同人義ハ備前佐伯もの<sup>ニ</sup>而明日ハ罷帰り候由<sup>ニ</sup>付昼廻り藤藏栄治差向ケ下女下男共不殘諸道具為相改候処何れも心懸り之義無之旨申出候

一 播州姫路本町表屋孫兵衛手代左十郎一人例年之通古手買<sup>ニ</sup>来候段

新職人町松野屋十右衛門宿切手差出

一 大坂常盤町二丁目鍵屋善兵衛手代長藏一人例年之通紺屋形売<sup>ニ</sup>来候段右同人宿切手差出二月朔日帰

正月廿六日 曇

一 細工町<sup>ニ</sup>而作人善兵衛家屋敷表口三間裏行拾壹間但老軒役也東隣<sup>者</sup>大工太七西隣ハ灘屋太郎右衛門也右家屋敷質物<sup>ニ</sup>書入銀札四百匁来ル西ノ十一月切<sup>ニ</sup>三ヶ年之間借用仕度願承り届二月十九日本証文差出

正月廿七日 快晴

一 牢舍人善兵衛七右衛門郡代所<sup>ら</sup>吟味<sup>ニ</sup>付呼出し申来出番左五兵衛文藏差向出入取計候

一 半舎人猶兵衛義療治二廻リ相濟候段昨日双方より申出代リ医申付ル

一 西今町北側ニ角屋吉兵衛家屋敷表口三間裏行拾五間但五歩役也

一 西隣ハ浅島屋茂兵衛東隣ハ橋詰也右家屋敷四年巳前辰十月五百匁

ニ賃入ニ仕候処今般受返し相濟候段届書差出候二月七日差發出

一 右同人家屋敷之内西之方ニ表口四尺八寸裏行拾五間御役壹歩三

厘五毛相添代銀札貳百五拾匁ニ相定組合浅島屋茂兵衛へ売渡虔願

承り届

一 清閑寺前藪際ニ播州印南郡□□□村真月と云穢多坊主行倒候由目

明届出尤同人申口者十一ヶ年以前より当所へ来去七月□□□村榎

坂孫平方ニ居候処病氣付候ニ付去ル廿一日野山へ被捨候間漸々是

迄出候由自筆書認差出其段大目附へ及通用候処下目附も一ト通り

及見候所右同様之申口ニ候由何分在方為相糺可申候間夫迄ハ□□

□□為引取為致養育候様松岡治部助より申越候付即刻罷越穢多之義

故今夕之所者非人番申付可置候間穢多村へ引取候様御達可被下旨

申述候得共承引無之是非□□□□為引取候様申付ニ付其段大年寄

へ申付候

正月廿八日 時雨

一 御用日先格之通麻上下着用登城

一 西今町檜物屋八郎兵衛借屋住福場屋茂市義今田不及と相改針医師

ニ相成度家職替願差出先格取調候処伺ものニ付御用番中へ相伺候

処御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達

一 材木町福中屋多助後家養子定吉義去年六月引受候処家風ニ不相叶

親元備前磐梨郡石蓮寺村庄右衛門方へ差戻度人別除願右同断取計

濟

一 材木町正木屋甚右衛門借屋住ちか并 悴喜与藏右家内二人備前磐梨

郡田原下村善三郎方へ引越度人別除願右同断取計濟

一 西今町湯田屋太郎左衛門娘ちか義三浦志摩守殿領分当国真島郡上

山村侘美儀左衛門養母ニ差遣度人別除願右同断取計濟

一 今般因州へ丈兵衛利左衛門受取ニ差遣候入用ニ付

一 大文字付弓張焼灯 二張

一 赤合羽 三ツ

一 縛繩 八筋

右拝借いたし度大目附へ申達候所借用ものニ候得者不及差戻候間

直ニ懸合候様被申聞候付大納戸小林曾一右衛門へ懸合置候

一 大文字付黒布羽織 二ツ

一 青漆合羽 三ツ

右引かへ之義大目附へ申達候所右同断挨拶ニ付其旨懸合置候

一 因州へ下役新左衛門差遣候付添状下案御用番中相伺候処少々御添

削有之伺濟

一 京町年寄若松屋善左衛門跡役ニ文字屋嘉左衛門へ申付度昨日伺出

承り届置候所今日申渡相濟候段届出候尤同人義ハ巳前も年寄役相

勤今般ハ帰役と申付候

一 上紺屋町住盜賊中津屋万五郎盜もの左之通質屋より取上ケ夫々相

渡ス

一 衣類六品 川口藤左衛門より取上ケ福渡町斧屋清吉母へ相渡

一 くり綿代拾七匁七分三厘小性町芋田屋佐助より取上ケ上紺屋

町綿打栄蔵へ相渡

一 黒袷羽織 袴ツ 川口より取上ケ

一 空色ふとり帯 一 打穴屋より取上ケ

右二品備前屋仁助へ相渡尤右ハ大年寄より相渡候様申来ル

一 右下紺屋町備前屋仁助方被盜もの候節触流取計候処仁助より

之色目認違有之候ニ付質屋共より不申出全備前屋仁助不調法

ニ付其段急度叱置候様大年寄へ申付候

一 聖徳寺へ被仰付候南京操芝居世話方之義聖徳寺より被相頼候ニ付同

寺抱地広原分ニ興行仕度宮脇町松井屋伊助願書差出候寺社取次

藤本十兵衛へ引合之上承り届ル

正月廿九日 曇

一 関貫番質半月分相渡

一 勘定奉行平井半平入来勝田ニ善十郎と申もの贖札いたし候由ニ付

相伺候処今般も板木取上ケ相済シ候様御差図ニ付目明差遣度候間

申付呉候様被申聞小頭呼出し甚七へ申付候様申達ス

一 橋本町西側ニ長崎屋代助家屋敷表口六間裏行拾三間但本役也南

隣ハ杉屋助六北隣ハ作人長助也右家屋敷之内南端ニ表口壹間ニ

御役壹歩七厘付代五拾匁ニ相極町内武蔵屋甚蔵へ売渡又右之内

中ニ表口三間半御役六歩付代百七拾五匁ニ相極町内広瀬屋喜助

へ売渡又右之内北之端ニ表口壹間半御役式歩三厘付代七拾五

匁ニ相極町内佐伯屋長左衛門へ売渡願書差出承り届二月八日売

券状三通差出候

一 牢番加人笹岡与三兵衛不快引込ニ付野尻和助差出候旨届有之

二月大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 佐々木主馬

大年寄 玉置六郎左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

二月朔 己丑旦 雨

一 贖札吟味之義目明甚七江申渡置候処同人より申出候由ニ小頭より申

出候者右吟味之今般者銀札場よりハ差図無之旨甚七より伺出候旨申出

候付勘定奉行平井半平江申達候処今般者当役より申付遣呉候様ニ申

来候ニ付其旨小頭申付候処小頭より札元庄右衛門へ懸合銀札五拾匁

受取相渡候旨小頭より申出候尤明日者心懸り之義も有之候ニ付明後

三日罷越候由申聞候



一 大坂天満三町目播磨屋仁兵衛手代多助一人例年之通唐弓弦売ニ罷  
越候段新職人<sup>前欠之</sup>松野屋十右衛門宿切手差出三月十七日帰ル

二月二日 曇

一 牢舎人鉄藏義郡代所々呼出し申来出番文藏又六差向出入取計候  
一 目明孫兵衛今以病氣之処甚七義明日勝田へ差遣候付留主中仮目明  
源之丞へ申付候段小頭申出承り届  
一 無宿立帰リ牢舎人清藏懸り合之もの共不残大年寄ニ而相糺口書差  
出候

一 御家中関貫普請入用并貞播摘込入用左之通小頭手形差出候奥印  
取計候但巳ノ十一月六午十二月迄之分也

三百九拾六匁八分七厘

一 松岡へ這入候盜賊茂藏召捕候岩吉并非人三廿茂新庄迄差遣候入用  
都合左之通小頭差出奥書取計候

三拾匁四分九厘二毛

一 牢舎扶持六俵内貸証文差出奥印書取計候

一 人馬問屋給米受取証文奥書取計候

一 下役大脇新左衛門義勤米式俵被下候旨勘定奉行平井半平と通用有  
之

二月三日 曇

一 御用日登城

一 村上清太夫組西村八兵衛渡屋敷ニ居候浅次郎口書ニ御咎ニ者及間  
敷と申付紙いたし御用番中へ差出置候

一 因州へ受取ものニ差遣候もの共明後五日出立為仕候段御用番并大

目附へ申達ス

一 大脇新左衛門義因州へ差遣候付拵若堂草履取御渡被下候様大目附  
へ申達候

一 同人義因州へ致持參候筆墨紙蠟燭之類受取手形差出大目附松岡治  
部助上印取之新左衛門へ相渡候

一 今九時と左之もの共呼出し下役新左衛門小頭孫八部屋目附左十郎  
出番左五兵衛大年寄六郎左衛門諸吟味喜左衛門立会ニ而遂吟味夫  
々申渡候

立帰リ所々ニ居候得共今般ハ 立帰リ無宿盜賊

悪事ハ無之候得共立帰之訳一ト 清藏

通り口書取候

新職人町坂本屋源兵衛後家死跡 戸川町中島文吾名代

金銀出入ニ付相続人相障り候段 鶺鴒屋

幸助

願書差出候付相糺候処中島文吾 右組合

名代之ものニ而一向不存旨ニ付 年寄

差添

理害申聞今日相続人申付候間

金銀出入之義ハ相続人ニ可懸合旨申渡受一札取置候

新職人町

坂本屋源兵衛後家組合

新職人町坂本屋源兵衛後家

八郎右衛門

死跡相続人之義親類組合

作右衛門

申談早々相極可願出候

岩治

且又親類林田上之町  
土器屋作兵衛へも可遂  
相談候

奄程後家代人

清助

組頭

喜平治

年寄

平四郎

後家親類

二丁目

夷屋

安之丞

年寄

音右衛門

吹屋町

沢屋

惣左衛門

年寄

清助

船頭町

松永屋

乙兵衛

代人 茂七

右源兵衛後家死跡争論之義<sup>者</sup>伊達与兵衛殿家来中島文吾相手ニ付  
内々<sup>者</sup>御主人も承知之旨ニも相聞へ何れ取継可申もの哉ニ付大目

附太田舍人<sup>江</sup>去十一月廿八日遂相談候処十二月五日同人<sup>ノ</sup>被申聞  
候<sup>者</sup>於役筋も存寄も付兼何れ御申聞通<sup>ル</sup>外<sup>ニ</sup>取計方も有之間敷  
候間先御考通ニ取計可然旨返答有之候ニ付右之通取計候

一 大目附佐々木主馬<sup>ノ</sup>□□□へ預ケ置候行倒穢多坊主真月郡代所へ  
懸合穢多へ引渡候様被申聞候ニ付三浦十郎左衛門へ懸合候所□□  
穢多孫平義□□□へ受取ニ参候様可申付候間同人<sup>江</sup>相渡候様挨拶  
有之候ニ付其旨大年寄へ申付候

一 因州へ組之者差遣候付加入五人書役一人都合六人被仰付候様大目  
附<sup>江</sup>申達候所書役代り山形藤藏平人前原才治中村栄治日下勇助小  
林浪右衛門井汲兵四郎六人来然ル所藤藏義書役難勤り趣ニ付又六  
義書役代り申付藤藏義平組ニ申付候  
今般受取ものニ付因州へ差遣候 御使組  
前原才治  
川端又六

当役兼帯大脇新左衛門因州行  
留主中書役代り申付候

一 皆木屋甚助目明仮役申付因州行申付候所至<sup>而</sup>難決<sup>ニ</sup>而難参旨ニ付  
小頭場合為取計極密<sup>ニ</sup>而町方工面もの<sup>ノ</sup>内<sup>ノ</sup>銀札拾六匁差遣候  
一 状箱<sup>并</sup>指札白削ニ御作事へ差遣候

一 二丁目幾味屋庄七借屋住富屋多吉義四国八十八ヶ所へ参詣百日計  
之逗留<sup>ニ</sup>而来ル七日出立願承り届四月十二日帰ル  
一 目明甚七義小川之もの同道<sup>ニ</sup>而賈札<sup>ニ</sup>今日勝田へ罷越候  
一 江戸小川町小笠原玄道と申茶人体之六十計之坊主夫婦連<sup>ニ</sup>而御用  
宿玉屋弥兵衛へ来十日計逗留致度願書差出右之もの甚卒忽者之様

子<sup>ニ</sup>而所々へ参度趣<sup>ニ</sup>而與兵衛殿<sup>江</sup>も可参体と申様之義<sup>ニ</sup>候由申出候<sup>ニ</sup>付願書差戻し何ぞ格別之用事有之義<sup>ニ</sup>候ハ、相糺候上<sup>ニ</sup>而指出候様申達置候

二月四日 快晴

一 江戸小川町小笠原玄道逗留願昨日差戻候所又候願書差出山下官弥<sup>江</sup>及面談度用事有之候間是非逗留願差出吳候様申聞候由孫左衛門申出全体ケ様之願少之間之義<sup>者</sup>役筋聞置<sup>ニ</sup>而相濟候先格<sup>ニ</sup>候へ共所々致徘徊度趣既此間も妙願寺松尾円八狩野如水近藤伊左衛門<sup>江</sup>も致拱参候由<sup>ニ</sup>相聞候付大目附佐々木主馬<sup>江</sup>及噂候処先年届候<sup>而</sup>も可然旨申聞候付右願承り届候段申達乍然何方へ参度申候共先方へ及案内其上<sup>ニ</sup>而可差遣尤近辺迄罷出候共忝人差出申間敷宿弥兵衛急度致同道候様可申付旨孫左衛門へ申達候向方<sup>ヲ</sup>不審申候<sup>者</sup>国法<sup>ニ</sup>而候旨可申達旨與々申含置候同十一日帰ル

一 一宮田喜左衛門義京都高倉通三条下ル所墨屋善七方へ三十日計之逗留<sup>ニ</sup>而明後六日出立仕度願承り届

二月五日 曇 少雪

一 因州へ利左衛門丈兵衛受取<sup>ニ</sup>左之面々今朝差遣候尤出立仕候段新左衛門同組加藤広治小頭仮役新治<sup>ヲ</sup>届出其段御用番<sup>并</sup>大目附<sup>江</sup>紙面<sup>ニ</sup>而相届候

町奉行下役

大脇新左衛門

同心小頭

三船孫八

平組

萩野藤蔵

中山百蔵

神田栄治

同心加人御使組

前原才治

目明仮役

皆木屋

甚助

非人

忠蔵

乙松

熊吉

新左衛門御貸人

拵若童

草り取

小頭雨具持

忝人

平組雨具持

一 坪井町宿屋頭川原屋治助四国八十八ヶ所<sup>江</sup>參詣百日計之逗留<sup>ニ</sup>而  
明後七日出立之願同役加印<sup>ニ</sup>而差出承り届

一 西今町小島屋孫市右同断六十日之逗留願大年寄差出承り届四月八  
日帰ル

一 西今町永野屋安兵衛大坂梶木町玉子屋九郎兵衛方へ三十日之逗留<sup>ニ</sup>  
而明六日出立願大年寄聞届差出同廿九日帰ル

一 目明共以前<sup>者</sup>日々町廻りいたし届出候所後藤守助末年頃<sup>ノ</sup>相止候  
由近來物騒<sup>ニ</sup>付先月末<sup>ノ</sup>町廻りいたし候様小頭<sup>江</sup>申付候

一 昨年巳ノ十二月十九日新田村博奕參会指口之もの安岡町江川屋  
太郎市悴安ノ丞當時六兵衛去ル三日立帰り安岡町鍛冶長兵衛と致  
喧嘩候<sup>ニ</sup>付組合預ケ申付置候段大年寄申出依之左十郎為治差向手  
錠預ケ申付候同八日及御沙駄

二月六日 晴

一 贖札吟味<sup>ニ</sup>カツタへ差遣候目明甚七今朝罷帰り右板木作者ハ加茂  
幾之助と申もの<sup>ニ</sup>而同人義余野国右衛門と申もの方へ致持參彼方  
<sup>ニ</sup>而贖札いたし候処久世之定次郎大出之善十郎兩人來りゆすり少  
々銀札を取板木迄取上ケ罷帰り右兩人久世<sup>ニ</sup>而少々拵取扱候得共  
行届兼候哉右板木焼捨懸ケ候処へ人來候<sup>ニ</sup>付焼さしを縁之下へ打  
込置候由<sup>ニ</sup>而右焼さし板木二ツ取上ケ一札為相認罷歸候段届出候  
<sup>ニ</sup>付右板木一札共半井半平へ相廻候

一 目明甚七申出候<sup>者</sup>昨年迄新魚町檉野屋茂一郎方<sup>ニ</sup>召仕候雲州者長

藏と申者昨夜京町桶屋庄吉方へ這入衣類盜取戸川町伝助相頼戸川  
町打穴屋長七方<sup>ニ</sup>質<sup>ニ</sup>置候付右長藏召捕<sup>□□□□</sup>へ預ケ置候一通通  
り相札候上可申出尤右長藏當時宿<sup>者</sup>伏見町源右衛門と申もの<sup>ニ</sup>候  
由小頭<sup>ノ</sup>届出候

一 牢番加人井汲庄平不快引込届出候代リ<sup>ニ</sup>日笠伝治來  
一元魚町久里屋善兵衛妻義四国八拾八ヶ所<sup>江</sup>參詣八十日計之逗留<sup>ニ</sup>  
而來ル廿日出立願書大年寄差出承り届

一 西今町直屋善吉右同断願六十日計之逗留<sup>ニ</sup>而明七日出立願承り届

二月七日 快晴

一 安岡町久米屋鶴藏義祖母召連伊勢參宮四拾日計之逗留<sup>ニ</sup>而明後九  
日出立願書大年寄差出承り届三月十五日帰ル

一 安岡町久米屋友七義母召連右同断願差出承り届右同断  
一 伏見町小田屋伊平治義大坂大川町和泉屋六郎兵衛方へ廿五日計之  
逗留<sup>ニ</sup>而明後九日出立之願大年寄聞届差出同晦日帰ル

一 新魚町南側<sup>ニ</sup>而檉野屋友助家屋敷表口四間裏行拾貳間半尤本役也  
東隣ハ同居宅西隣ハ金川屋助兵衛也右家屋敷<sup>ニ</sup>三間<sup>ニ</sup>貳間半之  
土藏差添福永屋吉兵衛取次<sup>ニ</sup>而質物<sup>ニ</sup>書入銀札式貫目借り受当未

ノ十一月<sup>ノ</sup>來ル辰年迄十ヶ年之間一ヶ年壹割三歩之利足<sup>ニ</sup>相極年  
々利銀札相渡申度願書承り届三月二日本証文差出文化六<sup>己</sup>三月  
十八日元利返済請戻し届書出ル

一 牢舍人清藏へ尋之義有之小頭代新治書役代又六牢屋へ差遣為相札  
候

一 新魚町檉野屋茂一郎義今般かせ糸商売相初所々持歩行候事故及噂

候由大年寄申出承り置

二月八日 晴 曇 風 雪

一 御用日登城

一 聖徳寺芝居役者付東西大橋建札仕度 并 興行中町方太鼓打廻り度願  
差出先格之通御用所へ持参口上 而 申上大目附へも申達相濟候処

右願書差出置候様被申聞差出置候所兼 而 聖徳寺願者南京操 而 有  
之候処右願書ハ実之操芝居ニ付寺社取次十郎左衛門打寄遂評議候  
得共何れ茂暎と不相覚候ニ付何分相糺可申由 而 右願書取戻り

先達 而 世話役之義引受仕度差出候願書相調候処南京操と有之候ニ  
付相糺候様大年寄へ申付候同十三日相濟

一 内藤山城守殿領分当国久米北条郡中井和谷村幸三郎と申もの一人

新魚町榎野屋茂一郎引受度人別人願右同断取計濟三月二日住宅証  
文差出

一 京町永久保屋伊助借屋住桶屋庄吉方へ去ル五日夕盜賊這入蒲団巻

湯かた巻男帯巻筋被盜取候届去ル六日差出候段申上右盜賊者即刻  
六日ニ召捕下吟味仕候処相違無之其品も質屋有之候ニ付今晚方牢

番預ケニ可仕旨御用番へ相届大目附へも申達置候

還り取計候 雲州もの無宿盜賊

牢番預ケ

長藏

一 巳十二月新田村博奕参会指口安岡町江川屋六兵衛立帰り候ニ付召  
捕候段御用番へ申達大目附へも相届候

一 目甚七贖札板吟味之節久世定次郎善十郎致世話候ニ付左之通差  
遣度今日来居候旨伺出候ニ付勘定奉行へ申達候処銀札場奉行清水

覺右衛門ノ銀札四拾五匁相廻り小頭代新治へ相渡候右之外其節之  
入用書左之通差出宜取計候様新治へ申達ス

一 三拾匁

久世 善十郎 江

一 拾五匁

同 定治郎へ

一 四拾匁七分八厘

一切之雜用

一 久世手代貝塚五郎藏内藤大右衛門ノ去冬初ニ相廻候一日之相場書  
御勘定所ノ戻り候由 而 差戻候ニ付致落手候段返書差遣候尤松岡

治部助懸之義ニ付同人 江 差出候所追 而 拙者ノ及御沙汰候様申越候  
一 東新町綿屋忠兵衛と西新町江見屋伝助と昨夜致喧嘩伝助義打擲ニ

逢候旨大年寄申出候ニ付強 而 相届候ハ見分可差出候得共可成丈

内濟ニ取計可然旨申達置候

一 一宮市町累年衰微ニ付嚴禁差免候様考郡代申談可申出旨一学殿御  
差凶之旨太田舍人被申聞候

一 備前船出入ニ付豊島石差支候ニ付沢屋惣左衛門ユウカ木知ケ原辺

江 出職仕度内意相聞候付太田舍人 江 談置候所一学殿甚御承知之趣  
舍人申聞候

一 盜賊鐵藏口書郡代所ノ相廻り町方引合之もの遂吟味候様ニ大年寄

へ申達候

二月九日 曇

一 権現様御羽織久世ノ江戸表 江 被差出候御先触到来左之通

覺

一人足 四人 内式入 脇籠一挺 式入 分持

右者 八郎左衛門御代官所備中国蚊屋村百性從先祖持伝候

権現様御羽織此度御取上ニ相成江戸表へ差上候ニ付明後十日曉六  
ツ時久世陣屋出立我等道中守護大坂迄罷越候之条書面之人足御定  
之賃錢受取之無滞継立且泊宿之義奥ニ相記候通相心得清浄成宿申  
付夜中不寝之番人附置尤人足之義も忌懸リ等無之もの相撰ミ指出  
渡船川越有之場所従前宿及通達大切ニ取扱道中都ニ差支無之様可  
被取計候此先触早々継送リ大坂鈴木町大坂屋善藏方へ可被相届候  
以上

早川八郎左衛門手代

福田作右衛門

未二月九日

作州久世ノ撰州大坂迄

右宿々問屋  
年寄中

十日泊 勝間田 十一日泊 細ケ月 十二日泊 御着

十三日泊 大坂 十四日泊 大坂

追而宿々繼場ニ而者至而清浄之新菰差出置御羽織土間江決而差

置被申間敷候

右之通先触到来先例無之義ニ候得共先触之趣ニ而者龜末ニ者難  
取扱趣ニ付御用番中へ罷越道筋掃除申付保頭同心組先払申付可然  
哉と相伺候処伺之通申付候様被仰出候ニ付其旨大年寄并小頭江夫  
々申付置大目附江手紙ニ而相届郡代所江も及通用候

一 町分通筋掃除可申付

一 同保頭先払可申付

一 同心組大文字羽織袴着用御先払可相動候

一 小休之程も難計ニ付茂渡庄右衛門へ用意申付ル

一 右小休詰之町人一人用意申付ル

一 同心組立宿 安岡町大國屋利兵衛

二月十日 雨

一 権現様御羽織通行ニ付新吉獄門取捨申付候由郡代所ノ通用有之

一 権現様御羽織八ツ時頃無滞通行相濟町分ニ而小休も無之相濟候段

御先払為治藤藏間屋共ノ届出候付其段御用番并大目附へ相届候

一元魚町黒坂屋多兵衛義妻召連四國遍路罷出度九十日之逗留ニ而来

ル廿日出立願所承り届五月朔日帰

一元魚町作人助七悴庄吉義右同断九十日之願承り届五月二日帰ル

一元魚町桶屋伊助右同断八十日願承り届五月朔日帰

一元魚町虎屋市右衛門右同断九十日願承り届右同断

一二町目安原屋甚六妻右同断八十日之願承り届右同断

一 西新町冲屋庄助母右同断願承り届五月二日帰ル

一 美濃職人町南屋藤七後家右同断願承り届五月十七日延願指出ス

一 備前邑久郡牛窓大工五郎左衛門市兵衛喜左衛門半兵衛善助小作右

六人例年之通罷越候段新職人町松野屋十右衛門宿切手差出十二月

廿八日帰

一 戸川町土佐屋十藏家守作人字八借屋住作人幸八役介藏義御領分西

北条郡沢田村作兵衛役介ニ差遣度人別除願下方引合相濟候段大年

寄申出承り候

一 下紺屋町作人伊平借屋住龜吉并母并祖母右家内三人御數番中間七

「一」方江引越度人別除願承り届

一 盜賊鉄藏引合之もの夫々口書取大年寄差出

疵所一向無之候

伝助

一大脇新左衛門因州ニ而丈兵衛利左衛門兩人受取亥刻頃罷歸尤兩人共向方手切ニ而如何様ニ裁許取計候而も国切仕置ニ候得者不及通

一 牢番和田儀右衛門致病死候段小頭ハ昨晚届出候認落候ニ付爰ニ記  
二月十二日 快晴

用旨懸合尤公辺江御届歟又者公辺江差出候様ニ取計候得者向方ニ

一 牢舍人猶兵衛療治二廻り相濟候段双方ハ申出尚又修格ハ申付候由

而も届も入可申候間其段一寸為知可申由小倉要助申聞候由手覚書認差出且又利左衛門取扱候贖小玉受取罷歸り即刻右兩人入牢取計

一 境町稻実屋義七郎義京都木屋町三条丸屋儀兵衛方ハ廿五日計之逗  
出候

候彼是及深更候ニ付今夕ハ不及届明早朝可相届候

一 安岡町粉屋伊兵衛役介宇助義西国順礼秩父坂東仕度二百六十日計之逗留ニ而来ル十五日出立願書大年寄差出承り届翌二月廿七日  
日經推出

二月十一日 快晴 夜雨

一大脇新左衛門義因州ハ丈兵衛利左衛門召連帰候段御用番并大目附ハ早朝手紙ニ而相届尚又兩所ハ罷越右受取候懸合之趣委細ニ御兩

一 元魚町東側ニ而油屋与三兵衛家屋敷表口三間半裏行拾七間但五歩役也北隣ハ藤野屋嘉四郎持家南隣ハ油屋与三兵衛持家也右家屋敷

所江申達新左衛門手扣并返書等御用番ハ差出候

代銀札七百五拾匁相極下紺屋町長江朝庵ハ売渡度願承り届同廿七日

一 江戸小川町小笠原玄道義今朝出立候段届出大目附ハ兼而内々及噂候義故其段手紙ニ而大目附ハ申達候

一 福渡町北側ニ而阿波屋文四郎所持之家屋敷表口壹間半裏行拾七間但

一 東新町綿屋忠兵衛西新町江見屋伝助喧嘩去ル八日内々申出候所内濟不相調届出候ニ付昼廻り為治浪右衛門差向相手方手錠申付部屋

但三步五厘役也東隣ハ但馬屋忠右衛門西隣ハ森原屋宇兵衛也右家屋敷代銀札八拾匁ニ相極町内森原屋宇兵衛ハ売渡度願承り届同十四日

目附左十郎差向伝助疵見分申付候然ル所同月廿一日内濟願下承り届

四日売券状出ル

東新町綿屋

忠兵衛

一 東西新町綿屋忠兵衛江見屋伝助喧嘩ニ付昨日石名左十郎小野田為

三人共手錠組合預ケ

悴 忠藏

治御使組小林浪右衛門差向候所兩町年寄於宅酒給候ニ付左之通申

同 岩藏

付ル

同 房藏

兼々出役先禁酒申付置候所度々相背 石名左十郎

西新町江見屋

不届之至ニ候急度可申付候所憐愍を以

部屋目附役取上ケ追込申付候相慎可罷出候

右同断ニ付追込申付候

小野田為治

右者小頭於宅新治立合申渡候様申付ル右ニ付年寄共義も明日咎可申付事

一因州へ差遣候組之者今日も致出勤処雪故何れも致足痛候ニ付今日も致休息明十三日も致出勤候様申付候

一組之者不相替御給米頂戴之御礼罷出候

二月十三日 朝雨 昼後晴

一御用日登城申上候願筋無之

一久世も飛脚差越昨年最初ニ相廻候相場書差戻候段御用所<sub>江</sub>及御嘯候

一因州へ差遣候組之者致出勤候ニ付加人不紛可差戻所同心組引込有之候ニ付右加人之内三人残置跡三人ハ今日も差返候段大目附中へ相届候

一大坂辻能呼寄セ晴天十日花能興行仕度尤西寺町或南新座町ニ而三月下旬仕度願小性町伊勢屋十蔵差出候ニ付郡代寺社取次遂相談候

得共余り引続殊ニ雨天統候得者四月へも可懸候間届無之方ニも可有之哉之旨両役申聞候間於別席右之旨一学殿へ申達右願者先差戻し品ニ寄当秋頃願出候而も可然旨申上候処何之通花能者相撲同

様之義ニも候得者秋ニ而も苦かる間敷如何様此節者引続相撲芝居市町等も有之候事故御取上ケ無之方可然候間宜取計候様一学殿被仰聞候付右之段申聞願書差戻候

一大脇新左衛門因州ニ而懸合手扣帳一学殿御戻し被成候ニ付大目附

へ差出候

一石名左十郎義内職ニ紙漉仕度旨先日伺出郡代<sub>江</sub>遂相談候之処大目附へ及噂候而も可然先格之旨申聞候付大目附佐々木主馬<sub>江</sub>及相談候処不苦義と被申聞候

一昨日東西新町へ左十郎為治出役之節酒差出候年寄共左之通申付候尤小頭立合不差出大年寄切ニ而申渡候

同心組出役之節酒差出間敷旨 東新町綱屋

先達ニ而急度申付置候所一昨十 宗兵衛

一日同心組出役之節酒差出不 西新町伊崎屋

届ニ候依之追込申付候但日数三日 十右衛門

右ニ付惣町年寄<sub>江</sub>も兼而申付置候通無心得違急度相守候様演達候様大年寄へ申渡候尤右取計ハ不及御沙汰場合切ニ而申付候

一新左衛門小頭部屋目附立会ニ而左之通申渡候

部屋目附役申付候万端入念 萩野藤蔵

大切ニ可相勤候

一聖徳寺<sub>江</sub>被仰付候南京操芝居役者之内病人有之ニ付操芝居ニ仕度旨勧進元宮脇町松井屋伊助願書差出寺社取次三浦十郎左衛門へ引合之上承り届先日之役者名面付建札之願大目附へ差出候

一吹屋町釜屋孫二郎吹屋八左衛門釜屋市郎右衛門右三人一紙ニ而願書差出候者近來吹職商売不景氣ニ付此度上方風之鍋釜鑄立仕大坂并諸国<sub>江</sub>積送り手広仕度依而ハ大坂も職人三四人呼寄八左衛門持分家屋敷之内裏通細工場ニ仕度尤先年も吹場ニ相用候場所ニ而何も相替候義者無御座願書差出候付承届



一村上清太夫組渡屋敷ニ居候浅次郎義先月廿四日口書取之去ル三日

差出置候所伺之通父子之情合無執義ニ者候得共元来小屋懸之義当人も止宿仕間敷答之処御法を背候段不埒ニ付五日追込申付候様御

用番<sub>ヲ</sub>被仰渡候ニ付来ル十六日可申付旨郡代中と申談置候

一新魚町姫路屋伝六出勤之義御用向差支候付押<sub>ニ</sub>而出勤可申付旨別席

ニ而一学殿へ内々相伺候所上<sub>ヲ</sub>申付候筋ニ無之旨被仰聞候付孫左衛門へ程能取計候様委細ニ申付候

一御用所へ郡代町奉行御呼出し<sub>ニ</sub>而左之通一学殿<sub>ヲ</sub>被仰渡候

旧年已来小盗人多甚不<sub>レ</sub>リ之処一向不相知不埒之事ニ候目明

共不用立義ニ候ハ、取かへ候歟又ハ人数ニ而も増候歟何れ共

考可有之義ニ候間両役申談<sub>レ</sub>リ付候様考付可被申聞候但同月

廿三日右御答弁書大目附へ差出

一役所弓張焼灯赤合羽無之差支候処今般受取因州へ致持參候弓張焼

灯赤合羽直ニ受取置度旨大目附へ申達候所追<sub>ニ</sub>而否返答可有之由佐

々木主馬被申聞候

一大目附佐々木主馬<sub>ノ</sub>左之通郡代所伺済ニ付当役<sub>江</sub>於御用所御達可

有之答之処無其義候間今日右之通御達有之趣ニ相心得例之通宜御

取計可有之候

新田村

先達<sub>ニ</sub>而博奕參会仕候ニ付

伊右衛門

五十敲帰村被仰付候

一久世手代貝塚五郎藏内藤大右衛門<sub>ノ</sub>飛脚差越是迄稻垣藤四郎殿御預<sub>ケ</sub>所塔<sub>ニ</sub>一村今般八郎左衛門殿御預<sub>リ</sub>所ニ相成候間口留番所ニ入

用ニ付去年年中之錢相場書相廻候様申越候ニ付去月藤四郎殿へ相廻候通ニ認飛脚之者ニ相渡候

二月十四日 快晴

一今晚八ツ時勝間田町出火之旨注進有之見ほし焼灯藤藏左五兵衛秋

助差出候出馬仕度いたし候内鎮火之旨届出依之不致出馬候東西新

町橋本町林田町中之町船頭町打寄消留候由三人之組之者罷帰<sub>リ</sub>相

届候尤大年寄三人も致出役及鎮火引取候段届出し候ニ付右之段御

用番<sub>并</sub>大目附へ手紙<sub>ニ</sub>而相届置候処勝間田町佐伯屋八十治裏醬油

土藏火床<sub>ノ</sub>焼上<sub>リ</sub>土藏之屋根一二間計打こわし消留候<sub>而</sub>外<sub>江</sub>者焼

出不申候由届書差出依之先格之通三日追込可申付旨致附札御用番

中へ持參相伺候処伺之通申付候様御即答有之候ニ付左之通

勝間田町佐伯屋

八十治

右之通出火不念ニ付追込申付候

但 日数三日

右小頭孫八部屋目附藤藏大年寄宅へ差向申渡相濟候段御用番<sub>并</sub>大

目附へ手紙<sub>ニ</sub>而相届候

一備中郡宇那早島那須正助悴弥三郎と申者去四月<sub>ノ</sub>十二月迄玉置六

郎左衛門方ニ逗留為仕度相願候処猶又当年中逗留為仕度追願差出

承<sub>リ</sub>届八月廿四日帰<sub>ル</sub>

二月十五日 朝雨 昼後快晴

一大隅宮社地花相撲今日可相始所雨天ニ付延引仕候段勸進元届出候

付其段御用番<sub>并</sub>大目附へ紙面<sub>ニ</sub>而相届候

一村上清太夫組西村八兵衛渡屋敷へ住浅次郎義明十六日五時受人差

添差出候様清太夫<sup>江</sup>手紙<sup>ニ</sup>而申達候

一明日相撲有之宅取計旁<sup>ニ</sup>付同心組致不足候間当日切兩人被相渡候様大目附<sup>江</sup>申達候所加藤清右衛門加藤茂助来

一船頭町沢屋惣左衛門義船運賃之義<sup>ニ</sup>付豊嶋石不差越甚致当惑彼是申出候所飯岡船積登り同所<sup>ニ</sup>長岡船<sup>ニ</sup>而積越却<sup>而</sup>下地之賃錢<sup>ノ</sup>下直<sup>ニ</sup>而<sup>ニ</sup>当所迄来り甚致安堵候旨申出候由藏合孫左衛門紙面<sup>ニ</sup>而相届候<sup>十五日會人へ申達候</sup>

二月十六日 小雨

一立会例之通<sup>ニ</sup>而五ツ時<sup>ノ</sup>左之もの共呼出候口書印形取之

村上清太夫組

一ノ宮茶店<sup>ニ</sup>父七右衛門

西村八兵衛渡屋敷住

為泊候段父子之情合無拋義<sup>ニ</sup>者

浅次郎

候得共元来其身たり共泊間敷所

御法を相背候段不埒<sup>ニ</sup>付追込申

付候但日数五日

美濃職人町

盜賊鉄藏盜もの質置致取次

仲平

候段遂吟味申分筋立候故牢番預ケ差免

組合預ケ申付口書爪印取之

無宿盜賊立帰リ

申口不<sup>レ</sup>合議有之候<sup>ニ</sup>付遂吟味

清藏

再口書印形取之

安岡町江川屋太郎一倅

一昨年新田村伊右衛門方

安之丞事

<sup>ニ</sup>博奕仕立去り候処今般

六兵衛

立帰リ候<sup>ニ</sup>付遂吟味口書爪印取之入牢申付候

無宿盜賊雲州もの

京町桶屋庄<sup>寄付</sup>方へ忍入

長藏

盜取候段及白状口書爪印取之

安岡町江川屋太郎一

六兵衛義尋申付置候所立帰リ

組合

候<sup>而</sup>も不申出不埒<sup>ニ</sup>付他参留申付ル

同町鍛冶

浅治郎喧嘩相手<sup>ニ</sup>付他参留

長兵衛

申付置候所今日差免候

右浅治郎追込仲平組合預リ六兵衛入牢右取計候段御用番<sup>并</sup>大目

附<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>届尤浅治郎義<sup>者</sup>村上清太夫三浦十郎左衛門<sup>江</sup>及通用候

一東新町綱屋宗兵衛西新町井崎屋十右衛門追込昨日迄<sup>ニ</sup>而三日<sup>ニ</sup>相

成候間今朝差免候

一牢舍人無宿七右衛門一ノ宮村善兵衛出牢郡代所<sup>ノ</sup>申来出番清右衛

門差向出牢取計候

一中之町気屋喜作借屋住坂田屋茂吉妹義御使組日下喜助方へ差遣

度人別除願承り届

一福渡町阿波屋文四郎義四国八十八ヶ所へ参詣百日計之逗留<sup>ニ</sup>而

ル十八日出立願承り届六月廿五日帰

一二町目小倉屋忠兵衛役介とも義右同断願八十日計之逗留<sup>ニ</sup>而

十九日出立願承り届四月晦日帰ル

二 二丁目小倉屋茂兵衛妻右同断願承り届右同断

二月十七日 雪

一 勝間田町佐伯屋八十治追込昨日迄ニ而三日ニ相成候間今朝差免其

段御用番<sup>并</sup>大目附へ紙面ニ而相届候

一 牢舎扶持内貸仕切証文左之通奥印書取計申候

十月の正月迄

一 内貸高貳拾四俵

内貳拾貳俵貳斗八升五合十月朔日正月廿九日迄仕切

高引

残

壹俵四升五合 此分返上可仕分

一 吹屋町釜屋孫三郎吹屋八左衛門釜屋市郎右衛門今般奉願候辨物

職人大坂南堀江橋通式丁目久宝寺屋佐兵衛同所五丁目播磨屋庄兵

衛同所壹丁目金屋十兵衛同所新難波中之町金屋長兵衛右四人之者

罷越夫々受人取置来申正月迄差置候段届書差出承り置

一 御領分東南条郡林田上ノ町吉六悴藤藏義戸川町作人仁助養子ニ引

受度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届

一 此度操芝居役者之内拾壹人勸進元々宿相頼候ニ付茅町広原屋善吉

方ニ逗留為仕度願承り届

二月十八日 雨

一 御用日登城

一 船持共例年之通壹艘ニ五十匁ツ、拝借仕度願勘定奉行へ引合之上

御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一 孝恭院様来ル廿四日貳拾一回御忌ニ付配當場御布施願出御用番中

御聞濟ニ付大目附へ申達置御聞届申達候尤勘定奉行へも及通用候

一 無宿盜賊清藏立帰り一件御裁許御用番中へ伺置

一 盜賊上紺屋町中津屋万五郎一件右同断

一 無宿三与蔵懸り合一件之もの共右同断

一 安岡町江川屋六兵衛博奕ニ付離散候処立帰ニ付右同断

一 船出入ニ付豊島石差支沢屋惣左衛門難渋之処去ル十五日之所ニ記

置候通相濟候段太田舎人江口達ニ而申達候

一 大脇新左衛門今般因州へ受取ものニ參候往来惣入用

一 四百貳拾四匁五分六厘九毛

金貳朱

内 五拾九匁八分貳厘七毛目明非人入用小頭を受取奥書

取計候

九拾九匁八分一厘臨時入用之由但此臨時入用大目附

へ自分を指出候事

一 左之通大目附を演達有之

諸芸相助候事ハ勿論候得共殊ニ寄宅ニ而子供計申合寄合我察

有之候而ハ不且候間親兄并師役之面々を心付候様御書付を以

演達有之御触扣ニ写置候

一 左之通大目附廻状到来

考恭院様廿一回御忌ニ付来ル廿四日於地藏御供養被仰付候

右ニ付先格之通町中廿三日晩方々廿四日迄自身番申付火之元入念

候様触書差出候役中牟屋三軒屋へも相触候

二月十九日 朝雨 昼後晴

一本琳寺ニ去ル六日振下し有之其節下り三人備中ノ来□□岩蔵方  
ニ為泊候由取沙駄相聞候付相糺候様孫八江申付候所何れも呼出し  
相糺候得共為泊候義ハ無之由申候ニ付以後弥厳重ニ取計候様申付  
候段孫八ノ申出候

二月廿日 晴

一 播州赤穂新浜浦大島屋文十郎悴龍助と申もの内縁有之候処用事有  
之罷越候付五六十日逗留為仕度旨西今町直屋久米之助願書大年寄  
差出し承り届

一 中之町三室屋宗兵衛所持之他国請酒株去ル寅十一月新魚町魚屋市  
右衛門へ貸置候所今般取戻候旨届書差出承り届

一 船頭町熊野屋文五郎娘義御領分西北条郡上河原村与三右衛門孫甚  
兵衛妻ニ差遣度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一 大目附佐々木主馬ノ林田町勝間田町辺ニ病犬有之候由為打殺候様  
ニ申来大年寄へ申達候

一 同心組銀札場内借指引致算様元分三貫百拾九匁五分五厘八毛之証  
文認かへ指出致奥書印形銀札場へ例年之通相廻候但指引書并証文  
箆箭江入置候

一 大隅宮社地花相撲又六才治差出候所無別条引取候段届出候

二月廿一日 晴

一 村上清太夫組西村八兵衛渡屋敷住浅次郎追込昨日迄ニ五日ニ相  
成候ニ付今朝被指出候様清太夫江昨晚申遣置今朝請人兩人差添罷

一 出新左衛門孫八藤蔵立会ニ而追込指免候段於白砂申渡右取計相濟  
候段御用番并大目附へ相届村上清太夫江も及通用候

一 東西新町江見屋伝助綿屋忠兵衛喧嘩致内濟候ニ付願下ケ願書差出  
承り届願書差戻候尤昼廻り又六才治ノ手錠差免候様申付候

一 上紺屋町盜賊中津屋万五郎妻ノ荒道具組合之内亀吉と申もの預り  
居候ニ付封印申付置候処右亀吉義新八と申ものノ櫃二ツ草籠一  
ツ預り居候処一緒ニ封印付置候由右新八道具ハ元来別ものニ付指  
戻候様新八ノ願出候趣大年寄ノ申出翌廿二日昼廻り新治左五兵  
衛ノ封印解相渡候様申付候

一 大隅宮社地花相撲無別条今日切ニ而相濟候段新治左五兵衛届出并  
勸進元も届出候ニ付其段御用番并大目附へ相届候

二月廿二日 雪

一 贖札吟味ニ先日目明甚七西在江罷越候入用小頭ノ札元へ懸合候処  
本証文ニ取計呉候様相頼候由ニ付左之通証文差出奥書取計候

八拾五匁七分八厘

一 牢番足軽和田義右衛門病死ニ付同人悴広治へ番代被仰付候様同役  
内田山七ノ願書差出候処右広治義十八才ニ者候得共未熟之趣ニ付  
早速ニも難申付山七所存相糺候所一兩年之内ハ内分之義ハ山七老  
人ニ而詰切り「勤候心得ニ而可相勤之旨睨と受合候ニ付右願書之  
通広治江番代申付候

一 牢舎扶持六俵之内貸奥書取計候尤来月へ壹石六斗三升五合持越ニ  
相成候事

一 東新町新屋長治悴武兵衛義大坂堂島京屋八兵衛方へ酉年迄三ヶ年

之間奉公ニ差遣度願承リ届

一京町豊島屋伝吉倅久吉義早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡久世  
村河内屋彦兵衛方へ酉之年迄三ヶ年之間奉公ニ差遣度願書差出候  
承リ届

一聖徳寺操芝居役者拾人宿仕度安岡町高屋喜八願承リ届

一太木屋喜兵衛所持之他国受酒株当未三月より来ル戌二月迄丸三ヶ年  
之間元魚町吉屋清蔵へ貸渡度願書承リ届翌年酉八月廿九日指戻

一大坂山本町大坂屋忠兵衛手代与右衛門源助伊助嘉兵衛四人例年之  
通小間物卸売来候段坪井町河原屋次助宿切手差出

一勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門手代庄吉伊兵衛二人例年之通紺屋  
形売ニ来候段堺町西川屋善助宿切手差出

一菜種油是迄三匁八分売ニ候処菜種高直ニ相成候ニ付四匁売ニ仕度  
願書差出候承リ届

二月廿三日 晴

一御用日登城

一三浦志摩守殿領分当国真島郡下田村又兵衛後家并娘右二人西今町  
菱屋ニ兵衛引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置大年  
寄御聞届申達候三月二日住宅証文差出

一松平上総介殿領分備前赤坂郡是里村吉右衛門弟新兵衛一人中之町  
坂原屋ニ兵衛引受度人別入願右同断取計済同晦日住宅証文差出翌  
年三月十八日除帳

一稻垣藤四郎殿支配所当国勝北郡下野田村善兵衛娘義西新町住田屋  
忠兵衛妻ニ引受度人別入願右同断取計済三月十一日住宅証文差出

一 下紺屋町大工藤助弟福五郎義兼而 不所存もの候処去十一月頃家出

仕行衛不相知候ニ付親類組合義絶勘当仕度願右同断取計済三月十  
日本証文差出 享和三亥九月三日 差免

一 備前赤坂郡福田村清七娘義去々巳年美濃職人町団屋甚兵衛嫁ニ引  
受候処今般離縁仕親元へ差戻度人別除願右同断取計済

一 先日一学殿六十郎左衛門拙者兩人ニ當時之目明不用立と相見へ盜  
賊一向不相知不<sub>レ</sub>ニ付考付申上候様御達有之依之當時者時節違候

故以前之振合ニ者不相成候間先是迄之通ニ被差置并仮目明雇代  
一日五分ツ之処以来ハ巷匁五分ニ被成被下候様ニ弁書相認御用

番中へ可差出候処日雇賃之義も有之候間大目附佐々木主馬へ差出  
候処松岡治部助兼而蒙仰居候由而彼是存寄共申聞候

一 怡丸様昌丸様御水痘被為濟候恐悦申上来ル廿八日有之候段大目附  
方演達有之候

一 元魚町住屋市左衛門義菓種代買懸大坂及出訴出坂可仕病氣ニ  
付日延願差出其旨取計置候所追々快方ニ御座候間近々出坂可仕旨

申出候間先格之通村尾左衛門添状下案相認御用番中へ相伺候候  
宜取計候様被仰出大目附へも申達置候尤市左衛門懸合之趣内々相

礼候処一向不筋立候間罷出身代限り引渡候様ニ相願候趣ニ相聞候  
一 安岡町北側ニ而作人作平後家家屋敷表口四間半裏行四間但式歩五

厘役東隣ハ鉄山屋六太郎西隣ハ形田屋宇吉也右家屋敷代銀八拾匁  
ニ相極同町村永屋吉右衛門へ売渡度願承リ届三月朔日売券状出ス

一 西新町南側ニ而高野屋利兵衛家屋敷表口式間裏行拾七間大溝切但  
式歩役也東隣ハ富野屋定七西隣ハ余野屋伝七也右家屋敷代銀札壹

貫百三拾三匁三分三厘ニ相極同町備前屋市右衛門へ売渡願承り  
届同廿九日売券状差出

一西新町南側ニ余野屋伝七居宅之内東之方ニ表口巷間裏行拾七  
間但大溝限尤壹歩役也東隣ハ高野屋利兵衛西隣ハ伝七居宅也右家  
屋敷代銀札五百六拾六匁六分六厘ニ相極同町備前屋市右衛門へ売  
渡願承り届同廿八日売券状差出

一病犬御薬用功候由齊藤孫右衛門申出箕作丈庵ノ受取相渡

一大脇新左衛門因州へ罷越候入用之内御定法外之ものハ臨時入用と  
唱へ拙者ノ大目附へ不申達候ハ不相渡候旨勘定奉行申聞候付大  
目附へ申立置候

一石代之義ニ付御收納米升目等之義従公儀被仰出候処当時取計と「」  
之旨去十二月十六日御届ニ成相濟候段御留主居ノ申来候付三奉行  
之面々承知罷在候様御用番御申之由ニ付佐々木主馬ノ右御届書被  
相渡候由近藤伊左衛門ノ相廻候

二月廿四日 雨

一因州知頭郡惣地村長四郎と申もの鏡鑄勸化ニ罷出作州誕生寺ノ病  
氣付医療等相加へ候上ニ送り出し無相違趣ニ付継送候様申付候  
旨郡代所ノ申来継送り候様大年寄へ申達候

一二丁目龍田屋茂兵衛所持之他国請酒株去ル已九月宮脇町浜屋己之  
助江貸置候処今般取戻候届書差出候

二月廿五日 晴 曇 雨

一牢番和田儀右衛門番代同人悴広治へ申付候付今日新左衛門孫八新  
治藤蔵詰合ニ先格之通二本入扇子持参目見取計申候

一牢番和田広治目見相濟明日ノ番候ニ付加人差帰候段大目附へ相  
届候

二月廿六日 時雨

一坪井町藤屋嘉右衛門義未口書不申付候間乍病中押ニ罷出候ハ、口  
書申付御裁許候間何卒罷出候様申付呉候様郡代所ノ申来其段大  
年寄へ申付置候所押ニ罷出可申旨申出候段大年寄申出其段郡代所  
へ申遣候

一牢舍人利左衛門全快ニ付休業仕候段双方ノ申出候

一後藤郷助長屋住宇助并母右家内二人下紺屋町作人仁平引受度人別  
入願差出尤右宇助義ハ町方ノ後藤長屋へ引越候ものニ付指障無之  
由申出承り届

一御領分林田上之町作人作兵衛悴弥吉義新職人町坂本屋源兵衛後家  
名跡相続人ニ引受度組合親類ノ願書差出右伊達与兵衛殿家来中  
島文吾懸合之名跡ニ候処相続人申付候ニ付右親類之内ノ相続為仕  
候旨先達ニ大年寄迄別ニ願書も差出候付承り届

一二丁目竜田屋茂兵衛所持之他国受酒株当未二月ノ来ル五月迄坪井  
町藤屋金五郎借受商売仕度願承り届同年四月十日取戻ス

一西新町伊木屋惣五郎娘まん義当月朔日同町飯綱屋源兵衛同人娘同  
道ニ拔参宮仕御届可仕候処延引仕候内右まん義大坂ニ病氣付  
大切之旨申越候ニ付惣五郎悴新兵衛義明朝立ニ差遣度尤宗門往  
来等為持遣度旨願書差出候承り届尤罷帰候上ニ無願罷出候段可  
咎事也三月五日帰

二月廿七日 晴

一 郡代所<sup>ら</sup>坪井町藤屋嘉右衛門義今九時<sup>ら</sup>呼出候間組合年寄差添尤  
牢舎人之体<sup>ニ</sup>候間同心組差添被差出候様申来其段大年寄<sup>へ</sup>申付置  
出番勇助荣治迎送差添之尤相渡置組ハ罷帰<sup>り</sup>候事但郡代役<sup>ニ</sup>而ハ  
不申来寺社取次場合<sup>ニ</sup>而申来候事也

一元魚町住屋市左衛門義同町侘美屋左吉と申もの町役<sup>ニ</sup>相頼弥明廿  
八日出立仕候段大年寄<sup>ら</sup>届出候<sup>ニ</sup>付村尾李右衛門<sup>へ</sup>添状相認大年  
寄<sup>へ</sup>相渡候

一 寺社取次三浦十郎左衛門<sup>ら</sup>西新町伊木屋惣五郎娘大坂<sup>ニ</sup>而病氣差  
重<sup>り</sup>候<sup>ニ</sup>付宗門往来手形認吳候様相頼候由本伝寺<sup>ら</sup>伺出候付引合  
之上可取計之旨申来役筋<sup>へ</sup>も申出候事故宜御取計被下候様及返答  
候

一 上紺屋町円乘院義讚州金毘羅<sup>へ</sup>參詣十日之逗留<sup>ニ</sup>而来月十七日出  
立之願大年寄承<sup>り</sup>届差出三月十五日罷帰<sup>ル</sup>

一新魚町小林主水右同断願書出右同断  
一下紺屋町一乘院右同断

一 河原町熱田大藏右同断三月十五日帰  
一 吹屋町熱田数馬右同断右同断

一 吹屋町持福院右同断右同断

一 一ノ宮村東山方亀太郎博奕参会之もの<sup>ニ</sup>而立戻候<sup>ニ</sup>付牢番預ケ申  
付候由郡代所<sup>ら</sup>申来出番勇助差向取計申候

一 牢舎人猶兵衛義修格療治二廻<sup>り</sup>相濟候<sup>ニ</sup>付板倉全柳<sup>へ</sup>申付候処長  
病之義故服薬不仕候由当人申候旨全柳<sup>ら</sup>申出候段大年寄<sup>ら</sup>申出尚  
又牢番<sup>ら</sup>ハ矢張修格<sup>ニ</sup>被仰付被下候様当人相願候旨申出候<sup>ニ</sup>付其

儘<sup>ニ</sup>捨置候様及差因

一 銀札場奉行栗原衛守<sup>ら</sup>錢貳拾七箇川下申来例之通與書取計申候  
一 御領分横山村藤藏姉義京町関屋喜兵衛悻清七妻<sup>ニ</sup>引受度人別入願  
差出尤下方引合相濟候段申出承<sup>り</sup>届

一 東新町岩屋文藏<sup>ら</sup>左之通在方<sup>へ</sup>貸置候所不致返濟候<sup>ニ</sup>付訴出候  
一 吉見村宇八<sup>ら</sup>天明元丑五月田地山村書入

百貳拾匁 貸  
同人<sup>江</sup>同三月十二月林山書入

百匁 貸  
同人<sup>江</sup>同六年十二月田地書入

百拾六匁と 米三俵 貸  
元高銀札三百三拾六匁と米三俵之処流込<sup>ニ</sup>相成名面付替其後  
為作廻候処其以來之加徳高田地山村共<sup>ニ</sup>而

八拾四俵不差越候

一加茂八代村庄屋利兵衛<sup>へ</sup>天明四辰年十一月  
百五拾匁 貸

一加茂中原村文助<sup>へ</sup>天明三卯十二月林山書入  
百三拾匁 貸置候所木を切取候

一加茂百々村安右衛門<sup>へ</sup>天明七未十二月  
百匁 貸

右之通願書四通指出候<sup>ニ</sup>付翌廿八日郡代三浦十郎左衛門<sup>へ</sup>相廻候  
二月廿八日 曇 雨

一 御用日<sup>并</sup>怡丸様昌丸様御水痘御酒湯被為濟候恐悦申上候<sup>ニ</sup>付三奉

行以上麻上下着用例刻登城於七間廊下例之通御奏者番は三奉行迄  
一同御小性頭謁右恐悦上席へ申上引取三奉行一同御用所へ罷出  
上席近藤伊左衛門の恐悦申上候引懸ケニ大目附へ恐悦及挨拶引取  
其後別ニ御用所へ罷出御用向弁之

一脇坂淡路守殿預り所当国勝南郡上瓜生原村忠五郎娘并同人悴定吉  
義福渡町植月友輔借屋住作人久治妻子ニ引受度人別入願御用所御  
聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候三月十一日住宅証文差出  
一孝恭院様御布施配當場頂戴之御受一札御用所へ持参仕口上ニ申  
上候大目附へ差出候

一大目附の御手廻り被召抱来月十三日目見被仰付候間夫々可申出候  
様触達可仕之旨達有之畢而中奥目附後藤藤郷助の五尺七寸以上之も  
の罷出候様取計可「」之旨申聞候

一因州行之節致拜借候弓張焼灯赤合羽早繩今日小頭の致返納候  
一西新町飯綱屋源兵衛娘召連当月朔日拔参宮仕候処同道之内病人有  
之大坂ニ逗留仕候段申越候段組合共の届書指出候  
一近々新田村見世物有之候間右之場所へ参間敷旨大目附廻状到来写  
取組中へ差出候

二月廿九日 雨

一元魚町住屋市左衛門義今朝大坂表江出立仕候旨大年寄届出其段御  
用番并大目附へ相届候尤町役代同町侘美屋佐吉差添罷立候

二月晦日 雨 昼後晴

一関貫番賃銀例月之通相渡

一備前岡山小畑町蠟屋甚八手代文十郎一人例年之通元結卸売来候段

新職人松野屋十右衛門宿切手差出同七月十九日帰

一播州今市綿屋嘉市郎一人例年之通呉服物売来候段右同人宿切手差  
出十二月廿五日帰

一上紺屋町盜賊中津屋万五郎先年町方へ人別之義相糺申聞候様松岡  
治部助申聞候ニ付同人口書御返し被下候様佐々木主馬へ申遣取戻  
ス

一盜賊長藏懸り合之もの共不残口書取大年寄差出候  
一牢浚一昨廿八日申付無別条段勇助柴治届出候

三月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 黒田要人殿

大目附 伊達与吉郎

大年寄

諸吟味

蔵合孫左衛門

宮田喜左衛門



三月朔 巳 旦 快晴

一 御藏元姫路伝六義長病ニ而寛政八辰三月廿三日ノ引込候ニ付依願弟角屋利左衛門後見相勤居候所今日致出勤候ニ付利左衛門義後見差免候様大年寄へ申達取計相勤候上ニ而右之段御用番并大目附へ紙面ニ而相届候

三月二日 快晴

一 石名佐十郎小野田為治追込昨日迄ニ而廿日ニ相成候間今朝小頭於宅部屋目附萩野藤藏立合追込差免候段申渡依之加人御使組前原才治小林浪右衛門差戻候右加人兩人差戻候段大目附へ相届候

一 聖徳寺操芝居宮脇町松井屋伊助引受一札差出候

一 聖徳寺操芝居役者之内拾耆人茅町和歌屋六郎右衛門方ニ逗留為仕

度願大年寄差出し承り届

一 小須賀一学殿江 出入奉公仕候高野伝兵衛義無滞暇出候付二階町疊屋義助引受度人別人願承り届

一 河原町作人定七借屋住元結屋龜太郎兄「兵衛并妻娘右三人四国八拾八ヶ所参詣百日計之逗留ニ而来ル七日出立願承り届七月十六日

追願指出

申聞四月七日  
飛帰ル

一 中之町平野屋伊八義右同断願八十日計逗留ニ而明後四日出立願承

り届

五月廿六日

一 勝間田町平野屋与八義右同断願承り届右同断

一 江原文藏義病氣快気ニ付明三日ノ出勤仕候段小頭届出候

一 大目附松岡治部助ノ上紺屋町中津屋万五郎義人別人入之処相札申出

候様先日被申聞札申付候処万五郎口書と不致符合候間今一応不相  
札候而ハ不相分趣ニ付依之障取候段断治部助へ申遣候

三月三日 快晴

一 上巳ニ付御用日登城無之例之通組中へ神酒差出申候

一 江原文藏義今日ノ出勤届出候ニ付加人日下勇助差戻候段小頭ノ申渡置其段大目附へ相届候

三月四日 雨

一 城代町入口関貫今朝五時過迄不開小門計開有之由孫八申出其段即刻大年寄へ申達候所番人相札候所今朝いつも之通開置罷帰候処子共ニ而もわやくニ閉候事ニ而も可有之哉右之旨番人方へ相聞候処当人ハ作場へ罷越候ニ付妻罷越明ケ置候由右之段相違ハ無之旨大年寄申出候ニ付其上札方も無之ニ付以来之所別而人念候様可相達之旨申達置候所猶又新治申出候者右関貫之錠あしく相成錠なしニ明候由今朝番人妻明ケ候節も錠なしニ明ケ候体左五兵衛杯も見受候由申出候ニ付其段相札候様大年寄へ申達候

一 牢舍人弥助猶兵衛病氣ニ付医師願出大年寄へ申達候所藤木良全ニ申付候所兩人共難捨置旨申出候付療治申付ル

一 中買綿屋民藏義佐助と改号届出候

一 野田屋六郎太夫心付ニ而町方甚奢侈十分之趣ニ付獻敷御制度被仰出度并耆人ニ而一日ニ四銭ツ、上納為致毎年前年之分利を付御民被下候様仕度之旨考書大年寄迄差出候由内々大年寄ノ差出候

一 二階町伊勢屋正左衛門義京都麩屋町四条上ル近江屋七三郎方へ三十日之逗留明五日出立仕度願大年寄差出承り届四月三日帰ル

一 美濃職人町三笠屋伊右衛門借屋住百助義四国遍路百日計之逗留<sup>ニ</sup>

而 明五日出立之願大年寄差出承り届五月廿九日帰

一 伏見町八出屋多助義左之通銀札取次貸置候処不相払田地も不相渡  
候段願書差出候<sup>ニ</sup>付郡代所へ可相廻候同八日郡代<sup>江</sup>相渡候

一 井口村茂助へ 百拾匁

一 右同人<sup>江</sup> 貳百匁

一 井口村和兵衛へ 四百九拾五匁

右ハ天明七八年ニ田地質入<sup>ニ</sup>ノ貸渡其後年賦<sup>ニ</sup>相成酉年迄八年賦  
相払候処其後ハ一向不払<sup>井</sup>田地も不相渡候付願出候<sup>同年五月九日内済  
承り候由願書指及候</sup>

三月五日 雨

一 大目附伊達与吉郎<sup>方</sup>大坂御町奉行成瀬因幡守殿<sup>方</sup>去ル廿九日御留  
主居村尾左右衛門御呼出<sup>ニ</sup>而 遠国方与力を以住屋市左衛門へ二度  
目訴訟御渡<sup>ニ</sup>而 市左衛門義早々罷登り候様御達御座候由右再訴訟  
被差越候<sup>ニ</sup>付住屋市左衛門義ハ先月廿九日致出立候段申遣右再訴  
致披見即刻差戻候

一 寺社取次藤本十兵衛<sup>方</sup>明六日四時藤屋嘉右衛門呼出度候旨先日之  
通三浦十郎左衛門宅へ罷出候様申達呉候様申来夫々手配申付置候  
一元魚町南番所桶屋町南番所右式ヶ所新魚町引受<sup>ニ</sup>申付候段大年寄  
申出承り届ル

一 戸川町紙屋平助義四国遍路八十日計逗留<sup>ニ</sup>而 来ル七日出立願大年  
寄差出候承り届五月六日帰ル

一 新魚町榎野屋茂一郎倅友助義大坂大川町綿屋義兵衛方へ四十日之  
逗留<sup>ニ</sup>而 明後七日出立之願大年寄差出承り届四月十二日帰

一 西新町伊木屋宗五郎倅新兵衛義昨夜大坂<sup>方</sup>罷帰リ妹義先月廿七日  
於大坂死去仕中寺町福泉寺へ葬候段届書差出右同道之もの不殘罷  
帰候上御咎可申渡事

一 牢舎人盜賊上紺屋町中津屋万五郎再糺<sup>ニ</sup>新左衛門新治百蔵牢屋へ  
差向<sup>井</sup>右懸合之もの共大年寄宅<sup>ニ</sup>而 吟味申付夫々口書差出候

三月六日 風雨

一 寺社取次藤本十兵衛<sup>方</sup>下社家共左之通取計呉候様書付を以申越候  
<sup>ニ</sup>付左之通下ヶ札を以返答候

一 社人山伏取扱来書大意写置

一 御咎者番 変死人番 牢屋食持 右三ヶ条差免度由

下ヶ札 三ヶ条之町役相除候義<sup>者</sup>不相成筋合之もの<sup>ニ</sup>而 是

迄も代人<sup>ニ</sup>而 相済来少も差支無之義<sup>ニ</sup>御座候

一 許状官職相濟候ものハ板疊其余<sup>者</sup>白洲

下ヶ札 町住之もの<sup>ニ</sup>而 社人を町奉行所へ呼出し候義ハ

無之義<sup>ニ</sup>候何そ其人<sup>ニ</sup>限り可糺義<sup>者</sup>格別其余町内

組合へ懸り候義ハ不殘代人<sup>ニ</sup>而 相済来候右<sup>ニ</sup>付社

人取扱之先格急と難相知候得共此ヶ条ハ如何様共  
可相成義哉<sup>ニ</sup>も被存候

一 大年寄共宅<sup>ニ</sup>而 取扱之義許状同職相濟候ものハ次之間或

ハ玄関其余式台

下ヶ札 大年寄宅取扱ハ是迄本書之通<sup>ニ</sup>而 御座候

一 苗字差免候旨申渡候事

下ヶ札 当人之願書等<sup>ニ</sup>者 苗字相認候得共組合連印之節<sup>者</sup>

社人ニ不限御目見へ醫師たり共名計相認候先格ニ  
御座候社人計苗字相認候も如何成ものニ付是迄之  
通ニ被差置度義ニ候

(右の部分に貼り紙)

町方ニ而ハ社人ニ不限苗字被指免候もの共当人  
願書ニ者苗字相認候得共組合連印之節者名計相認  
候先格ニ候間社人計苗字相認候も如何成ものニ付  
是迄之通ニ被致置度候

一 寺社取次藤本十兵衛と藤屋嘉右衛門義今四時と呼出し申来出番文  
藏榮治差向ヶ先日之通送迎取計候

一 西今町公文屋左衛門義大坂梶木町玉子屋九郎兵衛方へ三十日計之  
逗留ニ而明七日出立之願大年寄承り届差出同廿七日帰

一 京町福吉屋宇助金毘羅参詣七日計逗留ニ而明七日出立願右同断同  
十五日帰

一 御蔵米六拾貳匁 町米五拾八匁

一 伏見町田邑屋外左衛門義雲州大社へ参詣廿日計之逗留ニ而明七日  
出立願大年寄差出し承り届同廿四日帰ル

一 伏見町南側ニ而筑後屋利兵衛家屋敷表式之間裏行拾七間但半役也  
東隣ハ福住屋利八西隣ハ吉田屋半三郎也右家屋敷代銀札百六拾匁

ニ相極町内徳島屋友治へ売渡願承り届四月朔日売券状差出

一 二階町河内屋金右衛門義金毘羅参詣十日之逗留ニ而明七日出立之  
願大年寄承り届ヶ差出候同十三日帰ル

三月七日 晴風

一 撰川豊島郡池田村月野木町植木屋平兵衛一人例年之通植木売ニ来  
候段堺町西川屋善助宿切手差出

一 西今町坪屋藤十郎義撰州能勢妙見宮へ廿日計之逗留ニ而明後九日  
出立ニ而参詣仕度願大年寄差出承り届四月九日帰ル

三月八日 快晴

一 御用日登城

一 備前赤坂郡坂部村角右衛門倅専助一人坪井町井口屋利兵衛引受度  
人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ出置御聞届申達候二月改ニ入  
五月廿七日住宅証文差出

一 札元茂渡藤右衛門義撰州有馬江入湯三十日計之逗留ニ而明九日出  
立願右同断取計濟四月八日帰ル

一 脇坂淡路守殿預り所当国勝南郡木知ヶ原村小豆屋善右衛門倅寿之  
助義五年已前外六月西新町伊木屋伊右衛門養子ニ引受候処此度離

縁仕親元へ差戻度人別除願右同断取計濟二月改ニ入

一 安岡町作人要助後家みよ井倅鶴吉右家内式人大久保安芸守殿領分  
久米北条郡下打穴西上村小十郎方へ引越度人別除願右同断取計濟

一 於御用所大目附伊達与吉郎出席御用番黒田要人殿る左之通被仰渡  
候

無宿盜賊

百敵御領分追払

清蔵

右懸り合之もの伺之通

盜賊上紺屋町

右同断

中津屋

右同断

万五郎

安岡町

元魚町

小島屋

五十敲帰町

江川屋

妊娠月取間違御叱

西新町

源右衛門

右同断

六兵衛

一 無宿三与蔵と申もの差置候もの共同之通取計候様被仰出候

飯綱屋

一 林田町常盤屋丈右衛門方ニ撰州尼ヶ崎松平遠江守殿領分播州赤穂

源兵衛

郡高田宿村兵治郎悴藤蔵と申もの先月上旬ノ日履ニ召仕候処先月

廿七日湿疫相煩医師中村易安治療相頼置在所江も両度も飛脚差遣

候処同人妻可罷越之旨申越候処未参内ニ昨昼後致死去候段昨夜申

出尚又死去候段も申遣候由届書差出候ニ付先格之通宜取計候様申

付置今朝御用番大目附へ右之段口達ニ而申達親類も不来候得者見

分も可差出候処親類来候得者不及其義何分親類来候上聊申分無之

候ハ、先格之通取葬申付右一件相济候上ニ而他国もの受人なしニ

召仕候御咎ハ追而相伺可申旨申上置候

一 寺社取次藤本十兵衛と相伺候町住社家除役之義不相成訳并如何程

ニノ双方程能可相济と申答書認差出候様伊達与吉郎と被申聞候

一 盜賊アリ方目明之義松岡治部助考書被相渡存寄申達候様被申聞候

一 一ノ宮市町賑ひ候様取計考三浦十郎左衛門相認同意之義ニ付連名

ニノ御用番へ差出候

一 左之通大年寄於宅申渡候様申付候

村井前関貫番人 但宗町預リ

錠前損し其儘捨置候段

定平

急度叱

源右衛門

飯綱屋

源兵衛

同町

伊木屋

惣五郎

娘義拔参宮叱

大脇新左衛門改印ニ付印鑑差出候

一 聖徳寺芝居宮脇町松井屋伊助受負候所同町富沢屋又兵衛へ勸進元

相頼候段届出候

一 伏見町坂田屋勘七義母召連四国遍路百日計之逗留ニ而来ル十三日

出立願大年寄差出し承り届七月三日追願書指出ス

一 大年寄諸吟味預リ銀札諸勘定帳差出預リ高左之通

一番質銀有辻

拾貫九百九拾八匁八厘

一 綿口銭有辻

老貫三百八拾六匁壹分九厘

一 万人講殘雖利分有辻

貳百五拾匁壹分八毛

一 大破家繕工面金五拾貫目〇利分有辻

之

急度叱

壹貫四百三拾壹匁壹分

一 町方工面もの有辻

七百八拾八匁九分九厘

三月九日 曇風

一 三町目余田屋与七義なわしる場所出入札ニ付今八時ハ組合年寄差

添郡代所へ差出候様十郎左衛門ノ申来其段大年寄へ申付候

一 林田町常盤屋丈右衛門日雇ニ召仕候死人藤藏妻之弟播州西字根村

辰右衛門と申もの来候由大年寄届出候ニ付亘懸合候様申達候

一 中山百歳痔疾痛ニ付引込届出無程之居も来候間加人大目附へ申達

候所笹岡与三兵衛来

三月十日 晴風 夜雨

一 聖徳寺芝居明十一日大入取計十二日ノ相始候段届出候ニ付警固同

心組差出候段大目附へ相届候小頭へも申付候尤大年寄も願書差

出候

一 二階町茂渡庄右衛門家守作屋藤助借屋住金間屋平治妻娘二人四国

遍路九十日計之逗留ニ而明十一日立願大年寄差出承り届六月十

一日帰ル

一 京町坂本屋鶴藏兄十歳義右同様願右同断右同断

一 林田町常盤屋丈右衛門ノ日雇召仕候死人藤藏在所へ差遣候飛脚兩

人共罷帰リ向方ハ除帳之ものニ付国法之通取計具候様高田宿年寄

安右衛門ノ申越并藤藏妻之兄新七も挨拶書状差越取計之義委細

ニ頼越尤新七弟辰右衛門来居候ニ聊申分無之一札差出当地ニ葬相

頼候ニ付林田上之町浄円寺へ相頼度願書常盤屋丈右衛門ノ差出并

右懸合之書面一札等御用番中へ一緒ニ差出相候処無程御間届相

濟候ニ付右之段大目附へ紙面ニ而相届寺社取次藤本十兵衛へ及通

用置御間届相濟候間勝手次第取葬いたし候様大年寄へ申達候

一 坪井町藤屋金五郎役介きよ義伊藤主水長屋へ引越度人別除願差出

承り届

一 新魚町平田屋幸助倅亀藏義後藤藤四郎と相改大橋十太夫殿江出入

奉公仕度人別除願承り届

一 新魚町南横町西側ニ而備前屋勘兵衛家屋敷表口三間半裏行三間半

但壹歩役也南ハ吹屋町分北隣ハ魚屋庄右衛門也右家屋敷代銀八拾

匁ニ相極町内弓削屋多助へ売渡願承り届四月朔日売券状差出

一 東南條郡林田村幸右衛門一人二階町豊屋太助屋守借屋住丸尾屋伊

助役介ニ引受度人別人願大庄屋引合相濟候段願出承り届

一 吹屋町金屋新右衛門義御当国之内内藤山城守殿領分久米北条郡坪

井上村蜜言寺ノ鐘鑄被相頼候ニ付四月八日鑄立遣度右ニ付同朔日

職人給人計召連「日計之逗留」ニ而罷越度願承り届

一 牢舍人安岡町江川屋六兵衛病氣ニ付医師願出大年寄へ申付候処藤

木良全申付候段届出候

三月十一日 曇

一 林田町常盤屋丈右衛門方死人昨夜浄円寺へ葬相濟今朝右親類辰右

衛門罷帰候段大年寄ノ届出候

一 目明甚七不快引込ニ付芝居有之候故飯役平助へ可申付旨小頭申出

承り届

一 材木町十吉後家持分之丹後山畑地之槇之木西新町名波屋孫七事当

時忠兵衛伐取候出入一件木代廿五匁取致内濟候由郡代所願下ケ願書差出候由ニ付右同様之願書差出受取置道而役筋ニ可取置筋ニ無之故差戻候

一西新町藤屋清助倅滝治義太田舍人江奉公仕江戸詰供仕度他国行願差出承り届

一材木町河内屋武兵衛倅富五郎義京都本寺參詣廿日計之逗留ニ而明後十三日立願書大年寄差出承り届同廿八日帰ル

一西今町湯田屋太郎左衛門義摂州能勢妙見宮江參詣廿日計之逗留ニ而明十二日立願大年寄差出承り届同廿四日罷帰ル

一播州網干新在家村加賀屋善七手代善兵衛忠治郎式人例年之通小間物卸売来候段西新町山家屋利右衛門宿切手差出八月七日帰

一聖徳寺芝居大入ニ付藤藏文藏差出候所無別条七ツ前時相濟候得共御徒目附山本藤四郎下目附林平不引取兩度迄致催促漸引取候由六時過罷帰リ相届候

一大坂村尾左右衛門ノ返書到来住屋木左衛門義致出坂去ル六日御番所へ差出候由申来候

一江戸小勘者相田茂市神村平兵衛へ大年寄共献上物代例歳式百疋相廻候得共去暮者大年寄二人ニ付右料物も減候義ニ而も可有之哉と申遣候処今日返書差越勘定奉行へ相談仕候処例歳過不及も有之候得共式百疋ニ而相濟候事ニ候間人数ニ不拘式百疋ニ而宜候旨被申聞候由申越大年寄へ申達置候

三月十二日 快晴

一昨夜及深更大年寄ノ申出候者佐渡国加茂郡吉井本郷村了心と申坊

主回国ニ罷出石州喜阿弥村ニ而相煩彼地ノ送り出候由ニ而新田村ノ安岡町へ送り来往来等も致所持居候ニ付可繼送哉と伺出郡代所へ可及通用之処深更之事故伺之通及差図置今朝郡代所へ申達候所通用失念之旨挨拶有之

一小須賀一学殿今朝東武江被致出立候尤去ル八日於御城例之通暇乞挨拶有之且又太田舍人も今朝出立也

一東新町田原屋新右衛門義江州多賀へ參詣廿日計之逗留ニ而来ル廿日立願大年寄承り届差出四月廿一日追願差出

一桶屋町大坂屋彦市義但州城之崎へ入湯廿四日逗留ニ而来ル十五日立願大年寄差出承り届四月十二日帰

一聖徳寺芝居大札百式拾枚小供札四十三枚無別条引取候段小頭孫八出番又六為治届出候

三月十三日 快晴

一御用日登城

一盜賊長藏御裁許伺御用番中へ差出置

一京町作人又四郎借屋住筆屋六郎兵衛夫婦老衰を病相煩親類等も無之不得止事孤独扶持願出御用番中御聞濟ニ付大目附へ出し置勘定奉行へ及通達置御聞届申達候

一二階町茂渡庄右衛門家守作屋藤助借屋住人清助役介三平夫婦右二人早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡古見村菊治郎方へ引越度人別除願右同断取計済

一堺町塀屋伊助役介茂市義土屋能登守殿領分当国勝北郡新野西一ノ村有本元春養子ニ差遣度人別除願右同断取計済

一宮脇町武田屋元右衛門所持之徳守宮地子居納屋へ昨十一日夕西之堀之傷を盜賊入込洗滌濡もの<sup>井</sup>味噌都合十二品盜取候届書差出御用番<sup>井</sup>大目附へ差出近辺之貧乏之盜人と相見へ候<sup>井</sup>付早速穿鑿申付置候<sup>井</sup>付触流<sup>井</sup>及間敷旨申達置候

一町会所破損届書大年寄差出大目附へ差出候

一京町阿波屋龜吉裏御堀端堀候付御堀へ足代下し度願大目附へ差出置先格之通御作事<sup>江</sup>懸合候様<sup>井</sup>申達置候

一御手廻り被召抱候<sup>井</sup>付又候先日之通触達取計候様伊達与吉郎被申聞畢<sup>而</sup>中奥目附後藤郷助<sup>る</sup>来ル廿八日目見取計候間五尺七寸以上

一勘定奉行上原彦藏<sup>る</sup>又候他所銀札通用甚猥<sup>井</sup>相聞候間近日之内又候使組相廻し候間怪我人多候<sup>而</sup>も如何哉<sup>井</sup>付右<sup>り</sup>方相移置候様

一致度旨<sup>井</sup>付其段大年寄へ申付候所明十四日年寄一人<sup>ツ</sup>呼出し可申達旨申出候

一林田町常盤屋丈右衛門方<sup>井</sup>召仕候日雇致病死候<sup>井</sup>付先格之通御叱可申付旨相同候処伺之通被仰出候付明朝申渡候様大年寄へ申渡候

一孤独扶持料式百五拾<sup>三六分七厘</sup>〇<sup>〇</sup>真北類藏<sup>る</sup>受取大年寄へ相渡候

一新魚町笹岡休意義悖龜吉召連四国遍路罷出度百日計之逗留<sup>井</sup>而<sup>来</sup>ル十五日出立願承り届六月五日帰

一西今町東横町<sup>井</sup>而<sup>中野屋太郎兵衛所持之家屋敷表口式間裏行七間半但志歩式厘五毛役也北隣ハ小畑屋藤吉南ハ大溝也右家屋敷代銀</sup>

札五百匁<sup>井</sup>相極町内荒木屋武助へ売渡願大年寄差出し承り届同廿四日売券状差出

一御藏米六拾三匁五分 町米五拾九匁五分

一聖徳寺芝居大札百五拾式枚子共札五拾三枚無別条引取候段左十郎左五兵衛届出候

三月十四日 快晴

一境町立花屋伝吾方<sup>井</sup>去ル九日之夕京都寺町御池上ル鮫屋清兵衛と申ものと<sup>井</sup>伯州米子快膳房上下式人大仙之勸化<sup>井</sup>巡り候由<sup>井</sup>而<sup>而</sup>掛挟箱一荷持参致同宿候処右快膳房と申<sup>者</sup>勸化<sup>者</sup>偽り盜賊<sup>井</sup>候由

右鮫屋清兵衛所持之金子四両式朱盜取候由清兵衛も一旦致出立候

処立帰り遂吟味候処右快膳房聖徳寺芝居<sup>井</sup>而<sup>目明共召捕遂吟味候</sup>処及白状右金子差戻尤右之内壺両余も遣捨候<sup>井</sup>付右快膳<sup>井</sup>下人茂

兵衛兩人所持之品不殘取上ケ右不足金之価<sup>井</sup>道具屋へ為相渡双方<sup>る</sup>受一札取内々<sup>井</sup>而<sup>取計相濟其余惡事無之旨尤盜賊<sup>井</sup>者候得共忍</sup>

入等仕候もの<sup>井</sup>て無之由目明孫兵衛伺出候付御領分境迄非人<sup>井</sup>為送出候様及差図右一札書類等<sup>者</sup>及一見孫兵衛方<sup>井</sup>取置候様申付ル

一目明甚七致出勤候<sup>井</sup>付今日<sup>る</sup>平助仮役差免候段小頭申出候

一左之通大年寄宅<sup>井</sup>而<sup>申渡候</sup> 播州高田宿村藤藏と申もの 林田町常盤屋

外<sup>井</sup>宿も無之風来同然之もの 丈右衛門  
数日留置日雇<sup>井</sup>召仕不埒<sup>井</sup>付急度申付候  
右取計相濟候段御用番<sup>井</sup>大目附へ相届候

一二階町茂渡庄右衛門家守作人太助借屋住山岡屋利右衛門四国遍路  
九十日計之逗留<sup>井</sup>而<sup>明十五日出立願大年寄差出承り届六月十一日</sup>

帰ル

一二階町豊屋太助家守作人長八借屋住山北屋忠藏妻娘右二人右同斷之願承り届ル

一 中山百藏義上衛仕候付月代仕度旨小頭ノ願出承り届

一 丹州生野御代官稻垣藤四郎殿手代中沢良右衛門高橋督三郎勝部三

五兵衛ノ飛脚差越支配所入用之塩河面村弥太郎義昨年以來受負積登七候処夏中ハ井堰多出来候ニ付河面榎村迄難引上ケ仍之当所林

田並屋忠兵衛方へ預ケ置夫ノ支配所へ追々取越度願出候間願之通相整候様并小桁番所も無滞通船致候様頼来候ニ付紙面之趣致承知

候間其旨夫々江可申達置旨返書下案相認差添御用番中へ相伺候処伺之通宜取計可申旨被仰出其旨及返書候且又御用番中ノ返書ハ右

之通ニ而宜候得共並屋忠兵衛へ達振ぎしと致候ニ而ハ御用と申事ニ而以後手纏之程も難計ニ付さつと相移置候様可取計尤以後船出入

一件ハ松岡治部助懸リニ可被仰付候間右之通可相心得右返書ハ治部助へ不及相談候得共忠兵衛へ之達振ハ同人江懸ケ合候上可取計

之旨被仰出候ニ付後日其通可取計事○同廿一日船懸合之一件治部助へ不及差出直ニ差出候様要人殿被仰渡候

一 聖徳寺芝居大札百四拾五枚子供札五拾八枚有之無別条引取候段新治与三兵衛届出候

三月十五日 快晴

一 自分義今日当日帰り木山宮江致参詣留主之義三浦十郎左衛門へ相

頼届 上原彦藏へ相頼候

一 牢舎人利左衛門病氣申出大年寄へ申達候処藤木良全へ申付候由

一 聖徳寺芝居大札百貳拾一枚子供札四拾二枚有之無別条引取候段文

蔵栄治届出候

三月十六日 快晴

一 郡代所ノ牢舎人亀太郎呼出し申来昼廻文蔵栄治当番新治差向出入取計候

一 生野ノ頼来候河面村弥太郎ノ並屋忠兵衛へ塩預ケ度義忠兵衛へ達振松岡治部助へ及濱達候所同人存寄ハ殊之外相違候義ニ付其段委

細ニ要人殿江申上置候所何分治部助存寄も尚又相糺候上ニ而又々可申達旨被仰出候

一 聖徳寺芝居大札百三拾八枚子供札四拾一枚有之無別条引取候段藤蔵為治届出候

三月十七日 快晴

一 御用番要人殿ノ呼ニ来罷越候所生野ノ頼来候河面村弥太郎ノ並屋忠兵衛へ塩預ケ候義役筋伺通ニ而随分宜候間其旨ニ可取計尤忠兵

衛へ達振此間も申達候通駈と御用と申付候ニ而ハ後々差支之程も難計ニ付頼来候趣ざつと相移可然旨又々被仰出候ニ付左之通申渡候

様大年寄江申達候

東新町

其方方へ河面村弥太郎ノ塩預ケ 並屋

置度旨生野ノ通用も有之候ニ付 忠兵衛

勝手次第相対可取計候

一 生野ノ頼来候右塩預ケ之義役人懸合ニ而ハ手纏候程も難計ニ付下方相對懸合ニ為致候様此上生野へ申遣候ニ而可宜哉と丹後殿御存慮

ニ付此段相考被申聞候様要人殿被仰聞候付何分得と相考候上ニ而



御返答ハ可仕候得共差当リ候所ニ而ハ下方内分之懸合ニ為致候而  
ハ却而備前ノ疑を受ケ後難可有之役人同土之懸合ニ而さつぱりと  
筋立候様ニ存罷在候段先即答申上置候

一 牢舎人弥助二廻リ療治相濟休薬双方ノ届出候

一 牢舎人猶兵衛義二廻リ療治相濟候処未相勝尚又藤木良全へ申付候

一段大年寄ノ申出牢番ノも食餌一向給不申候間致引扶持給ニ而も調

差遣度并腫物ノ膿水出蒲苗濡難義仕并藤木良全薬者不致相応日々

ニ悪敷相成候間周格へ被仰付候様仕度伺出候付蒲苗之義ハ宿元へ

懸合可遣引扶持之義も承リ届候間宜取計可遣候医師之義ハ我儘申

出候義不相成旨申達置候

一 下紺屋町万性院義金毘羅參詣十日計逗留ニ而来ル十九日出立願書

大年寄承リ届ケ差出候同廿七日帰ル

一 船頭町高瀬屋勘右衛門義大坂大川町美作屋辰一郎方へ四十日計之

逗留ニ而明後十九日出立願右同断差出四月廿三日帰ル

一 牢舎扶持六俵之内貸証文差出奥書取計候但来月へ壱石壱斗四升指

越候積

一 聖徳寺芝居大札百七拾五枚子供札五拾三枚無別条取引候段左十郎

又六申出候

一 昨日之芝居出役藤藏為治申出候者昨日芝居ニ而茅町保頭之悴幸吉

と申もの致醉狂候ニ付孫兵衛悴岩吉ニ為引出候所其義を遺恨ニ差

合彼是申募弥あはれ候由内々届出候旨申出候付品ニ寄手錠懸ケ組

合預ケニ申付置候様ニ及差戻候所其通ニ取計候段届出候ニ付大年

寄へも内々申達置候同廿五日  
差免

一 長州山田郡庄明市村三平悴喜治郎と申もの伊勢參宮罷出播州佐用  
郡早瀬村ノ致足痛同所ノ送り出川部へ送リ来候ニ付継送り候様申  
付候段郡代所ノ通用有之大年寄へ申付候所継送り候段翌朝申出候  
三月十八日 快晴

一 御用日登城

一 二階町山手屋弥太郎家守作人官治借屋住南屋藤右衛門義家内致他

出表口錠おろし置候所去ル八日夕表之錠外し盜賊入込衣類八品盜

取候届書御用番へ差出大目附へも差出候尤目明へ早速吟味申付置

候事故町触ニも及間敷旨申上置候

一 大目附伊達与吉郎ノ左之通演達有之候

一 洪水出役之節袴着用いたし候所去八月踏込野袴可致着用之旨

被仰出候右之通相守リ銘々区々ニ不相成一樣ニ可致候旨被申

聞候

一 畢而野袴踏込ハ頭分平士之差別候様ニ及承候段相尋候処右

御定ハ無之義故勝手次第野袴踏込打混し可致着用旨被

申聞候

一 野袴踏込ハ絹ニ而も木綿ニ而も不苦事

一 姚灯紋所兩方共ひなた之黒ハ御用所之外ハ不相成片一

方朱歟薄墨ニ致候様ニ承リ伝候義も有之候候ニ付其段

も相尋候所左様之御定決而無之事ニ候旨被申聞候ニ付

乍席記置候

一 大目附ノ本山開帳見世物有之由ニ付御家中參候義御停止之触書差

出候間市郷も同様之義と察度有之候ニ付先例取調尚又郡代と遂相

談可相伺旨及返答置候

一 生野ノ此間塩之義申来候書状大目附へ差出

一 元魚町米屋竹助義金毘羅參詣十日計之逗留ニ而明十九日出立願大年寄承り届差出同廿七日帰

一 元魚町紙屋多兵衛右同断願書出右同断

一 盜賊長蔵伺書懸り合之もの共御裁許取調御用番中思召被仰出尚又再考可申上由ニ而御下ケ被成候

一 御蔵米六拾四匁五分 町米六拾匁五分

一 聖徳寺芝居大札式百式拾五枚子供札六拾六枚有之無別条引取候段

新治左五兵衛届出候

一 本山寺ニ見世物有之候間下々迄差遣間敷大目附廻状到来写取組中へ差出候

三月十九日 快晴

一 昨日大目附中ノ達有之候本山寺開帳見世物有之ニ付市郷參候義御

差留触達之義先例近例建札等之義迄相糺候処手近之処ハ多者御差留触有之候得共五六里以上之場所見世物御差留之触不相見候ニ付

旁以本山寺見世物有之ニ而旧例之通御指構無之方可然と存居候処昨午三月久世立願寺開帳大造成取拵之趣相聞へ御停止被仰出之

有之候右例ニ随ひ郡代所申談之上御用番中へ罷越市郷共御停止触可差出哉と相伺候処後刻可被仰出旨ニ而罷帰候処大目附ノ呼ニ来

先例近例尚又考え趣も委細被相尋御用番中へ申上候通答候処本山寺見世物数并取拵之趣内々聞り糺し申上候様被申聞候ニ付目明共

聞合候様ニ可申達旨小頭孫八江申付置候処御用番中ノ紙面ニ而先

此趣ニ候ハ、參詣停止之触達市郷共差出ニ及間敷追々大造成趣も有之候ハ、其節之義ニ而可然間市郷触達致延引候様申来郡代所へも及通達候

一 二階町南屋藤右衛門被盜もの触達ニも及間敷旨昨日御用番中へ申達置候処今日大目附中ノ市郷触流取計候様申来并右品書郡代所へ相廻候様申来例之通町触差出品書郡代所へ相廻候

一 東新町綱屋善助義無願当月六日上方へ罷越候処去ル十日夕伏見夜船平形ニ而致破船候得共命分ハ助り候由承候趣無願他恐入候段同人母ノ届書差出候

一 備前岡山家中三木幸助悴一之進同道ニ而用事有之罷越候間四五日

逗留為仕度齋藤孫右衛門届書差出承り届ル同廿二日罷帰ル

一 聖徳寺芝居大札式百五枚子供札五拾一枚有之無別条引取候段孫八栄治与三兵衛届出候

三月廿日 少雨 曇

一 聖徳寺芝居雨天ニ付不仕候段勸進元届出候

一 本山寺芝居之様子聞合目明共へ申付置候所今朝小頭を以申出候者うて芝居一組參居候由右うて芝居と申者当国□□近辺之もの候由

当所□□□□非人同様之ものニ御座候由申出候付其段大目附へ申達候所此後風義ニも懸り候程之見世物參候ハ、其節者市郷触流可相

伺旨此段郡代江も通用候様ニ返書来右返書郡代江相廻候

一 東新町並屋忠兵衛義河面弥太郎ノ塩預ケ度下地之内懸合如何様之義ニ候哉認出候様申付置候処船出入一件有之義故相對ニ而ハ得預

り不申御役筋ノ被仰付候義ニ候ハ、預り可申及返答候旨認出候付

御用番中へ持参差出右取計此間被仰出候下方相對ニ懸ケ合候義最  
早難取計并愚意ニ者此節之義故下方ニ而為取計候而ハ却而手纏ニ  
も可相成生野ノ頼來承リ届候と申ものニ而此方構無之何方ニ而も  
申披も出来候様奉存候段申上候処並屋忠兵衛へ申付方認出候様被  
仰出其段認差出候

一藏合孫左衛門方へ塚角山王宮神主横部加賀守來船出入ニ付此節片  
積ニ相成諸方差支多船持困窮之基ニ付内濟取持度付存慮承り度申  
候ニ付當時御役人御懸合ニ而片積ニ致落着居候事ニ候得者當時之  
姿ニ而ハ下方ニ而内濟懸合等ハ出来申間敷何れ備前ノ仕懸ケ之義  
ニ而向方之望通ニ相成居候事ニ候得者向方ノ願下ケ有之下方へ引  
下し候上ならてハ致方も有之間敷旨及挨拶候旨認差出し候ニ付御  
用番中へ差出候

一郡代所ノ川向苗代座出入致内濟願下ケ申出候間今日双方呼出し承  
り届可申ニ付今八時ノ吹屋町北村屋弥七同町吹屋八左衛門同町北  
村屋源右衛門三町目余田屋与七右四人町役差添郡代所へ差出候様  
申來其段大年寄へ申達候

三月廿一日 雨

一 二階町年寄境屋伊右衛門義今朝致病死候段大年寄届出候  
一 茅町幸吉手錠封印損候段大年寄ノ届出夜廻りへ申付候  
一 無宿者留置候ものノ咎輕重考被仰出候ニ付今日御用番中へ差出候  
一 御用番要人殿ノ左之通被仰出候

一 東新町並屋忠兵衛義河面村弥太郎と塩預り候懸合并書之内  
ニ此節船出入中ニ付相對ニ而得預り不申と言文段有之候得

共塩と船出入之義ハ元來別事ニ候得者他所ものへ対し左様  
ハ申間敷義と思召候間以來下方ニ而も其旨相心得居候様ニ  
相移置可然旨被仰出候

一 山王神主横部加賀守藏合孫左衛門方へ來船一件内濟取持度  
趣申聞候旨以來取持之ものも有之候ハ、元來此方ノ仕懸候  
義ニ無之故元之通ニ相成候得者無申分致内濟可然義ニ候得  
共有体而已ニ而も様子能者却而出来候道理も有之候得者此  
方ニも下地之通ニ而も是々之ケ条難義ニ相成居候得共致來  
之義故致堪忍置候得共ケ様々々之ケ条程ハ除吳候様ニ抔と  
申掛置其上ニ而程好所ニ而元之通ニ致内濟候様ニ取向候ハ  
、可宜思召候間右故障之ケ条考置可然旨御内意被仰聞候○  
此御答四月九日紙面ニ而御用番へ申上候

右ニケ条之意味藏合孫左衛門へ相移置候

一 聖徳寺芝居雨天ニ付途中ニ而相止大札十八枚子共札六枚有之無別  
条引取候段孫八為治又六届出候

三月廿二日 雨

一 聖徳寺芝居雨天ニ付延引届出候  
一 牢舎人龜太郎義出牢帰村郡代所ノ申來出番左五兵衛差向出牢取計  
候

一 牢舎人長藏口書落候ケ条有之新左衛門藤藏左十郎牢屋へ遣取計候  
一 橋本町長崎屋代助義去ル八日之夕罷出行方相知不申出奔之体ニ付  
所々相尋候得共不相知段届書差出例之通百日尋申付候

一 小性町南側ニ而作人常藏家屋敷表口四間裏行拾七間但一軒二歩役

也西隣ハ田中屋和吉東隣ハ藤屋与一兵衛右家屋敷美濃職人町昼屋  
茂市取次ニ而三百目之質物ニ書入当三月ノ十二月迄月一步半之利  
足ニ而借受度願書承リ届同晦日本証文差出ス

一 中ノ町川口屋与市借屋住弥吉義当月六日京大坂江罷越候所去ル十  
日之夕伏見夜船ニ而難船ニ逢候得共命分ハ助リ申候由申来御願も  
不申上内分ニ而罷越恐入候段届書差出候

一 吹屋町くり屋頭米屋長藏義長兵衛と改号届出承リ置  
一 牢舎人六兵衛快気ニ付休業届出候

一 院庄川渡船留候段酉刻過郡代所ノ申来大年寄ヘ申達候

三月廿三日 雨

一 御用日登城

一 吹屋町吹屋八左衛門家守孫市借屋住作人伝右衛門悴亀吉義大久保  
安芸守殿領分当国久米南條郡福田上村岩右衛門養子ニ差遣度人別  
除御用番御聞濟ニ付大目附ヘ差出置御聞届申達候

一 芸州加茂郡西条土与丸村新兵衛娘義材木町板屋定吉弟治兵衛妻ニ  
引受度人別入願右同断取計濟四月朔日住宅証文差出ス

一 備前上道郡中野村七三郎一人二階町丸尾屋長兵衛引受度人別入願  
右同断取計濟四月朔日住宅証文差出

一 新魚町御藏元姫路屋伝六義甚右衛門と改号仕度願書差出承リ届置

右願書御用所江持参及御噂置候大目附ヘも右同断取計濟

一 盜賊口書書加ヘ非宗永寺長屋もの引合有之寺社取次藤本十兵衛ヘ  
談置候処弁書差出候付受取一所ニ御用番中ヘ又々差出置候

一 中島村伊右衛門義先月十三日敲帰村御達有之候処右之類一所ニ可

取計延置候処在方差急候由ニ付急ニ取計可申旨大目附ノ達有之付  
明後廿五日取計可申候間例之通立合被差出候様申達役筋ニ而も江  
川屋六兵衛敲取計可申之旨申達置夫々江手配申付置候

一 聖徳寺芝居致延引候旨勸進元届出候

一 三船新治義大橋ノ太夫殿ニ相勤罷在候後藤藤四郎と申者養子貫受  
候段小頭ノ届出候

一 院庄川申刻渡船相始候段郡代所ヨリ申来大年寄ヘ申達候

三月廿四日 快晴

一 大目附伊達与吉郎ノ明日敲取計人数并数申聞候様申来候付新田村  
伊右衛門五十敲安岡町江川屋六兵衛五十敲右二人ニ而候旨及返書

一 明日取計ニ付組不足加人老人并下役大脇新左衛門御貸人一人被仰  
付候様大目附ヘ紙面ニ而申達処同心組加人福田伴藏来

一 御藏元姫路屋甚右衛門持船之内壹艘至而古船ニ而木船ノ外ニ者難  
相用ニ付塚角之船頭ヘ壳弘右替リハ当秋迄之内ニ仕立候由大年寄  
ノ届出承リ置

一 中之町下之番所大損ニ付近々建直候旨大年寄届出候

一 上紺屋町渡辺元端悴三隅義去午三月ノ備前閑谷村学校ヘ指遣置候  
処来申三月迄差置度追願差出承リ届ル

一 聖徳寺芝居大札式百九拾五枚小札百廿五枚有之無別条引取候段文  
藏榮治届出候

三月廿五日 曇 晩雨

一 御徒目附妹尾周平下役書役ニ而大脇新左衛門小頭三船孫八部屋目  
附三船新治下目附中村林平出番笹岡与三兵衛一人立会ニ而於牢屋

左之通り取計候并郡代下代木村金治出番二人罷出ル

一昨年巳十二月十九日新田村ニ而 新田村

博奕致参会立去り当春被召捕候ニ付 伊右衛門

五十敵帰村

右者郡代所取計ニ而下代ノ申渡之役筋ニ而ハ取計申付小

頭部屋目附出番立合見届候事

右同所博奕致参会立去り候処 安岡町

二月五日立帰リ候ニ付召捕五十敵之上 江川屋

帰町申付候 六兵衛

右ハ書役兼帯大脇新左衛門誦渡之

大年寄於宅小頭孫八部屋目附新治立会左之通申渡之

倅六兵衛永尋之もの候処立帰候而も 安岡町江川屋六兵衛父

不申出不埒ニ付追込五日 太郎市

右同断不申出不埒ニ付追込三日 同人組合 七人

右同断ニ付急度叱 同町年寄 友七郎 二人

右取計相済候段御用番并大目附へ紙面ニ而相届候

一茅町保頭之倅幸吉義去ル十七日記置候通芝居ニ而致狼籍候付手錠

懸ケ組合預ケニ申付置候処甚誤入已来可相慎旨歎書差出候得共小

頭場合ニ而為取計置候義故歎書可差出筋之ものニ無之ニ付右歎書

差戻し小頭場合へ歎出可然之旨内々相移候処小頭ノ右歎之趣申出

候間宜取計候様及差図置候処今日昼廻りノ手錠差免禁足申付置候

処小頭ノ申出候

一聖徳寺芝居大札三百八拾式枚小札七拾五枚有之無別条引取候段藤

蔵為治届出候

三月廿六日 少雨 曇

一院庄川渡船留リ候段郡代所ノ五ツ半時申来大年寄へ申達候

一聖徳寺芝居天氣相ニ付延引届出候

一撰州兵庫田中屋久左衛門義他領葉種取レリ懸合ニ来候由坪井町川

原屋治助方ニ逗留為仕候段常盤屋丈右衛門湯田屋太郎左衛門ノ届

書差出承リ届尤彼義ハ兼而取レリ懸合等も有之六ヶ敷もの故折節

席有之候ニ付御用番并大目附へ及御噂置候

一牢舎人賈銀師猶兵衛義永々鶴膝風之様ニ而相煩居候所股と脛とニ

口明き膿水出難義仕候ニ付外科願出候所當時町方ニ御目見不仕外

科無之ニ付先例無之義ニ候得共無抛義故御目見医師ニ可申付哉之

旨御用番中へ相伺候処要人殿大目附時分ニ渡部甫庵牢屋致療治候

義有之哉之様御覚被成候間相調見候様被仰出取調候所甫庵致療治

候義ハ無之天明五ツ日年九月三日之日記ニ賈札師万助痛所有之候

ニ付外科を郡代所へ懸合候と有之又九月十日ニ右病人ニ付在方之

外科牢屋へ差越と有之前後不委一向不相分候得共其段要人殿へ申

上候処其義之覚違ニ候其節後藤守助ノハ御目見医師可差遣相伺候

処在方ニも外科有之義ニ候得共先在方之外科差遣可然旨一学殿被

申候哉と唯今存出候左候ハ、以後之取極ハ追而可申達候間先今日

之処ニ而ハ先格之通ニ郡代ニ申談郷中外科差遣可然旨御差図ニ付

其段三浦十郎左衛門へ申談候処承知ニ付右之段大目附へ罷越相届

置候 右先格取調候処相安候節ハ御目見医師可差遣先格ニ付

以来共通ニ相心得取計候間年五月廿八日被仰出參候其趣ニ記置候

一 牢浚昼廻り藤藏為治申付候所無別条旨届出候

三月廿七日 雨

一 郡代所々昨日被仰聞候竹田村外科宗輪呼<sub>ニ</sub>遣候所罷出原田屋<sub>ニ</sub>扣居候間案内次第可差遣旨申来仍之当番文藏原田屋へ差遣牢屋致同道罷越候病人出候義も出来不申仍之牢内へ宗輪這入致診察薬致調合具候付以後薬取等之義牢番<sub>ヲ</sub>得と懸合置候様申合遣候通牢番共へ得と申聞置候段文藏罷帰<sub>リ</sub>申出候

一 御蔵米六拾五匁五分 町米六拾壹匁五分

一 聖徳寺芝居大札式百三拾式枚小札三拾七枚有之無別条引取候段新治左五兵衛届出候

三月廿八日 晴

一 御用日登城

一 御目見医師たり共牢屋療治被仰付候旨寛延二已九月町医師共へ触達有之候触書扣尋出候付写取要人殿へ差出候所右触書之趣を以此度之触達<sub>ニ</sub>認可相伺旨御差函御座候間追<sub>而</sub>可伺事

一 土屋但馬守殿領分当国勝北郡堀坂村文吉倅松之助義中之町玉野屋藤十郎借屋住大戸屋善三郎養子<sub>ニ</sub>引受度人別人願御用番中御聞濟<sub>ニ</sub>付大目附へ差出置御聞届孫左衛門名代六郎左衛門へ申達候四月朔日住宅証文差出

一 東新町茂渡兵吉方へ去ル廿二日昼盜賊這入下人之衣服七品盜取候届書廿四日差出今日御用番へ申達<sub>并</sub>町触之義伺濟<sub>ニ</sub>付大目附へ差出置例之通触流し取計郡代所も同様取計有之町方<sub>ニ</sub>無之旨届出候一 牢舍人猶兵衛義病氣段々差重<sub>リ</sub>今已ノ中刻頃致牢死候旨届出候<sub>ニ</sub>

付未吟味中之もの<sub>ニ</sub>付兼田仕置場へ仮埋可取計旨御用番へ相伺候処伺濟<sub>ニ</sub>付大目附へ今未刻御徒目附立相被仰付候様申達置夫々手配申付候

一 大目附伊達与吉郎<sub>ノ</sub>左之通達有之候

坪井町藤屋嘉右衛門義家族共迄居町払隣町差構被仰付右申渡書ハ寺社取次へ御渡被置候間同人<sub>ヲ</sub>受取右御書付之通可被申渡候

右畢<sub>而</sub>寺社取次藤本十兵衛<sub>ノ</sub>右申渡書<sub>并</sub>先達<sub>而</sub>相廻置候嘉右衛門所持之書類之皮籠一相廻<sub>リ</sub>明廿九日申渡可取計<sub>ニ</sub>付夫々手配<sub>リ</sub>申付置候

一金毘羅參詣旅人三百六拾三人有之頭錢取立候旨旅籠屋頭山北屋伊兵衛帳面差出候

一 安岡町江川屋太郎一組合追込昨日迄<sub>ニ</sub>而三日<sub>ニ</sub>相成候間今朝差免候段出仕之上御用番<sub>并</sub>大目附へ相届候

一 牢舍人利左衛門全快<sub>ニ</sub>付致休薬候段大年寄届出候

一 牢死人元福渡町竹尾屋猶兵衛死骸見分御徒目附藤田弥治兵衛小頭孫八部屋目附藤藏下目附安井友治立会遠見分候処無別条<sub>ニ</sub>付兼田<sub>江</sub>仮埋申付候右取計相濟候段御用番<sub>并</sub>大目附へ相届候

一 聖徳寺芝居天氣相<sub>ニ</sub>付延引届出候

三月廿九日 晴 夜雨

一 於白洲立合小頭部屋目附大年寄諸吟味出番文藏左五兵衛<sub>ニ</sub>而左之通新左衛門誑渡之

其方義本光寺先住快鷹退院之義

坪井町藤屋

乍存留置候段不埒至極之事ニ候

嘉右衛門

依之居町弘申付候已後立歸リ於令徘徊者急度可申付候

畢而隣町徘徊差留御家中奉公差構候

嘉右衛門義本光寺先住快鷹退院之義

同人家族

乍存留置不埒至極ニ付居町弘申付候

妻 とみ

其方共義一家罷在右之及仕義候ニ付居町

娘 ひさ

住居差構候

同 なを

悴 金五郎

同 久米三郎

其方親類藤屋嘉右衛門義不埒之筋

鍛冶町

有之居町弘申付家族共義居町

川口屋

住居差構候依之欠所可申付候得とも

喜七

憐愍を以同人家屋敷家財等其方へ差遣之候

右申渡寺社取次藤本十兵衛之相廻リ其通申渡候尤嘉右衛門義一ノ

宮村ニ近親有之趣ニ付在方親類と申談宜取計候様口達ニ而川口屋

喜七へ申渡候且又嘉右衛門娘二人病氣ニ而得不罷出候ニ付娘義も

同様之旨申渡候

右畢而出番兩人元魚町迄召連行追弘同町年寄る一札取帰リ候

右畢而取計相濟候段御用番并大目附へ相届候尤右申渡書写取大目

附へ差出候

一中之町鳥羽屋八重治借屋住龜屋とよ娘十八歳ニ罷成候所昨朝不斗

罷出行衛不相知候ニ付鐘太鼓ニ而相尋度願書大年寄差出候処拙者

義今日三浦十郎左衛門相頼置致他出候ニ付十郎左衛門る御用番中

へ相伺候処御聞濟ニ付十郎左衛門る大目附へも相届御聞届も大年寄へ申達候

一聖徳寺芝居大札五百三枚小札百貳拾五枚有之無別条引取候段文蔵左五兵衛届出候

三月晦日 雨 昼後晴

一中之町龜屋豊娘駒義行衛不相知ニ付鐘太鼓ニ而相尋度願書昨日三浦十郎左衛門る御用番中へ相伺相濟候得共左之通引継出来候

一御用番中る右願書之内在々迄相尋度と申文段可有之処先格不相認事哉と御察度有之候ニ付何分大年寄共相糺候上御答可申

上旨申上置十郎左衛門る孫右衛門へ右之段申達候所伏見町駕籠屋万吉例を以認差出候段孫左衛門頼之口移しを即答申候処

十郎左衛門る何分先例相調在々之文字有之願も有之候ハ、又々可申聞旨申達置候故孫右衛門再調申出候上ニ而御答可申之

処再調乍申付置一旦孫右衛門伏見町之先例ニ寄認候段申候故先格ニ而候旨御用番中へ御答申相濟候処孫右衛門再調之上申

出候者昨年午四月東新町鍛冶屋善右衛門下女娘行衛不相知候節鐘太鼓ニ而相尋度と申願書ニ在々迄と申文段有之段申出候

付大目附へ差出置候願取戻し認直し又々御用番中へ差出候故右不束之段恐入差扣相伺吳候様昨夜及深更申来候付今朝大目

附へ申達候所昨日之一件得と相糺候様被申聞候付相糺候所左之通ニ候

一蔵合孫左衛門不調法ハ中之町年寄る伏見町之例を承り合セ認差出候旨申候ニ付不及糺其儘差出聞達ニ相成不念之段恐入差

扣伺出申候

一 斎藤孫右衛門不調法ハ孫左衛門月番之所不快ニ付孫右衛門を相頼孫左衛門ノ申聞候者右願書ハ伏見町倉敷屋半七母例を以認候趣申聞候所右倉敷屋半七母ハ駕籠屋万吉妻之祖母ニ付半七死去後ハ万吉方へ来リ近年迄罷在彼方ニ而死去仕候ものニ付風渡心得違ひ倉敷屋半七を駕籠屋万吉と申出此段恐入差扣伺出申候

一 伏見町中之町年寄共懸合之趣相糺候処組合一人差越口達ニ而聞合候迄ニ而案詞等差遣候義ニ而ハ無御座不束之義ニ御座候

一 右同様之願書先例安永七年戌六月二階町疊屋吉左衛門悴五十

郎 卽天明七丁未年十二月上紺屋町久右衛門娘さん寛政元西五

月伏見町倉敷屋半七母并寛政十年午四月東新町鍛冶屋善右衛

門下女娘行衛不相知鐘太鼓ニ而相尋候願書何れも在々迄も相

尋度と申文段有之候

右之段大目附へ申達候所十郎左衛門差扣伺ハ今朝申達置候間大年

寄差扣者從拙者可相同旨申聞候付御用番中へ罷越孫左衛門孫右衛

門兩人之差扣相伺候処孫右衛門義ハ不及伺候間場合切ニ而及差図

候様被申聞其段早々六郎左衛門へ申達候孫左衛門義ハ後是否可申

達旨被仰聞候所無程差扣不及其義以来入念候様可申達旨申来其段

六郎左衛門へ相通候様申達候三浦十郎左衛門義も不及其義候旨被

仰出候段大目附ノ申来申達候

一 聖徳寺芝居雨天ニ付延引届出候

一 寺社取次藤本十兵衛ノ申聞候者聖徳寺芝居殊之外損失有之趣ニ而

追願書差出候得共四月へ懸リ候故夏芝居ハ御停止ニ付御聞届無之

旨寺社奉行伊達与吉郎申聞候得共余リ不便之義ニ付再応申達候得

共一向承引無之最早致方無之候併勸進元難義之趣難黙止候間拙者

支配之ものニ候得者從拙者も相歎遣可然旨申聞候付伊達与吉郎へ

罷越種々と理害申聞候処漸々承知之趣返答ニ而左候ハ、来三日願

書可差出旨申聞候付左候ハ、寺社取次へ私ノ相頼其趣を以今一応

願書差出候様可及懸合旨申述置其段藤本十兵衛へ委細ニ申達候

一 院庄川満水ニ付渡船留リ候段申ノ中刻郡代所ノ申来大年寄へ申達

候

一 御先手組原久八娘義去ル巳ノ十二月美濃職人町杉屋幸吉妻ニ引受

候処此度離縁仕親元へ差戻度願承リ届

一 安岡町江川屋太郎へ追込昨日迄ニ而五日ニ相成候間今朝差免候段

御用番并大目附へ相届候

四月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 黒田要人殿



大目附 松岡治部助

大年寄 齋藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

四月朔 日 快晴

- 一 中之町鳥羽屋八重治借屋住龜屋豊娘駒義行衛不相知候ニ付鐘太鼓ニ而相尋度願差出候処因州之方へ罷越候哉之取沙駄も有之ニ付同人兄弥之助因州へ尋ニ遣度右様子相分候迄鐘太鼓ニ而相尋候義延引仕候届書夜前差出候ニ付今朝御用番中へ差出大目附へも相届候一播州網干塩屋伊兵衛一人例年之通塩物荒物御売来候段中之町津田屋伝助宿切手差出七月廿四日罷帰

一 聖徳寺芝居昨日之雨ニ而延引致候段勸進元届出候

一 院庄川渡船始り候段辰中刻郡代所申来大年寄へ申達

一 先月藏合孫左衛門と伺出候者御用宿以前者六軒有之候処差支多ニ而當時者九軒計も有之候処何れも手広成宿無御座鳥屋与三治相勤

■候節者御代官宿も相勤り候処同人義相止候後ハ少シ人数多ニ而も順番宿へ申付候様ニ相成当人も甚致迷惑仍而ハ町入用も相懸リ甚致迷惑候処坪井町羽織屋九一右衛門義兼而内々西川用達仕右ニ付候而ハ往来ニ立寄右蔭を以普請も宜仕間数も有之至而倚麗ニも有之候間御用宿被仰付候者多人数之御用宿可成丈引受可相勤旨内々相願候趣人馬問屋方申出候ニ付此間雲州之御女中順番宿へ可申付処為試羽織屋へ申付候処可也ニ相濟候間以来右之通ニ相成候得

一 順番宿ハ勿論之義惣町迄懸リもの無之候尤外宿屋之故障ニも不相成義殊ニ都而之旅人宿相望候存寄ニて無之西川之宿計仕度望ニ御座候得者被仰付候様仕度旨申出候間伺之通申付候様今日齋藤孫右衛門へ申達候

一 明二日於牢屋利左衛門義可遂吟味ニ付夫々手配申達且又同心組致不足候ニ付加人式人大目附へ申達候所加藤茂助植月十四郎来

一 河原町岡野屋伝左衛門後家借屋住人弥兵衛夫婦娘右家内三人大原三省長屋引越度人別除願大年寄差出承り届ル

一 福渡町阿賀屋助五郎家守作人忠助借屋住芳兵衛義去月十四日風渡罷出不罷帰候ニ付所々相尋候得共行衛不相知旨届書差出候ニ付先例之通百日尋申付候同七月十八日離帳

四月二日 晴

一 於牢屋新左衛門孫八藤藏又六左五兵衛立会左之通九時迄遂吟味候

四月二日 晴

賈銀 木山宮賈銀札配り及白状候へ共 元因州もの

少々ツ、申口異同有之 元因州もの 利左衛門

市左衛門と申者ニ賈銀不残相渡置候段申之

右市左衛門と申ものハ其砌林田上之町綿打之所ニ致寄宿林田町源屋安ノ丞方へ綿打ニ参居候もの、由申之候ニ付郡代所へ懸合向方も吟味有之此方も夜廻り文藏栄治差向遂吟味候処當時居不申不相知候

一 大目附大坂村尾李右衛門書状被相渡去月十日之夕伏見夜船牧方ニ而致破船津山もの左之面々乗合有之

吉野屋 弥吉

綱屋 善助

樗野屋 友助

高尾屋 菊太郎

魚町 海部屋源治倅

源兵衛

右之もの共御番所へ被呼出御吟味有之候処初之四人之ものハ宿有之旅居<sup>ニ</sup>引取候処海部屋源兵衛義ハ乗合備中もの有之仍之備中御支配の方へ引渡有之候処又々被逐吟味候得<sup>者</sup>源兵衛義津山魚町海部屋源治倅之由申之仍之御屋敷御名代沢江屋惣左衛門御番所へ御呼出<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>被引渡候付委細之訳左右衛門御番所へ出相伺尤源兵衛義一卜先ッ帰り度旨申候段相伺候処勝手次第可差返併溺死人親類御呼登被成親類共申分無之旨申上候迄ハ懸リ合<sup>ニ</sup>付又々御呼出も可有之候間遠足差留置候様御達有之右之段御用状<sup>ニ</sup>相認源兵衛へ相渡去ル十九日大坂出立罷帰候<sup>ニ</sup>付脇寄不致罷帰リ候様申付候処右御返書不来候由大目附所へ申来尤右源兵衛義ハ魚町源治倅とハ申候得共昨年ノ玉林浜田屋<sup>ニ</sup>居候由申来候間夫々遂吟味申出候様大目附<sup>ノ</sup>達有之大年寄共ハ吟味申付候○右名面之内吉野屋弥吉ハ罷帰リ候段昨日届書差出候得共其余<sup>者</sup>未罷帰候且又高尾屋菊太郎義ハ他參候義も是迄不申出候

一 聖徳寺芝居大札四百拾五枚小札百五拾貳枚有之無別条引取候段新治茂助届出候

一 牢番中間伝助義二月廿九日ノ引込加人參居候由尤今以引籠居候旨今日初<sup>而</sup>承之

一中之町締屋勤兵衛方へ昨夜盜賊這入候段廻リ之目明<sup>ル</sup>届出候

一坪井町札元三船八郎右衛門母<sup>并</sup>弟文蔵二人伯州阿毘縁解脱寺へ參詣廿日計之逗留<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>来ル六日出立願大年寄差出承リ届同十九日帰

候届有之

一御領分新田村仁兵衛娘<sup>并</sup>同人孫同伝之丞右家内三人美濃職人町山

家屋茂七引受度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承リ届

一細工町南側<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>作人熊吉家屋敷表口四間裏行拾壹間但半役也東隣

<sup>者</sup>指物屋百々吉西隣<sup>者</sup>大工治助也右家屋敷当未三月ノ来ル西ノ歳

十月切<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>三ヶ年之間質物<sup>ニ</sup>書入同町種屋嘉兵衛取次<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>銀札三

百匁借用仕度願書大年寄差出し承リ届同十五日売券状差出享和三

亥七月受戻断書出ス

一西今町東横町<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>荒木屋武助所持之家屋敷表口式間裏行町並七間

半但壹分式厘五毛役也北隣ハ小畑屋藤吉南ハ大溝限右家屋敷同町

直屋久米之助取次<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>質物<sup>ニ</sup>書入銀札三百匁借受度尤当未四月ノ

来ル申ノ三月切一ヶ月壹歩式朱之利足<sup>ニ</sup>相極候願書承リ届同日本

証文差出<sup>享和二年正月廿八日諸返届書出ス</sup>

四月三日 雨

一御用日登城

一東新町種屋伊助方へ去ル廿九日夕東裏普請場<sup>ノ</sup>盜賊這入花色ころ

男帯壹筋盜取候届書去ル朔日差出御用番へ申上大目附へ差出町方

<sup>ニ</sup>無之旨申出

一東新町肥後屋長左衛門方へ右同夕七ツ半頃表之格子を外し盜賊這

入候処見付候付直<sup>ニ</sup>逃去リ候段届書右同断取計濟

一中之町綿屋勘兵衛方去ル朔日之夕裏普請場ノ盜賊這入脇差袴腰丁銀壱丁銀札三四拾匁盜取候届書右同断取計町方ニ無之旨申出候

一中之町小山屋与三右衛門方へ右同夕盜賊這入候処目醒候ニ付逃去リ候由届書差出右同断取計済

一右盜物触流可取計旨同済ニ付差出候

一右之通所々江盜賊這入候ニ付今夕ノ非人加廻リ二組可差出御用番同済ニ付大目附へ相達置大年寄へ申達尤夜半後ノ廻リ候様申付右ニ付目明共も昼廻リ相止夜分相廻リ候様小頭江申達候

一中之町川口屋与市借屋住吉野屋弥吉義無願大坂へ罷出先月十日之夕伏見夜船ニ而難船ニ逢候処右ハ大坂備中屋善助船ニ而乗合三拾五人有之廿八人ハ助リ七人ハ致溺死内五人ハ死骸不相見候然ル所牧方役人大坂役人立会相改口書被取又候大坂御番所へ御呼出し御吟味有之宿姫路屋喜八方ニ逗留仕最早罷帰リ候而も不苦旨ニ付罷帰リ候段届書去ル朔日差出無願他参候ものニ付他参留申付置今日御用番へ申上尤無願他参ハ役筋之取計先格ニ候旨申上置大目附へ差出候

一大坂村尾左右衛門ノ昨日大目附所へ申来候海布屋源治倅源兵衛義相糺候処

一源治妻之連子乙吉と申もの致養子置候処不行跡ニ付四年已前義絶勘當いたし候由右之もの玉林浜田屋ニ居候事も有之由都

代所ノ致承知候此者當時源兵衛申候義哉ニ被察候右書付大目附へ差出候所兩役ノ左右衛門江申遣候様被申聞三浦ノ取計有

之

一右之外ニも源治義離縁之養子三人有之大年寄相糺候所何れも他参ハ不致趣ニ相聞候右書付も大目附へ差出候

一高尾屋菊太郎と申もの相糺候処三町目高尾屋藤助已前召仕候ものニ付先月上旬同人ノ飛脚ニ相頼遣相違無之旨申出是又大目附へ差出候

一聖徳寺芝居雨天ニ付延引届出候

一聖徳寺芝居加日五日追願相濟候段寺社取次十郎左衛門ノ通用有之ニ付承リ届候段勸進元へ可申達旨大年寄へ申渡候

一摂州大坂島之内大宝町万屋善次郎一人例年之通皮足袋水のふ金とうし卸売ニ来候段西新町山家屋理右衛門宿切手指出八月七日帰

一三町目太刀屋文治義売用ニ付因州鳥取川端三町目うどや喜左衛門方江三十八日之逗留ニ而明四日罷越度願書大年寄聞届差出五月八日日延願差出

一大目附伊達与吉郎ノ左之通御書付相渡候由三浦十郎左衛門ノ通用有之

見世物之義爾来者故障有之願日数相殘候とも三月中ニ而相仕廻候様可取計旨被仰出候

但上御故障ニ而相止候節者別段御評議可有之事

右之趣町奉行郡代寺社取次江申達之

寛政十一己未年四月三日相極

一安藤丹後殿詰江戸六月中出府被仰付候旨大目附ノ演説有之三奉行相揃御用所へ罷出御悦申述候

一一ノ宮市町中見せ物并杓取女之類も勝手次第被差免可然旨郡代兩

名ニ御用番へ差出尤十郎左衛門取計之

一 二町目安原屋卯助米中買役相勤居候所此度勝手ニ付船頭町高瀬屋  
文吉江相讓度願書承り届同十九日受負一札差出

一 中之町烏羽屋八重治借屋住龜屋豊娘駒義因州知頭豆腐屋治兵衛方  
ニ罷在昨夜召連帰り候届書差出候ニ付御用番中へ紙面ニ差出大  
目附へも申達候

四月四日 曇

一 牢舍人利左衛門指口之市左衛門と申もの郡代所ニ吟味有之候所  
不相知旨昨夜申来候

一 大目附伊達与吉郎去ル晦日大年寄共指扣之有無尋来其段申達候  
一 聖徳寺芝居天氣合ニ付延引届出候

一 元魚町豊屋喜兵衛義大坂大川町淀屋橋美作屋辰三郎方へ廿日之返  
留ニ明五日出立願書大年寄差出承り届同廿六日帰ル

一 戸川町南側ニ土佐屋十藏家屋敷表口六間裏行十七間但老軒役也  
東隣ハ作人長太郎西ハ横町通筋也右家屋敷昨年四月永野屋多助  
取次ニ質物ニ書入銀札六百匁借り受候処元利返済受返し相濟候  
段届書差出

四月五日 雨

一 奥津番人清六と申もの、悴盜賊筋ニ宿所立去り此節八出村金子  
小屋ニ罷在候右之者林田辺之盜賊疑有之候ニ付林田六町之番非人  
召捕致吟味度旨申出候段目明孫兵衛悴岩吉る小頭ニ申出候段伺出  
候付早々召捕遂吟味候様及差図置候処昨夜及深更金子小屋へ踏込  
召捕候旨今朝孫八る申出候間下吟味取計候様ニ申付置候右金子小

屋ハ伏見屋茂七支配之ものニ候得共郡代所構之場所且又無宿も  
のとハ乍申小屋へ踏込召捕候義故一ト通り郡代所も及通用候然  
ル所晚方申出候者色々遂吟味候処疑も無之趣ニ付差返し可申旨伺  
出候ニ付宜取計候様申付候

一 郡代所ハ伏見町八出屋多助出訴之趣一ト通り可相糺候間明六日八  
時町役組合差添差出候様申来大年寄へ申達候

一 東新町南側ニ飯綱屋石右衛門所持之家屋敷表口式間半裏行拾七

間但三步三厘役也東隣ハ山本三郎左衛門持家西隣ハ水口屋茂兵衛  
也右家屋敷裏之土藏共去ル四年已前辰六月山本三郎左衛門へ質物  
ニ書入銀札壹貫五百匁借受候所元利返済受返し候段届書差出

一 右家屋敷土藏共壹貫八百匁ニ相極同町高松屋平左衛門へ売渡度願  
書大年寄る差出承り届同八日売券状差出

一 聖徳寺芝居大札百六拾貳枚小札五拾壹枚有之無別条引取候段孫八  
又六左十郎届出ル

四月六日 雨

一 院庄川兼田川渡船留候段辰ノ中刻郡代所申来大年寄へ申達候

一 久世御代官早川八郎左衛門殿手代松野平作加茂小中原久世へ帰  
り候先触到来之処実ハ八郎左衛門殿廻村ニ被致通行候由外ニ而  
も御代官通行之取計ニ仕向候由風聞相聞候処院庄川留り候事故定  
而止宿ニ可相成依之並宿と順番宿之間を以坪井町羽織屋九一右衛  
門へ用意申付置候段大年寄る申出候ニ付郡代所へ尋合候処先日

村端通行ニ付及御沙駄大庄屋差出候所弥八郎左衛門殿ニ無相違由  
ニ相聞候得共鎗も無之由ニ候御城下通行ニ候ハ、下代可差出旨申

来候付御用番へ罷越右之訳委細ニ申上郡代所取計之当りを以町分

保頭<sup>并</sup>同心組自分羽織廻之体ニ而先払申付尤院庄川留居候事故極

而止宿ニ可相成候間並宿と順番宿之間之宿屋ニ而相当之義ニも候

間旅宿用意も可申付置候間相伺候処伺之通取計候様被仰出依之屋

廻り左十郎又六申付差出候所其内ニ最早間屋場へ被参候ニ付問屋

ノ院庄川留り候趣申候得共御差急候義ニ付是非被帰候間皿村之方

へ道案内いたし候様ニ被申付直ニ問屋を被召連候由ニ付人馬之義

相尋候所人足ハ一人も入不申様ニ問屋家内之ものノ申出候段大年

寄ノ申出候付其段御両所へ相届候然ル所人足入用無之候而先触来

候訳不審ニ付相糺候様申付置候所問屋佐右衛門道案内ノ罷帰候上

申出候者人足四人之先触有之其上ニ増人も有之又別ニ扣人足四人

召連皿村熊樋迄致案内扣人足を懸ケ無難ニ越立相済夫ノ罷帰候所

叮嚀之挨拶も有之扣之人足<sup>江</sup>酒代式刃被下候旨申出候ニ付先時人

足無之段相届候段間違之旨申上御用番中へ先触写差出大目附へも

右間違之段相届候

一 聖徳寺芝居雨天ニ付延引届出候

一 兼田川渡船初り候段晩方郡代所ノ申来大年寄へ申達候

四月七日 晴

一 東新町鍛冶忠右衛門弟重助為渡世撰州大坂嶋之内南谷町河内屋庄

兵衛方へ当末年ノ酉ノ年迄三ヶ年之間奉公ニ罷越度旨願大年寄孫

右衛門ノ差出承届候<sup>辛酉</sup>年五月廿七日猶又亥年迄三ヶ年之追願承

り届  
一 橋本町吉見屋儀助借家住乙吉姉とめ儀去月廿一日不斗罷出行衛相

知不申候段届書差出依之百日尋申付候

一 御領分東南條郡林田村松原為右衛門<sup>与</sup>申者当未四十才同人妻<sup>并</sup>娘

壹人家内三人戸嶋屋伊吉方へ役介ニ引請申度願大年寄共ノ差出承

届候

一 京町平野屋治兵衛妻去午十月ノ経水相滞候ニ付四ヶ月振当正月妊

娠届いたし候処懐胎ニ無之病氣之趣医師北山修齋容体書取之断書

差出承届候

一 御用宿相勤候元魚町紙屋助右衛門ノ願出候旨<sup>者</sup>明四<sup>辰</sup>八月ノ翌巳

年迄撰州西成郡今在家村縫屋新兵衛<sup>与</sup>申もの縫物商内仕候<sup>而</sup>御当

所へ出入同人宿いたし候処新兵衛不勝手ニ付得参り不申右代りニ

勢州安芸郡寺家村忠六<sup>与</sup>申者紺屋形<sup>并</sup>紅粉売ニ罷越度旨相願候得

共元来御用宿之儀<sup>者</sup>株と申ニも無之候処右体之旅人留置宿切手差

出候<sup>而</sup>ハ本宿屋株同様ニ相成筋合不互候ニ付右願書<sup>者</sup>無取上差戻

し候尤以前ノ右之類承届も候例有之候ニ付御用宿相勤候もの共へ

右之通申渡候様齋藤孫右衛門へ申達候

其方共ノ是迄宿切手差出逗留為致候旅人

已来<sup>者</sup>本宿屋株之内何れへ成共勝手次第<sup>御用宿屋共へ</sup>

相譲り可申候

一 牢舎人新八鉄藏病氣之趣ニ而医療願出候旨牢番内田山七申出候付

町医師へ診察申付候様大年寄へ相達候

一 兵庫津田中屋久左衛門儀今朝出立いたし候段大年寄ノ申出候<sup>翌八日</sup>

一 聖徳寺芝居大札百式拾五枚小札八十枚無別条引取候段小頭孫八出

番栄次与三兵衛届出承置候

一 伏見町田原屋左助裏御堀端石垣昨夜崩土蔵かたむき危相成候間急

石垣御繕被仰付候様仕度且者足代下候而突張ニ而も仕度願差出大

目附へ差出候

一 京都烏丸通六角下ル町二文字屋九兵衛手代清四郎弥助兩人来候段

京町海老屋長右衛門宿切手差出清四郎一人翌年申三月廿三日帰ル

弥助ハ突テ八月九日帰

一 院庄川渡船初り候段巳ノ中刻郡代所ル申来大年寄へ申達候

四月八日 快晴

一 御用日之処自分義持病之頭瘡再発出動難仕依之三浦十郎左衛門へ

御用向頼遣并当病御断も相頼遣候

一 脇坂淡路守殿御預り所当国久米南條郡福渡村忠吉夫婦二人西新町

太田屋七兵衛引受度人別入願御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出候

而十郎左衛門ル申来大年寄へ申渡候同廿一日 住宅並文出

一 東新町播磨屋惣十郎借屋住利七倅金治義不行跡ニ付親類組合打寄

義絶勘当仕度願右同断取計済同十二日本証文差出

一 札元妹尾平兵衛義伯州黒坂緒形四郎三郎方へ廿計ツツ之逗留ニ而明九

日立立願右同断取計済同廿五日帰ル

一 先達而兵庫津菜種問屋田中屋久左衛門灘屋吉三郎兩人ル当国中菜

種綿実登セ方取締之義当初町人油方三人之ものへ相頼請負罷在候

処高尾屋藤助義近来病身ニ相成世話方不行届ニ付右代り油屋之内

山手屋理兵衛江相頼度旨常盤屋丈右衛門湯田屋太郎左衛門并藤助

理兵衛四人連印ニ而願書差出右同断取計済

一 江戸表ニ而御暇ニ相成候御手廻り植月茂蔵当町徘徊いたし候趣ニ

相聞候間可然取計候様大目附ル達有之候段三浦ル申来左之通触書

差出

江戸表ニ而御手廻り植月茂蔵御暇被下候処当町致徘徊候趣相

聞不埒之事ニ候立宿も仕間敷見合次第可申出候

一 左之通両役ル御用番中へ相伺置候処大目附中ル左之通申達候様被

申聞候旨

一 ノ宮市町中杓取女之類差置候義勝手次第之事ニ候尤博奕之

義ハ是迄之通御制禁ニ候事ニ候

右之通大年寄大庄屋共且又出役之もの共へ相達置可然事

右之通取計候様大目附中ル達之趣三浦ル申来大年寄并小頭へ委細

ニ申達候

一 伏見町能勢屋源助義雲州大社参詣廿日計之逗留ニ而明九日立立願

大年寄ル差出し承り届候同廿五日帰ル

一 材木町十吉後家西新町孫七丹後山畑之木伐出入致内済済口証文三

月十一日指戻候処猶又認替差出候由申之受取置候

一 ノ宮市町之町触例歳之通差出

一 惣藪筭之町触例歳之通差出

一 聖徳寺芝居大札式百五拾七枚小札三拾枚枚有之無別条引取候段文

蔵左五兵衛届出候

四月九日 快晴

一 倉敷村春名代次郎ル榎野屋茂一郎方へ書状差越当所船出入之義内

済取持呉候様備前ル被相頼候ニ付弥右之通之義ニも候ハ、三郎平

と申談候上其元へ懸合可申哉と存候旨申越候ニ付茂一郎方即答ニ

委細致承知候処今日者取込居候付一々不及御答追而従是可及御委答旨返書之飛脚差返し候旨藏合孫左衛門方右往返之書状差出尤最

早此方方ハ不及細答此儘ニ而打拾置候様及差図置候旨孫左衛門方申出右之趣紙面ニ而御用番中へ差出候且又先達而御用番中方被仰

出候者備前内濟懸合来候節下地之通ニ相成候得者申分者無之筋ニ候得共余り正直過候而も程好懸合も難出来ものニも可有之候得

者此方ニも下地之通ニ而も故障之趣考置右故障を申立彼是懸合候内程好所ニ而折れ合致内濟候得者濟口も可宜哉ニ付相考置候様被

仰出其段即刻孫左衛門へ考申付置候処孫左衛門申出候者至極御尤之義御同意ニ奉存候然ル所此方ニ者申立候様之故障無御座全体此

方方ハ米大小豆三品致荷割遣候所向方湊ニ而ハ諸荷物不残致荷割候義ニ而此方之申分無御座先達而孫左衛門李右衛門懸合之節右双

方荷割不日申出候而ハ六ヶ敷もの心配仕候処其義不申出相濟致安堵候義ニ御座候右故品物ニ付候而委敷論ハ相成不申候間此方之

故障と申立候ハ、元来古代不束之為取替証文致候故彼是事起り毎々及異論甚致迷惑候間如何様ニ相極候も双方同様御互之義ニ候得

者以来ハ申合荷割相止双方致和熱相互ニ稼次第無指構相積いたし候様致度旨申候方外ハ有之間敷旨孫左衛門申出候ニ付乍席右之段

も紙面ニ而御用番中へ申上候一奈良今井町墨屋伊兵衛手代藤七一人例歳之通筆白粉壳ニ来候段京

町美濃屋平五郎宿切手差出八月廿七日帰一西新町北側ニ而戸川町住永野屋多助持家表口式間半裏行十七間大

溝切但三歩役也東隣ハ伊木屋惣五郎西隣ハ住田屋忠兵衛也右家屋敷代銀九百五拾匁ニ相極同町伊木屋惣五郎へ売渡願書大年寄差出し承り届同廿一日売券状差出

一聖徳寺芝居大札百七拾三枚小札四拾貳枚有之無別条引取候段孫八為治又六届出候

一酒運上巻貫三百六拾五匁四分四厘毛上納仕候届書酒改る差出一町方往来筋不掃除之段御内々御沙駄も相聞候付大年寄へ申達候且又往来ニ而壁土焼候義致間敷旨申達候

四月十日 快晴

一倉敷春名代治郎方榎野屋茂一郎方へ差越候船出入内濟扱度と申書状昨日御用番中御下ケ被成候ニ付今日大目附へ差出候所即刻被差戻候

一備前和氣郡日笠村舟右衛門と申者用事有之来候付五六日計逗留為仕度願三町目福永屋幸蔵差出承り届翌十一日罷帰候段届出候

一安岡町北側ニ而材木屋庄七家屋敷表口三間裏行八間但七歩五厘役也東隣ハ井手屋太郎兵衛西隣ハ和田屋治助也右家屋敷之内東之方

ニ而表口半間通裏行八間御役壹歩式厘五毛付代銀札六拾匁ニ相極同町井手屋太郎兵衛へ売渡願書承り届五月九日売券状指出ス

一二町目龍田屋茂兵衛所持之他国受酒株当二月坪井町藤屋金五郎へ貸置候処此度取戻候届書差出

一御藏米六拾六匁五分 町米六拾貳匁五分

一聖徳寺芝居大札貳百三枚小札六拾七枚有之候然ル所西今町菱屋藤助并悴治助と新魚町はかた屋嘉七悴亀蔵と致喧嘩亀蔵ニ藤助火入

ヲ投ケケ付疵付候処内濟ハ不致候得共可也ニ双方引取候段左十郎左  
五兵衛届出候処無程西今町ノ直ニ届出候者新魚町之もの共百人計  
押寄菱屋藤助ヲ打めき候由申候段火急ニ届出同心組不殘差向喧吶  
之兩人双方とも手錠懸ケ取鎮候様申付差出候所へ又々西今町ノ届  
出候者表之戸少々疵付候迄ニ而引取候段届出候依之大年寄呼出し  
新魚町之者共今夕不殘禁足申付荷担之もの共相糺候様申付候  
右之段御両所へ相届候而も可然義哉ニも候得共兼而一学殿ノ被仰  
出候者芝居中喧吶等之義ハ可成丈下方ニ而為相濟当日切ニ敲放ニ  
も為取計可然旨被仰出候付不相届候所大目附松岡治部助ノ右喧吶  
之趣御徒目附下目附も届出魚町ノ西今町へ仕懸候杯之様子も相  
聞候間無油断取計候様申来候付右喧吶之趣一ト通り御両所へ相届  
委細之義ハ相糺候上追而可相届旨申遣置候

四月十一日 快晴

一芝居喧吶ニ付同心組不殘小頭差添差出候所左之通取計置候段今朝  
罷歸リ相届候

西今町菱屋

手錠懸ケ組合預ケ

藤助

同倅 治助

相手之贅元へ火入投付候疵

新魚町博田屋嘉七倅

龜藏

新魚町龜藏荷担之もの菱屋宅表戸并部都合三ヶ所少々  
打めき石打候而店之瓶壺ツ打めき候者共左之通

直吉 宇吉 太兵衛 定吉 重右衛門 茂吉

常吉 七人  
供々西今町へ參候得共狼藉不致もの左之通

嘉那藏 十吉 金藏 善次 市太郎 平太郎  
弥右衛門 源左衛門 義八 幸吉 太四郎  
利左衛門 繁藏 平吉 伊助 太藏 音兵衛  
勇吉 治助 与八 嘉吉 大助 武拾式人

付候

此もの共名面ハ大  
目附へ不相届候  
通

右喧吶場へ見廻ニ罷越候得共先へ罷歸リ候もの左之

勘治 助兵衛 孫三郎 弥兵衛 佐右衛門  
善右衛門 源治 弥太郎 甚左衛門 権兵衛  
清六 政右衛門  
右拾式人ハ差構無之

同町年寄

甚右衛門

右喧吶一件取鎮方不宜ニ付

六郎大夫

吟味中御用之外禁足申付候

茂一郎

右ハ大年寄を以申渡候但十一日申付候

一備前船出入一件内濟取扱度旨備前和氣郡舟右衛門と申もの樗野屋  
茂一郎へ懸合之趣藏合孫左衛門ノ差出御用番中へ差出候  
一聖徳寺芝居大札百式拾三枚小札五拾七枚有之今日切ニ而無滞相濟  
引払一札見届引取候段新治与三兵衛届出候ニ付大目附へ芝居中日



々同心組差出候処無別条今日切ニ而引取候段紙面ニ而相届候御用  
番中へハ在分寺社芝居初終り不相届先格也

四月十二日 雨

一 茅町麩屋元治娘去十二月罷出不罷帰百日尋被仰付今以行衛相知不  
申今百日尋度日延願差出承り届同年七月十九日帰住願承り届

一 西今町菱屋治兵衛借屋住作人和平義此度御中間ニ罷出度人別除願  
書差出し承り届尤佐藤郷左衛門へ引合済

一 新魚町檜野屋友助義罷帰候段届出候ニ付大坂ニ而難船之始末并御  
番所へ罷出候義委敷認差出候様大年寄へ申達并未大坂御裁許済ニ

無之遠足足差留候様申来候間他参留申付候様大年寄へ申達候  
一 新魚町喧嘩ニ付禁足申付置候内弥右衛門と申もの銀札場手代相勤  
候ニ付銀札場御用程ハ相勤させ申度旨大年寄申出承り届

一 船出入一件龍野取計申趣近來一向不相聞候処備前ノ頻ニ内済仕懸  
候趣ハ何ぞ龍野之様子承り候事ニ而頻ニ差急候哉も難計奉存蔵合

孫左衛門へ考申付候所檜野屋茂一郎を土居三郎平方へ差遣聞合可  
然旨申出候ニ付其段御用番中へ紙面ニ而相伺候

一 牢舎人利左衛門吟味拙者不快ニ付新左衛門藤蔵文蔵栄治牢屋へ差  
向遂吟味候

一 中山百蔵義痔疫不相勝候ニ付真賀温泉へ二廻り入湯仕度藤蔵ノ申  
出承り届

四月十三日 晴 夜雨

一 御用日之処拙者頭瘡未相勝候ニ付当病断并御用向三浦十郎左衛門  
へ頼遣

一 大久保安芸守殿領分当国久米北條郡桑上村医師秀敬悴栄太郎義東  
新町肥後屋長左衛門養子ニ引受度人別入願御用番中御聞済ニ付大  
目附へ差出候由三浦十郎左衛門ノ申来候ニ付御聞届申達候同十九  
日住宅証文差出

一 東新町初屋清七娘義脇坂淡路守殿領分当国真嶋郡中村久太郎方へ  
養女ニ差遣度願右同断取計済

一 伏見町田原屋佐助裏御堀石垣損候御繕願大目附へ差出候段三浦よ  
り申来候

一 大目附松岡治部助ノ此間聖徳寺芝居喧嘩一件取リ申付置候由届  
有之候得共右取計不被相届候間相届候様ニと三浦十郎左衛門へ

伝言有之依之喧嘩相手双方預ケ并新魚町荷担之もの式拾九人禁足  
申付年寄三人も不取計ニ付御用之外禁足申付置候段紙面ニ而相届  
候

一 撰州高砂本町伊勢屋喜十郎一人例年之通小間物売来候段新職人町  
松野屋十右衛門宿切手差出十二月廿五日帰

一 一ノ宮市町ニ付例年之通之御触大目附中ノ写取組中へ相触候

一 牢舎扶持七俵之内貸証文昨日差出奥印書取計候  
一 新魚町檜野屋友助義大坂ニ而難船ニ逢候届書三浦士を以御両所へ  
差出候

一 御用番要人殿ノ御談被成度義有之候間今夕明夕之内長髪之儘ニ而  
不苦候間罷越候様申来罷出候所左之趣被仰出候

一 船出入ニ付龍野表聞合之義伺ニ候得共致延引可然旨被仰出候

一 内済懸合来候ハ、一ト通りハ茂一郎答之通ニ而可然候得共強

而懸合候ハ、向方よりも取付出来候様ニ致会尺可然旨○并此方之故障之申立ニ双方申合無之様ニと申義宜かる間敷猶又考候様被仰出候○且又迎も致内濟候ハ、秋迄之内ニ相整候様可取計旨被仰聞候

委細并合有之候得共大念如此候右大旨藏合江も相合置候

四月十四日 雨

一大目附松岡治部助之昨日相届候芝居喧嘩之もの共一日之取計哉兩日之取計哉日限夫々認可差出并新魚町之西今町へ參候もの式拾九人禁足申付候段認差出候所西今町へ參り如何様之義いたし候哉右認認可差出并御用番江相届候哉と尋来候間右取計日限并新魚町之もの西今町へ參り菱屋方表之戸并葺三ヶ所少々疵付表店ニ有之候瓶めけ候由并御用番江者追而吟味之上可申上旨申上置候所昨夜御用番中へ押而罷出候様被仰下右罷出候席ニ右取計之趣及御沙駄置猶又追而吟味之上可申上旨申上置候段及返書候処昨日十郎左衛門へ伝達之趣も右ノ方御用番中へ相届候様ニと申義ニ候由又々申来候付右ノ方取計之趣一々相認御用番中へ相届候右届昨日御用番中へ不仕延引之段并大目附へ差出候届書不行届調方恐入差扣奉伺候段上原彦藏を以大目附松岡治部助へ相伺候候致察度候者右之所ニ而ハ無之当日切ニ不相濟義ハ一先届置追而内濟ニも可相成義ハ其節ニ至り其段相届候而相濟候事ニ候得者此間も手錠禁足等被申付候得者其旨御届可有之義と致察度候義ニ候由彦藏罷歸り申聞候ニ付左候ハ、其通之弁合ニ而差扣相伺被呉候様相頼候処無程差扣不及其義旨被仰出候段彦藏之通達有之

一三丁目高雄屋藤助飛脚菊太郎義昨晚罷歸候段届出候ニ付難船之始末届書差出候様申付ル

一牢舎人丈兵衛病氣ニ付牢番之医療申出大年寄へ申達候所吉武祐三へ申付候段翌十五日届出候

一院庄川渡船留候段申之下一刻郡代所之申来大年寄へ申達候

一兼田川渡船留候段酉之上刻郡代所之申来大年寄へ申達候

一自分方ニ役介有之上紺屋町紋治と申ものニ恨有之段認有之候得共無銘ニ付火中取計

四月十五日 晴

一聖徳寺芝居役者もの出立候段安岡町多賀屋喜八届出候

一播州網干余陸屋惣七一人例年之通八百屋物卸売来候段中之町津田屋伝助宿切手差出

一上紺屋町灰屋与右衛門借屋住人浅治夫婦悴已之助右家内三人当月三日出奔仕候届書差出候百日尋申付ル

四月十六日 初雷白雨

一牢舎人鉄藏義吟味呼出し郡代所之申来出番栄治与三兵衛出入取計候

一伏見町八出屋多助出訴吟味ニ付今九時差出候様郡代所之申来其段大年寄へ申達候

一盜賊鉄藏引合之もの共之口書郡代所之差戻候

四月十七日 快晴

一明十八日一ノ宮田植祭ニ付例年之通市中警衛罷出候様小頭へ申付右之段大目附へ紙面ニ而相届候

一ノ宮市町ニ付大坂拾人連輕業參候付世話役之義神主ノ被相頼候

付彼地ヘ參リ込世話仕度願河原町福美屋久藏差出承リ届候処引受

一札も差出候

一ノ宮市町ニ付播州北條万歳芝居九人連參リ懸候付引受世話仕候

様神主ノ被相頼候ニ付彼地ニ參リ込世話仕度願福渡町福渡屋儀助

差出承リ届候段請負一札も差出候

二階町豊屋家守長八借屋住中野屋龜太郎義御駕籠御奉公罷出度ニ

付人別除願書差出小勘者佐藤郷左衛門ヘ引合之上承リ届

一下紺屋町長江朝庵義備中浅口郡口林田中定三郎方ヘ八十日計之逗留

留ニ而明十八日立願書差出承リ届九月十七日帰ル

一美濃職人町綿屋佐助米中買之一札差出候

一宿馬見分申候処何茂亘候ニ而改帳例年之通孫八藤藏孫右衛門喜左

衛門届出候

一兵庫灘目田中屋久左衛門義先日罷越他領油屋共ト応対之趣油引受

之兩人ノ認差出候追ニ可及御沙駄事

一ノ宮田植祭ニ付当日ハ目明兩人召連候間明十八日一日切ニ目明

仮役申付候段孫八伺出承リ届

一贖銀一件之もの共明十八日於牢屋新左衛門差出為遂吟味候ニ付夫

々手配ニ水責用意申付置候様孫八ニ申付候右ニ付組致不足候ニ付

加人式人当日切ニ大目附ヘ申達候処野田牧右衛門土井林藏来

一ノ宮市町ニ付大坂嶋之内九人連輕業芝居參リ懸り候ニ付世話役

之義神主ノ相頼候ニ付彼地ヘ參リ込世話仕度願書中之町森岡屋太

吉差出承リ届候処引統請負一札差出候

四月十八日 快晴

一御用日之処自分義未相勝候付当病断ニ而御用向三浦十郎左衛門ヘ頼

遣

一脇坂淡路守殿預リ所久米北條郡錦織村浪右衛門ニ而娘悴松右衛門右

家内三人二階町鳥屋佐吉引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附

ヘ差出置候段三浦土ノ申来御聞届大年寄ヘ申達候五月廿四日住宅

証文差出ス寛政十二申七月除帳願出ル

一札元玉置外左衛門義備中矢掛中山弥三右衛門方ヘ十五日計之逗留

ニ而明十九日立願右同断取計濟

一三町目高雄屋藤助飛脚菊太郎義大坂ニ而難船ニ逢候届書右同断届

濟

一横山村義助方ヘ去ル十五日夕盜賊入込十九品盜取候触流取計候様

大目附ノ違有之町触差出候町方ニ無之段同廿二日届出候

一大目附ノ先日申達候江戸表ニ而御暇出候御手廻植月茂藏未当町排

徊候様ニ相問候間急度可申付旨違有之候趣三浦方申来又々町触差

出候

一坪井町糺屋幸右衛門義因州鳥取新品治町高嶋屋和助方ヘ四十八日

計之逗留ニ而明十九日立願大年寄承リ届差出

一播州網干平松屋惣九郎一人例年之通小間物晒蠟売ニ来候段中之町

小山屋与三右衛門宿切手差出候八月五日帰

一播州網干天満屋義兵衛一人例年之通反物卸売来候段右同人宿切手

差出右同断

一西今町玉屋吉右衛門義金毘羅參詣十日計之逗留ニ而今十八日立出

願大年寄承届出同廿六日帰ル

一ノ宮田植祭ニ付藤藏又六差出候所近年ニ無之賑々敷事共ニ而夥敷致群集候得共無別条引取候段届出候

四月十九日 快晴

一東新町綱屋善助義伏見難船ニ逢其後早々可罷帰処病氣ニ付逗留仕候由ニ而昨夜罷帰候段届書差出何れも同船同様之趣ニ候右届書御用番中へ差出し大目附へも相届候

一村尾左右衛門ノ去ル十四日出之書状到来海部屋源兵衛義御名代沢口屋惣左衛門を以御番所へ相届候所先届延引候様ニ一旦申聞其後難船一件之もの共懸リ合相济候間勝手次第可相達旨御達有之相济候段申来右書面ハ大目附へ差出右ニ付四人之もの其他参留今日可差免旨并綱屋善助吉野屋弥吉義ハ無願他参之ものニ付先格之通役所切叱申付候段も夫々届書文段も違候事故及噂候段御用番并大目附へ紙面ニ而相届候

一大年寄へ左之通申渡候様申付ル

大坂御番所向相济候段申来候間他参留差免候

右同断他参留差免且又兩人

義ハ無願致他参御定法相背不埒至極候申付方も有之候

得共用捨を以急度叱置候以来可入念候

東新町綱屋善助

中之町吉野屋弥吉

新魚町櫻野屋友助  
三町目高雄屋藤助飛脚菊太郎

八新治栄治為治差向候所大体下吟味相济尤水責木馬も致用意候得共不用して相分り候

一兵庫灘目田中屋久左衛門先日来候節所々江懸合振并当所油方之もの共へ懸合之手扣帳去ル十七日差出今日松岡治部助へ差出候

一西今町菱屋治兵衛新魚町博田屋龜藏芝居ニ而致喧嘩候一件双方共先非を悔内济仕度段内々相歎候得共夫々御手当も有之候義故得不申出旨大年寄内意有之候処喧嘩計之義ニ候得者直ニ承り届候而も可然候得共少々狼籍之趣有之大目附も察度有之候義ニ付自分一存ニも難取計右之旨大目附へ内談いたし被呉候様十郎左衛門へ頼置候処大目附以来之義急度教諭いたし置内济聞届候而も可然存候得共何分御用番へ内分相伺候上取計可然旨紙面ニ而申来候由ニ付三浦士御用番中へ相越右之段委細ニ被申達候所後刻内济承り届候而も可然旨御差図有之候段三浦ノ申来候ニ付大年寄呼出し委細ニ申合置候

一牢浚申付候所きせる火打はいろ木有之候段藤藏又六届出并牢舎人利左衛門も昨日右体之義訴候趣ニ付急度遂吟味候様ニ小頭へ申付置候

一札元見習茂渡兵吉印形紛失ニ付致改印候ニ付印鑑差出

一ニ階町年寄堺屋伊右衛門跡役勘平倅虎吉へ申付度伺出候ニ付承り届ル

一ノ宮市町無別条引取候段左十郎左五兵衛届出候

四月廿日 快晴

一中之町三室屋惣兵衛所持之他因受酒株当未四月ノ来申四月迄埒并

一銀札場奉行清水寛右衛門ノ錢五十箇川下ケ裏印申来例之通取計候  
一牢屋ニおいて贖銀一件之もの共為吟味昨十八日九時ノ新左衛門孫

町倉敷屋利八借受商売仕度願承り届申八月十八日亥年迄三ヶ年之  
間追願

一 米中買高瀬屋文吉受負一札差出候

一 東新町田原屋新左衛門義先月十二日相願廿日立立<sub>ニ</sub>而<sub>ニ</sub>江州多賀參詣  
候処致足痛候<sub>ニ</sub>付来月五日迄日延願大年寄承り届差出五月二日罷  
歸ル

一 一ノ宮市町無別条引取候段新治与三兵衛届出候

四月廿一日 曇

一 牢舎人新八鉄藏療治二廻リ相済鉄藏義ハ未全快ハ不仕候得共最早  
致休葉候<sub>而</sub>も可然新八義ハ未相勝候間跡療治被仰付候様双方<sub>ノ</sub>申  
出候付其段取計候様申付ル

一 播州赤穂新浜浦大嶋屋又十郎倅龍助義西今町直屋久米助方<sub>ニ</sub>逗留  
為仕候処未用事相済不申候<sub>ニ</sub>付今三十日計逗留為仕度追願書差出  
承り届

一 伏見町八出屋多助義井口村伝内栄治兩人<sub>ニ</sub>年賦銀指滯出訴仕候処  
今一応直談仕度義御座候間御吟味御猶予被下候様願書差出郡代所  
へ相廻候

一 牢舎人上紺屋町万五郎穢多久藏着物洗沢<sub>ニ</sub>遣候間入替遣度牢番伺  
出承り届候

四月廿二日 曇

一 御蔵米六拾六匁 町米六拾貳匁

一 材木町米屋与三兵衛借屋家守清兵衛借屋住治部屋松之助<sub>并</sub>母<sub>并</sub>伯  
父長兵衛<sub>并</sub>妻右家内四人御城代組上田藤右衛門渡屋敷へ引越度人

別除願承り届

一 西新町富野屋定七方へ去ル十九日野介代村茂藏と申もの米壹俵持  
參買吳候様申候<sub>ニ</sub>付貳拾壹匁<sub>ニ</sub>相調候処其跡へ下高倉村茂八と申  
もの罷越昨夜半壹俵被盜候大方其米<sub>ニ</sub>而<sub>ニ</sub>可有之旨申候<sub>ニ</sub>付相届候  
由届書差出候<sub>ニ</sub>付郡代所へ相廻候

四月廿三日 雨

一 御用日之処拙者義未相勝候<sub>ニ</sub>付当病御断<sub>并</sub>御用向三浦十郎左衛門  
へ頼遣ス

一 新職人町研屋万兵衛方へ去ル廿日夜四時分家内近辺へ出候留主へ  
表之戸を明ケ盜賊這入外<sub>ノ</sub>研<sub>ニ</sub>来居候祐定之刀一腰<sub>并</sub>所持之脇差  
一腰単物壹ツ右三品盜取候段去ル廿一日届書差出今日三浦を以御  
用所へ申上大目附へ差出候仍之町触取計伺済<sub>ニ</sub>付触書差出候尤目  
明共へハ早々吟味申付置候

一 一ノ宮市町<sub>ニ</sub>付別<sub>而</sub>烏散成もの可入込<sub>ニ</sub>付市中町方一町切<sub>ニ</sub>金棒  
引夜廻り九時<sub>ノ</sub>明六時迄可申付旨三浦を以御用番中へ相伺候処伺  
済<sub>ニ</sub>付大目附へも申達候由三浦<sub>ノ</sub>申来候付其段大年寄へ申渡候

一 芝居喧嘩一件去ル十九日之処<sub>ニ</sub>記置候通内済相整双方連印<sub>ニ</sub>而<sub>ニ</sub>内  
済仕度歎書<sub>并</sub>下方双方為取替一札共差出候<sub>ニ</sub>付可承届旨三浦士を  
以御用番中へ申上候処御聞済<sub>ニ</sub>付宜取計候様被仰出候由<sub>ニ</sub>而<sub>ニ</sub>右願  
書相戻候<sub>ニ</sub>付内済承届候間大年寄場合<sub>ノ</sub>左之通得と致教諭置候様  
<sub>ニ</sub>孫左衛門へ得と申合候右取替候名面之もの共左之通

西今町菱屋

双方共兼々不慎かさつ之処<sub>ノ</sub>

藤助事

右等之及支義候間以來急度

相慎候様得と致教諭

且又年寄共義ハ別而之義

常々示方不行届処ノ

右等之及支義候其場ニ

到り候而者無兎角取鎮メ

引纏町内へ可罷帰処

無其義甚心得違之事ニ候間

以來急度心を用ひ可入念旨

得と致教諭候上ニ而内濟承り届

禁足差免候様大年寄へ委細ニ

申達候

治兵衛

同人悴

治助

新魚町

博田屋

龜藏

同所荷担之もの共

森本屋

直吉事

多吉

肥後屋

宇吉

福本屋

太兵衛

わら屋

定吉

うを屋

重右衛門

同

茂吉

同

常吉

同町年寄

六郎太夫

茂一郎

右取計相濟候段御用番并大目附へ相届候

一 目明取計松岡治部助考書之答書今日三浦士を以松岡治部助へ差出

候

一 中ノ町三室屋宗兵衛方へ去ル十九日高倉村茂藏と申もの拾巻ツ致

持参質ニ取銀札八匁貸候処高倉村茂八と申もの罷越同人義夜前被

盜候拾ニ而候由申候ニ付届書差出候旨大年寄ヨ差出候郡代所へ相

廻候

一 今日牢屋吟味申付候付組致不足候ニ付昨日大目附へ申達候所植月

十四郎加藤茂助来

一 一ノ宮市町去ル廿一日文藏栄治廿一日藤藏為治差出候所無別条引

取候段届出候右認落候ニ付爰ニ記置

一 一ノ宮市町出役今日ハ雨天ニ付不差出候

一 牢浚去ル十九日申付候所不埒之もの共浚出候甚怪敷趣ニ付今五時

不意ニ牢浚申付兼而穢多頭共へ談置出番文藏為治差向又々牢浚取

計候処きせる田はこほくろ火打類数々有之其外兼墨筆草履紙類

種々之もの共浚出し候ニ付右為吟味新左衛門孫八新治四時頃ノ差

向尤穢多人足等申付責道具取飾置牢舎人弥助幸十郎新藏府右衛門

丈兵衛鉄藏清藏利左衛門右八人嚴敷遂吟味其内幸十郎府右衛門兩

人江者水少々懸ケ候処何れも及白状左之穢多共入遣候由

□□□村 孫兵衛 同人悴 万三 同村 助五郎 同村 市

藏 同村 茂吉 同村 弥六 右六人ハ牢屋ニ居合候付直ニ

牢番預ケ申付ル

□□□村 新十郎 同村 浅五郎 同村 仁十郎 同村 太

助 □□□村 文蔵 同村 庄八 同村 宗五郎 □□□村 七

兵衛倅 初右衛門 □□□村 長五郎 □□□庄屋長治 □□

村 友三 同村 文蔵 □□□村 三吉 同村与四郎 同村

市之助 □□□村三吉倅名不知与惣兵衛と申候由郡代所ル申来

右拾四人之穢多共ハ村方へ引取居候付夫々手当被申付候様郡代

所江及通用置候右之段御両所へ可及御沙駄処及深更引取候事故

明朝可相届事并郡代支配牢舎人共今日詮義場へ呼出し遂吟味候

挨拶并右穢多とも吟味郡代所二而取計可有之哉之旨も懸合置候

四月廿四日 雨

一昨日遂吟味候牢内不埒之義左之通三浦十郎左衛門を以御用番并大

目附江及御樽置候右之段三浦士弁合左之通之由通用有之

昨日牢屋浚申付候処番穢多共不埒之筋有之候付□□□村番穢

多孫兵衛同人倅万三同村助五郎市蔵茂吉弥六等詰合之者二付

吟味中牢番共へ預ケ申付郡代方へ及通用候尤村方へ引取候番

穢多共同様不埒之筋二相聞候二付是又郡代へ手あて之義及通

用置申候右一件追々相糺候上御届可申上候得共右之趣為御届

如此御座候以上

畢而御用番中へハ追々糺之節品二寄牢問等も可取計之旨及

御樽置候段三浦ル通用有之

△三浦十郎左衛門被參被申聞候者右穢多共呼出し置候間罷出次第  
何れも牢番預ケ二可申付候間右吟味も当役二而引受取計候様被

申聞候付左候ハ、及支義牢問等も可取計候間此段及御断置候段

及挨拶候承知二候

△且又同人被申聞候者昨夜牢番預ケ二取計置候六人之穢多共郡代

所ル牢番預ケ申渡無之如何二付下代差出其段可申渡候間牢屋立

合差出候様被申候二付新治差向取計候

△右拾六人之穢多共牢番預ケ申付候間立合差出候様郡代所ル申来

并□□□村文蔵兩人有之二付兩人共差出候間指口之ものへ為引合

入用無之文蔵ハ差戻候様二申来候間其段申合出番左五兵衛差向

取計候

一牢屋吟味明廿五日可取計二付穢多人足并下番中間庄五郎可糺義中

間加人并庄五郎受人明廿五日差出候様孫ハ中間小頭寸治へ為懸

合夫々手配申付候

一明廿五日吟味取計二付同心組致不足候二付加人式人当日切被相渡

候様大目附松岡治部助へ申達候所土井保助川村新吾来

一昨日加人取牢屋吟味候処出番左十郎又六一ノ宮へ可致出役処雨夫

二付不罷越終日在宿いたし甚不埒之義二付糺申付候処雨天二付出

役不仕節ハ不及届先格と相覚不届出并仲ケ間惣出之趣不存旨申不

埒之義二も候得共孫ハ茂惣出之趣兼而不申聞由二付其儘二いた

し置候右之通田植祭ル廿四日迄者雨天之節ハ不致出役候而も其段

不届出処ル右等之間違出来候間以來ハ不罷出段相届候様孫ハ江申

付候  
一ノ宮市町出役今日も雨天二付不罷出候

一ノ宮田植祭当年ハ近年二無之群集之旨出役萩野藤蔵相届候付其

段丹後殿<sup>江</sup>及御嘶候処例歳<sup>ハ</sup>却<sup>而</sup>不景氣之旨御聞及被成候段被  
仰候得共出役之もの届出候義故無相違趣申上候得共甚不悉之義<sup>ニ</sup>  
付孫八新治へ糺申付候処いよ<sup>ハ</sup>藤蔵不束之趣<sup>ニ</sup>相決相役又六杯  
も淋敷趣<sup>ニ</sup>申之候得共其節乍承リ等閑<sup>ニ</sup>致置候趣<sup>ニ</sup>付兩人共心得  
違之段叱置候様孫八<sup>江</sup>申付候尤右間違之段丹後殿<sup>江</sup>も紙面<sup>ニ</sup>而及  
御断候

一 先達差出候無宿留置候ものへ御咎段取考松岡治部助存寄有之<sup>ニ</sup>付  
致再考付紙<sup>ニ</sup>而差出候様被申聞候由三浦<sup>ハ</sup>相廻候

一 目明取計一件松岡治部助考書<sup>ニ</sup>答書いたし差出候所治部助致付紙  
被相戻尚又答書認差出候様治部助申聞候由三浦<sup>ハ</sup>演説有之

一 一ノ宮市町<sup>ニ</sup>付大坂嶋之内拾三人連万歳芝居参リ懸リ候<sup>ニ</sup>付世話  
役之義神主<sup>ハ</sup>相頼候<sup>ニ</sup>付参リ込世話仕度願書小性町倉敷屋茂七差  
出承リ届引統受負一札も差出候

一 大目附松岡治部助<sup>ハ</sup>昨日相届候芝居喧嘩内濟聞届候節下地取計置  
候手錠預ケ<sup>并</sup>組合預ケ禁足等<sup>ハ</sup>差免候事哉右之段届無之<sup>ニ</sup>付今一  
応相届候様紙面<sup>ニ</sup>而申来依之内濟承リ届候節夫々差免候段改<sup>而</sup>相  
届且又御用番中へも内濟聞届候上<sup>者</sup>下地之取計差免候義<sup>者</sup>勿論之  
義と奉存双方致教諭内濟承リ届候と計相届置候義故右届不束之段  
大目附<sup>江</sup>ハ察度有之候<sup>ニ</sup>付乍延引申上候段紙面<sup>ニ</sup>而相届置三浦十  
郎左衛門を以右不調法<sup>ニ</sup>付差扣相候段大目附へ申達候所後刻紙  
面<sup>ニ</sup>而左之通申来候

増兒右門差扣伺出無之振合<sup>ニ</sup>御取計可有之候以上

十郎左衛門殿 治部助

一 院庄川渡船留候段戌ノ中刻郡代所<sup>ハ</sup>申来大年寄へ申達候

四月廿五日 快晴

一 三船新治義不快引込昨夜届出候<sup>ニ</sup>付加人一人大目附へ申達候所福  
田伴蔵来

一 船出入内濟懸合来候<sup>ハ</sup>下方内懸合<sup>ハ</sup>為致候<sup>而</sup>も可然蔵合孫左衛  
門考書差出候義<sup>ニ</sup>付同人<sup>江</sup>為御任被成候<sup>而</sup>も可然旨御用番中へ紙  
面<sup>ニ</sup>而差出候

一 稲荷山草苺今日<sup>ハ</sup>始候段三軒屋番作治届出候

一 院庄川渡船相始候段辰中刻郡代所<sup>ハ</sup>申来大年寄へ達ス

一 芝居喧嘩内濟為取替一札<sup>并</sup>歎書大目附<sup>ハ</sup>戻ル

一 大坂金田町金屋半兵衛手代卯兵衛一人例年之通大工道具売来候段  
美濃職人町松井屋十右衛門宿切手差出五月十五日帰

一 一ノ宮市町無別条引取候段榮治与三兵衛届出候

一 郡代所<sup>ハ</sup>東新町岩屋文蔵安岡町大坂屋宇八右兩人借物筋聞札之義  
有之候間明後廿七日九ツ時差出候様申来大年寄へ申付候

一 郡代所<sup>ハ</sup>材木町十吉後家西新町なばや忠兵衛畑之木切公事内濟承  
リ届候段申渡候間明後廿七日八ツ時差出候様申来候<sup>ニ</sup>付大年寄<sup>江</sup>  
申達候

一 無宿者指置候咎段取先達<sup>而</sup>差出置候所松岡治部助<sup>ハ</sup>存寄申来候<sup>ニ</sup>  
付附紙致三浦士へ相廻候

一 一番子穢多共為吟味五時<sup>ハ</sup>新左衛門孫八藤蔵左十郎左五兵衛牢屋へ  
差出為相糺候処穢多共下吟味相濟候口書<sup>ハ</sup>追<sup>而</sup>可取計事其外取計

左之通



牢舎人新藏之被相頼質物

牢屋下番中間

致取次候付請人預ケ申付候

庄兵衛

右庄兵衛受人預ケ申付候義御用番并大目附

右受人  
上西新町増屋表治  
下新宿町平田屋幸助

へ相届候

△牢番兩人も内糺之趣申聞候

△番子穢多之内□□村弥六□□村三吉悴与惣兵衛右兩人牢舎

人ニ為引合相糺候処牢舎人申懸ケニ相決惡事携無之段申出候

間被指免候間郡代所へ申達候

△□□村穢多菊治と申ものも惡事携有之趣牢舎人申出候間右菊

治義も手当被仰付置追而御引渡候様郡代所へ申遣候

△□□村弥六助五郎右兩人今朝之牢食ハ差越候得共昼膳不差

越候付牢屋ニ而取替置候段郡代所へ申遣候

△牢番預ケ穢多共之内□□□□ハ遠方ニ付牢食指運ひ致難渋候

間牢屋ニ而焼出し遣候様ニ郡代所ノ頼來候付其段申付候尤米

ハ早々相廻可申旨申來候

△今日吟味ニ付牢舎人新八へ少々水懸ケ候由申出候

△牢屋下番中間加人庄兵衛代リ幸治と申もの來候由届出候

四月廿六日 曇

一牢舎人弥六助五郎牢食今朝も不差越候段牢番広助届出郡代所へ申

遣候

一新職人町松野屋十右衛門妻義西国順礼罷越度百日計之逗留ニ而來

月二日出立仕度願承り届候

一安藤丹後殿組内田政治長屋ニ罷在候文六娘義京町桶屋勘左衛門梓

広吉妻ニ引受度人別入願承り届ル

一郡代所ノ牢舎人穢多□□□村弥六□□村与三兵衛牢番預ケ差免候

間牢屋立合差出候様申來非番采治差向取計候

一牢番足輕和田広助請狀小頭ノ差出候

一御用番中ノ船出入内濟相整候ハ、双方為取替一札下案可差出并右

濟書之文段思召等被仰出其旨藏合孫左衛門へ考申付候所左之通差

出候

一昨年稲実屋義七郎米屋藤右衛門内濟懸合ニ罷出候節認置候

為取替一札下案式通

一藏合孫左衛門内濟懸合ニ罷出候節用意いたし候為取替一札

之下案式通

一今般之内濟懸合口之応対振藏合孫左衛門考弁書一通

右之通差出候付其儘御用番中へ紙面ニ而差出候

一ノ宮市町文藏為治差向候所河原町福美屋久藏引受輕業芝居之役

者一人頓死いたし郡代下代左吉も一緒ニ及見候所病死ニ無相違右

死人之兄弟も參居役者もの共不殘一統申分有之義ニ而者無之候間

内々ニ而御濟被下候様相歎尤内分ニ而勸音寺へ相頼葬仕度達而相

願候ニ付御徒目附山本同四郎へも内々及噂候処存寄無之趣ニ付承

り届内分ニ而相濟可遣左吉も挨拶有之候ニ付為念役者ものノ勸

進元へ一札取置候様申付置引取候段届出承り置

四月廿七日 快晴

一□□□村東分穢多菊治牢番預ケ郡代所ノ申來非番左五兵衛指向取

計候

一 中之町川口屋与市借屋住吉野屋弥吉義大坂大川町美作屋辰三郎方  
へ廿日計之逗留<sup>ニ</sup>而明廿八日出立願大年寄承り届差出五月廿一日  
帰ル

一 牢屋下番中間加人幸治引込<sup>ニ</sup>付横山村伝助差出候由一寸治<sup>ル</sup>届出  
候段小頭申出候

一 牢屋下番中間庄兵衛義去ル廿五日受人預ケ申付候処御中間頭へ可  
及通用笞之処致失念罷在漸今日内山洞太夫<sup>江</sup>紙面<sup>ニ</sup>而申遣候

一 横山村庄屋清蔵被盜もの町分<sup>ニ</sup>無之旨届出候尤去ル十八日相触候  
処日記<sup>ニ</sup>認落候

一 戸川町南京屋市右衛門娘西国順礼<sup>并</sup>善光寺參詣百三十拾日計之逗留  
<sup>ニ</sup>而五月二日出立願大年寄差出承り届

一 船出入之下説宮田喜左衛門認出候<sup>者</sup>飯岡船増積登候故田原<sup>ル</sup>差留  
候処飯岡<sup>ル</sup>直<sup>ニ</sup>龍野へ相願右願書江戸へ廻候由然ル所備前へ急飛

脚到来之沙駄有之候処俄<sup>ニ</sup>田原<sup>ル</sup>飯岡へ右願下ケ致呉候様頻<sup>ニ</sup>相  
頼塩<sup>者</sup>河西塩押つふし候工<sup>ニ</sup>而近来下直<sup>ニ</sup>売候由下説書喜左衛門

差出候御用番中へ指出候

一 一ノ宮市町無別条引取候段藤蔵又六届出候  
一 牢舍人穢多<sup>□□</sup>村多助牢賄今日兩度共不指越旨届出郡代所へ申  
遣

一 材木町十吉後家西新町なはや忠兵衛畑木切取候公事今日郡代所<sup>ニ</sup>  
而内濟聞届申渡有之候<sup>ニ</sup>付右兩人他參留申付置候間今日差免候

四月廿八日 快晴  
一 御用日之処自分義未相勝候<sup>ニ</sup>付当病御断<sup>并</sup>御用向三浦十郎左衛門

へ頼遣候

一 船頭町瓜生屋伝太悴豊吉義久世御代官早川八郎左衛門殿支配所当  
国久米北條郡薪森原村松太郎方へ養子<sup>ニ</sup>差遣度人別除願御用番中

御聞濟<sup>ニ</sup>付大目附中へ差出置候段三浦士<sup>ル</sup>申来御聞届申達候<sup>矣</sup>  
年四月八日離縁罷帰入帳聞届候<sup>矣</sup>

一 元魚町伊勢屋琴妹中義小笠原信濃守殿領分播州佐用郡蔵垣内村源  
十郎養女<sup>ニ</sup>差遣度人別除願右同断取計濟

一 西今町直屋久米之助屋守桶屋平助借屋住弓削屋源左衛門後家養子  
久米吉義十七年以前卯二月相願大久保安芸守殿領分久米南條郡堺

和谷村与惣治方<sup>ル</sup>養子<sup>ニ</sup>貰置候処離縁仕度人別除願右同断取計濟  
一 美濃職人町山本屋佐右衛門妻雲州楯縫郡吉谷村五兵衛方<sup>ル</sup>貰置候  
処今般離縁仕親元へ指戻度人別除願右同断取計濟

一 早川八郎左衛門殿支配所当国西々條郡富東谷村広山孫左衛門弟三  
左衛門義西今町直屋孫四郎父永春役介<sup>ニ</sup>引受度人別入願右同断濟

五月六日住宅  
証文差出候  
一 森右兵衛佐殿領分播州赤穂郡新浜村大嶋屋文十郎悴龍助と申もの  
西今町直屋久米之助役介<sup>ニ</sup>引受度人別入願右同断取計濟五月朔日

住宅証文差出ス

一 備前津高郡小森村佐平治娘義二階町疊屋佐吉借屋住立具屋惣兵衛  
妻<sup>ニ</sup>引受度人別入願右同断取計濟六月十一日住宅証文差出

一 脇坂淡路守殿領り所当国久米南條郡大戸下村政治悴林蔵義河原町  
増蔵養子<sup>ニ</sup>引受度人別入願右同断取計濟五月朔日住宅証文差出

一 目明一件之考書松岡附紙<sup>ニ</sup>猶又致附紙三浦を以治部助へ指出候

一京町花屋権兵衛妻産後発狂候処今朝視之淵ニ致流候得共庄屋相對を以内分ニ而引取候様大年寄并昼廻藤蔵文六も及噂候

一御領分東南條郡林田上之町宇兵衛娘義桶屋町竹田屋権吉妻ニ引受度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届

一半舎人丈兵衛療治二廻リ相濟候処矢張吉武へ申付候段双方申出候

一半舎人庄八着物入替伺出承り届

一下高倉村茂八方へ去ル十八日盜賊入込六品盜取代積四拾八匁位之由触流し取計候様大目附中る達ニ而取計本書ハ三浦へ戻ス届出之

二品之外ハ無之旨申出候

一奥谷村多福寺へ去ル廿日盜賊入込九品盜取代積七拾七匁位之由触流取計候様大目附中る達有之由町触取計本書ハ三浦へ戻ス町分無之旨申出候

一一ノ宮市町無別条引取候段左十郎安助届出候

四月廿九日 快晴

一稻荷山下草今日迄ニ苅仕廻候段三軒屋番作治届出候

一橋本町塚角屋新八所持之旅人旅籠屋株去ル寅歳当未歳迄五ヶ年之間中之町中屋源右衛門借受商売仕候処又々来ル亥歳迄五ヶ年之間借受商売仕度追願差出承り届

一久世御代官所御用銀先触来候段大年寄申出ル

覚

一輕尻馬 卷疋

右ハ早川八郎左衛門家来田口勝五郎昨廿六日曉六ツ時大坂鈴

木町指立作州久世陣屋迄御用銀為附添差遣候間書面之馬御定之賃錢受取之繼立川越止宿等無差支様可被取計候尤於泊御用銀封印之儘宿役人江預ケ候間預リ証文差出諸事無指支様可取計候此先触別々順達至久世御役所へ可被差出候以上

未 四月廿五日

早川八郎左衛門手代

内藤大右衛門

貝塚五郎藏

大坂ノ播州姫路通作州久世迄右宿々問屋中

泊り付

廿六日兵庫 廿七日御着 廿八日佐用 廿九日津山

右ニ付大年寄申出候\*天明三年寅十月六日石原清左衛門殿支配所御年貢銀当町止宿其節元魚町紙屋助右衛門ニ止宿同町方不寝番兩人差出年寄見廻隣町夜廻り申付候右先例之通可取計尤其節ハ元魚町方不寝ニ而指出し候得共夫ハ不当之義ニ付今般ハ問屋方不寝番可申付旨伺出其段承り置候尤右取計方左之通且又御用番大目附へ不及届先格也

一御銀宿 元魚町 原屋佐市

一町年寄見廻刻 同町年寄源吾相勤候

一隣町夜廻り 元魚町 戸川町 式丁目 二階町 新職人町

一不寝番式人 人馬問屋方差出但四人ニ而半夜代り相勤候

一左之通一札差出候

一差上申証文之事

一 御銀式箱 但御封印之儘

右者 早川八郎左衛門様御用銀御手前様御持參被成今夕当駅御止宿被成書面之御銀封之儘私共へ御預ケ被成儘<sup>ニ</sup>奉預候然ル上者今夜中不寝番人付置御銀大切ニ相守可申候万一盜火之難ハ不及申上其外如何様之義<sup>ニ</sup>而御銀紛失仕候共当宿中として相弁御指支無之様可仕候尤明朝御出立之節滯義も無御座候ハ、此証文御戻し可被下候為其連印預り証文差上申処仍<sup>ニ</sup>而件

津山元魚町 御宿 佐市

同所人馬問屋 佐右衛門

同所同町 年寄 源吾

早川八郎左衛門様御内

田口勝五郎殿

一 一ノ宮市町無別条引取候段孫八栄治与三兵衛届出候

四月晦日 快晴

一 久世御用銀荷物無滞今朝出立候旨大年寄る届出承り置

一 御領分下高倉村太作倅嘉市義船頭町川口屋藤吉養子引受度人別入願承り届

一 吹屋町北側<sup>ニ</sup>而吹屋八左衛門家屋敷表口八間五尺裏行拾貳間半但

壹軒役也東隣ハ同人持分西隣ハ南北之小路也右家屋敷西之方<sup>ニ</sup>而

表口五間五尺五寸裏行拾貳間半御役六歩六厘六毛添代銀札五百匁

<sup>ニ</sup>相極組合米屋長兵衛へ売渡東之方<sup>ニ</sup>而表口貳間六尺裏行拾貳

間半御役三歩三厘三毛三添代銀札貳百匁<sup>ニ</sup>相極組合北村屋源右衛

門へ売渡願承り届五月十日売券状差出

一 吹屋町北側<sup>ニ</sup>而吹屋八左衛門家屋敷表口四間裏行九間但貳歩半役

也東西兩隣ハ同人持分之家也右家屋敷代銀札三百匁<sup>ニ</sup>相極組合柳

瀬元柳へ売渡願承り届右同断

一 吹屋町北側<sup>ニ</sup>而瓜生原屋七郎左衛門家屋敷表口三間裏行四間半但

半役也東隣ハ川口屋次助持分西隣ハ北村屋弥七持分也右家屋敷代

銀札百五拾目<sup>ニ</sup>相極町内熱田数馬へ売渡願承り届右同断

一 吹屋町南側<sup>ニ</sup>而瓜生原屋七郎左衛門家屋敷表口貳間裏行拾壹間但

半役也東隣ハ金屋新右衛門持分西隣者瓜生原や七郎左衛門也右家

屋敷代銀札四百目<sup>ニ</sup>相極町内下瓜生原屋勘助へ売渡願承り届出承

り届右同断

一 吹屋町北側<sup>ニ</sup>而作人吉兵衛家屋敷表口四間裏行五間半但半役也東

隣ハ北村屋弥七持分西隣ハ木屋喜助持分也右家屋代銀<sup>匁欠之</sup>百貳拾目<sup>ニ</sup>

相極組合木屋喜助へ売渡願承り届右同断

一 吹屋町南側<sup>ニ</sup>而金屋新右衛門家屋敷表口貳間裏行拾壹間但半役也

東隣ハ釜屋孫三郎持分西隣ハ瓜生原や七郎左衛門也右家屋敷代銀

貳百目<sup>ニ</sup>相極町内下瓜生原屋勘助へ売渡願承り届右同断

一番賃銀例月之通相渡候

一 痢疾除御薬例歳之通被下候間受取相渡候様先日大目附方演説有之

候段三浦方申来并国嶋榮庵方も申来則左之通同人方受取相渡

七千八百貼 大年寄へ相渡候

五拾六貼 小頭江相渡候

七千八百五拾六貼 <sup>且又自分用持并外、無様所望之方も有之惣部  
合七千九百拾貳貼相受取候</sup>

一 豊後国日田郡中城村兵七女房浄土真宗<sup>ニ</sup>而祖師聖人旧跡順拜罷出

勝間田駅ニ而病氣付同所ニ而療治指加ヘ快氣之上送り出し川部村  
江送り來候ニ付糺之上継送り候様申付候段郡代所ル申來候ニ付繼  
送り候様大年寄ヘ申達候

一 中山百藏義真賀温泉ヘ今日出立小頭ル届出ル

一 ノ宮市町無別条引取候段文藏左五兵衛届出候

五月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 里田要人殿

大目附 佐々木主馬

大年寄 玉置六郎左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

五月朔 己未日 快晴

一 明二日牢番足輕兩人共可相糺ニ付右糺中牢番加人兩人被仰付候様

大目附ヘ相達并勘定奉行近藤伊左衛門ヘ人物好申遣候所石井金治  
中村栄治來

一 明二日吟味取計ニ付同心組致不足候間加人一人当日切被仰付候様  
大目附ヘ相達候所福田伴藏來

一 三船新治義明二日ル出勤仕候段小頭ル届出候

一 明日牢屋番子一件可相糺ニ付穢多頭等呼出し置夫々手配可申付旨  
新左衛門孫八江相達候

一 元魚町豊嶋屋伝治妻二月廿日立ニ而四国遍路ニ罷出昨日罷歸候段  
届出相調候処願書見ヘ兼候付取次之者名面承り違ニ而も可有之ニ  
付大年寄ヘ相尋候処無願罷出候由申出難捨置ニ付左之通申付候様  
大年寄ヘ申達候

其方妻義無願他參為致不埒 元魚町豊嶋屋 伝治

之事ニ候依之申付方も有之候得共

此度ハ急度叱置候已來可相慎候

一 ノ宮市町無別条引取候段藤藏為治届出候

五月二日 曇

一 御藏米六拾五匁 町米六拾壹匁

一 痢疾除御薬被下置候御礼惣町年寄并大年寄罷出候

一 ノ宮市町無別条引取候段左十郎又六届出候

一 牢屋不ヰリ不埒一件為吟味九時ル新左衛門孫八新治文藏為治差向

牢舍人 拾壹人 番子穢多式拾壹人 牢番兩人

右三拾四人遂吟味口書爪印取之差出

一 牢番内田山七和田広治吟味中相慎居候様申渡加人中村栄治石井金

治<sup>江</sup>諸事為引渡御定目之趣共委敷申付置候尤右ニ付南路次出入無  
之ニ付<sup>ハ</sup>切ニ申付候

一 先年三宅藤左衛門入牢之節<sup>ハ</sup>揚リ屋前ニ而<sup>テ</sup>番子共火を焼候由今般  
之騷動ニ而<sup>テ</sup>初<sup>ニ</sup>承之依之以來揚リ屋前<sup>者</sup>勿論之義何方ニ而<sup>テ</sup>も火床  
之外ニ而<sup>テ</sup>決<sup>シ</sup>而<sup>テ</sup>火焼申間敷旨牢番<sup>并</sup>穢多頭兩人<sup>江</sup>も急度申付候

一 牢舎人文藏菊治吉藏惣五郎孫兵衛久四郎三吉与四郎着物出入伺出  
承<sup>リ</sup>届

一 船出入一件ニ付備前丹右衛門と申もの内濟懸合ニ先日相越榎野屋  
茂一郎へ懸合候所猶又追<sup>テ</sup>而<sup>テ</sup>可懸合旨申置罷歸候処今日茂一郎へ書  
状差越し右内濟ハ常山神主備前大庄屋へ懸合居候由ニ付指扣可申  
候間其段断申越候ニ付紙面之通致承知候段可及返書茂一郎<sup>ノ</sup>下案  
相認指出候御用番中へ指出候所伺之通宜取計候様申来候ニ付其段  
藏合孫左衛門へ申達候

五月三日 曇

一 御用日之処自分義未相勝候ニ付当病断<sup>并</sup>御用向三浦十郎左衛門へ  
頼遣ス

一 森右兵衛佐殿領分播州赤穂郡西有年村左右衛門兄庄之助一人桶屋  
町桶屋市右衛門役介ニ引受度人別入願御用番中御聞濟ニ付大目附  
へ差出置候段三浦<sup>ノ</sup>申来御聞届申達候同七日住宅証文差出ス四月  
改ニ入

一 吹屋町山城屋善左衛門船車へ先月廿八日夜盜賊入込米式儀盜取候  
届同晦日差出今日御用番<sup>并</sup>大目附へ差出候

一 町方夜廻り一ノ宮市中と相同置候得共市後は猶以之義ニ付今少之

内夜廻り可申付旨三浦を以御用番中へ相同候処同濟ニ付大目附へ  
も相届候段三浦<sup>ノ</sup>申来其段大年寄へ申渡候

一 三船新治義昨日<sup>ノ</sup>致出勤候間加人<sup>者</sup>保助今日<sup>ノ</sup>指戻候段大目附  
へ相届候

一 一ノ宮市町<sup>江</sup>済後之町触例歳之通差出候

一 一ノ宮市町ニおいて元魚町松屋源藏弟谷風義助刀預ケ置候由ニ付  
於同所召捕遂吟味候処新職人町研屋万兵衛方へ這入大小<sup>并</sup>単物盜  
取候由白状候ニ付召連来候段目明甚七小頭へ申出直ニ呼出し於玄  
関新左衛門ニ一ト通り為相糺候処盜取候ニ弥無相違旨及白状候ニ  
付左之通申付候

吟味中入牢申付候

元魚町 松屋源藏弟谷風義助

右之断御用番<sup>并</sup>大目附へ紙面ニ而<sup>テ</sup>相届候

一 堺町美濃出屋清右衛門義但馬城之崎へ入湯三十日計之逗留ニ而<sup>テ</sup>来  
六日出立願大年寄承<sup>リ</sup>届差出候六月十二日帰

一 盜賊鉄藏盜もの美濃職人町仲平二階町松葉屋市右衛門致取次打穴  
屋福永屋材木屋ニ質ニ置候品都合拾壹品取揚相廻候様郡代所<sup>ノ</sup>申  
来候ニ付取次候もの兩人受返し指出候様大年寄へ申付候所指出候  
付今日郡代所へ送り書を以相廻受取書取置候

一 関貫番質銀百四拾匁七分真北類藏<sup>ノ</sup>指越受取候

一 牢舎人穢多万三義致腹痛候段申出大年寄へ申付候処板倉全柳申付  
候段申出候

一 牢舎人孫兵衛肌着宿へ差返し度<sup>并</sup>惣助着物綿指出度旨伺出承<sup>リ</sup>届  
一 借牢人長不食ニ付鯛雪花菜之類調具候様願出候段伺出承<sup>リ</sup>届

一ノ宮市町無別条引取候段新治左五兵衛届出候

五月四日 少雨

二三浦志摩守殿左之通到来

覚

本馬 式拾七疋 内 五疋五月十一日先立

三浦志摩守致参府来ル十三日在所被致発足候書面之馬差支無之  
様指出可然候追 而 駄賃払之義差越可申候且又泊附 者 本陣中申遣  
候得共為御心得申入候本陣中 之廻状御届可給候以上

三浦志摩守内

五月三日

鈴木七右衛門

久世の板橋迄右宿々問屋中

五月十三日勝間田泊 同十四日千本泊 同十五日加古川泊

同十六日兵庫泊 同十七日大坂休 同十八日伏見泊

以下略之

追 而 此廻状留り宿る江戸虎御門内志摩守屋敷青山伝左衛門九

里平馬方迄返却可給候 已上

右先触御用番中へ差出大目附へも申達候

一二階町昼屋儀助義四国遍路九十日計之逗留 而 来ル七日出立願承  
り届六月廿九日帰ル

一ノ宮市町無別条今日切 而 引払相濟例歳之通取計相濟候段孫八  
栄治与三兵衛届出依之大目附へ市同心組指出候所無別条引取今  
日切 而 相濟候段紙面 而 先格之通大目附へ相届候

一ノ宮 来候孔雀晴天三日二階町庚申堂 而 御家中へ入御覽度尤

思召次第 而 考式分ツ、頂戴仕度願書船頭町中村屋庄助指出候先

例遂吟味候処明和二年五月一ノ宮へ来候孔雀右同所 而 為見候義

有之尤其節 者 三日御聞届相濟尚又加日三日追願御聞届も相濟其後

内山下 井 御家中方へ持廻り為見候事も御聞届相濟御門等之通行も

相濟候旨日記 有之右 付右願書三浦十郎左衛門相頼大目附へ遂

内談候処存寄無之 付御用番中 差出候様挨拶有之直 御用番中

へ持参被指出候処御受取被置候旨三浦の申来候処無程御聞届之段

御用番中の紙面 而 被仰出大年寄へ申達候

一出羽守様御金宰領之者玉置六郎左衛門方へ来是迄七里飛脚勝間田

本陣 被指置候処故障有之 付以後ハ六郎左衛門方相頼被指置度

尤右 付式人扶持 銀耆枚半被下候旨此段内意申達候由尤即答

も相成間敷候間来ル八日立寄返答可承旨申置候処六郎左衛門義も

手狭 付一間明ケ渡候義も難仕旁以御断申度旨并書 井 向方へ差出

候御断書認伺出至極尤之義殊 当時役義をも相勤居候事 候得 者

旁以相断可然旨申達置右書面三浦氏を以大目附へ差出遂内談候処

存寄無之候間御用番へ差出候様挨拶有之直 御用番中へ指出置候

処追 而 可被仰出旨 而 御受取置候由申来候

一孔雀庚申堂 而 為見度願書御聞届之旨大目附へ相届右願書指出候

尤三浦 井 藤本十兵衛へも及通用

二三浦志摩守殿先触写御用番中御下ケ被成大目附へ差出候

一雲州神門郡荒木村又四郎夫婦西国順礼罷出帰リ懸ケ播州揖西郡平

野村 而 又四郎病氣付同所 而 医療相加へ快気仕候得共歩行不相

叶同所の送り出し川部村 送リ来紀之上継送り候様申付候段郡代

所々通用有之候ニ付猶又継送り候様大年寄へ申達候

五月五日 曇 夜雨

一端午ニ付同心組罷出例之通相揃候上調神酒差出之尤自分義不快ニ付罷出候

一 孔雀庚申堂為見度願書〇指出候節先例相調候処同心組兩人差出候

旨日記ニ有之候ニ付其旨三浦を以御兩所へ申達候然ル所當時群集之場所へ同心組指出候当りを以相考候得者分而同心組差出候程之義ニも有之間敷尤日記も甚荒目成ル義ニも有之出番帳遂吟味候

処明和二年五月孔雀ニ付出役之義記無之當時市中振鬪等之節も分

而同心組不指出昼廻リ立寄近辺ニ見合候位之義ニ候得者旁以昼

廻リ立寄リ見計同町年寄宅ニ暫見合弥静謐之趣ニも候得者引取

候も可然哉ニ相考候ニ付其段紙面ニ大目附へ及内談候処存寄

無之考通ニ可然旨口上ニ返答申来候ニ付其段御用番中へ紙面

ニ申上候処後刻御紙面ニ伺之通宜取計候様被仰出候

一 牢舍人鉄藏病氣申出大年寄へ申達候処中村易安へ申付候段申出候

一 牢舍人三吉蒲苗返度伺出承り届

一 牢舍人新八丈兵衛療治二廻り相濟候段申出大年寄へ申達候右同断

一 札元三船八郎右衛門一ノ宮市町無滞引取候段届出候

一 一ノ宮神主市町無滞相濟候為御礼兩人罷出候

一 孔雀明六日為見候段大年寄届出候付御用番并大目附へ相届候

一 玉置卯左衛門義先月十九日備中矢掛へ參候処不快ニ付快氣迄逗留

仕度日延願悻忠四郎を指出候紙面ニ御用番中へ相伺候候御聞届

被成候段申来候ニ付右願書大目附へ指出相届置御聞届大年寄へ申

達候

一 雲州七里飛脚差置候義頼来六郎左衛門を断之答振再考候様大目

附々達有之候由三浦を通用有之相認佐々木主馬へ紙ニ差出候

一元魚町久保木屋嘉兵衛借屋住中野屋佐助後家かね母義大坂上町備

中屋徳兵衛と申もの親類ニ候処病氣申越候ニ付為見廻罷越度尤七

十日計之逗留ニ明六日出立願書差出し承り届八月七日追願指出

一新職人町研屋万兵衛方紛失もの、単物ニ類したるもの新田村伊

置質物安岡町大坂屋宇八方ニ有之候届書指出且又盜賊義助義も

右之趣及白状候義ニ付郡代所へ相廻候

五月六日 時雨

一 牢番中間庄兵衛義吟味之筋有之候間御中間頭を引渡有之候様御達

被下候様大目附へ紙面ニ申達候所御中間頭佐藤郷左衛門を小頭

寸治受人増屋長治平田屋幸助差添来り尤口上ニ引渡候段申越小

頭三船孫八部屋目付当番兼三船新治出番川端又六目明孫兵衛立合

孫八罷出受取申候小頭を左之通申渡候

牢屋下番中間 庄兵衛

吟味筋有之ニ付吟味中 右受人

牢番預ケ申付候 西新町増屋長治

牢賄相送り候様申付候 新魚町平田屋幸助

一 右之通取計候御用番并大目附へ紙面ニ相届候



一孔雀為見候義雨天ニ付致延引候段届出承リ置

一 目明取計書尚又松岡治部助附紙ニ而致再考候様昨日三浦ノ申来候

五月七日 時雨

一孔雀今日庚申堂ニ而為見候段届出候

一牢番加人中村栄治引込ニ付末吉折治来

一新職人<sup>所次方</sup>研屋万兵衛被盜候刀金鏹有之処致紛失候付町中買取候もの

有之候ハ、申出候様触書指出候様大年寄へ申付候

一雲州七里飛脚之義左之通六郎左衛門ノ及御断候様可申付旨御用番  
中御添削ニ而御渡被成候由三浦被申聞其段六郎左衛門へ申達候

御飛脚御忝人御引受申候様被仰聞奉畏候処私義積年困窮仕

当時ニ而者別ニ而手狭ニ相暮御止宿之節も既ニ御間ニ合兼候

仕合ニ御座候間甚恐多候義ニ而御座候得共何卒御断申上度

奉存候御内分被仰聞候義ニ御座候間何分宜御頭中迄被仰達

可被下候此段御頼申候尤私宅ハ右之通御座候得共外方ニ而

も不苦義ニ御座候ハ、承リ合追ニ而御返答可及候

一牢舍人義三全快ニ付藤木良全休業届出候段大年寄申出候

一牢舍人着物出入届出承リ届

一牢舍人幸十郎病氣申出大年寄へ申達候処藤木良全へ申付候段申出

候

一森対馬守殿当所へ被参<sup>并</sup>御年回等之年月大目附伊達与吉郎ノ尋来

左之通認差出候

一明和九壬<sup>辰</sup>二月六日

森対馬守殿当所本源寺へ仏詣として到着同八日爰元出立

一天明三<sup>癸卯</sup>二月六日

森中将殿百五十回忌ニ付惠穂御代香藤堂四郎左衛門乃井野

御代香林為右衛門新見御代香鈴木丈右衛門

一寛政九<sup>丁巳</sup>二月十日

森内記殿百回忌之節御代香有之候様相聞候得共名面相知不

申候

五月八日 快晴

一御用日之処自分義頭瘡未相勝仍之当病御断<sup>并</sup>御用向三浦へ頼遣又

一二町目福永ヤ吉兵衛借屋住西屋十藏家内四人去年十二月出奔仕候

段届出百日尋申付候所弥行衛不相知百日余ニも相成候ニ付人別除

願御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出候段三浦士ノ申来御聞届申達

候

一牢屋一件御裁許何数通三浦士を以御用番中へ差出候

一三浦志摩守殿通行取計認出候様大目附ノ申来左之通三浦士を以大

目附中<sup>江</sup>差出候

三浦志摩守殿昨年<sup>者</sup>御止宿相成候故取計も御座候得共御通

行ニ而者左之通ニ御座候

一 一道筋不及掃除不見苦様いたし可置事

一 在宿医師兩人

一 町々保頭先私

一 町々同心組先私

一 東西大橋建札為引取候事

一 東西御渡船場へ御藏元船年寄差出候

一 昨年御止宿之節も御使者<sup>并</sup>奉札等も参り不申候

右之通<sup>ニ</sup>御座候已上

右指出候所大目附佐々木主馬<sup>右</sup>先例之通宜取計可申<sup>并</sup>東西<sup>江</sup>高瀬舟三艘馬船式艘<sup>ツ</sup>、被差出候間先規之通藏元船年寄下才許等申付候様三浦<sup>へ</sup>伝達有之大年寄<sup>へ</sup>申付候尤一場茂右衛門<sup>も</sup>御船之義申来候

一 三浦志摩守殿通行<sup>ニ</sup>付先格之通町触差出候

一 大目附廻状到来

大守様益御機嫌克被成御座先月十九日桜田組御防禦免被為蒙仰候段為御知申来

右之段組中<sup>へ</sup>相触先格之通町方<sup>へ</sup>ハ不相触大年寄計<sup>へ</sup>及演達

一 安岡町江川屋六兵衛先頃五十敲掃町被仰付候処右罪状大目附伊達与吉郎<sup>が</sup>尋来去々<sup>ハ</sup>十二月新田村伊右衛門方<sup>ニ</sup>博奕参会仕逃去り当二月立掃召捕五十敲掃町被仰付候段申達候

一 夏分橋々<sup>ニ</sup>涼間敷町触例歳之通指出候

一 大坂安堂寺町筋玉造鳥屋次兵衛上下式人<sup>一</sup>ノ宮市町孔雀持参仕当町<sup>ニ</sup>四五日逗留為仕度願船頭町中村屋庄助願書承り届同十六日罷歸候段届出候

一 三町目太刀屋久治義先月五日因州鳥取<sup>へ</sup>罷越候所当月廿日頃迄逗留仕度日延追願悴弥吉<sup>が</sup>差出候承り届五月廿五日帰ル

一 伏見町八出屋多助義井口村栄治茂助<sup>へ</sup>年賦銀指滞出訴郡代所<sup>へ</sup>相廻置候所今般小田屋伊平次内濟取扱相濟候間願下<sup>ケ</sup>願書差出郡代所<sup>へ</sup>相廻候

一 同心組<sup>一</sup>ノ宮出役昼弁当代拾九匁式分小頭孫八<sup>江</sup>相渡候

一 伏見夜船難船一件相濟候段村尾李右衛門<sup>が</sup>申来候返書今日郡代兩名<sup>ニ</sup>指遣候

一 孔雀今日為見候段届出候

五月九日 快晴

一 東新町岩屋文藏義借銀出入出訴之趣相糺候間今九半時水帳持参郡代所<sup>へ</sup>差出候様申来例之通組合町役指添出候様大年寄<sup>へ</sup>申付候

一 太田村文八悴熊吉義入牢申付候旨郡代所<sup>が</sup>指紙来認か<sup>へ</sup>出番指向取計申候

一 太田村久六悴初太郎牢番預<sup>ケ</sup>申付候旨郡代所<sup>が</sup>申来出番取計申候

一 孔雀庚申堂<sup>ニ</sup>為見候義今日切<sup>ニ</sup>相濟候段勸進元届出御用番<sup>并</sup>

大目附<sup>へ</sup>相届候

一 牢屋揚屋前<sup>ニ</sup>下番中間之作麦有之余人難入場所<sup>ニ</sup>付番子手透之節酒代差遣し為苜取度旨相願候由牢番伺出承り届

一 牢舍人衣服出入伺出承り届

一 伏見町八出屋多助義井口村茂助栄治<sup>へ</sup>借物出訴内濟承り届候由<sup>ニ</sup>郡代所<sup>が</sup>願書相戻り大年寄<sup>へ</sup>相渡候

五月十日 雨

一 牢舍人穢多<sup>□□</sup>村多助助五郎浅五郎牢賄不指越旨届出郡代所<sup>へ</sup>申遣

一 御領分勝南郡日上村嘉右衛門悴茂七義坪井町中津屋惣十郎養子引受度人別入願下方引合相濟候段申出承り届

一 船頭町高松屋藤吉所持之式歩中買株京町堺屋太助讓受度願書承り

届

一 御領分林田上之町流滴と申もの安岡町作人瀧右衛門後家跡相統為

仕度人別入願下方引合相濟候段申出承り届

一 三浦志摩守殿通行之節先弘宿安岡町三倉屋平兵衛へ申付候段大年

寄申出小頭へ相渡候

一 三浦志摩守殿通行ニ而も牛馬土手通りへ通候事哉と申達候処右

出羽守様上野介様ニ限り牛馬土手へ通候事ニ而 其外様御通行之節

牛馬御通筋指留候義無之候旨孫左衛門喜左衛門申出其通取計候様

申達候

五月十一日 雨

一 院庄川渡船留候段九時過郡代所へ申来大年寄へ申達候

一 三町目高雄屋藤助義石川へ桐油実取寄油ニ絞立候処壹升ニ付式匆

七分式厘五毛ニ付候由右粕石川ニ而 肥シニ相成候ニ付爰元ニ而も

試度弁書喜左衛門を以差出候ニ付上原彦藏へ懸合候

一 雲州御金宰領昨晚罷帰リ玉置六郎左衛門方へ立寄候ニ付七里飛脚

宿之義先頃之書付之趣一ト通り六郎左衛門へ申述及断候所早速致

承知御断と有之候得者書付取候ニも不及其段役頭共へ可聞旨ニ而

罷帰候段六郎左衛門届出候ニ付御用番大目附へも申達候

一 三浦志摩守殿通行日延之追触到来

志摩守来ル十三日在所被致発足候筈之処故障之義有之翌十四

日被致発足候先達ニ而 申入候通馬式拾七疋之内四疋十二日出立

ニ候間差支無之様差出可給候泊宿之義為御心得申遣候本陣中

へ之廻状御達可給候頼入存候以上

三浦志摩守内

鈴木七右衛門

五月十日

従久世板橋迄

右宿々問屋中

五月十四日 勝間田泊 以下略之

右先触御用番中へ差出大目附へも申達候

一 院庄川渡船相始候段酉刻過郡代所へ申来大年寄ニ申達ス

五月十二日 晴

一 牢舎扶持五俵之内貸証文差出奥印書取計候

一新魚町村本屋太四郎借屋住又五郎家内三人去ル九日夕致出奔相尋

候得共行衛不相知届書指出候例之通百日尋申付候

一新職人町塗師孫三郎借屋住村上玄宅義四国遍路百日計之逗留ニ而

来ル十五日出立之願書指出候承り届十二月廿三日帰ル

一新職人町研屋万兵衛方之被盜候刀金鋸有之候由申出候得共鋸者無

之右者船頭町徳と申狂女之床下ニ隠置候節横山辺之市之丞と申も

の見候由ニ付同人盜取候哉之程も難計町方へ触書差出候所惣町ニ

無之旨申出候付右市之丞と申もの相糺被具候様郡代所へ申遣候処

在人別ニ無之旨申来候

一 牢番加人末吉折治引込ニ付日下勇助代リニ罷越候

五月十三日 雨

一 御用日之処自分義未相勝候ニ付当病届ニ御用向三浦へ頼遣

一 伯州倉吉河原町竹屋孫右衛門娘義去午八月材木町万屋与三兵衛役

介ニ引受候処今般親元へ差帰度人別除願御用番御聞濟ニ付大目附

へ差出置候段三浦士る申来御聞届申達候

一 目明取扱一件再考附紙を以三浦を松岡治部助へ差出候

一 三浦志摩守殿追先触御用番中る昨日戻り今日三浦を以大目附へ指  
出候

一 社人山伏町住居町役指除候義ハ不相成旨答書三浦迄相廻置候

一 風来者指置候段取咎再伺之通今日被仰出候尤郡代兩名ニ而差出候  
伺扣ニ記置候得共猶又為念記置候

一 急度叱 一夜為泊候もの

追込三日 二夜已上廿日迄

同 七日 廿一日已上百日余何ヶ年ニ而も

組合追込三日 年寄庄屋急度叱

一 旅籠屋共義ハ

急度叱 二夜を五日迄

追込三日 六日と五十日迄

右之余者前段之通追込七日

一 請人無之奉公人召抱候者

追込 五日

一 風来もの出所も不相糺請人ニ相立候もの

追込 五日

但奉公人之口入いたし候もの不及咎候而も可然奉存候

五月八日 三浦十郎左衛門  
増見右門

一一ノ宮村藤五郎方へ四月五日夕盜賊這入三品代積拾貳匁之もの盜  
取候触流取計候様御達有之町触取計本書ハ三浦へ差戻候同十八日

町方無之大年寄申出候

一 御駕籠者村嶋又吉と申もの御暇被下御城下并一方構之内徘徊住居

御差構被成候段大目附を通用有之候

一一ノ宮市町中為用心町方金棒引夜廻り申付置候処弥静謐之趣ニ付  
今夕を相止候段御用番中へ紙面ニ而申上候処御承知之旨申来其段  
大目附へ相届置大年寄へ今夕を相止平日之通ニ取計候様申達候

一 牢舎人義助着物入替伺出承り届

一 院庄川渡船留候段申刻郡代所を申来大年寄へ申達候

一 川口藤左衛門姪福永屋助右衛門娘義今晚致死去候ニ付藤左衛門義  
御定式之通三日之忌服引込候段及深更届出候ニ付翌十四日御用番  
并大目附へ相届候

五月十四日 曇

一 院庄川渡船相始候段辰中刻郡代所を申来大年寄へ申達候

一 大目附佐々木主馬を郡代兩名ニ而手紙到来三浦志摩守殿御家老を  
丹後殿へ飛札ニ而志摩守殿今日通行之案内并御馳走振御断申来候

書面被相廻両役為心得相廻候尤是迄御断ニ付御馳走振無之故此上  
減方も有之間敷哉之旨相談申来候ニ付最早此上ハ減方無之御同意  
ニ存候旨及返書候

一 勘定奉行近藤伊左衛門を半番加人兩人ニ而ハ外々之約合ニ不參候  
間三人ニ申付候案内有之増人植月十四郎来

一 無宿市之丞と申もの研屋万兵衛方ニ而被盜候刀之鍔盜候哉之疑有  
之ものニ付郡代所へ懸合置候処昨夜横山村へ来候由ニ而召捕候由  
ニ而送り手形を以役所へ被指越小頭孫八出番新治指向受取申候自

分義不快ニ付新左衛門ニ吟味為仕候処右鑑盜取候ニ相違無之旨及  
白狀則右鑑致所持罷在差出候右ニ付左之通申付候

元横山村出生當時無宿

吟味中牢番預ケ申付候

市之丞

右郡代所ノ受取吟味中牢番預ケ申付候段御用番<sup>并</sup>大目附へ相届候  
一三浦志摩守殿通行ニ付御先弘文蔵為治指出候所八ツ半時過町分御  
通行相濟候段御先弘<sup>并</sup>大年寄<sup>并</sup>人馬方喜左衛門届出其段御用番<sup>并</sup>  
大目附へ相届候

一在宿医師

北山修伯

一御先弘

立宿 安岡町 三倉屋平兵衛

一諸事八日之処ニ記置候通也

一尾州嶋崎神職吉田左忠手代二人例年之通來候段堺町西川屋善助宿  
切手差出候

一三浦志摩守殿ノ東西御船へ左之通被下候旨届出翌十五日大目附へ  
指出候

一金百疋

御召船へ

一右同断

御供船馬船へ

一右同断

御蔵元甚右衛門船年寄六郎太夫<sup>江</sup>

一鳥目式百文

下裁許人老人<sup>江</sup>

右<sup>者</sup>院庄川ニ被下候

一金百疋

御召船へ

一右同断

御供船馬船へ

一右同断

御蔵元文五郎船年寄彦市へ

一鳥目式百文 下裁許人老人<sup>江</sup>

右<sup>者</sup>川辺ニ被下候

五月十五日 快晴

一 大年寄諸吟味相揃当日ニ罷出及対面

一 安岡町北側ニ福輪屋伊助家屋敷表口式間半裏行拾四間半但半役  
也東隣ハ岡崎屋伊兵衛西隣ハ初屋伊兵衛也右家屋敷十二年已前申  
二月町内菱屋太助へ質物ニ書入銀札百五拾匁借受候処元利返済仕  
受返し相濟候届書承り届

一 堺町稲実屋義七郎義伯州倉吉赤崎屋七郎右衛門方へ十日計之逗留

ニ明後十六日出立願書指出承り届同廿六日帰ル

一 來ル十八日今般桜田組御防免被為蒙仰候申上有之候段大目附よ  
り演達有之候由近藤伊左衛門ノ通用有之候段三浦ノ申來候尤三奉  
行以上之事之由也

一 今般牢屋不<sup>レ</sup>リ一件ニ付先月廿五日下午番中間当役ニ請人預ケニ  
申付候義大目附松岡治部助ノ三浦十郎左衛門を以不<sup>レ</sup>悉有之候然ル  
所中間頭支配之ものニ受<sup>レ</sup>人預ケニ申付候先格有之様ニ相覚右  
之通取計置候義ニ付旧記相糺候処宝曆三四年一五月役筋ノ慎申付  
候義<sup>者</sup>有之候得共請人預ケ申付候先格相見へ不<sup>レ</sup>申候ニ付三浦十郎  
左衛門を以差扣相伺候処左之通被仰出候

増兒右門指扣不及其儀以來入念候様被仰出候

五月十六日 雨

一 中山百蔵義真賀温泉ノ昨夜罷歸リ余程快方ニ候間明日方出勤仕候  
旨小頭ノ届出候

一兼田川渡船留り候段酉ノ中刻郡代所々申来大年寄へ申達候  
一院庄川渡船留り候段戌ノ中刻郡代所々申来大年寄へ申達候

五月十七日 雨

一美濃職人町南屋利兵衛母義当二月八十日之願ニ而四国へ罷出候処  
足痛ニ付今〔日〕計日延追願指出承り届

一美濃職人町藤助と申もの借屋明ケ不渡先達ニ而度々願出不埒ニ付  
請人引渡可申付旨大年寄伺出承り置

一牢屋へ新左衛門孫八新治百藏又六指向ケ贖銀一件之もの共并盜賊  
義助一件之もの共口書爪印取之候

一牢舎人穢多市之助惣五郎苗植有之候処不相分候ニ付植付候訳合承  
り候而朋友共遣度段宿元々牢番へ願出候ニ付今日出役之もの共へ  
申付為相糺申遣候様ニ申付候

一牢舎人共衣服入替伺出承り届ル

一越中富山板屋理兵衛役介惣介庄治郎二人例年之通当十月迄召抱置  
度願京町松岡屋茂右衛門指出候承り届

一〇〇〇穢多共牢番ニ相当り候ニ付牢舎穢多共之牢賄持ほひ候もの  
無之ニ付牢屋ニ而焼出し申付呉候様郡代所々頼来其段牢番勇助へ  
申付候

一兼田川渡船相始り候段酉刻過郡代所々申来大年寄へ申達候

五月十八日 曇

一御用日并桜田組御防衛御免被為蒙仰候恐悦三奉行已上申上有之候処  
自分義未相勝依之当病御段并御用向三浦へ頼遣但願上下着用之申

一院庄川渡船相始候段辰刻過郡代所々申来大年寄へ申達候

一中山百藏出勤ニ付加人御使組笹岡与三兵衛今日々差戻候段大目附  
へ相届候

一雲州橋縫郡岡田村清左衛門娘義安岡町松屋伊助養女ニ引受度人別  
入願御用番中御聞濟ニ付大目附へ指出置候段三浦を申来御聞届申  
渡候同廿六日住宅証文  
差出候

一札元山本三郎左衛門義大坂大川町綿屋義兵衛方へ三十日計之逗留  
ニ而来ル廿日日出立願右同断取計濟

一御目見へ医師牢屋療治御定之義弁書三浦を以御用番中へ指出置候  
一盜賊長藏御裁許伺今般無宿者指置候御咎定り候ニ付右例ニ随ひ伺  
書認かへ三浦を以御用番中へ指出候

一先達而御裁許同濟之三与藏万五郎清藏懸り合之もの共之内右御咎  
今般定り候ニ付御咎違候もの計認三浦を以御用番へ差出候

一盜賊元魚町松屋源藏弟義助御裁許伺右同断指出候

一盜賊沙駄ニ付非人受廻り先月三日同濟之上申付置候処近頃静謐之  
趣ニも付今夕々相止候段御用番御聞濟ニ付大目附へ相届候由三浦  
を申来其段大年寄へ申達候

一右ニ付目明共昼廻り相止受廻り致候様申付置候所今夕々相止平日  
之通取計候様孫八江申付候

一牢内御繕書三浦を以大目附へ指出候

一柳土手水門唐戸損洪水之砌致難義候由先年々度々申立候得共不埒  
明候ニ付三浦土を以大目附へ催促申達候

一目明取扱一件ニ付松岡治部助を大年寄役場ニ而年々六拾匁ツ、勘  
弁を為指出非人江指遣度候間右出方考申付候様被申聞大年寄へ申

付置候処外ニ出方考も付不申候間関貫番賃銀并大破家修覆料之内

ノ取欠き可指出哉と弁書指出し三浦を以松岡治部助へ差出候

一人馬問屋ニ而他所先触之誰人ニ不限人馬御定賃錢ニ而指出し当所

御家中自分先触ハ相對取計ニ致候定甚不筋ニ付相札候様松岡治部

助申聞日記等相札候処安永十年九月御用番中へ伺先触を以公私之

差別相定候趣下方ヲも相札候処其節紛敷義多有之矣ニ無余義趣ニ

而先役守助申付其以來ハ入用格別減少いたし最早年来行届懸り居

候事ニ付矢張此儘被指置候様ニ弁書を以松岡治部助へ三浦ノ指出

候

一牢屋不埒一件附紙を以下リ再考候様被仰出候

一元魚町繰屋善兵衛妻八十日之願ニ而四国罷出候所同道之内足痛仕

候もの有之ニ付今三十日計日延願指出し承り届六月四日帰

一坪井町北側ニ而草津屋庄兵衛持分之家屋敷表口六間半裏行拾七間

但式軒役也西隣ハ福恵屋胡治東者南北通り筋也右家屋敷之内表口

六間半裏行拾間但壹軒式歩役添式貫式百目ニ相極町内餉柄屋吉右

衛門へ売渡且又右家屋敷之内裏行七間ニ八歩役相添代銀札壹貫

目ニ相極町内鮎屋理右衛門へ売渡願書差出承り届同廿日売券状

出ス

一東田辺村山方作右衛門方へ四月廿六日盜賊這入衣類九品代積四拾

五匁八分計之もの盜取候触流取計候様大目附ノ違有之候由三浦ノ

相廻り町触取計本書ハ三浦へ差戻候

一東田辺村原方治右衛門方へ四月廿五日盜賊這入衣類三品代積拾式

匁三分計之もの盜取候触流右同断取計

五月十九日 快晴

一加茂川ニ流死人有之候ニ付郡代所へ申談人相書を以町触取計候様

御用番中ノ紙面ニ而被仰出町触取計候

五月廿日 快晴

一御用番中ノ昨夜押而罷出候様申来罷出候所船出入内濟懸合之義段

々思召被仰出其段蔵合孫左衛門呼出し申達候

一加茂川流死人之義町方へ人相書を以相触候所町分ニ心当り之もの

無之旨大年寄申出候付其段御用番中并郡代所へ紙面ニ而申達候

一林田町山形屋伝左衛門後家悴才之丞義去ル十六日夕致出奔候段届

書指出例之通百日尋申付候

一河原町髪結万吉義五年已前博奕参会之義ニ付致出奔右髪結株之義

同人父又平と髪結頭船頭町伊八と出入ニ相成双方届書并答書と指

添大年寄指出内々相調候処伊八取計至極尤ニ付又平呼出し致出奔

候得者株ハ夫切ニ捨り候筈之処無理成義申候段叱置伊八江者兼而

取計宜候間見込通ニ取計候様可申達旨大年寄共へ内々及指図候

一安岡町江川屋六兵衛義先達而牢舎中質置候由穢多新蔵申口ニ付相

札候様被仰出大年寄共ニ札申付候所弥相違無之旨口書取指出候

一牢浚申付候所無別条段藤蔵為治申出候

一牢舎人新八丈兵衛鉄蔵右三人双方ノ休菓申出候

五月廿一日 快晴

一牢舎人幸十郎療治二廻り相濟休菓双方ノ申出候

一大目附廻状到来

敦之助様御義御病氣之処去ル七日御逝去被成候ニ付今日ノ廿

三日迄三日之内鳴物停止被仰出尤普請ハ不苦候

右御触写取町方<sup>并</sup>組中へ指出候

一 牢屋不埒一件御裁許伺ニ付番庄屋長名之義大目附<sup>ル</sup>尋有之孫八<sup>ル</sup>穢多頭九郎右衛門ニ為聞糺昨日十郎左衛門迄指出置候

一 三浦志摩守殿通行之節問屋入用三拾四匁五歩式厘有之候段小手形指出及克指戻候

一 御城代組大畑勘助妹義林田町宇田屋和七妻ニ引受度人別入願大年寄指出し承り届<sup>庚</sup>申七月二日離縁

一 林田町加賀登屋六之助借屋住作文藏家内三人柴田由郎長屋<sup>江</sup>引越度人別除願承り届

一 上紺屋町牢舍人新八下女義坪井町沢野屋ニ質物置候湯肩受返し度願差出承り届

一 新魚町三巴初五郎義相撲為修行小野川齊助方へ百日計之逗留<sup>ニ</sup>而罷越度願承り届尤才助義大坂住也八月十一日帰

一 牢舍人穢多十四郎苗植付所相尋度旨申出候ニ付昼廻り文藏又六立合承り糺候様申付候

五月廿二日 曇

一 備前大庄屋左近左右衛門<sup>ル</sup>蔵合孫左衛門方へ昨夜飛脚を以申越候

<sup>者</sup>河西村弥太郎義塩積登<sup>セ</sup>候処爰元東新町並屋忠兵衛方へ付込候由船頭共<sup>ル</sup>忠兵衛へ承り候得<sup>者</sup>生野より御頼<sup>ニ</sup>而被仰付候由<sup>ニ</sup>候

処弥相違無之事哉承り度旨申越候段昨夜申出候ニ付飛脚へハ受取書相渡指返し従是可及返書旨可申遣旨及差図置右返書下案相認指

添出候様申付置候所指出候ニ付少々致添削御用番中へ紙面<sup>ニ</sup>而指

出伺置候

一 吹屋町吹屋八左衛門新職場煙出し之板少々ふすほり候処新魚町<sup>方</sup>やか間敷申壁を傷龍吐水杯仕懸ケ職場へ水を掛候故吹も相止候由

尤ふすほり候処<sup>江</sup>者一向不懸見当違之事<sup>ニ</sup>而騒立候得共吹屋<sup>ニ</sup>而新職場ニ不限ケ様之義ハ間々有之義ニ候得共兼<sup>而</sup>新魚町<sup>方</sup>やか間敷申候所故幸ニ可願立杯と申趣ニ付六郎左衛門善左衛門即刻罷越

見改候処右之通ニ相違無之ニ付以來煙出へ用水等上ケ置吹仕候節

ハ人啞人ツ、上ケ置候様申付候て可相濟段伺出候付其通宜取計候様及指図候且又昼廻り新治左五兵衛も廻り懸り見改候処右両人申

出候通少も相違無之旨ニ付承り置

一 牢舍人清蔵着物之袷をはつし<sup>サツ</sup>替ニ捻添四尺計と五尺計之繩を二筋拵牢外ニ有之候手幕を引取候様子を番子□□□村佐平治と申もの

見付届出候ニ付早速取上ケ候段加人十四郎届出候右佐平治と申者ハ<sup>ニ</sup>而堅固成もの<sup>ニ</sup>而ズリ之義も嚴敷被仰付候様度々心付申出候

段十四郎申出候

一 牢番穢多之番庄屋ハ一々難相分旨一昨日郡代所迄申遣置候処相分候程成候も遂吟味御裁許伺候様大目附<sup>ル</sup>申来候段十郎左衛門<sup>ル</sup>通

用有之向方<sup>ニ</sup>而被相糺候様懸合候得共是非此方<sup>ニ</sup>而相糺候様三浦<sup>ル</sup>申来一々日限書取右之日番庄屋相勤候穢多ハ誰々ニ候哉名面書

出候様穢多頭へ可申付旨孫八<sup>江</sup>申達ス

五月廿三日 曇

一 御用日之処自分義未相勝候ニ付当病断<sup>并</sup>御用向三浦<sup>江</sup>頼遣ス

一 御代官柘植又左衛門殿支配所備中浅口郡阿賀崎<sup>新</sup>田村菅田屋彦四



郎弟好藏義林田町山本屋与三七養子ニ引受度人別入願御用番御聞  
濟ニ付大目附へ指出置候段三浦方申来御聞届申渡候翌申八月廿八  
日離縁

一 備前和氣郡和氣村勘兵衛娘義橋本町吉見屋義助妻ニ引受度人別入  
願右同断取計濟六月十八日住宅証文差出

一 三浦志摩守殿領分真嶋郡本郷村百姓喜助倅嘉兵衛義二階町河本屋  
清助養子ニ引受度人別入願右同断取計濟同廿六日住宅証文指出ス  
一目明取扱一件松岡治部助附紙ニ又々致附紙三浦を以同人ニ指出候  
処大年寄共初ニ指出候御金四貫目拝借被仰付候ハ、町方工面銀年  
々拵可申と申考書又々指出候様申来三浦迄指出候

一 町方宗門帳案紙宗旨奉行の相廻候由ニ而三浦の相廻り例年之通大  
年寄へ相渡候

一 御用番要人殿の河面村弥太郎塩之養生野の頼来候書類指出候所無  
程孫左衛門の左右衛門へ之返書下案ニ御附紙被成其通申遣候様被  
仰出候ニ付其段孫左衛門へ申達候尤右指出候書類不殘一緒ニ戻リ  
候

一 銀札場奉行清水覚右衛門の錢拾三箇川下ケ申来奥書取計候

一 役所付出火之節之昇竿損候ニ付御作事へ為持遣新ニ拵候

一 東新町飯綱屋石右衛門倅弁吉と申もの百間藪箒盜取候由林田村庄  
屋伊ハの町役ニ届置候上ニ而届書指出候段郡代所の相廻り即刻呼  
出候処今朝の行衛不相知候段申出右者昨日庄屋の町役ニ届置候所  
取逃甚不埒之義ニ付今日中ニ是非ノ尋出候様敷敷申付候処夜ニ  
入未得不尋出候旨申出重々不埒之義ニ付右弁吉親石右衛門ニ庄屋

の懸合候町役兩人右三人ニ今日三日之内ニ不尋出おいてハ右三  
人共急度御咎申付候間是非ノ尋来候様敷敷申付其段郡代所ニも  
及通用候処向方ニ而者相届候由申来候ニ付右之段御用番并大目附  
へ相届候

五月廿四日 快晴

一 船出入内濟懸合来候節之心得并濟口一札御用番中御差図之通相認  
藏合孫左衛門指出紙面ニ而御用番中へ指出候

一 牢舎人穢多太助病氣申出大年寄へ申達候処藤木良全へ申付候六月  
二日休業

一 溝見分昨今例年之通申付孫八新治藤藏六郎左衛門喜左衛門兩日相  
廻り候尤少々之申分追而書付出候筈也

五月廿五日 晴

一 牢屋本琳寺境之壁損候届書植月十四郎差出追而之御用日迄ハ難差  
延趣ニ付紙面ニ而大目附へ指出候

一 茅町麩屋元治義備中倉敷百性政吉方へ十日計之逗留ニ而明廿六日  
罷越度願大年寄承り届差出候六月九日帰ル

一 河原町岡野屋伝右衛門後家田畑公事引合有之候ニ付明後廿七日九  
時指出候様郡代所の申来大年寄へ申達候

五月廿六日 曇 晴

一 東新町飯綱屋石右衛門倅弁吉義尋申付置候処昨日迄ニ而三日相濟  
候へ共未得不尋出候ニ付今五日之日延願申出候ニ付承り届其段御  
用番并大目附へ相届候

一 牢舎人利左衛門病氣申出大年寄へ申達候処吉武祐三へ申付候

一大目附松岡治部助る昨日三浦十郎左衛門を以盗人締方ニ付目明共取扱方左之通ニ被相伺候付下方取計之義故大年寄共江も為見存寄も承り候而も可然旨ニ而左之通三浦ハ被相廻候

先達而被仰出候盗人締り方之義ニ付目明共取扱方之義追々

申談候処別紙之通りニ御座候兎角取扱も六ヶ敷御座候間先

此節左之通り程ニ取計可申哉郷中之義ハ先達而郡代ハ申出

候趣尚申談候得共指当り此余取計心乗り不申候ニ付先右之

通ニ而可然様奉存候

一目明兩人共為手当役中旅籠屋指免候事

但忝人ハ是迄自力ニ而いたし候得者右持株手離候共其儘

相用候共勝手次第之事

一右兩人江忝ヶ年式百目ツ、指遣し可申事

但目明相応之人物出来候ハ、其砌今忝人可申付右之節者

忝人江百三四拾匁之手当ニいたし三人江遣し可申事

一目明加人申付候節ハ仁物次第ニ而一日雇賃忝匁五分ハ品ニ

る式匁三匁も遣し可申事

一非人共三四人江忝ヶ年拾五匁ツ、手当いたし置可申候事

右前文ハ指除一打以下之ヶ条程大年寄へ為見候様ニと申義ニ付昨

日相渡置候処大年寄并諸吟味拜見仕候処何れも何之存寄も無御座

故障之義も有御座間敷旨六郎左衛門申出候付其段三浦十郎左衛門

へ申遣右書類不残指戻候

五月廿七日 快晴

一坪井町北側南北横町ニ而鮎屋理右衛門家屋敷表口七間裏行六間也

但八歩役也南隣ハ鮎柄屋吉右衛門北ハ上紺屋町堺也右家屋敷小田中權七取次ニ而質物ニ書入銀札壹貫目三割六年賦ニ相極当未年ハ子年迄毎年三百匁ツ、返済可致届書指出承り届ル同日本証文指出ス

一二階町組屋忠右衛門所持之自国受酒株去ル已五月ハ坪井町万屋佐

助借受商売仕候処年限来候ニ付尚又当未六月ハ来ル戊五月迄三ヶ

年之間借受商売仕度追願承り届玉五月晦日追願承り届

一西今町庭瀬屋佐助悴庄五郎義御領分東北條郡百々村市左衛門方へ

養子ニ指遣度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

五月廿八日 晴

一御用日之処自分義未相勝依之当病断并御用向三浦十郎左衛門江頼

遣候

一賈銀札并遣人御裁許伺并賈銀預り人并木山宮廣神札配り御裁許伺

三浦を以御用番中へ指出候

一穢多共義半番者勿論都而御用向相勤候節森家以来被下物無之無給

ニ而相勤不便之義ニも有之仍而者牢屋不締之基ニ相成候様ニ相考

候ニ付郡代三浦十郎左衛門と申談以来者五合ツ、歟又ハ式合半ツ

、被下候様仕度弁書郡代兩名ニ而御用番中へ十郎左衛門ハ指出候

一於御用所大目附出席御用番中ハ左之通被仰渡有之候由三浦ハ通用

有之候

町奉行江

一無宿盗人長藏義五十敲御領分追払

一元魚町松屋源蔵弟義助義五十敲之上御領分追払

右之通取計可被申候

一 無宿者指置候御咎段取去ル十三日伺済ニ付同十八日兼而伺済之三  
与蔵万五郎清蔵懸リ合之もの御咎今般之例ニ可取計旨伺置候処今  
日伺之通取計候様被仰出候旨三浦方申來候

一 牢舎人福渡町竹尾屋猶兵衛義三月廿六日外科願出候所其節先例取  
調候処旧例不相知近例ニ任セ御評議之上ニ而竹田宗輪罷出相濟候  
得共猶又旧例遂吟味候処左之通触書扣ニ有之

寛延二己九月町触写

町惣医師へ申渡

兼而牢内病人有之節者町医師へ申付療治致來ニ候然ル所内  
々ニ而者取々申ケ様成類ニ者町医師之様子ニより療治不致  
様ニ申候旨粗相聞候奉行所ニ無之格を下として其段申合候  
事甚不調法成義ニ存候向後者順を立置町医師之分御目見之  
者たり共一統ニ申付候間右之段可相心得候

一 上々様方御脈調候医師之分不及申決而相除候事此

段ハ及口達候

一 御ふちかたニ而も被下候町医師之義ハ相除候事

一 御目見医師之義者病人之人筋方又者病氣之様子ニ其節ニ

至而奉行所方可及指図候先ハかはひ置可申事

右之趣本道外科針医迄堅可被申渡候以上

己九月

太田定右衛門

大年寄中

療治致候得者物入も可有之事ニ候間其品ニ応し藥種料とし

て奉行所被遣候趣ニ候此段可及口達候

右触書御用番中へ指出相伺候処段々思召も被仰出候得とも右触書  
難解文段も有之難相決ニ付左之通伺書先日指出置候処以來伺之通  
ニ取計候様御用番中へ被仰出「三浦十郎左衛門方通用有之候

御目見<sup>五</sup> 医師牢屋療治之義當時之達「相認奉伺候様被仰出  
奉畏候処別紙以前之触」前後兩端其上不解文段も有之初を  
取用ひ候而も末を取用ひ候而も以前之趣意とハ違可申當時  
新法を申付候事ニ相成如何ニも奉存且又以前之全文を相違  
候而ハ兩端之事故下る尋出候節難及答此段疑惑仕候以前之  
文段を察候処晦日十日者致用捨置候得共病人之趣ニ寄候歟  
又ハ指支候節者指遣候と申趣意ニ而も可有御座候得者當時  
改而觸為知候ニも及間敷右之段役筋ニ而兼而心得居指支候  
節者申付指遣候以前方之御定當時ニ而も右之御定と心得罷  
在指支之節右之通取計候ハ、改而触達候ニも及申間敷哉ニ  
奉存候間此段奉伺候已上

五月十八日 増見右門

右之通伺済ニ付右書面大年寄へも為心得為見置候

一 牢舎人着物出入伺出承り届

五月廿九日 快晴

一 関貫番賃銀例月之通相渡候

一 牢舎人義助面部ニ腫物出難義ニ付外科願出大年寄へ申達候所藤木

良全<sup>五</sup> 申付候段届出候

一 盗人義助研屋万兵衛方ニ而盗取候単物新田村伊三郎方取上ケ郡代

所より相廻り受取候

六月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 伊達与吉郎

大年寄 蔵合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

六月朔 戊子 旦 曇 昼後晴

一大目附安岡町万屋万吉下女ニ申分有之候ニ付当月中頃焼打ニいたし候段先月廿六日張紙有之由ニ被相廻り置本書ハ指戻内々大  
年寄共へ遂監察候様申達候

一先日追々伺済之盜賊清蔵万五郎長蔵義助義明二日敵払可取計ニ付例之通立会御徒目付下目附被指出候様大目附へ相届候

一右取計ニ付同心組不足候間加人四人  
大目附へ申達候  
堀田伴蔵并 汲兵四郎松永市三郎中村栄治来

一右同断ニ付牢屋下番中間式人ニハ致不足候間加人  
大目附へ申立候

一右同断ニ付下役大脇新左衛門へ御貸人中間  
大目附へ申立候

一右取計手配并穢多共之再吟味明二日引続可取計ニ付其旨新左衛門孫八江申付候  
尤穢多人足も指出置候様申達候

一右盜賊清蔵万五郎長蔵義助引合之もの共明二日可申渡間大年寄宅江呼出し置候様名面書指紙指遣候  
尤万五郎妻ハ牢屋へ出候様申達

一牢舎人義助腫物出来候付義助番子相頼膏藥指越候様食持を以宿元江去ル廿六日申遣候  
由右番子名面不相分候付名面申出候様小頭

ハ穢多頭へ申付候所□□村穢多勘治と申もの、由口書認差出候得共猶又可遂吟味ニ付明六日五時牢屋へ被指出候様郡代所へ及通用候

一明二日取計ニ付同心組役割小頭左之通指出

当番 藤蔵 又六 昼廻り 文蔵 市三郎 夜廻り 左十郎 牢屋吟味場 百蔵 又六 左五郎兵衛四郎 兼士 兼治

一安岡町大坂屋宇八東新町岩屋文蔵義貸銀濟口申渡候付明二日四時指出候様郡代所へ申来大年寄へ申達候

一元魚町南屋孫三郎母義二月廿日出立ニ而四国遍路罷出候所土州ハ足痛仕候段申越候間孫三郎義四十日計之逗留ニ而明二日立ニ而迎

ニ罷越度願書大年寄承届指出七月六日孫三郎母召連罷帰候段届出

候

候

一三町目南屋利兵衛母義右同断ニ付利兵衛義迎ニ罷越度右同断願書  
大年寄承リ届指出ス七月三日罷帰

六月二日 朝曇 昼後晴

一牢屋取計為立会下役書役兼大脇新左衛門小頭三船孫八部屋目附三  
船新治出番小野田為治川端左五兵衛加人御使組福田伴蔵井汲兵四  
郎御徒目附藤田弥治兵衛下目附和田清右衛門立会左之通新左衛門  
申渡候

百敵之上

御領分追払

但万五郎家賊欠所

五十敵之上

御領分追払

右御徒目附下目附立会取計候

御領分追払

御領分立去リ

右於牢屋取計候

一右盜賊懸り合之もの共左之通大年寄於宅小頭孫八部屋目附兼申渡

無宿立帰リ盜賊

清蔵

上紺屋町盜賊中津屋

万五郎

無宿盜賊

長蔵

元魚町松屋源蔵弟盜賊

義助

無宿盜人元横山之者

市之丞

上紺屋町中津屋万五郎

妻

無宿盜賊清蔵懸り合之もの

小性町作人

弥四郎

下紺屋町一文字屋

市六

新魚町作人

源吉

同人

組合

同人

年寄

小性町瓜生原屋

平吉

元魚町灰屋

佐右衛門

上紺屋町万五郎懸合之もの

同町恵美須屋

太郎作

同人 組合

同人 年寄

同町太郎作悴

庄兵衛

追込七日

追込三日

追込七日

追込五日

追込七日

叱

追込三日

追込七日

追込三日

急度叱

右同断

橋本町柳屋

太七

急度叱

同町野田屋

六郎太夫

無宿盜賊長藏懸り合之もの

伏見町作人

元魚町松屋源藏弟義助懸合之もの

追込七日

源右衛門

船頭町伝兵衛娘

同人

叱

徳

追込三日

組合

無宿三与藏懸り合之もの

同町

新魚町足守屋

叱

年寄

追込三日

文治

二階町杵築屋

△右中津屋万五郎欠所ニ昼廻リ文藏加入市三郎指出候所百四

追込三日

吉助

品有之書付差出候

右同断

桶屋町大坂屋車場

△右長藏懸り合伏見町源右衛門組合之内忠七と申もの当時新

伝七

職人町へ引越居候ニ付新職人町を呼出し申渡候由大年寄を

同町大坂屋

届出候

叱

彦市

△右同町年寄源右衛門義川下へ参居候付帰候上可申渡旨大年

戸川町作人

寄届候

急度叱

伝助

右取計相済候段御用番并大目附へ紙面ニ而相届候

同町作人

一右取計相済引統於牢屋牢舎人番子穢多共不埒再糺取計候様申付大

追込五日

弥七

篠村周藏山北村藤助□□村穢多勘治郡代所を牢屋へ被指出引合遂

安岡町作人

吟味候但出番百藏栄治

急度叱

喜右衛門

一牢舎人初太郎熊吉吟味ニ付呼出郡代所を申来候ニ付出役新左衛門

新魚町樫野屋

へ申遣候

追込五日

茂一郎

一牢舎人穢多太助快気ニ付休薬双方を届出候

一三船孫八妻女子出生之段仲ケ間之者ル届出候ニ付早々引取候様當番より孫八江申達候

一新魚町檉野屋友助義今日町作庄屋ニ付郡代所へ呼出候処父茂一郎

追込被仰付候ニ付伺出候間御用向計ニ者罷出候様及指図

一町触左之通指出候

無宿者ハ勿論之義他国他領もの無願指置候義者御法度之処

近來不埒成ものも有之ニ付今般咎申付候以來者弥堅相守友

致吟味一ケ月ニ一兩度ツ、組頭ル相改年寄方へ可申出候

一牢舎扶持二月ル五月迄之仕切証文指出奥書取計候尤殘米壹俵壹斗

三升五合有之

一右同断六俵内貸証文差出奥書取計候

一河原町岡野屋伝右衛門後家口書印形申付候間指出候様郡代所ル申

來申付候処不快之旨申出押而罷出候様申付罷出ル

一牢番加人石井金治不快引込届出右代野田数右衛門罷出候

一東新町飯綱屋弁吉義弥行衛不相知候段届出候付左之通申付ル

飯綱屋

組合預ケ

石右衛門

同町年寄

禁足

鋼屋宗兵衛

肥後屋長左衛門

一牢番預ケ初太郎義入牢指紙郡代所ル相廻リ認かへ当番又六指向入

牢取計候

一安岡町大坂屋宇八ル竹田村孫惣江借物滞東新町岩屋文蔵より吉見

村字八江借物滞三十日限り済口申付候由郡代所ル通用有之

一大目附中ル申來候安岡町万屋万吉下女ニ申分有之焼打ニいたし候

張紙之義監察申付候処先日迄召仕候下男下女ニ訊等有之候由之処

右下男暇差出候旨先達而之万吉妻之義ニ者無之旨大年寄申出候間

右下男名所相札申出候様申達候

一前訓町講尺先月廿六日ル相始今日迄ニ相濟候段喜左衛門ル出席指

出及一見差戻候

一下紺屋町智教坊例年之通祇園ニ付七日ル十四日迄御戸開除疫祈禱

相勤度尤智教坊忌中ニ付常宝院ル願書差出承り届ル

一今日牢屋吟味左之通尤大笹村周蔵□村穢多太吉八子藤助□村穢

多勤治右四人引合有之ニ付被差出候様先日郡代所江申遣置今日四

人とも罷出候

右之もの共再糺

又々口書取之

周蔵勤治義ハ不埒有之ニ付

預ケ被申付候様郡代所へ申遣

大笹村

周蔵

□□村穢多

勤治

福渡町竹尾屋

猶兵衛後家

牢舎人

鉄蔵

右同

府右衛門

山北村

此もの兩人先日鉄蔵申口ニ而

引合有之ニ付郡代所へ申遣呼

藤助

出し候処今日之吟味借ニ而ハ

□□村穢多

引合無之ニ付不相糺其儘指戻候

太吉

一 盜賊長藏盜もの預り居候もの共車場伝七杵築屋吉助戸川町伝助夫々差出明日可相渡事

一 船出入内済為懸合塚角村横部加賀守一昨廿九日之晚藏合孫左衛門方へ来右出入内済取扱度同人宅を宿として備前大庄屋李右衛門へ孫左衛門為致対談度之旨孫左衛門罷出候日限申遣候得者李右衛門義ハ直ニ罷出候積ニ候旨申聞候付何分得と相考從是書中以歎又ハ訳立候ものを以歎可及御返答旨及挨拶置候由勿論加賀守ハ直ニ罷歸候由然ル処孫左衛門考ニ者相察候処孫左衛門と李右衛門とハ兼而荷割之懸合も有之候事其所へ戻し為懸合候又右衛門手段と被察勿論當時論中と申ニも無之先ハ落着之姿ニ候所へ役懸リ之もの懸合之筋ニ無之故極野ヤ茂一郎を近日指遣右之旨を以及断井下方之懸合ハ如何様とも可相成先日丹右衛門と申者来候事共茂一郎を為咄出又々丹右衛門懸合ニ来候様為致度旨伺出候付昨夜要人殿江罷越候処御留主ニ而不及其義今夕又々罷越委細ニ申上候処得と御承知ニ者候得共右大意認出候様被仰出候ニ付其段孫左衛門へ申付候

六月三日 曇 晚少雨

一 御用日之処自分義未相勝例之通三浦へ相頼候

一 船出入ニ付塚角村横部加賀守懸合之趣昨夜申達置候通今朝藏合孫

左衛門認出候ニ付紙面ニ而要人殿江差出候

一 牢番加人植月十四郎引込ニ付河村新吾罷出候

一 二町目綿屋藤吉借屋住山崎屋勘兵衛義横山村分於大川筋船車四擗

白仕度願郡代所へ引合候所故障之義無之由ニ而同人ノ御用番中へ被差出候処御聞済ニ付大目附へ指出置候段申来御聞届申達候

一 坪井町ニ而鍛冶町川口屋喜七持分ノ借屋住大納屋嘉兵衛夫婦悴吉五郎喜十郎右家内四人三浦志摩守殿領分当国真嶋郡勝山河内屋八兵衛方へ引越度願右同断取計済

一 東新町飯綱屋弁吉一件御裁許伺三浦を以御用番中へ指出置候

一 郡代所ノ牢舎人初太郎呼出申来出番為治藤藏指出出入取計候

一 火札張候付安岡町万屋万吉方ニ召仕候下男伯州ものニ而壹兩年奉公ニ来居湯田町仁兵衛宿井受人之由申出候付内々目明ル相糺候様

新治申付ル尤八九才ニ而万助と申ものノ由ニ候

一 郡代所ノ帳外吉兵衛と申もの吟味中牢番預ケ申来藤藏取計候

一 二階町常宝院兼住所不動堂井鎮守疱瘡守護神江例年之通来ル七日ノ十四日迄除疫護摩執行願書指出承り届

一 祇園会ニ付来ル七日ノ十四日迄二階町北関貫四時迄開置月行事付置候段例年之通届出翌四日御用番井大目附へ相届候

一 中之町茶屋孫三所持之家屋敷南側ニ而表口三間裏行拾七間但半役也西ハ横町通り東隣ハ粟井屋茂市也右家屋敷町内大笹屋新兵衛取次ニ而四百匁之質物ニ書入一ヶ月一步半之利足ニ而来申六月切ニ

借用仕度願書承り届同七日日本証文差出文化二乙丑年十一月請返一橋本町東側ニ而庭瀬屋喜助家屋敷表口式間裏行拾式間但半役也南隣ハ作人茂兵衛北隣ハ疊屋文右衛門也右家屋敷代銀三百匁ニ相極伏見町作人幸助江売渡度願承り届同七日売券状差出候



一 牢番内田山七義大篠村周藏差口之義有之呼出し於玄関新左衛門新治立会相糺口書下ケ札取計候

一 盜賊長藏義助盜もの吹屋八左衛門桶屋庄吉研屋万兵衛へ相渡候

一 上紺屋町盜賊中津屋万五郎欠所道具入札取計候様大年寄へ申達候

一 三船孫八義血忌指免候間明日の出勤候様切紙差遣候

六月四日 白雨

一 借牢人長敷もの「損候処申遣候」も宿元を不差越候旨申出郡代へ申達候

一 郡代所より昨日申来候者 太田村吉兵衛と申もの盜賊引合に付被相糺

候処右吉兵衛義八元者 元魚町人別之ものニ而 当時帳外に相成候処

妻子ハ茅町人別之由申口ニ付相糺候様申来為相糺候所吉兵衛申

口之通相違無之旨茅町作人藤助元魚町佐伯屋庄吉戸川町吉田屋太

助口書取指指出候ニ付郡代所へ相廻候

一 西新町備前屋市右衛門より右吉兵衛より質物取置候段届書指指出「盜も

のニも可有之ニ付郡代所へ相廻候

一 円宗寺村庄屋文右衛門弟新五郎義鍛冶町山形屋宗兵衛養子ニ引受

度人別入寺下方引合相濟候段申出承り届 壬戌年二月廿五日離縁承

り候由

一 備前竹内又右衛門より昨日昼後飛脚指越川西村弥太郎義並屋忠兵

衛へ塩預候義弥生野より頼来候義哉実否承度旨申越候ニ付弥其通相

違無之段返書下案相認指添相同候処松岡治部助へ主膳殿被仰達候

所同人存寄有之生野より之来書 非 弥太郎願書写も不殘相廻し忠兵衛

義不埒有之候得者 咎「 外有之間敷旨并書指指出其旨取計候様御

用番中より被仰出候ニ付治部助存寄ハ趣意違ニ付其段并書を以御用

番中へ申上候所直ニ治部助へ被相渡候由右并書ニ治部助致附紙直

ニ拙者方へ相廻し御用番中より申談候様申来候由ニ而 猶又附紙ニ而

相答候様申越拙者存寄ハ以外氣ニ不入趣最早否難申越ニ付強ニ而

存寄無之旨相答候所無程御用番中より強ニ申候存寄共不相聞候間治

部助存寄通ニ及返書候様再応被仰出不得止事御請申其通返書申付

置候得共余り手違ひ之義ニ付要人殿ニ不快中ながら罷越愚意之趣

申上候所要人殿ハ右之訳抑より御存之義故尤之旨被仰聞左候ハ、明

朝主膳殿へ御対談可被成候間右返書相渡候義指延置候「御取計可

被成旨被仰聞候処無程主膳殿より備前江之返書今夜相渡候義ハ指延

置可申何分明朝御差函可被成之旨申来候

六月五日 快晴

一 左之もの共追込昨日迄ニ而 三日ニ相成候間今朝大年寄宅へ呼出し

差免其段御用番 非 大目附へ相届候

上紺屋町太郎作組合源右衛門同町年寄伊右衛門下紺屋町一

文字屋市六二階町杵築屋吉助伏見町源右衛門組合忠七仲太

郎治右衛門伊平次孝庵後家勘六坂屋車場伝七新魚町足守

屋文治同町源吉組合和助久太郎十吉

一 備前竹内又右衛門へ返書之義御用番主膳殿より生野より申来候文段返

書中ニ書込及答候ニ而 可然候間其旨ニ下案相認候様被仰出候ニ付

其旨取綴相同候処無程思召無之其通申遣候様御紙面ニ而 申来午ノ

刻過返書相渡飛脚之者指返し候

一 上紺屋町中津屋万五郎欠所道具明六日四時入札取計候付開封いた

し呉候様大年寄申出候ニ付昼廻り指出候様小頭へ申達候文蔵左五兵衛罷出ル

一帳外吉兵衛義昨日申出候通帳外ニ者候得共未除帳不相願不埒之ものニ而同人父戸川町吉田屋太助可引受筋之ものニ付今般之吟味筋ハ郡代所ニ而無遠慮被取計相濟候迄ハ一旦町分へ為引受咎可申付筋之ものニ付被指戻候様郡代所へ申達候且又吉兵衛妻子ハ茅町人別之ものニ付同町へ引戻候様大年寄へ申達郡代所ニも懸合置候一牢舎人吉兵衛初太郎熊吉吟味呼出し郡代所へ申来出番左五兵衛文蔵指向出入取計候

一越中富山船橋町松井屋源兵衛悴伊八同手代嘉七右二人例年之通反魂丹売ニ来候段京町美濃屋平五郎宿切手指出候翌申正月廿九日帰

六月六日 晴

一 一目明甚七義左裏仕役義難相勤退役願出候処押ニ而相勤候様ニ申達ス  
一 同人義孫召連金毘羅参詣仕度段小頭へ申出承り届同十三日帰  
一 備前船出入之義内濟仕度塚角村横部加賀守蔵合孫左衛門へ懸合候ニ付去ル二日之処ニ認置候通孫左衛門同書黒田要人殿へ指出置候処伺之通思召無之候間宜取計候様今日被仰出其段孫左衛門へ申達候

一 東新町松屋吉兵衛義太田村吉兵衛へ質物五品預り置候処同人義御召捕ニ相成候由及承右質物届書指出候郡代所へ相廻候  
一 東新町大崎屋吉助義押入村清蔵へ質物五品預り置候処右ハ太田村吉兵衛懸り合之もの之由在目明へ懸合候付右品書而通指出し郡代所へ相廻候

一 安岡町村永屋吉右衛門義四国遍路罷出度八拾日計之願ニ而明七日出立之願書承り届

六月七日 快晴

一元魚町灰屋佐右衛門新魚町樫野屋茂一郎戸川町作人弥七追込昨日迄ニ而五日ニ相成候間今朝大年寄宅ニ而指免其段御用番ニ大目附へ相届候

一 御用番主膳殿左之もの共同之通宜取計候様御紙面ニ而被仰出小頭孫八部屋目附藤蔵大年寄宅へ指向左之通申渡候

悴弁吉義先月廿二日林田 東新町飯綱屋

百間蔵筭盗取庄屋を指詰り置 石右衛門

候処取逃し不埒ニ付追込申付候 但日数七日

同町年寄

綱屋

右同断之旨庄屋共る相届来

宗兵衛

承知之上取逃し不埒ニ付

肥後屋

追込申付候 但日数三日

長左衛門

右取計相濟候段御用番ニ大目附へ相届候○弁吉義石右衛門ニ組合へ永尋申付置候

一 鍛冶町鍛冶屋喜平治義当国久米北條郡奥山手村下分治郎左衛門方へ当未年へ来ル亥年迄五ヶ年之間奉公ニ罷越度尤家役之義ハ町内鍛冶屋喜助引受相勤候段願書指出し承り届ル<sup>甲</sup>子正月十二日罷帰ル

一 祇園ニ付通り繁く御座候間元魚町北之関貫も二階町同様ニ四時迄

開立番付置度旨願出候由大年寄申出承り届置翌八日御用番并大目  
附へ相届候尤是迄例歳無之事候処今年初而願出候事也

一 下紺屋町一文字屋市六義当国真嶋郡乘水村高崎屋芳右衛門方へ当  
六月より申二月迄奉公罷出度尤家役之義へ鍛冶町桂屋鉄之助へ  
相頼置候段願書指出承り届翌申七月廿五日帰ル

一 二階町山手屋弥太郎家守富蔵借屋住市平義御領分勝南郡日上村九  
兵衛方へ引越度願下方引合相濟候段申出承り届

一 河原町作人ふさ役介うた義御領分東南條郡林田村惣助妻ニ差遣度  
人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一 三丁目浜野屋源五郎義備前岡山久山町松原屋丑松と申もの弟ニ候  
処病氣申越候ニ付為見廻廿日計之逗留ニ而明八日出立之願差出承  
り届

一 御領分西々條郡二ノ宮村百姓茂市倅半治義安岡町菱屋太助後家養  
子ニ引受度人別入願承り届翌申九月廿八日離縁

一 御領分西々條郡二ノ宮村百姓伝治娘義安岡町鍛冶屋五兵衛倅三治  
妻ニ引受度人別入願下方引合相濟候段申出承り届

一 帳外太田村吉兵衛妻子茅町作人藤助方へ引取候段届出候

一 祇園會式ニ付例年之通下紺屋町行燈指出候段大年寄届出承り置

六月八日 快晴

一 御用日之処自分義未相勝候ニ付当病御断并御用向三浦へ頼遣

一 松平相模守殿領分因州八東郡谷村与三兵衛倅道兵衛夫婦二人中之

町福井屋養蔵引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ指出置候

段三浦より申来候ニ付御聞届申達候同十三日住宅証文差出

一 因州八上郡池田村利吉一人新職人町白銀屋岩治引受度人別入願右  
同断取計落右同断

一 米懸合問屋先年相願仕居候所勝手を以当分相止居候得共又々相始  
度願書米中買字兵衛太兵衛兩人の願書差出日記相調尚又大年寄共  
手前も為相糺候所先年相休候訳一向不相知然ル所右懸合等いたし  
候得者米直段も引上ケ候様ニ可成行道理ニも相考此節米価下直と  
も難申故人氣ニも障り可申哉と存大年寄諸吟味共存寄も承り候所  
強而障ニも相成候義も有御座間敷人氣不穩趣有之候得者早速相止  
候様被仰付候得者可相濟義と何れも申候ニ付其意味合委細ニ申上  
相伺候処御用番中御聞濟ニ付右同様取計候由三浦より申来候ニ付御  
聞届申達候

一 船出入内済一札草稿差出伺置候所少々御添削ニ而主殿殿の相戻候  
一 價銀一件御裁許伺思召被仰出候由ニ而大目附の被相渡候由三浦の  
相戻候ニ付右妻子共明九日九時呼出し夫々手配申付置候

一 上紺屋町盜賊中津屋万五郎諸道具欠所入札申付置候所三通差出新  
左衛門新治大年寄立会遂開封候処志か内屋新七田原ヤ左助姫路屋  
文助紙屋伝吉拾九匁七分六厘高札ニ付相払候様申付ル

一 二町目福永屋藤助義雲州大社ニ參詣三十日計之逗留ニ而明九日出  
立之願承り届同廿九日帰ル

一 東新町岩屋文蔵の加茂八代村庄屋利兵衛へ百五拾匁借銀且又同人  
義加茂百々村安右衛門清蔵又兵衛へ百匁之貸付且又同町わらや与  
七の綾部村八兵衛へ貳百匁之貸付相滞致出訴右之通先達而郡代所  
ニ相廻し置候所今般公儀被仰出通質物無之借物出入御取上ケ無之

ニ付右願書指戻候由申来大年寄へ相渡候

一牢舎人丈兵衛病氣申出大年寄へ申達候所藤木良全へ申付候段届出候

一孤独扶持八月迄之分百九拾七匁九厘毫真北類蔵る指越大年寄へ相渡候

六月九日 快晴

一無名箱訴菅通右<sup>者</sup>芝居有之候得<sup>者</sup>困窮之基ニ相成風俗乱候と申義相認候訴状大目附中<sup>る</sup>被相渡候由ニ<sup>而</sup>三浦<sup>る</sup>相廻り候

一新魚町作人源吉小性町瓜生原屋平吉上紺屋町恵美須屋太郎作同人倅庄兵衛橋本町柳屋太七伏見町作人源右衛門右六人追込昨日迄ニ

而七日ニ相成候間今朝大年寄宅ニ<sup>而</sup>指免其段御用番<sup>并</sup>大目附へ相届候

一船出入内济等相整本片着ニ相成候ハ、番船ニ申付候ハ、締り行届

可申哉ニ何れも相考罷在候所■黒田要人殿右アリ方考有之候ハ、丹後殿御出府無之内ニ指出候様被仰出候ニ付右番船ニ取計候義申

上候所其段認出候様被仰出其旨孫左衛門へ申達置右取調中孫左衛門風渡心付致番船候得<sup>者</sup>荒荷物相对積ハ決<sup>而</sup>成り不申他領船大指

支ニ相成又々争論之基ニ付番船ハ決<sup>而</sup>出来不申仍之檉野屋茂一郎姫路屋甚右衛門へ考直申付兩人<sup>る</sup>締方考認指出<sup>并</sup>孫左衛門考も船

指兩人正敷もの申付米大小豆荷割正敷取計候様ニ「目立様申付可然と存候由認出候付其段委細ニ紙面ニ相認要人殿へ指出候

一船出入内济一札草稿御添削之通孫左衛門へも為見候所存寄も無之旨申出候付於拙者も愚意無之勿論思召通之文段ニ<sup>而</sup>不致承知候得

<sup>者</sup>破談之覚悟之思召ニ候故何等之義相認候<sup>而</sup>も少も不厭義<sup>ニ</sup>者候得共右之御文段ニ<sup>而</sup>者決<sup>而</sup>内济相調申間敷と愚意<sup>ニ</sup>者存候旨紙面ニ<sup>而</sup>申上候要人殿へ指出候

一上紺屋町盜賊万五郎諸道具欠所落札払代拾九匁七分六厘大年寄<sup>る</sup>指出受取置候

一左之もの共九時<sup>る</sup>呼出し孫八藤蔵六郎左衛門喜左衛門新左衛門立会ニ<sup>而</sup>遂吟味候

福渡町白銀屋

賈銀之義存居可申相糺候得共 府右衛門妻

三人とも一向不存旨申候 同町 竹尾屋

口書印形取之候 猶兵衛妻

安岡町葉灌直し伊勢屋

弥助妻

一小頭三船孫八於宅萩野藤蔵立会左之通申渡候

昨八日昼廻リニ罷出所々ニ<sup>而</sup>自分用 石名左十郎

相弁牢屋見廻り等致忘却不埒ニ付 神田栄治

追込申付候 但日数三日

右兩人追込申付候付加人兩人被仰付候様大目附へ申達候処赤田平

次尾崎広助来

一牢舎人初太郎熊吉郡代所<sup>る</sup>呼出し申来昼廻文蔵為治昼番又六出入

取計候

六月十日 朝曇 快晴

一東新町年寄綱屋宗兵衛肥後屋長左衛門追込昨日迄ニ<sup>而</sup>三日ニ相成

候間今朝指免其段御用番<sup>并</sup>大目附へ相届候

一 牢舎人利左衛門療治二廻り相済未相勝候ニ付吉武修格へ申付候様届出候

一 孤独京町筆屋六郎兵衛義病氣指重り候段昨夜及深更大年寄る届出候付今朝病氣及見分部屋目附萩野藤藏差向候処別義無之一札<sup>并</sup>

容体書取帰り候処其後相稟候段大目附る届出取置候様申達又追<sup>而</sup>御用<sup>一</sup>之節可及御沙汰事

一 福渡町後藤道貞義林田上之町久七方へ引越度家屋敷之義ハ作人清四郎と申もの付置何角之世話ハ宮脇町淀屋巳之助相頼置候旨人別離願下方引合相济候段大年寄申出承り届

一 船出入内济扱之返答蔵合孫左衛門<sup>ら</sup>樫野屋茂一郎を以塚角村横部加賀守へ先頃来候挨拶<sup>并</sup>内扱懸合之義及断候返答申遣候応対茂一郎手扣指出候付要人殿へ指出候

一 堺町和泉屋幾三郎義野州日光山へ百日計之逗留<sup>ニ</sup>而参詣仕度尤来ル十五日出立之願大年寄指出し承り届十月十五日帰ル

六月十一日 時雨

一 牢舎人利左衛門母安兵衛妻義可相糺ニ付伊達右門太へ御達被下候様昨日大目附へ申達候処安兵衛義ハ独身之由右女ハ永田省賀長屋住<sup>ニ</sup>而請人預ケニ相成居候由大目附る申来候付左候ハ、永田省賀へ御達被下候様申遣候所永田省賀<sup>ら</sup>いつ可差出哉と仲ケ間を案内申来候付明十二日九時請人指添差出候様ニ申達候

一 牢舎人鉄藏病氣申出大年寄へ申達候所藤木良全へ申付候

一 播州網干余陸屋武兵衛一人例年之通八百屋物売来候段中之町小山

屋与三右衛門宿切手差出

一 播州網干丸尾屋六三郎一人例年之通荒物類塩物卸売来候段右同人宿切手差出候

六月十二日

一 新左衛門孫八新治立会九時<sup>ら</sup>呼出左之もの相糺候

牢舎人利左衛門母

利左衛門賈銀取扱之義

永田省賀長屋住当時受人預ケ

決<sup>而</sup>不存旨明白ニ申披

元伊達右門太長屋住安兵衛

口書取之候

妻

右受人

上紺屋町恵美須屋

清助

一 石名佐十郎神田栄治追込今朝差免候右ニ付加人兩人今日<sup>ら</sup>指戻候段大目附へ相届候

一 林田町常盤屋丈右衛門義撰州兵庫菜種問屋へ用事ニ付廿日計之逗留<sup>ニ</sup>而明十三日出立願出右抑<sup>ら</sup>約束之通大坂御番所之鑑札貰受度ニ付罷越候由也尤向方<sup>ら</sup>申越候義也右願書承り届七月七日帰ル

一 二階町山手屋理兵衛右同断願承り届ル七月六日罷帰ル

一 二階町山本屋周右衛門所持之自国受酒株去午六月<sup>ら</sup>京町野田屋佐右衛門借り受商売仕候指戻候届書承り届

一 二階町山本屋周右衛門所持之自国受酒株去未六月<sup>ら</sup>来申五月迄一ケ年之間東新町五明屋文吉借り受度願承り届

一 二町目福永屋栄三郎所持之他国受酒株去午五月<sup>ら</sup>安岡町鶴屋茂兵

備借り受居候所尚又来申五月迄借受度追願承り届<sup>申</sup>六月三日追願  
一元魚町武田勇吉所持之自国受酒株当未六月より来申五月迄吹屋町糶  
屋与七郎借受度願承り届ル申五月廿三日取戻候

六月十三日 快晴

一御用日登城自分義快方ニ付今日初<sup>而</sup>出勤いたし候

一西今町直屋永春役介利左衛門義札元武田<sup>■</sup>七郎兵衛養子ニ仕度  
願書指出し札元養子ハ先格御沙駄ものニ付申上候処御用番御聞濟  
ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一孤独京町筆屋六郎兵衛病氣見分一札御用所<sup>ニ</sup>持参去ル十日死去之  
旨及御沙駄大目附へ指出置死去之段申達<sup>并</sup>勘定奉行へも其段及通  
用置候

一三浦志摩守殿領分真嶋郡田原山上村太郎兵衛娘義林田町三笠屋久  
兵衛妻ニ引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届  
申達候同十八日住宅証文差出

一戸川町平野屋助左衛門娘義三浦志摩守殿領分勝山山田屋六郎次郎  
妻ニ指遣度人別除願右同断取計濟

一雲州大原郡寺領村弥吉倅要助夫婦倅熊吉右家内三人東新町野田屋  
磯右衛門引受度人別入願右同断取計濟同廿三日住宅証文指出ス

一牢屋惣牢と焼出候場間行燈以前<sup>ノ</sup>無之難相濟旨申出候間其段大目  
附へ申立置候

一揚屋北之小窓ニ金網張度旨願出尤之義ニ付大目附へ相違置候

一従公儀被仰出候古借金銀出入御取上無之ニ付大坂<sup>并</sup>久世<sup>ノ</sup>相廻リ  
候書類大目附へ指戻候

一贖銀一件御裁許伺書致再考大目附へ指出候

一油方常盤屋丈右衛門山手屋利兵衛大坂御番所之御鑑札催促ニ兵庫

へ罷越候段御用番<sup>并</sup>大目附へ及御噂候

一船出入之義付蔵合孫左衛門<sup>ノ</sup>横部加賀守方へ樫野屋茂一郎指遣候  
手扣要人殿<sup>ノ</sup>御戻被成候

一高石垣番水拔悪敷難義候段御作事奉行へ申達候所可遂吟味旨申聞  
候

一元魚町福井屋喜七義久米南條郡北村悪水拔柳溝ニ増都車一ヶ所掲  
白三掃挽白一口拵五月中旬<sup>ノ</sup>八月彼岸迄相稼度願書指出郡代所へ  
懸合置候所村方故障無之ニ付申上御聞濟ニ付聞届候様郡代所<sup>ノ</sup>申  
来其段大年寄へ申達候

一丹後殿明後十五日御出府ニ付大目附<sup>ノ</sup>為知有之三奉行一同勘定場  
横へ罷出席順ニ着座御暇迄申述候

一御防火無御滞被為濟候ニ付来ル十八日三奉行已上被下物有之候間  
麻上下着用候様大目附<sup>ノ</sup>達有之候

一中之町鳥羽屋八重治借屋住人宇吉義御廐中間ニ罷出度人別除願  
指出北嶋唯七へ懸合之上承り届候

一当国大庭郡久世村角屋善三郎娘たみ義西今町磯屋勘治郎方<sup>ニ</sup>内縁  
ニ付罷越候間来申<sup>ノ</sup>五月迄逗留為仕度願承り届

一新魚町南側<sup>ニ</sup>野田屋孫三郎家屋敷表口四間式歩半裏行拾四間半  
但七歩役也東西両隣共同人所持之家屋敷也右家屋敷質物ニ書入月  
壹歩半之利足<sup>ニ</sup>銀札壹貫目来申六月迄借用之願書指出し承り届  
七月朔日本証文指出ス

一安岡町久米屋友七義大坂土佐堀二町目木屋与兵衛方へ十五日計之  
逗留<sup>ニ</sup>而明十四日出立之願指出し承り届同廿五日帰

六月十四日 快晴

一牢舎人新八病氣申出大年寄へ申達候所藤木良全へ申付候段届出ル  
一東新町飯綱屋石右衛門追込昨日迄<sup>ニ</sup>而七日<sup>ニ</sup>相成候間今朝指免其  
段御用番<sup>并</sup>大目附へ相届候

一徳守宮今夕<sup>ニ</sup>納涼之處為願開今夕<sup>ニ</sup>十九日之夕迄淨瑠璃語候段寺  
社方聞届候由寺社取次三浦十郎左衛門<sup>ノ</sup>通用有之警固出役之者へ  
申達ス<sup>左五兵衛</sup>

一大坂江戸堀三丁目坪屋新兵衛手代字八一人例年之通腰物小道具売

ニ来候段新職人町松野屋十右衛門宿切手差出同七月十九日帰ル

一備前岡山中之町五嶋屋八郎兵衛手代多助一人例年之通元結売<sup>ニ</sup>来  
候段右同人宿切手指出ス十二月廿五日帰

一牢番加人野田数右衛門引込右代福嶋為助来

六月十五日 快晴

一築前遠賀郡柏原浦小平次手代佐助義兵衛二人例年之通茶碗類売<sup>ニ</sup>  
来候段京町田戸屋宗十郎宿切手差出

一郡代所<sup>ノ</sup>勝部村蓮葉入札触達例年之通頼来町触取計

六月十六日 快晴

一明十七日夕勸音<sup>ニ</sup>付例年之通宮脇町関貫四時迄開立番付置候段大  
年寄届出御用番<sup>并</sup>大目附へ相届候

一牢舎人初太郎熊吉義呼出郡代所申来出番佐十郎栄治差向出入取計  
候

六月十七日 快晴

一金毘羅參詣百六拾五人有之頭銭取立候旨旅籠屋頭帳面指出候

一丑之刻前長安寺出火有之火之子<sup>ノ</sup>上り候程之義<sup>ニ</sup>而も無之早速致鎮

火候趣<sup>ニ</sup>者候得共殊之外鐘殿敷突殊<sup>ニ</sup>泰安寺近く<sup>ニ</sup>付致出馬候処

火消人数内町程ハ大方罷出尤台所前木部屋体之もの少しふすほり

候得共もへ上り候程之義<sup>ニ</sup>而も無之早速打消最早火之氣無之<sup>ニ</sup>付

火消人数共夫々及指図即刻引取り帰り懸ケ御用番<sup>并</sup>相届大目附へ

ハ使者を以申達七ツ時過致帰宅候

一山田主膳殿<sup>ノ</sup>一名之御奉書到来明十八日右門義被為召候

六月十八日 快晴

一御用日<sup>并</sup>暑中御機嫌伺<sup>并</sup>御防火無御滞被為濟候為御祝御用所大目

附三奉行へ御酒御吸物被下置候<sup>ニ</sup>付麻上下着用例刻登城

一暑中御機嫌伺於七間廊下御小性頭謁御奏者番<sup>ノ</sup>三奉行迄一同罷出

上席御奏者番<sup>ノ</sup>申上候

一御防火御用無御滞被為濟候為御祝坊主部屋前於御廊下三奉行一連

ニ着座御酒御吸物頂戴候畢<sup>而</sup>為右御礼七間廊下<sup>ニ</sup>おいて〇三奉行

迄<sup>御奏者番<sup>ノ</sup></sup>  
〇一同御小性頭へ謁頂戴ものへ御礼申上候

一東西新町中之町<sup>ノ</sup>例年之通林田上之町悪水拔溝浚仕度願書差出し

郡代所引合之上御用番中御聞濟<sup>ニ</sup>付大目附へ指出置御聞届申達候

一堀田相模守殿領分当国勝南郡西吉田村藤吉娘義西新町湊屋清左衛

門妻<sup>ニ</sup>引受度人別入願右同断取計濟住宅証文同廿五日差出

一大目附中<sup>ノ</sup>左之通演達有之組中へ相触候

大守様当秋

御目見御願可被遊御合ニ候此段申達候様被仰出候  
右之段山田主膳殿御申聞候間及演達候

一 太田村伊八方へ去午七月廿一日盜賊這入衣類六品代ニ積リ四拾九  
匁位之もの盜取候由右触流取計候様大目附之伝達有之候由ニ而郡  
代所之相廻リ町触取計本書ハ郡代所へ指戻候

一 武芸学文出精之もの御賞今日一統有之拙者ニ近藤上原倅平井半平  
御賞有之右為御礼一同御用所へ罷出御礼申上候大目附へも御礼申  
述候

一 目明甚七義嫁致死去候付当分平助相頼候段申出候  
一 京町鍵屋和兵衛義去午十月大坂江戸堀五丁目米屋甚藏方へ罷越候  
所病氣ニ付向方之送り越候段届書差出承り置

六月十九日 快晴

一 大目附伊達与吉郎之呼ニ来相越候所贖銀一件ニ牢屋不埒一件口書  
之内伊達右門太長屋安兵衛茂兵衛中川登市郎長屋利兵衛妻ニ小嶋  
屋伊勢屋弥助妻新八妻ニ牢番足輕加人口書取指出候様被申聞候付  
左候ハ、伊達右門太中川登市郎へ指出候様御達被置候様直ニ相達  
置候

一 右牢番足輕と申者穢多勤治義谷風義助宿へ齋菓申遣候節牢番之服  
前ニ而申遣候由有之ニ付相尋候様ニと申義ニ候尤其節之当番ハ日  
下勇助ニ而其節相糺候所不存旨申之可咎程之義ニ而も無之ニ付其  
儘ニいたし置候処右之通ニ付口書取被相廻候様勘定奉行上原彦藏  
へ懸合置候

六月廿日 快晴

一 美濃職人町備前屋市右衛門宅竈前誠ニ少々ふすほり候而已ニ而隣  
家近辺之者程少々集リ早速相鎮可届程之義ニ者無之候得共申聞候  
由大年寄之届出承り置

一 御藏米六拾三匁 町米五拾九匁

一 京町岩佐孝順借屋住疊屋太吉甥喜市と申もの堀田相模守殿領分当  
国吉野郡桑野村庄兵衛倅ニ而候処疊屋職相望御当地へ出職仕度向  
方役所も願濟ニ付来申春迄疊屋太吉方ニ逗留為仕度願大年寄差出  
し承り届十二月五日帰

一 雲州秋鹿郡大野村宇助ニ弟吉十郎兩人日雇持ニ来下紺屋町名原屋  
忠兵衛親類ニ付当九月迄逗留為仕度願承り届同十月十六日帰

一 美濃職人町南側ニ而団屋甚兵衛家屋敷表口四間半裏行拾七間但一  
軒役也西隣ハ吉田屋幸助東隣ハ水嶋屋友治也右家屋敷代銀五百匁  
ニ相極町内作人治兵衛へ売渡願承り届同廿二日売券状指出ス

一 贖銀遣利左衛門母染木綿一反坪井町小嶋屋和兵衛方へ質ニ置候申  
口ニ付相糺候様大目附之被申聞大年寄へ申付候処小嶋屋和兵衛口  
書取差出

六月廿一日 快晴

一 牢舍人穢多久藏病氣申出大年寄へ申達候処藤木良全へ申付候段申  
出候

一 贖銀一件取極候ハ、一往江戸御留主居へ懸合候様申来候書状大目  
附へ差出候

一 牢舍人利左衛門母明廿二日九時指出候様永田省賀へ手紙ニ而申達  
候



一 贖銀一件牢屋不埒一件懸り合之もの明廿二日九時る呼出し可相糺候ニ付夫々手配申付候

一 宗門判取来ル廿五日六日可取計并頭錢四文ツ、取可申旨大年寄る申出承届済候

六月廿二日 快晴

一新左衛門孫八藤藏孫左衛門喜左衛門立会九時る左之もの共呼出し遂吟味候

御使組牢番加人日下勇助  
伊達右門太長屋住

安兵衛  
右同断

茂兵衛  
永田省賀長屋住

利左衛門母  
中川登市郎長屋住

利兵衛妻  
安岡町伊勢屋

弥助妻  
上紺屋町作人新八

妻

右之もの共遂吟味候処茂兵衛義ハ利左衛門母る實物致取次候由ニ而呼出候処仍之旨及白状懸り合無之ニ付茂兵衛義ハ其儘指戻し其外者何れも口書印形取候但御使組日下勇助義ハ勘定奉行る弁書取調廻り候得共誤字も有之ニ付認直候様彦藏る申来候付弁

書認直し印形取之候

一 官脇町南側徳守宮地子居之もの、前之溝濠之義何方るいたし候事哉先格不相分候由溝見分之節申出候付吟味申付候所地子居之もの共銘々取計之先格ニ相違無之旨ニ付溝濠仕候様申付候段孫左衛門申出候

一 二階町山手屋弥太郎所持之他国受酒株去ル寅六月る元魚町福増屋源兵衛借り受候処尚又来ル子六月迄丸五ケ年之間借受商売仕度追願書指出し承り届

一 牢舍人丈兵衛療治二廻り相済候処未相勝尚又藤木良全へ申付候段申出候

六月廿三日 快晴

御用日登城

一 米懸合問屋御許容ニ付京町堺屋太助方ニ而仕度并綿懸合も伏見町古川屋忠兵衛方ニ而仕候処米と一緒ニ堺屋六助方ニ而仕度届書御用所へ申上大目附へ指出置尤右米懸合間札ハ伏見町田邑屋卯左衛門預ケ置締能可取計旨大年寄共方へ一札取置候由申聞候尤右願書者米中買式歩中買連印ニ而指出候

一 御代官早川八郎左衛門殿支配所備中阿賀郡宮地村宗兵衛倅松五郎義去々巳十二月伏見町小田屋伊平次養子ニ仕候処離縁仕度人別除願御用番中御聞済ニ付大目附へ出置御聞届申達候

一 元魚町住屋市左衛門義一昨廿一日夕大坂る罷帰り道修町三町目伏見屋半左衛門へ薬種代買懸り式貫三百七拾式分五厘指滞ニ付年寄代多組屋佐吉同道ニ而二月廿八日出立仕三月十三日御番所ニ

御呼出し追込被仰付六月十五日又々呼出し<sub>ニ</sub>而<sub>ニ</sub>国元<sub>ニ</sub>おいて身代  
限り引渡候様被仰付宿綿屋義兵衛罷帰候様申聞候付村尾左右衛門  
へも其段相届置罷帰候段届書指出し御用番中<sub>并</sub>大目附へ指出置候  
処尚又大年寄<sub>者</sub>申出候大坂綿屋義兵衛<sub>者</sub>飛脚指越罷帰候段御番  
所へ相届可帰之処任先例無届指戻候処又々御番所<sub>者</sub>御呼出し有之  
甚致迷惑候間廿七日迄<sub>ニ</sub>急<sub>ニ</sub>罷登<sub>リ</sub>候様申越候段市左衛門<sub>者</sub>口上  
書指出し候由大年寄<sub>者</sub>御城<sub>江</sub>差越候付又々其段御西所へ申達置早  
々罷登<sub>リ</sub>候様申付候

一 船出入内済之義<sub>ニ</sub>付塚角横部加賀守<sub>者</sub>昨廿二日榎野屋茂一郎方へ  
書状指越来<sub>ル</sub>廿六日岡山<sub>者</sub>二三輩来候間同日罷越候様申越折節茂  
一郎義病氣有之口上<sub>ニ</sub>而<sub>ニ</sub>及断候<sub>者</sub>処右備前<sub>者</sub>来候飛脚<sub>者</sub>為相待置候義  
故是非返書致呉候様申聞候付不取敢不快故廿六日<sub>ハ</sub>及断候間尚又  
是<sub>者</sub>可申遣旨返書仕置候由来書返書共蔵合孫左衛門指出候付右書  
面要人殿<sub>江</sub>指出し下方考も丹右衛門来候事<sub>ニ</sub>候得<sub>者</sub>茂一郎罷出候  
而も可然候得共附人罷出候事哉一向不相分義<sub>并</sub>内済懸合<sub>ニ</sub>候得<sub>者</sub>  
爰元へ来候様仕度もの哉<sub>ニ</sub>も候<sub>ニ</sub>付何分茂一郎出勤之節向方之様  
聞合<sub>ニ</sub>書状指遣其上之趣<sub>ニ</sub>寄<sub>而</sub>罷出候<sub>而</sub>も可然旨申上候処随分其  
通<sub>ニ</sub>而<sub>ニ</sub>可然候間何分得と聞合候様可仕何卒爰元へ来候様取付候様  
<sub>ニ</sub>と被仰聞右書類松岡治部助へ渡置候間同人<sub>者</sub>可指戻之旨被仰聞  
候其段蔵合孫左衛門へも申合置候

一 價銀同牢屋不埒一件大目附察度之趣致再吟味取調大目附へ指出候  
一 材木町三家屋六右衛門借屋住仲屋亦四郎悻忠四郎義大工為稽古大  
坂道修町四丁目戸屋惣八方へ来<sub>ル</sub>酉年迄三ヶ年之間罷越度願大年

寄<sub>者</sub>指出し承<sub>リ</sub>届戊五月十三日帰又候三年之追願承<sub>リ</sub>届

一 中之町鳥羽屋八重治所持之家屋敷南側<sub>ニ</sub>而<sub>ニ</sub>表口三間裏行拾七間但  
半役也東隣ハ桜屋平四郎西隣ハ今勢屋勢平也右家屋敷代銀壹貫百  
目<sub>ニ</sub>相極西新町淀屋正七へ売渡度願書承<sub>リ</sub>届同廿九日券状差出候  
一 中山百蔵義中暑<sub>ニ</sub>而<sub>ニ</sub>引込候<sub>者</sub>段届出候

一 牢番加人福嶋為治引込候<sub>ニ</sub>付小林浪右衛門罷出候

一 妙法寺<sub>者</sub>来<sub>ル</sub>酉年迄三ヶ年之間且家之もの一兩人夜題目修行願出  
御聞済之旨寺社取次兼帯三浦十郎左衛門<sub>者</sub>申来大年寄<sub>并</sub>小頭へ申  
達候

一 (空白)

六月廿四日 大白雨

一 牢舎人利左衛門療治二廻<sub>リ</sub>相済候付藤木良全へ申付候段届出候

六月廿五日 曇

一 御蔵米六拾弍匁 町米五拾八匁

一 牢番加人小林浪右衛門引込福田伴蔵来<sub>ル</sub>

六月廿六日 白雨

六月廿七日 雨

一 御蔵米六拾匁 町米五拾六匁

一 牢舎人鉄蔵代<sub>リ</sub>之医師願出大年寄へ申付候所藤木良全へ申付候段  
届出候

一 牢舎人□□□穢多七兵衛助五郎太助賄今朝<sub>者</sub>不指越申出候段今日

之所へ取替置候様申達置郡代所へ申遣候

一 牢屋井戸替代式匁小頭へ相渡候

六月廿八日 晴

一 御用日登城

一 脇坂淡路守殿預り所当国英田郡倉敷村市兵衛倅喜兵衛一人中之町

西屋喜平次家守河内屋藤兵衛引受度人別入願御用番中御聞濟ニ付

大目附へ指出し置御聞届申達候七月二日住宅証文差出ス

一 三浦志摩守殿領分真嶋郡下方村孫兵衛娘まつ一人細工町屋根屋嘉

兵衛家守桶屋町うたや平六引受度人別入願右同断取計済同廿九日

住宅証文差出

一 江戸芝三田四丁目清助借屋住梅と申女彦人二階町三保屋十右衛門

家守喜助借屋住鉄屋十五郎妻之母ニ付同人方へ引受度人別入願右

同断取計済同年九月四日住宅証文指出候

一 柳土手水門之唐戸御繕之義大目附へ催促申達候

一 牢屋女牢繕之義右同断申達候

一 牢屋不埒一件穢多勤治并牢番日下勇助糺方不旨大目附を被申聞

右両人口書戻ル仍之来ル二日再糺可取計旨夫々手配申達候尤郡代

所ニも申達候

一 大目附を橋本町豊後屋ゆふと申もの博奕宿致候趣相聞并同人倅千

龜吉立歸り致徘徊候趣相聞候旨内達有之小頭へ申合置候

一 牢舎人弥助病氣申出大年寄へ申達候処藤木良全へ申付候段申出候

一 御作事奉行の愛染寺横喰違ひ袖塀之際へ芥捨塀損し候間芥捨不申

様ニ茅町西今町辺へ申付呉候様申聞候付大年寄へ申達ス

一 宮川御門と大番所之間大目附構場所ニ旅人行倒居相尋候処吉野郡

広山之ものニ候由全病氣之趣ニ相見へ候段材木町年寄を注進申出

候段子ノ中刻大年寄申出其段大目附へ申達候所承知候旨申来候尤

右体病氣之趣難捨置ニ付材木町を医師相頼并食餌も心付候様可申

付旨大年寄へ申達置候尤其段も大目附へ申達置候

六月廿九日 快晴 少雨

一番賃銀例月之通相渡候

一 大目附伊達与吉郎を紙面ニ而昨夜申達候東大番所前行倒もの右場

所者往還之義ニ付大番所南の方へ相移し弥吉野郡之もの哉書キ物

ニ而茂致所持居候哉隣町年寄を為相糺申聞候様申来其段大年寄

申付候所左之通申出候

右行倒もの元出生ハ御領分広原分新屋敷勘兵衛と申ものニ倅

ニ而甚助と申候由三十年計以前新屋敷罷出最早新屋敷ニ親類

無之吉野郡広山村へ入帳仕娘一人有之候処当所□□□長四郎

と申もの先年連歸り妻ニ致干今長四郎妻ニ相成居候得共右之

次第ニ而出入も不仕候得共此次第ニ候間□□□娘方へ引取候

様被仰付被下候様ニ申候尤真賀ニ参り歸り懸ケニ候由書キ物

等ハ何も所持不仕年頃七十余ニも相見へ候由材木町年寄を申

出候段大年寄申出候ニ付其段大目附へ申達候処承知候旨申来

候

又々昼後紙面ニ而与吉郎を申来候者右行倒もの隣町へ引取介

抱相加へ置右町後を吉野郡広山村村役人ニ人别有無聞合申達

候様ニ可申付旨申来候ニ付先格之通旅籠屋へ引取候聞合取計

候様ニ大年寄へ申達候

一 南新座町□□不詳甚おこり候ニ付当年義大福込可申付旨孫右衛門喜左

衛門申出右者兼而上原彦藏と相談仕置候義も有之ニ付同人江懸合之上伺之通申付候所明朔日ハ取計候旨届出候

一 牢舎人鉄藏義療治二廻リ相済未相勝段申出候ニ付大年寄へ申達候所藤木良全へ申付候段届出候

一 徳守官水無月払ニ付式丁目三丁目例年之通揚焼灯指出候段大年寄ハ届出承り置尚又坪井町も右同断届出候

一 博奕沙駄ニ付左十郎栄治又六左五兵衛昨夜受廻り申付候所無別条旨何れも届出候

一 東大番所前行倒もの伏見町旅籠屋吉田屋半兵衛方へ及引取医師ハ下地ハ之療治懸ケ中村易安へ申付候所当分之中足ニ命分ニ懸リ候程之義ニ者無之段申出候由尤材木町年寄ハ吉野郡へ飛脚指遣候様申付候段大年寄届出承り置

一 下紺屋町原田屋利兵衛借屋住源助と申もの今朝横山村北村分ニ而烟物盗取候ニ付作番非人召捕候段横山村庄屋清藏ハ届書指出候由右ハ支配之者ニ付可引渡旨尤夜ニ入候ニ付明朝可引渡旨郡代所ハ申来候ニ付何分下方相糺候上ニ而可受取旨及答置相糺候所無相違

下紺屋町人別之ものハ由大年寄ハ申出候間明朔日九時可受取候間被指候様郡代所へ申遣候所左候ハ、今夕之所手錠申付置度候旨案内有之候ニ付少も不苦候間御勝手次第御取計置可被成旨申遣置明日可受取手配夫々申達置候

一 中山百蔵義明朔日ハ出勤候段届出候

御家老 御年寄 黒田要人殿

大目附 松岡治部助

大目附 大年寄 齋藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

七月 大

月番

御家老

御年寄 黒田要人殿

大目附 松岡治部助

大年寄 齋藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

七月朔酉巳旦

一 下紺屋町原田屋借屋住源助義郡代所ハ送り状指添被指越小頭孫八部屋目附藤藏出番栄治又六立会受取候組合町役呼出置新左衛門六郎左衛門立会遂吟味口書取候

川向福永屋畑之茄子式百計

盗取候ニ無相違旨及白状候ニ付

口書取終候尤吟味中入牢申付候

右之段御用番并大目附へ相届郡代所江も及通用候

下紺屋町原田屋利兵衛借屋住 倉敷屋 源助

一 船出入内濟懸合之義先頃之答極野屋茂一郎の横部加賀守へ文通下  
案藏合孫左衛門の指出要人殿に指出し候処無程思召無之候間宜取  
計候様被仰出其段藏合へ申達候尤右訳へ未不快に付急に者得不能  
出何れ馴染に無之人に者難懸合筋に候間被急候へ、丹右衛門同道  
に 爰元へ被来候様は申遣候事

一 東大番所前行倒もの甚助義大目附の指図之通材木町年寄の吉野郡  
広山村庄屋へ聞合に飛脚指遣候所広山村人別之もの無之候間  
致病死候へ、町法に取計候様申越候に付右書面伊達与吉郎へ指出  
候所月番へ指出候様申来翌二日松岡治部助へ指出候

七月二日 快晴

一 大目附松岡治部助の東大番所前行倒もの甚助義吉野郡人別に無之  
旨申来候に付□□□長四郎方へ為引取候様可取計旨申来候付其段  
大年寄へ申達候

一 牢舎扶持五俵内貸証文指出奥書取計候但来月へ五升六合式夕五才  
持越候

一 御藏米五拾七匁 町米五拾三匁

一 下紺屋町原田屋借屋住倉敷屋源助方に太田舎人下女之衣類預け有  
之候間相渡候様同人留主の申来候に付組合年寄立合相改候上引  
渡候様は大年寄へ申達候引渡候品書指出候

一 右同人盗取候茄子損候に伺濟迄難指置に付郡代所へ可引渡哉之旨  
懸合候処右に二町目福永や藤助所持之畑に付役筋の相渡候様申来  
候に付其段大年寄へ申達候引渡候永屋藤助の受取書持参取に候間  
相渡候

一 西今町坪屋藤十郎所持之他国請酒株去ル卯七月の坪井町勝尾屋茂  
七借受商売仕候処限月来候付尚又当未七月の来ル子六月迄五ヶ年  
之間借受商売仕度追願差出承り届  
一 新左衛門孫八新治文蔵左五兵衛孫右衛門立合今九時左之もの共  
遂吟味候

□□村穢多

口書取直し候

勘治

元魚町松屋

源蔵

牢舎持参候訳承り候計

牢番加人御使組

日下勇助

七月三日 快晴

一 御用日登城

一 備前赤坂郡福田村重太郎弟源太郎夫婦倅重蔵右家内三人安岡町神  
目屋栄助引受度人別入願御用番御聞濟に付大目附へ指出置大年寄  
へ御聞届之旨申達候同十七日住宅証文差出

一 牢屋不埒一件穢多勘治義致再糺口書伊達与吉郎へ指出候

一 町住之社男山伏町役為相除度に寺社取次藤本十兵衛の先達に指出  
候由に寺社奉行伊達与吉郎が被相渡候に付町役相除候義に不相  
成と申義致付紙先達に三浦十郎左衛門へ相廻置候所指戻候付今日  
与吉郎へ指出候

一 東大番所前行倒候甚助義□□□へ引取候様申付置候所当時  
長四郎と申ものも居不申姪一人有之七兵衛と申ものへ妻と相成居

候由夫々ハ小原村ニ姪有之忠助と申ものへ妻ニ相成居此ものハ元  
離別之ものニ而も無之□□□□之姪ハ厚き方之ものニ付小原村へ  
引取候様被仰付被下度候旨非人頭申出候由右縁類之訳大年寄る指  
出し尤之義ニ付其段松岡治部助へ申達候所指出候書付不及披見何  
れも姪之義殊ニ当人□□□□へ引渡候様相望候義ニ而最早伺濟之義  
ニ付何分ニも□□□□へ引取候様可申付旨申聞候付猶又其段大年寄  
へ申達候

一 東新町岩屋文藏ハ吉見村字八ニ質入借金三十日限濟口被仰付難有  
奉存候所字八ハ今十日之日延願具候様申候ニ付此段相願候由願書  
指出し郡代所引合之上承り届

一 伏見町柴田屋勘之助家内式人当三月罷出候所未罷帰候ニ付今三十  
日之追願指出し承り届同五日罷帰候

一 当国久米北條郡桑村喜七娘よし義西今町岩見屋伊右衛門内縁之も  
のニ付来候間来申ノ五月迄逗留為仕度願承り届

一 贖銀一件聞合候田中幸助書面主膳殿ハ御戻被成候

一 船出入内濟之一件榎野屋茂一郎ハ横部加賀守ハ懸合断之飛脚遣候  
所承知之旨ニ而益後ニ者悴常陸介可参旨申越候返書藏合ハ指出要  
人殿ニ指出候所即刻御下ケ被成候

一行倒もの甚助義□□□□へ引取候様申付候所右甚助聳七兵衛ハ七十  
余ニ罷成同人妻ハ六十五才ニ罷成廿計之悴兵吉吉人ニ而兩親を致  
養育罷在当日も送兼候所ニ至とし病人引受候ニ而ハ甚難渋仕候ニ付  
小原ニも姪有之候事故彼ハも世話仕候様被仰付被下候様尤非人之  
義交も不相成義ニ候得者下方ニ而ハ申談も出来不申甚当惑仕候段

非人頭ハ歎出候段大年寄申出候ニ付右之段大目附へ申達候処何れ  
□□□□へ可為引取ものニ者候得共弥小原ニも姪有之候ハ、割合ニ  
而入用為指出候筋ニも可有之候間郡代ハ懸合小原村親類相糺候様  
ニ被申聞候付其段郡代所へ申達猶又甚助手前も得と相糺置候様大  
年寄へ申付候

七月四日 快晴

一 伏見町紙屋茂七娘義御領分西々條郡寺元村幸助悴安治妻ニ差遣度  
人別除願下方引合相濟候段大年寄申出承り届

一 鍛冶町鍛冶新兵衛義甲州身延山へ参詣百五十日之逗留ニ而明五日  
出立之願書指出し承り届十月廿六日帰ル

一同町鍛冶五郎右衛門役介卯兵衛義右同断願承り届十月廿七日帰ル  
一 牢番加人日下勇助引込届出右代り五日ハ河野儀兵衛来

七月五日 快晴

一 郡代所ハ牢舍人太田村初太郎能吉帳外吉兵衛吟味ニ付呼出申来出  
番藤藏為治取計候

一 戸嶋村弥市郎咎牢舍手形相廻り認かへ藤藏ニ為持差遣

一 竹田村孫惣ハ安岡町大坂屋宇八田地質ニ取候処濟方不埒ニ付致出  
訴候処三十日限濟方被仰付候得共不筋立右田地受取候由届書差出  
し郡代所引合之上承り届

七月六日 快晴

一 東大番所前行倒もの甚助縁類之義小原村忠助糺書郡代所ハ相廻り  
忠助妻ハ甚助姪ニ無相違旨申来自分義不快ニ付大目附中へ紙面ニ  
而指出候

一 牢舎人府右衛門病氣申出大年寄へ申達候所藤木良全へ申付候段届出候

一 牢舎人穢多久蔵二廻り療治相濟候所未相勝候ニ付猶又藤木良全へ申付候段届出候

一 牢番加人福田伴蔵引込小林浪右衛門来り候

一 大目附松岡治部助の行倒もの甚助□□へ引取候様申渡候処奉長候得とも難渋之旨歎出候由右歎書有之候ハ、可差出無之候ハ、大年寄場合ニ書取指出候様申来候ニ付大年寄へ認差出候様申付置候且又吉野郡の来候返書又々指出候様ニ申来直ニ指出候

一 郡代所の盜賊熊吉一件初太郎并帳外吉兵衛吟味相濟候処吉兵衛義盜賊携無之ニ付立去り可相同并右懸合質物等之義町方遂吟味具候様ニ申来候ニ付夫々糺大年寄へ申付置候

七月七日 快晴

一 七夕ニ付先例之通組中へ謁神酒指出候

一 先格之通昼廻り不指出候

一 行倒者甚助□□へ引請候義難渋之弁書孫右衛門認出候付大目附松岡治部助へ指出候

一 盜賊熊吉引合之鍛冶町横町古金屋政右衛門母福渡町嘉兵衛相糺口書指出候付郡代所へ相廻候

一 牢舎人丈兵衛義全快ニ付休薬双方の届出候

一 林田町南側ニ福吉屋乙右衛門家屋敷表口三間裏行拾六間但半役也東隣ハ西新町高松屋多助持家西隣ハ片岡東馬後家也右家屋敷代銀貳百五拾匁ニ相極同町石原屋甚蔵へ売渡意願承り届同十六日売

券状指出

一 油方引受常盤屋丈右衛門山手屋理兵衛兵庫の罷歸り大坂御番所鑑札之義田中屋久左衛門灘屋吉三郎の御番所へ相願候処直鑑札被下候得者油稼人数増候道理ニ相成御勘定所へ御伺無之ハ難被成筋之由ニ直鑑札ハ相渡り不申候処田中屋灘屋の津山三人之者へ世話相頼候義大坂御番所へ伺濟之上表向ニ相頼候と申ニ相成右御番所へ願候御聞濟之旨写等相渡以來弥相頼候段約を堅ノ罷歸候旨右取替候書類并田中屋灘屋願之写等指出候付右応対之弁書認指候様申達置候右弁書指出次第可及御沙駄事

七月八日 快晴

一 御用日之処拙者義中暑ニ去ル四日の不快ニ付今日登城当病御断三浦士を以相達并御用向も頼遣

一 脇坂淡路守殿預り所当国英田郡倉敷村福原屋嘉四郎娘義坪井町久屋義八妻ニ引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ指出置候段

一 三浦十郎左衛門の申来御聞届申達候同廿四日住宅証文指出

一 三浦志摩守殿領分当国真嶋郡後谷村百性伊兵衛娘いせ一人福渡町清後屋利兵衛家守金谷屋佐助引受度人別入願右同断取計濟

一 御代官早川八郎左衛門殿支配所当国西々條郡黒木村百性善右衛門夫婦二人二階町境屋梅養子ニ引受度人別入願右同断取計濟同廿三日住宅証文指出

一 橋本町長崎屋代助義当三月八日致出奔百日尋被仰付相尋候処弥行衛不相知最早百日余ニ相成候ニ付除帳願右同断取計濟

一 盆中三夜例歳之通惣町関貫不殘九時迄開立番付置候段御用所大目

附へ三浦を以相届濟

一來ル十四日例歳之通町方為舟廻町仕候段三浦を以御用番江相届ケ

御貸人馬之義大目附へ相届候

一馬持共例歳之通一人ニ付大豆壹俵ツ、拝借願勘定奉行へ引合之上

御用番御聞届大目附へ指出候段三浦の申來候付御聞濟之趣大年寄

へ申達候

一田町分の細工町へ流込候石橋下溝三ヶ所共埋候段届書指出し三浦

を以大目附へ指出候

一惣町宗判取例歳之通市郷寺院名面書大年寄の指出寺社取次藤本十

兵衛へ相廻候

一八朔割帳指出し及一見指戻候

惣入用高 貳貫五拾六匁七分六厘

但昨年より壹貫七匁壹分減ス

右貳拾六貫貳百五拾文ニ割

壹貫文ニ付 七拾八匁三分五厘三毛也

一盆中御触例歳之通大目附中の到來写取組中へ指出ス

一町方盆中之触書例歳之通指出候

一仮目目雇代当春より六月迄之分三拾六匁五分受取証文小頭方指出し

奥印書取計候

一材木町年寄河内屋武兵衛義病身ニ相成候ニ付不快之節ハ悴伝右衛

門名代ニ指出度願書承り届

一坪井町北側ニ而鍛冶町川口屋喜七持分之家屋敷表口四間裏行拾七

間但壹軒役也東隣ハ糶屋幸右衛門西隣ハ三船八郎右衛門也右家屋

敷代銀貳貫目ニ相極三町目一文字屋文助へ売渡度願承り届ル同十

六日売券状指出

七月九日 快晴

一東大番所前ニ行倒候吉野郡田殿村広山分帳外甚助義小原村忠助妻

ハ同人姪ニ付右忠助方へ引取候様郡代へ御達有之候間懸合可引渡

旨大目附の申來郡代所へ懸合候所右親類之者計伏見町吉田屋儀右

衛門方へ可差出旨申來候付其節材木町年寄一人立会引渡候様ニ大

年寄へ申達候

一御堀掃除料御作事奉行の申來大年寄へ申付例歳之通貳百八拾九匁

壹分四厘指出し西村治太夫方へ指遣候所受取書來玄関ニ張置

一備州津宇郡妹尾村小判屋太郎兵衛一人例年之通量表卸売ニ來候段

西新町山家屋利右衛門宿切手指出八月七日歸ル

一築前遠賀郡柏原浦小平次手代喜兵衛一人例年之通茶碗類卸売ニ來

候段京町田戸屋惣十郎宿切手指出

一牢舎人熊吉吉兵衛吟味ニ付郡代所の立会申來出者出番為治差向入

者 昼廻百藏采治取計候

一大目附廻状到來左之通

格姫若様御病氣之処御養生不被為叶去月廿四日丑ノ中刻御逝

去ニ付今九日ノ明後十一日迄三日之内鳴物停止被仰出候尤普

請ハ不苦候右之趣從公儀被仰出候旨申來候

右写取惣町并組中へ指出候

一牢舎人利左衛門快氣ニ付休葉届出候

一牢舎人利兵衛病氣申出大年寄へ申達候処吉武祐三へ申付候段届出



候

一行倒甚助義小原村忠助江引渡相濟候段大年寄之届出候ニ付御用番

并大目附へ紙面ニ而相届候

七月十日 快晴

一 小野田為治不快ニ付引込候段小頭不快ニ付新治之相届候

七月十一日 快晴

一新魚町ニ而今夕百万遍執行届出夜廻りへ申達候

一大目附之元魚町住屋市左衛門義大坂村尾李右衛門之左之通申来候  
間互取計可申旨申来候ニ付組合年寄之心を付諸道具不敢散已後出  
入ニ不相成様引渡候様急度申付候様大年寄へ申達候

七月五日村尾李右衛門之来状書拔

一 今日東町御奉行水野若狭守殿御役所へ罷出候様申来罷出候

処遠国方与力菰野勘左衛門を以其表元魚町住屋市左衛門身

代限り被申付候間以来出入不相成様御取計有之候様御国元

へ可被仰遣候様若狭守被申候則覚書として別紙相渡り候則

今便入御覽申候

一 未請取人出立日限不申出候罷出候節御屋敷江も相届罷越候

様申渡候且身代限り受取罷越候ニ相成内済ニ而受取ニ不参

義も毎々有之事左様之義も候ハ、半右衛門之御屋敷へ可相

届事も可有之左様心得置候様勘右衛門申之候且半右衛門之

其表へ出立日限申出候とも幸便無御座候得者態々不申上候

間左様思召被置可被下候

別紙写

去年十月廿一日初訴

道修町三丁目

一 薬種売掛銀

伏見屋

滞出入

訴訟方 半右衛門

作州津山元魚町

相手方 市左衛門

右市左衛門身代限半左衛門へ相渡所之庄屋年寄立合已来出

入ニ不相成候様御取計可有之旨被申候

未七月

一 油方丈右衛門理兵衛兵庫ニ而懸合之趣認差出候ニ付去ル七日指出  
候為取替一札ニ差添御用番へ持参指出候

一 石名佐十郎川端又六不快引込新治之届出候ニ付加人兩人大大目附へ

申達候所河村新吾山形林蔵来

七月十二日 曇 昼後晴

一 関貫番賃銀例年之通相渡

一 牢屋井戸かへ願出承り届

一 牢舎人鉄蔵療治二廻り相濟代り之医師申付候処吉武祐三江申付候

段届出候

一 東新町岩屋文蔵之吉見村字八江借銀出入内済相整候段届書指出郡

代所引合之上承り届

一 東新町南側ニ而茶屋武左衛門家屋敷表口四間裏行拾七間但本役也

東ハ往来也西隣ハ山本三郎左衛門家屋敷也裏ニ式間ニ三間之土蔵

一ヶ所又宕間半ニ式間之土蔵一ヶ所右家屋敷土蔵共寛政六寅四月

鍋屋平蔵取次ニ而宕貫五百匁之質物ニ書入ケ候処今度受返し相濟

候届書指出候同廿四日本証文差出

付候段届出候

一右之家屋敷此度高松屋平左衛門へ質物ニ書入来ル申六月切ニ而一ヶ月老歩式朱之利足ニ相極銀札式貫目借受候願書承リ届文化元甲子年六月請戻し届書出ス

一円宗寺村ノ牢食持參延行之段申出郡代所へ申達ス  
一組中牢屋三軒屋高石垣番迄寺証文小頭ノ指出  
七月十六日 晴

一牢屋払百五匁四歩九厘有之小頭孫八江相渡尤右之内五拾匁ハ奉行払ニ而五拾五匁四分九厘ハ当暮御払之節可受取事

一林田町ニ而百万遍執行届出夜廻リへ申達ス  
一河原町作人定七借屋住元結屋龜太郎兄清兵衛夫婦娘右三人当三月四国遍路罷出未罷帰候ニ付今五十日之日延願指出し承リ届十一月廿二日追願指出

一牢屋取計并吟味等之節酒代三拾老匁八分五厘有之孫八江相渡候

七月十三日 晴

廿二日追願指出

一牢舎人弥助新八快氣ニ付休藁届出候

一細工町ニ而百万遍執行届出夜廻リへ申達候

七月十四日 快晴

一山野十郎兵衛ノ病犬有之候間非人指越候様申来非人兩人指向候段大年寄申出候

一戸川町南側ニ而松岡屋佐吉家屋敷表口四間裏行拾貳間但八歩役也東隣ハ長谷屋弥右衛門後家西隣ハ大工伊右衛門也右家屋敷代銀三百五拾匁ニ相極町内大工庄兵衛へ売渡度願承リ届同廿五日売券状指出

七月十七日 曇 雨  
一元魚町住屋市左衛門一昨晚罷帰リ先月廿九日御番所へ御呼出被成無届罷帰候旨御札有之御断申上相濟尚又当月朔日身代限り引渡被仰付候処大和屋善兵衛と申もの取扱此上金五兩指出候得者家財不引渡相濟候様内濟仕右相手方半右衛門と対談之上去ル十二日立ニ而罷帰リ申候右之金子致調達候得者濟口届半右衛門ノ仕候答ニ御座候旨届書指出候右届書明日不及御沙駄候

一右家屋地統南詰ニ而美濃職人町作人甚治致所持候地面東西四間南北五間但式歩役也右地面代銀百匁ニ相極同町大工庄兵衛へ売渡度願書承リ届但右屋敷合裏行拾七間ニ而一軒役也右同断

一新魚町姫路屋甚右衛門義大峰參詣十五日計之逗留ニ而来ル廿四日出立願承リ届

一坪井町河原屋治助所持之古道具屋株去年十月桶屋町大杉屋茂兵衛へ貸置候処此度取戻し届書指出承リ届

一小性町西村屋惣助義右同断願大年寄承リ届指出八月十日帰ル

一坪井町河原屋治助所持之古道具屋株去年十月桶屋町大杉屋茂兵衛へ貸置候処此度取戻し届書指出承リ届

七月十五日 曇

一大目附松岡治部助ノ呼ニ来罷越候所左之通被申聞候

一牢舎人利左衛門病氣ニ付医師願出大年寄へ申付候所吉武祐三へ申

一河原町又平妻豊致直訴不罷帰候ニ付取次を以一卜通り承リ指

返し置候間糺之上可被相伺候

右ニ付又平妻豊義組合預ケニ申付置候様大年寄へ申付候

一 川端又六明日より出勤届出候

七月十八日 大白雨

一 御用日登城

一 小性町今津屋平藏家守阿波屋定右衛門役介みよ義早川八郎左衛門

殿支配所備中国阿賀郡浅井村才治郎方へ養女ニ指遣度人別除願御

用番御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候

一 福渡町阿賀屋助五郎家守忠助借屋住芳兵衛義当三月致出奔百日尋

被仰付相尋候得共行衛不相知最早百日余ニ相成候ニ付除帳願差出

右同断取計濟

一 元魚町住屋市左衛門昨日指出候届書御用番へ申上大目附へ指出候

一 油方引受之もの共先日兵庫大坂ニ懸合候書類昨日御用番中御下

ケ被成候ニ付今日大目附へ指出ニ綿実之義も菜種同様ニ引受可仕

之処向方引受方違候故先日御番所<sub>江</sub>之願不差出罷帰候故益後致登

坂候ハ、綿実之義も菜種同様引受可相頼旨向方より申聞候間又々罷

登り右之通懸合可申旨<sub>并</sub>今般三人之もの共引受御番所へ伺之上相

頼候段他領油屋共へ田中屋より演達仕候様可相頼之旨伺出候段松岡

治部助へ申談候処如何ニも其通事々取計可然旨被申聞候付其段御

用番中へ奉伺候処伺之通宜取計候様被仰出候付其段宮田喜左衛門

へ申達候尤上原ハ不参ニ候得共同役中<sub>并</sub>惠左衛門へも及噂何茂承

知ニ候

一 下紺屋町原田屋利兵衛借屋住茄子盗人倉敷屋源助御裁許相伺置

一 帳外吉兵衛義郡代所より伺有之右取計不宜もの共御叱伺置候

一 盜賊熊吉と申もの郡代所<sub>ニ</sub>而吟味有之右引合町方之もの御裁許伺

置候

一 大目附中より左之趣之公儀御触書到来写取町方組中へ相触候

在々において神事祭礼之節或ハ作物虫送り風祭杯と名附芝居

見世物同様之事を催し金錢を費し或ハ旅商人或河原者杯決<sub>而</sub>

村々へ立入せ間敷——自今以後遊芸歌舞妓浄瑠璃踊之類惣<sub>而</sub>

芝居同様之人集堅制禁ニ候委細<sub>者</sub>触書留ニ記置候

一 牢屋不埒一件伺之通夫々咎取計候様御用番中被仰出<sub>并</sub>郡代支配之

者も有之候得共別ニ不申達候間申談宜取計候様被仰出候右之段大

目附へも申達候所右之内御使組<sub>并</sub>牢屋中間ハ從是申達候間役筋より

不及懸合旨被申聞候付来ル廿二日取計候段相届置候尤郡代<sub>江</sub>も申

談穢多共申渡取綴可相廻旨談置候

一 脇坂淡路守殿支配所久米南條郡小瀬村吉右衛門所持之造酒株高六

拾石林田町嶋屋文七讓受度願書指出仍之龍野役人<sub>江</sub>懸合之下案相

認指添御用番中へ相伺候処御聞濟<sub>ニ</sub>而伺之通宜取計候様被仰出候

ニ付其段大目附へ相達右ニ付龍野<sub>江</sub>之飛脚明朝立ニ御達被下候様

申達置候

一 中之町上紺屋町百万遍執行届出夜廻りへ申達ス

七月十九日 快晴

一 福渡町百万遍届出夜廻りへ申達ス

一 龍野<sub>江</sub>之飛脚山本八十助今昼前時来書状相渡候

一 小野田為治明日より出勤相届候仍之川村新吾明日より可指返事

一茅町麩屋元治娘ふみ義去年十一月十七日不斗罷出不罷婦十二月下旬御届申上候処百日尋被仰付尚又四月十二日尋日延願指出候処当

国真嶋郡中村半助と申もの方へ当月十二日罷越候由申来罷越相札候処全狂氣<sub>ニ</sub>而相覚不申候趣<sub>ニ</sub>付婦住宅歎書指出承り届尤罷婦候上<sub>ニ</sub>而大年寄宅<sub>ニ</sub>而無届罷出候不埒之段申渡置候様申達候

一牢屋不埒一件之穢多共三十六人山北村藤助大篠村周藏御咎申渡取調郡代所<sub>江</sub>相廻し候

一牢舎人府右衛門療治二廻り相濟明日<sub>ハ</sub>吉武祐三<sub>江</sub>申付候段大年寄届出候

一河原町伊部屋忠藏宅<sub>ニ</sub>おいて福渡町大坂屋久兵衛と新魚町魚屋勘治恠茂吉と飲酒之上久兵衛へ徳利を打付余程疵付候段大年寄<sub>ハ</sub>申出折節夜廻り百歳又六廻り懸り遂吟味候処全酒狂<sub>ニ</sub>而何之意趣も無之双方共<sub>ニ</sub>相覚不申夫々組合年寄呼寄居町へ為引取左之通申付置罷婦候段届出候

組合預ケ

新魚町魚屋勘治恠

茂吉

福渡町大坂屋

禁足

久兵衛

河原町伊部屋

他参留

忠藏

右ハ疵所見分<sub>并</sub>相手方茂吉へ手錠可申付之処夜廻り引取も及深更殊<sub>ニ</sub>早々内濟取扱仕候由<sub>ニ</sub>付其儘<sub>ニ</sub>指置候

七月廿日 快晴

一加人御使組河村新吾指返候段大目附へ相届候  
一牢舎人穢多久蔵全快<sub>ニ</sub>付今日<sub>ハ</sub>休葉届出候

一東新町嶋屋重兵衛恠態蔵義和州大峰へ参詣廿日計之逗留<sub>ニ</sub>而来ル廿四日出立願大年寄承り届指出八月十一日帰

一牢舎人穢多三吉病氣申出候付医師申達候処吉武祐三順番<sub>ニ</sub>付申付候処穢多療治仕候義無之<sub>ニ</sub>付御断申候旨申候趣<sub>ニ</sub>候得共昨年被仰候通之趣意を以強<sub>而</sub>可申付と奉存候得共此段御内々奉伺候上可申付と奉存候旨孫右衛門喜左衛門内々伺出右<sub>者</sub>去午八月穢多新蔵

病氣<sub>ニ</sub>付治療願出候処穢多罪人之病氣絶<sub>而</sub>無之事<sub>ニ</sub>而先格不相分取調候処睨と相知不申郡代<sub>江</sub>も懸合候得共不相分然ル所牢舎人之義<sub>者</sub>罪之重き処を以治療被仰付候義<sub>ニ</sub>而人物之貴賤を以可論筋<sub>ニ</sub>

無之假令万一公儀囚人穢多当所<sub>ニ</sub>致止宿病氣有之町医師無之節ハ如何可致哉御手医師<sub>ニ</sub>而も不被指出候<sub>而</sub>ハ相濟間敷且又医師道<sub>ニ</sub>

而も穢多ハ不療と申義ハ有之間敷義<sub>ニ</sub>候得<sub>者</sub>旁以人品之貴賤<sub>ニ</sub>不拘罪之重き処を以大切<sub>ニ</sub>取計候義<sub>ニ</sub>候得<sub>者</sub>並之通町医師へ可申付道理<sub>ニ</sub>付其旨大年寄へ申達候処其節順番藤木良全<sub>ニ</sub>而無異義治療

仕其後も<sub>二</sub>来穢多入牢多病人數多有之候処不殘藤木良全相勤濟来候処今般ハ吉武祐三順番<sub>ニ</sub>当リ右之通及断候段内々伺出押<sub>而</sub>申付候様可及即答存候得共万一不得心<sub>ニ</sub>而再応及異義候得<sub>者</sub>急度御咎無之<sub>ニ</sub>而ハ不相濟義<sub>ニ</sub>付其段御用番要人殿へ委細<sub>ニ</sub>奉伺候処御内

意<sub>ニ</sub>付伺之通取計候様被仰出候<sub>ニ</sub>付右之旨得と為申聞申付候様孫右衛門喜左衛門へ申達候

一茂吉久兵衛昨夜之喧嘩早速可及内濟之処彼是障取候付夜廻り新治

文蔵指向ケ茂吉へ手錠申付候

一雲州出雲郡坂田村たけと申女西国順礼罷出和州忍海郡南花内村ニ

而相煩同所る送り出し東新町へ送り来札之上継送り申付候段郡代所より申来継送り候様大年寄へ申達候

七月廿一日 快晴

一大目附松岡治部助の呼ニ来相越候処牢屋不埒一件明廿二日御取計

ニ付牢屋中間取計中間頭方ニ而取計可致旨達置候付同心組兩人内

山洞太夫方へ被指向候様申達置候所右牢屋中間庄兵衛義ハ御吟味

ニ付役筋へ引渡ニ相成役筋ニ而入牢申付置候事ニ候得者最早中間

頭申渡ニ者不及義ニ付役筋ニ而追払取計候様被申聞候ニ付其段手

配仕候様小頭江申付候

一右取計ニ付明廿二日当日切ニ加人兩人大目附へ申達候処山本弁助

尾嶋広助来

一元魚町二階町百万遍執行届出夜廻りへ申達候

一町医師牢舎穢多療治之義昨日申達候通吉武祐三江申付候処尚又申

出候者穢多療治是迄仕候義無御座候間牢屋へ罷越候而見及候迄ニ

而診脈不仕薬差遣可申候間其段御断被仰上被下候様申出候段齋藤

孫右衛門申出甚不埒至極之事共医道不案内共可申義即刻押而申付

候様可申付処大年寄共も心得違有之哉孫左衛門杯ハ可然義とも可

申様ニも存候由申聞候付即刻孫左衛門呼出存寄承り候処強而之存

寄ニも無之不伏義を御權威を以申付候ハ、始終者追々除帳仕牢屋

療治も可指支と申計之義ニ付上る診察不致薬指遣候様ニとハ決而

難申付筋并此度祐三断之趣聞届候而ハ以後穢多之療治いたし候も

のハ一人も有之間敷左すれハ町医師何人有之候共即日指支ニ相

成候其節如何取計候所存ニ候哉と及論談候処左様ニ候得者強而被

仰付候外之心付ハ無之候得共穢多ハ差別有之ものニ付右之通申

上候迄之義と申聞未心状不仕趣ニ相見へ大年寄場合さへ右之心得

ニ候得者必定可及違背其節ハ急度御咎無之候而ハ難手引可相成未

大目附へハ不及相談義故其節ニ至趣意違之存寄共出候而ハ以之外

之義ニ付大目附松岡治部助へ罷越右之意味合委細ニ申述可然御存

所も有之候ハ、承度旨申述候処至極同意之趣ニ而申付方寛成故右

之通之義も出可申候間至而嚴敷申付候様ニ可取計假令医師一己之

覚悟ニ而不及診察治療ハ間違なく出来候と申もの有之候共ケ様ニ

相成候上ハ役ニ立而も不立共是非診察可申付筋と被申聞殊ニ御用

番御聞濟之上ハ猶更之義拙者見込之通申付及違背候ハ、急度御咎

可被仰付筋と被申聞候付其段大年寄へ委細ニ申達候

一油方之もの共両三日之内ニ致出坂綿美引受之義も菜種同様ニ取極

度旨ニ付先日指出置候為取替書指戻候様喜左衛門申出候付松岡治

部助へ及催促候処未及披見候得共元来存寄も無之義ニ付直ニ指戻

候間追々可及披見旨ニ而被指戻候付孫右衛門へ相渡候

一茅町年寄淀吉義和州大峰へ参詣十五日計之逗留ニ而廿五日出立之

願書大年寄指出し承り届八月十三日帰

一林田町三升屋勘吉借屋住人平七夫婦二人御城代組内田嘉作渡屋

敷江引越度人別除願承り届

一中川登市郎長屋住利兵衛妻并永田省賀長屋住利左衛門母明廿二日

六半時被指出候様手紙ニ而達置候

一安岡町江川屋六兵衛 并 同町伊勢屋弥助妻明廿二日呼出置候様大年  
年へ指紙遣置候

一牢舎穢多療治之義吉武祐三大年寄宅へ呼出し急度申渡候処奉畏明  
早朝罷越治療可仕旨御請申上候段大年寄届出尤再往彼是申上恐入  
候段申候旨亥ノ刻過齋藤孫右衛門罷出相届候

七月廿二日 快晴

一新左衛門孫八新治出番為治左五兵衛立会ニ而牢屋不埒一件之もの  
共今六半時呼出し申渡濟其外他役所取計も設置候但牢屋立合藤蔵  
百蔵指同候

牢屋不埒取計不宜不埒ニ付

牢番足輕

番代申付候

内田山七

右同断殊拔身等罪人ニ為見候不埒ニ付 同

永之暇差遣候

和田広治

右八座敷於縁側書役誑渡候

罪人ノ質物等取次不埒ニ付

牢屋中間

御領分追払

庄兵衛

右庄兵衛取計相濟候分御中間頭へ

右受人指添 平口屋幸助  
増屋長治

及通用候

牢内へ御法度之もの指遣候付

中川登市郎長屋住

追込三日

利兵衛妻

永田省賀長屋住

右同断

利左衛門母

右八於白洲会役誑渡候

右同断 弥助妻

入牢中不慎ニ付

同町江川屋

追込三日

六兵衛

右八大年寄宅ニ而小頭部屋目附指出し申渡候

牢番加人御使組

御叱置

日下勇助

右八勘定奉行ニ而取計

山北村

追込三日

藤助

大篠村

右同断

周蔵

御城下一里四方居村

番子穢多

追払

三人

右同断

追込廿日

拾七人

右同断

追込十日

式人

番庄屋穢多

右同断

六人

右同断

追込五日

六人

穢多頭

叱

兩人

ノ穢多六人

右者郡代所取計

右取計相濟候段御用番并大目附へ紙面ニ而相届候

一東新町岩屋文藏倅文三郎義和州大峰參詣廿日計之逗留ニ而来ル廿

四日成立願大年寄承り届指出ス八月十一日帰

一東新町藁屋与七郎倅喜兵衛義右同断願書指出同様取計八月十一日帰

一吉武祐三今朝不快ニ付倅修格牢屋へ罷越候処穢多三吉義最早快不及藁旨当人も申越ニ而藁不差遣段大年寄ル届出候

一牢舍人利兵衛二廻リ療治相濟未相勝候ニ付明日方吉武修格へ申付候段届出候

一右牢屋不埒一件取計相濟候上者右門義指扣可相伺と先例取調候処天明五巳年牢拔有之候節取計者守助備中行留主之義ニ者候得共前後共指扣相伺候様子無之且又先年牢内紙帳等有之候節牢番叱ハ取

計候得共差扣も不相同濟候事故此度も不相同候尤其以前宝曆三酉年牢拔有之候節立会ニ而御叱有之候事

一元魚町紙屋多兵衛義和州大峰參詣廿五日計之逗留ニ而来ル廿四日成立願大年寄承り届差出八月十三日帰

一牢番加人共行水仕候ニ盥無之難義候旨小頭方申出調遣候様ニ申達代銀二匁相渡候

一西今町湯田屋太郎左衛門義撰州兵庫水車新田上田兵五郎方へ廿日計之逗留ニ而明廿三日成立願指出承り届八月十四日帰

一林田町常盤屋丈右衛門義改印仕度願印鑑指出承り届書役江渡置候

一河原町又平妻豊義去ル十七日髮結株之義ニ付大目附へ致直訴候段達有之仍之組合預ケ申付置候処今八時方呼出し新左衛門孫八新治孫右衛門喜左衛門立会ニ而理解申聞候

又平倅万吉髮結仕候処六ヶ年以前 河原町又平妻豊

致出奔右株ハ断絶候処右株者 堺町 伊兵衛

矢張致所持候ものと相心得居候ニ而

髮結頭伊八江公事申懸ケ致直訴候ニ付理解申聞候得共納得不致万吉兄伊兵衛委細吞込居候由申候ニ付同人呼出し兩人江得と理解申聞候致得心候付請一札印形取之候尤組合預ケ指免候

一美濃職人町百万遍執行届出夜廻リへ申達ス

七月廿三日 快晴

一御用日登城

一橋本町吉見屋義助借屋住音治姉とめ義当三月廿一日致出奔百日尋申付置候処行衛不相知最早百日余ニ相成候ニ付除帳願指出御用番中御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候

一御代官野村権九郎殿支配所丹後国熊野郡出角村藤兵衛弟又兵衛一人橋本町武藏屋甚藏役介ニ引受度人別人願右同断取計濟八朔住宅証文指出

一船出入一件ニ付塚角村横部加賀守倅常陸昨日樫野屋茂一郎方へ罷

越右内濟懸合知音之人ニ而無之候得者茂一郎不罷出と申遣候義及理談并右内濟懸合昨年大年寄大庄屋之仕懸候跡を継可懸合口振ニ

付迎も相整申間敷ニ付さつはりと及断手を引候様ニ茂一郎可申付  
旨藏合孫左衛門不快ニ付喜左衛門を以伺出至極尤之義ニ付伺之通  
宜取計候様及直答今日御用番要人殿ニ委細申上候処思召無之相濟  
候

一 信源院様来晦日廿三回御忌ニ付於泰安寺御法事御座候段為御知大  
目附廻状到来写取組中并町方へ指出ス尤廿九日晚夕晦日終日町方  
自身番仕火之元入念候様相触候

一 信源院様御法事ニ付配當場御布施頂戴願出大目附へ及噂置御用番  
中へ申上候処御聞濟ニ付其段大年寄へ申達候

一 雲州七里飛脚玉置六郎左衛門方へ指置度頼来候所断ニ為及候処今  
般勝間田ニ御本陣被仰付七里飛脚も被指置候由右本陣より玉置六郎  
左衛門へ案内申越候由申出右七里飛脚之義御用番并大目附へ及御  
噂候

一 河原町忠藏方ニ新魚町茂吉福渡町久兵衛喧嘩之趣内々御用番并  
大目附へ及御噂置候処大目附へ不承分ニ可致置旨申聞候

一 河原町又平妻昨日之請一札大目附へ指出候  
一 牢屋中間へ先前者老人扶持ニ五俵被下御擬作別之義ニ付亘人も出  
兼候間以後ハ並中間之通一人半扶持ニ御直被下候様伺書大目附へ  
指出置候

一 牢番穢多共御擬作無之不便成もの并右之処を不べりも出来候間以  
来者少々成とも被下候様仕度伺書郡代兩名ニ而五月廿八日御用番  
へ指出置候処今日左之通御用番中より被仰出候

伺之趣至極尤之義不便成義も候得共此節追々御入用多ニ而

近年之内ニ御切也も無之候而ハ不相濟趣ニ有之其節ニ至リ  
御手を被付候而ハ却而不宜候間御取上ケ難被成候間御指戻被  
成候尚又御時節も可有之旨被仰出候

一 牢屋火床ニ行燈無之ニ付被仰付候様致度并揚り屋北之小窓ニ金網  
張候様致度旨伊達与吉郎月番之節申立置候処今日同人より先規を無  
之相濟来候事故矢張是迄之通ニ而相濟候様申聞候

一 女牢錠前封印内より手届候間封印切候ニ付不手届様ニ小割打候様  
先頃申立其通出来候処今日伊達与吉郎より右封印へ不手届様ニ先頃  
小割為打付候処右狂女出牢之上ハ右小割取捨させ候間其節届出候  
様被申聞候

一 坪井町井口屋利八和州大峰参詣廿八日計逗留ニ而廿四日出立願大  
年寄承り届ケ指出候八月十三日帰

七月廿四日 快晴

一 船出入内濟懸ケ合一件之義横部常陸樞野屋茂一郎へ対談之趣認出  
候ニ付要人殿へ持参指出候

一 玉置六郎左衛門義倉敷村春名直右衛門方へ明廿五日罷越一宿仕度  
届承り届

一 牢浚申付候所無別条段藤藏栄治届出候

一 大目附松岡治部助昨日被申聞候者御同人当役仮役被相勤候節被相  
糺候所牢番穢多ハ罪人之人数文罷出候定之由申聞候付小頭を以穢  
多頭九郎右衛門へ相尋候所同人義十六ヶ年頭役相勤候得共左候様  
之義一向無之刑法時分罪人之員数文罷出候様被仰付候得共相勤リ  
不申直ニ元之通ニ相成候由及承居候旨申候由小頭申出候尚又相糺



候上松岡へ可及返答事

七月廿五日 快晴

一 中川登市長屋住利兵衛妻永田省賀長屋住利左衛門母安岡町伊勢屋  
弥助妻同町江川屋六兵衛右四人追込指免其段御用番并大目附へ紙  
面<sub>ニ</sub>而相届候

但登一郎義今朝指扣御免被成候付今朝右呼出之手紙指遣於白

洲申渡候省賀義ハ今日<sub>ニ</sub>而指扣三日<sub>ニ</sub>相成候由今朝御差免無

御座仍之受人方へ当番指遣直<sub>ニ</sub>呼出し指免申渡候其段明朝省

賀へ可申遣事安岡町兩人ハ大年寄宅<sub>ニ</sub>而取計候立会新左衛門

孫八藤藏也

一元魚町糘屋伊助義大坂大川丁美作屋辰三郎方へ三十日計之逗留<sub>ニ</sub>

而明廿六日<sub>ニ</sub>而立願書大年寄承り届指出八月廿五日帰ル

一 牢舎人鉄藏義牟越<sub>ニ</sub>相糺度義有之候間立会出呉候様郡代所<sub>ル</sub>申来

昼廻り又六林藏指向ケ取計候

一 坪井町山際屋平六義和州大峰參詣廿日計之逗留<sub>ニ</sub>而来ル廿七日出

立之願書大年寄承り届指出八月十一日帰

一 西新町余野屋伝七義城州黄檗山<sub>江</sub>參詣十九日計之逗留<sub>ニ</sub>而来ル廿

六日<sub>ニ</sub>而立之願書右同断指出八月十三日帰

一 牢舎人病氣<sub>ニ</sub>付引扶持いたし右料を以好候もの調遣候様是迄致来

候事<sub>ニ</sub>而承り届之上為取計来候処不<sub>レ</sub>リ之基之旨穢多頭申出候趣

小頭<sub>ル</sub>申出依之爾来引扶持取計相止候様牢番加人河野磯兵衛へ申

付候

一 安岡町百万遍執行届出夜廻りへ申達候

一 牢舎人鉄藏療治二廻り相濟吉武修格へ申付候段届出候

七月廿六日 快晴

一 永田省賀長屋利左衛門母追込指免候義今朝省賀へ申達候

一 橋本町西側<sub>ニ</sub>而柳屋太七家屋敷表口式間裏行拾五間但四步役也北

隣ハ山方屋喜八南隣ハ作人長助也右家屋敷代銀三百目<sub>ニ</sub>相極町内

作人長助へ売渡願承り届八朔売券状指出ス

一 新魚町魚屋茂吉福渡町大坂屋久兵衛去ル十九日夕喧嘩内濟仕候歎

書指出し承り届ケ夫々禁足他參留等指免茂吉手錠ハ昼過より指免

候

一 西今町山際屋和兵衛同町福見屋武兵衛同町山本屋兵治大峰參詣廿

日計之逗留<sub>ニ</sub>而明廿七日出立願承り届指出八月十一日帰

一 玉置六郎左衛門倉敷<sub>ル</sub>罷婦候段届出候

七月廿七日 白雨

一 御領分東南條郡古林田村紺屋作右衛門娘義西今町中野屋太郎兵衛

妻<sub>ニ</sub>引受度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届

七月廿八日 白雨

一 御用日登城

一 備前岡下之町吉屋八百治弟定七<sub>并</sub>娘二人右家内三人戸川町備前屋

源<sub>（吉丸）</sub>引受度人別入願御用番御聞濟<sub>ニ</sub>付大目附へ差出置御聞届申達

候八月十日住宅証文差出

一 板倉主水輔殿預り所備中嘉陽郡宮内社領友八娘義材木町正木屋甚

右衛門借屋住彦兵衛妻<sub>ニ</sub>引受度人別入願右同断取計濟八月三日住

宅証文差出

一 郡代所盜賊鉄藏引合之もの御裁許伺書御用番中へ指出置

一 贖銀一件之もの共同之通思召無之候間江戸御留主居田中幸助へ先年役筋る問合申遣候義も有之候間一ト通り申遣可然間右懸合之書

面相認伺候様伊達与吉郎申聞右書類指戻候

一 河原町又平妻髮結株之爭論ニ付請一札御用番江指出候様ニ被申聞

大目附る被相戻御用番中へ指出候所即刻被相戻候

一 横部常陸檜野屋茂一郎応対之弁書御用番中御戻被成候

一 牢舍人利左衛門療治ニ廻り相済吉武修格へ申付候段双方る届出候

七月廿九日 雨

一 船出入之義檜野屋茂一郎一昨廿七日塚角村横部加賀守方へ罷越致

対談手切之及挨拶罷帰候段弁書指出黒田要人殿江紙面ニ而指出候

一 西今町常屋文兵衛と玉屋吉右衛門と堺之塀論ニ相成双方る願出大

年寄場合ニ而色々取扱候得共内済不任由ニ而右願書指出候

七月晦日 時雨

一 信源院様御法事ニ付橋詰警衛文蔵左五兵衛指出候

一 船頭町南側ニ而伊部屋勘兵衛所持之明屋敷地表口三間裏行五間但

本役也西隣ハ作人伝兵衛東隣ハ河原町分也右明屋敷代銀札三拾目

ニ相極同町粉村屋儀助へ売渡度願書承り届八月七日売券状指出

八月 小

月番

御家老

御年寄 山田主膳殿

大目附 佐々木主馬

大年寄 玉置六郎左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

八月朔丁亥旦曇

一 例年之通五時惣登城於七間廊下御小性頭謁諸事定例之通無滞相済

一 組中へ例之通神酒指出候

一 供番萩野藤蔵罷出ル

一 牢番加人下田弥三郎引込赤田平治罷出ル

一 雲州嶋根郡福塚与兵衛と申者西国順礼罷出播州明石郡山田村ニ而

致足痛医療指加へ候上ニ而同所る送り出し川部村へ送り来継送り

候様申付候段郡代所る通用有之候ニ付継送り候様申付候

八月二日 快晴

一 牢番加人小林浪右衛門代リ尾崎広助罷出候段届出候

一 牢屋下番中間伝助今日る出勤届出候

一 川端又六不快引込小頭る届出候

一 牢舎人八人之扶持米五俵内貸証文指出奥印取計候尤当月中ニ而三升三合七夕五才不足也

一元魚町村本屋万吉借屋住轆轤屋治兵衛并倅要吉并娘一人孫長之助  
右家内四人此度御領分西々条郡二ノ宮村立石平馬方へ引越度人別除願下方引合相濟候段大年寄申出承り届

一 御領分西々条郡広原分佐七娘義三町目小田原屋幸助借屋住一文字屋文助妻ニ引受度人別入願右同断承り届七月改ニ入

一 中之町玉野屋藤十郎役介嘉兵衛義甲州身延山へ參詣百日計之逗留ニ而明三日出立之願書大年寄指出し承り届十一月廿八日日延願指出

一 林田町梅屋宇助方へ昨朔日夕盜賊這入錢箱取出し売酒錢貳拾四五匁計盜取候由届書指出候明日可及御沙駄候

一 坪井町福惠屋伊兵衛義大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ三十日計之逗留ニ而明三日出立之願書大年寄承り届指出ス同廿五日帰

八月三日 時雨 夜大雨

一二ノ宮原松ノ木北側筋違橋ノ三本目之松今曉七前時ノ燃出候段町々々註進有之候ニ付龍吐水彗挺指出候様申付候処追々聞付拾貳丁火消人数指出大年寄も三人共致出役郡代も出馬ニ而切倒し消留候段大年寄三人共届出候尤火消指出し相働候段三浦ノ挨拶使來ル

一 御用日登城

一 上紺屋町灰屋与右衛門借屋住作人浅治家内三人当四月致出奔百日尋申付置候処行衛相知不申百日余ニも相成候付除帳願御用番中御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候七月改ニ入

一 信源院様御布施配当場頂戴一札御用所へ持參口達ニ而申上大目附へ指出候

一 林田町梅屋宇助方盜賊届書御両所へ申達候

一 近々武芸一覽有之候大目附廻状到來写置候

一 牢舎人府右衛門病氣全快休薬届出候

一 於御用所大目附出席左之通御用番中ノ被仰渡候

盜相働候ニ付五十敲之上 太田村文八俣

婦村被仰付候 熊吉

一 左之通御用番中ノ被仰渡候

一 盜賊熊吉懸り合之もの伺之通可取計候

一 帳外吉兵衛一件之もの伺之通可取計候

一 郡代所ノ龍野預り所入帳之もの新田村惣助借屋ニ帳外ニ而罷在候銀藏と申ものノ受人ニ相立候鍛冶町神場屋喜八桶屋町長八指出候様申越大年寄へ申付候所喜八義ハ在宿不仕長八計罷出候尤右銀藏博奕一件ニ付被召捕受人預ケニ申付候由也

一 新田村兵助七左衛門博奕ニ參会ニ付牢番預ケ申付出番

一 町方宗門改帳例歳之通指出

一 天台宗 千貳拾人 一真言宗 貳千貳百五拾貳人

一 禪宗 四百三拾七人 一浄土宗 六百七拾七人

一 浄土真宗 四百六拾八人 一日蓮宗 貳千貳百貳拾七人

惣人数合七千八拾壹人 内 男三千七百貳拾六人 女三千三百五拾五人 ○昨年ノ拾人減ス

一元魚町大笹屋喜兵衛倅瀨助義四国遍路罷出度九十日計之逗留ニ而來ル五日出立願書承り届病氣ニ付八月廿四日途中ノ罷帰ル

一吹屋町百万遍執行届出夜廻りへ申達候

一 小盗人ハ敵掃町掃村被仰付度大目附存寄ニ而兩役ル伺置候追払も  
のも掃町掃村ニ被仰付候而も強而之存寄ハ無之哉之尋有之依之翌  
四日近年小盗人追払ニ相成候佐々木長屋為八二階町徳三郎大橋長  
屋奎助元魚町茂助追払ニ相成候例書指出候

八月四日

一宗門改帳宗旨奉行へ指出候

八月五日 晴

一戸嶋村弥市郎出牢手形郡代所ル相廻り認かへ出番栄治指向出牢取  
計候

一石名佐十郎明五日方出勤届出候

八月六日 曇 時雨

一牢番加人河野磯兵衛代リ井汲兵四郎来

一牢舍人利兵衛利左衛門快気ニ付休薬届出候

八月七日 快晴

一目明孫兵衛不快引込ニ付仮役平助へ申付度小頭伺出承り届

一川端又六今日方出勤ニ付加人御使組山形林蔵指戻候段大目附へ相  
届候

一桶屋町桶屋市太郎去ル四日方在方へ稼ニ出居候処右留主中へ盜賊

這入候様子ニ相見へ候得共何も取候もの無之旨目明甚七届出候

一元魚町久保木屋嘉兵衛借屋住中野屋佐助後家かね母義当五月大坂  
上町備中屋徳兵衛方へ看病ニ罷越候処未相勝候ニ付今五十日之追

願指出承り届

一 大坂高麗橋筋三丁目儒者漢代録と申もの伯州へ罷越候由ニ而昨夜  
境町西川屋善助方ニ一宿致候処当所ニも用事有之候ニ付七日計還  
留致度申候間宿仕度願書西川屋善助指出承り届同十四日罷帰

八月八日 快晴

一御用日登城

一 備前邑久郡小津村久右衛門悴幾右衛門一人桶屋町小座屋利介役介  
ニ引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候  
同十日住宅証文差出

一元魚町住屋市左衛門義大坂借銀出入身代切可相渡ニ相成内濟取扱  
金五両ニ而可相濟ニ懸合罷掃リ右扱人來金子五両扱人江相渡候段  
届出其段御兩所江及御噂候追而兩人之受取書指出候上大坂江可懸  
合事

一牢屋破損御繕書大目附へ指出候

一 賈銀一件之懸合田中幸助へ申遣候義役筋伺之通今日之便ニ幸助方  
へ申遣候様御用番中被仰出其旨取計候新左衛門因州ニ而懸合之手  
扣も相廻候様被仰出写相廻候

一 太田村能吉去ル三日被仰出候通敲取計郡代と申談之上明九日可取  
計間例之通立会被仰出候様大目附へ相達置右手配夫々申付候様小  
頭へ申付候尤右引合之もの申渡明日大年寄宅ニ而取計候様是又申  
達候

一 桶屋町桶屋市之丞留主江盜賊這入候得共何も盜取候ものハ無之旨  
組合方届書指出承り置候

一元魚町玉屋弥吉義去年十一月大坂内本町橋詰海布屋仁三郎方へ妻

子召連三年切縁ニ罷越候所存寄ニ不相叶罷帰候段届書指出

一元魚町灰屋佐右衛門義撰州能勢妙見宮<sup>ニ</sup>參詣十五日之逗留<sup>ニ</sup>而明  
九日出立之願書大年寄指承<sup>ル</sup>届同廿日罷帰

八月九日 快晴

一於牢屋立会御徒目附高橋三郎太下目附植月類十郎小頭孫八部屋目  
附藤藏出番又六左五兵衛<sup>ニ</sup>而左之通取計

太田村

盗いたし候付五十敵之上帰村 熊吉

但郡代<sup>ル</sup>申渡候

於大年寄宅小頭部屋目附指出左之通取計候

悴吉兵衛義無願除帳取計 戸川町吉田屋

候付追込申付候 多助

但日数三日

右吉兵衛妻ハ同人妹ニ候処 茅野作人

致離縁藤助方へ一旦引取置 藤助

其後吉兵衛連出し太田村へ參居候得共

不届候ニ付叱置候

盜賊熊吉<sup>ル</sup>盜もの質ニ取 東新町大嶋屋

候間其品取上ケ代物損失申付候 吉助

盜賊熊吉<sup>ル</sup>盜もの取次売 福渡町竹屋

払候ニ付代物償申付候 嘉兵衛

右取計相濟候段御用番<sup>并</sup>大目附へ相届候

一牢舎人初太郎出牢帰村ニ付郡代所<sup>ル</sup>出牢切手相廻り認かへ指遣出

牢取計候

一牢舎人帳外吉兵衛出牢郡代所<sup>ル</sup>申来相渡候

一牢舎人新田村兵助七左衛門吟味ニ付郡代所<sup>ル</sup>呼出申来相渡候入も

左五藏取計候

一鍛冶町神場喜八桶屋町長八ニ預ケ置候銀藏と申もの召連今九時郡  
代所へ罷出候様達具候様郡代所<sup>ル</sup>申来其段大年寄へ申付候

一牢舎人鉄藏病氣快氣ニ付休薬双方<sup>ル</sup>届出候

一河原町六藏と申もの方今朝少々竈前フスボリ隣家打寄早々打消可

届程之義<sup>ニ</sup>而ハ無之候得共申出候間相届候旨大年寄届出承り置

一無宿新藏と申もの<sup>ニ</sup>在分<sup>ニ</sup>而竹盜取候付入牢申付候段郡代所<sup>ル</sup>手形

相廻り認かへ左五兵衛指出取計候

八月十日 快晴

一桶屋町髮結幸七義先月晦日罷出不罷帰出奔之体ニ有之候ニ付相届  
候段組合<sup>ル</sup>届書指出百日尋申付候同十一月廿八日除帳聞届候

一林田町北側<sup>ニ</sup>而作人治吉家屋敷明地共ニ表口六間裏行拾七間半但

本役也東ハ横丁通り西ハ箕打屋文助也右家屋敷八ヶ年已前去ル子

年新新町綿屋忠兵衛取次<sup>ニ</sup>而八百目之質物ニ書入候処元利返済受

戻候届書指出候

一右家屋敷之内西之方<sup>ニ</sup>而明地表口三間裏行拾七間但半役添代銀札

貳百匁ニ相極同町岩佐屋善七へ売渡度願書承り届同十八日売券状

指出

一福渡町南側<sup>ニ</sup>而松田屋佐助所持之家屋敷表口貳間裏行拾七間但半

役也西隣ハ疊屋甚助東隣ハ小文字屋忠左衛門也右家屋敷代銀札

百匁ニ相極小文字屋忠左衛門へ売渡願承り届翌十一日売券状出  
一 小性町田部屋市之助家守かきや伊助妻倅岩吉右二人四国遍路百五  
十日之逗留ニ而来ル十五日出立願承り届十二月廿一日帰

八月十一日 快晴

一 盜賊熊吉盜もの四品大嶋屋ニ竹屋嘉兵衛ヲ取上ケ郡代所へ相渡受  
取取置候

一 宗門帳相直し宗旨奉行へ為持指出候

八月十二日 時雨

一 戸川町吉田屋多助追込昨日迄ニ而三日ニ相成候間今朝指免其段御  
用番ニ大目附へ相届候

一 中之町ニ日上屋義助裏通り土手下ニ船車稼仕候処此度同町

高尾屋勘七讓受相稼度願書指出承り届

一 林田町北側ニ而作人治吉家屋敷表口三間裏行拾七間半但半役也東

ハ横町西隣ハ岩佐屋善七也右家屋敷東新町綿屋忠兵衛方へ貳百目  
之質物ニ書入来ル西十月切ニ借用之願書承り届同廿八日本証文指  
出享和三癸亥年五月請返し断書出ス

一 西今町南側ニ而古金屋伊兵衛所持之家屋敷表口四間裏行拾五間但

五歩役也東隣ハ京屋平兵衛西隣ハ安屋八十治也右家屋敷同町柳屋  
茂吉取次ニ而質物ニ書入沓ケ月沓歩三朱之利足ニ而銀札五百匁来

申ノ三月切ニ借用仕度願承り届同十四日本証文指出

八月十三日 朝時雨 昼晴

一 御領分西北条郡小田中村治右衛門娘かね去午十二月西今町直屋久  
米之助借屋住小畑屋義右衛門妻ニ引受候所離縁仕候付人別除願下

方引合相濟候段申出承り届

一 二町目三谷屋与三左衛門義撰州能勢妙見官へ參詣廿日計之逗留ニ  
而明後十五日出立願書大年寄指出承り届同廿六日帰ル

一 御用日登城申上候御用向無之

一 畑盗人下紺屋町源助御裁許之義ニ付先役守助已来之御仕置不殘認  
大目附へ指出候

一 萩野藤藏義痢疾之由去ル十二日ヲ引込候段小頭届出候認落候ニ付  
爰ニ記置

一 牢舎人幸七丈兵衛痢疾之旨申出大年寄へ申付候所藤木良全へ申付  
候由

一 御年貢不相濟内ニ新米買取間敷御触例年之通町方へ相達候様大目  
附中ノ御触書被相渡町方へ相触候

一 右同様之御触書大目附ノ相廻リ写取組中へ相触候  
一 大目附廻状到来左之通

家督番代役替之御礼是迄謁ニ候処以来者先前之通名代を以  
江戸表ニ而申上候様被仰出候

一 一ノ宮八月市ニ付例年之通町触指出候

一 牢浚屋廻リ左十郎栄治へ申付候処無別条旨届出候

八月十四日 晴

一 牢舎人伝右衛門痢疾之由医師願出大年寄へ申達候所藤木良全へ申  
付候段届出候

八月十五日 時雨

八月十六日 大雨

八月十七日 長雨

一 上紺屋町對馬屋三右衛門養子御領分西々條郡香々美藤谷村庄屋清兵衛第十一ヶ年以前貰置候処右源之丞義今般離縁仕親元へ指戻度願書下方引合相濟候段申出承り届候

八月十八日 長雨

一 御用日登城

一 齋藤孫右衛門義播州細月嶋津友三郎方へ廿日計之逗留ニ而 来ルル廿

二 日出立之願書御用番中御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候

一 徳守宮於社地九月下旬花相撲晴天五日興行仕度新魚町三ツ巴初五

郎願書指出候尤岡田繁太郎在府中ニ付旧例之通大年寄方直ニ指出

寺社取次三浦十郎左衛門へ引合之上御用番中へ指出候所御聞濟ニ付大目附江指出置御聞届申達候

一 西今町湯田屋太郎左衛門義去ル十四日大坂方罷歸リ綿実引受一件懸合相濟綿実も菜種同様ニ引受候義御番所御聞届相濟候由弁書一

冊昨日指出今日御用番中へ指出置候尤右之段大目附へも及御噂置候且又右綿実之義も下地も引受致世話居候事ニ者 候得共今般改而

表向ニ而 引受ニ相成候間右為取締水車方代人并田中屋久左衛門近

日来候由ニ付右心得手当等之義無油断申付候様藏合孫左衛門へ紙

面ニ而 申達置其段も及御噂候

一 鍛冶町神場屋喜八桶屋町作人長八義帳外銀藏と申ものノ受人ニ相

立候由郡代所方通用有之依之叱置可然旨伺書御用番中へ指出置候

一小野田為治不快引込届出加人大目附へ申達候所川村新吾来

一 川端又六不快引込届出右同断申達候所野田数右衛門来

一 材木町梅鉢屋助右衛門持来候旅人旅籠屋株京町福崎屋弥七讓受度願書指出承り届

一 油方之もの今般表向ニ而 綿実引受候付為取締水車方之もの来候義

為相札候他領へ夫々締方申達以後三人之もの下知ニ随ひ候様ニ

取向候手段ニ而 来候由藏合孫左衛門方認出候付翌十九日御用番中

へ指出候

八月十九日 大風雨

一 今曉方余程之風雨ニ相成候付大目附佐々木主馬方左之通申来候

洪水之節ハ追廻し馬場中土手本林寺横通り行当り之処并大熊

鞆負殿下屋敷角石垣之処濁水ニ相成候得者水押入候間近町方

心を付土俵ニ而 防留候様ニ可申付候

右之段昨年申達候様ニ者 覚候得共覚違之程も難計ニ付申達候由申

来候ニ付右之通ニ場所ノを指而被仰出候義中ニ者 相覚不申候得

共其段可申付旨及返書候

右之通之様子ニ付洪水之程難計候間為用心町々江土俵可申付置并

大目附中方申来候場所近町方心を付土俵ニ而 防留候様ニ大年寄へ

申達候

一 船頭町石垣御普請ニ付取崩候処有之其所水打越可申至而危有之候

間御手当被仰付候様大年寄申出其段大目附へ相届候処承知ニ候

一大目附佐々木主馬方左之通申来候

川筋御普請所洪水之防勘定奉行へ相達置候所其段夫々江早々

相達候得共御普請所并橋普請等も有之所々之義故急ニ行届候

義難計万一指懸り候節者町方へ人足御作事并御普請役人方直

懸合可申候間指出候様ニ申立有之候間宜取計候様申来候  
右之段大年寄へ申付候

一院庄川昨十八日戌中刻渡船留リ候段郡代所々申来大年寄へ申達候  
一兼田川渡船留リ候段申ノ中刻郡代所々申来大年寄へ申達候

一帳外銀藏受人ニ相立候鍛冶町喜八桶屋町長八伺之通叱取計候様御  
用番中ノ紙面ニ被仰出郡代所へ懸合之上廿二日取計ニ申談置候

一油方引受湯田屋太郎左衛門大坂ニ懸合候弁書御用番中御下ケ被  
成翌廿日大目附へ指出候

一洪水之手当段々申付置候所注進候程ニも不相成不致出役相濟候  
八月廿日 晴

一兼田川渡船相始候段午刻郡代所々申来大年寄へ申達候

一三船新治不快引込届出候付加人大目附へ申達候所加藤茂助来

一新職人町松野屋十右衛門妻百日之願ニ四国遍路ニ罷出候処足痛  
ニ付今五十日追願書指出し承り届ル

一東新町ニ高松屋多助所持之家屋敷南側ニ表口三間半裏行拾七  
間但五歩役也東隣ハ松屋吉兵衛西隣ハ出雲屋幸吉也右家屋敷代銀

札八百目ニ相極同町松屋吉兵衛へ売渡願承り届同廿一日売券状  
指出候

一院庄川渡船相始候段未刻郡代所々申来大年寄へ申達候

一河原町紙屋理右衛門悴勤八義御作事中間ニ罷出度人別除願指出御  
作事奉行佐藤郷左衛門へ引合之上承り届候

八月廿一日 快晴

一石名佐十郎不快引込届出候付加人大目附へ申達候所福田伴藏来

一西新町大黒屋亦七妻流産大年寄諸吟味立会先格之通遂吟味候処相  
違無之旨一札并容体書并大年寄弁書指出承り届置候

一大目附佐々木主馬ノ三奉行一紙ニ手紙到来左之通  
大守様益御機嫌克被成御座去ル三月初御老中方御逢無御滞

被為濟候恐悅申上明後廿三日登城候様申来候  
一大目附廻状到来左之通

大守様益御機嫌克被成御座去ル七日御目見御願書御先手彦坂  
九兵衛殿を以被指出候所御受取被成候

一瑞松院殿義向後様と唱候様被仰出候  
右之通被仰出候ニ付任先例瑞松院（縁欠之）と唱候御触を組中惣町江も相触  
候

一郡代所鍛冶町神場屋喜八桶屋町作人長八ニ預ケ置候銀藏并妻子  
共召連明廿二日五時罷出候様ニ申来其段大年寄へ申達尤右取計有

之ニ付受人共叱明朝取計候様大年寄へ申付置候  
八月廿二日 快晴

一大年寄於宅左之通申渡候様ニ申付候  
帳外銀藏義塚角村人別 鍛冶町神場屋喜八

有無不相糺受人ニ相立不埒 桶屋町作人 長八  
ニ付叱置候

右取計相濟候段届出候上御用番并大目附へ紙面ニ相届候

一牢舍人新田村兵助并七左衛門出牢郡代所々申来出番左五兵衛指向  
取計候

一稲荷山草苺今日相始候段三軒屋番作治届出候



一 牢舎扶持五儀之内貸証文指出奥書取計候但来月へ壹石四斗六升式合五夕持越候

一 中山百蔵引込届出候ニ付大目附へ加人申達候所御使組無之由ニ而廿四日の小林浪右衛門来候

八月廿三日 晴

一 御用日登城尤今日へ左之御ケ条之恐悦申上有之三奉行以上七之間にて麻上下着用例刻出仕

一 去ル三日御用番安藤対馬守殿へ初而御逢被成候恐悦

一 右同日瑞松院殿以来様と唱候様被仰出候恐悦

一 去ル四日御老中方へ不殘御逢被為濟候恐悦

一 去ル七日御目見御願書御用番御受取置被成候恐悦

右四ヶ条之恐悦申上有之尤去ル三日御用番中へ初而御逢被成候恐悦ニ付御赤飯御酒御吸物御肴二種被下候間此段類役ニ演達候様大目附の被申聞及通達候

右恐悦申上例之通於七間廊下御小性頭代大目附月番謁御奏者番の三奉行迄一同右四ヶ条恐悦上席御奏者番の申上末席の引取畢而三奉行役順ニ御用所へ罷出右恐悦申上末席の引取引懸ケニ大目附へ右恐悦自分及挨拶畢而坊主部屋前於廊下頂戴物相濟右頂戴ものの御礼於七間廊下右同断申上済

一 上紺屋町灰屋清五郎借屋住桶屋佐七義脇坂淡路守殿預リ所当国勝南郡位田村佐太郎養子ニ指遣度人別除願御用番御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候

一 大久保安芸守殿領分当国久米北條郡通谷村佐平一人茅町玉嶋屋八

十七引受度人別入願右同断取計濟九月朔日住宅証文差出

一 当所御出入商人數十年致中絶候ものも右株丈へ新商人承リ届候而も可然哉之旨大目附中へ及相談置候

一 油方三人之ものへ以来世話料指遣度并綿実御買上ケ直段建方喜左衛門考書去ル廿一日指出候ニ付今日上原彦蔵へ及対談右考書相渡置候

一 古川村兵八方へ去ル十五日盜賊這入衣類十一品盜取代積百六拾三匁位之由右触流取計候様大目附の演達有之触流取計本書八大目附へ指戻ス九月十二日町方ニ無之候段申出候

一 御領分西ヶ条郡下森原村岩助一人宮脇町新角屋庄九郎引受度人別入願下方引合相濟候旨大年寄申出承リ届

八月廿四日 曇

一 備中国早嶋野次庄助粹弥三郎と申もの玉置六郎右衛門方ニ逗留仕居候所今朝罷帰候段蔵合孫左衛門の届出候

一 中之町藁屋藤吉借屋住西屋要助妻痢疾ニ而致流産大年寄諸吟味立会遂吟味候処相違無之旨例之通一札等指出承リ置

八月廿五日 雨

一 小野田為治三歳之恹致病死一日之慎小頭の届出候

八月廿六日 快晴

一 大目附の廻状到来

江戸表の飛脚到来

大守様益御機嫌克被成御座去ル十五日初而御目見無御滞御首尾能被為濟候仍之明後廿八日御赤飯御酒御吸物被下置候

間大番組以上五ツ半時登城可仕小従人以下坊主迄九ツ半時  
登城可仕尤嫡子之面々も登城候様被仰出恐悦之御事ニ御座  
候

右之通御目見被為濟候義惣町并組中へ相触候

一大目附佐々木主馬る呼ニ来罷越候処此節御使組弘底之処明後日御  
祝被下ニ付御使組甚指支候間加人ニ相廻候御使組不殘明廿七日明  
後廿八日両日指戻候様勘定奉行る申立有之候間如何様ともくり合  
セ指戻候様被申聞候付難相濟趣委細ニ申談此節同心組六人引込加  
人五人取居候処御指支之義ニ候得者外ニ仕方も無之候間左之通ニ  
可取計哉と申談候処以前るも昼夜廻り相止候義も有之事ニ及承居  
候間左之通ニ而可然旨被申聞候間其通小頭へ申渡候

此節同心組小頭共ニ四人有之候間加人一人残置昼夜廻り相  
止当番兩人出番兩人と相立置指懸リ候節者小頭当番為相動  
四人指向候様ニ可取計候事

八月廿七日 小雨

一同心組加人五人之内野田数右衛門一人指殘候積之処同人義ハ御用  
有之由ニ而右為替畑直右衛門指越候

一御奏者番伊達与吉郎る去ル十五日御目見無御滞被為濟候恐悦申上  
ニ明廿八日御徒格以上惣登城之廻状来候

一西新町吉武祐三借屋住新助義五ヶ年以前外十月当国勝山中町大工  
屋太七方へ奉公ニ參居候所年限来リ罷帰候段届書承リ届

一戸川町赤崎屋文四郎借屋住たつ棹市之丞義去午十二月山北村太助  
方へ養子ニ指遣置候所今般離縁仕罷帰候付人別入願下方引合相濟

候段大年寄申出承リ届

一播州加古川ねしわく細工人九郎兵衛長治右二人例年之通「」当十  
二月まで指置度願二階町鳴屋藤吉指出承リ届十二月十八日帰

一牢番足輕内田山七義願書指出渡部相馬家来内田庄蔵と申もの番代  
ニ指出度旨小頭る願書指出承リ届ル右ニ付来月朔日目見候様ニ申  
付候

一拙者家来上野団助義牢番足輕相望候段小頭孫八る申出願之通可召  
抱候間右兩人共来月朔日目見仕候様ニ可取計旨孫八申遣候

尤兩人義不案内之ものニ付明日明後日牢番為見習旨孫八申出宜  
取計候様申達候

一油屋共手作菓種百貳拾四石六斗七升之由尤小前名面帳指添大年寄  
る指出し郡代所へ相廻候

一牢舎人伝右衛門幸十郎病氣全快ニ付休菓取計候段届出候

一牢舎人丈兵衛義ハ未相勝二廻り相濟候間明日る吉武祐三へ申付候  
段大年寄届出候

八月廿八日 快晴

一初而御目見被為濟候恐悦申上ニ付御徒格以上麻上下着用五ツ半時  
惣登城於七間廊下御奏者番る三奉行迄例格之通一同恐悦申上候畢

而御用所江三奉行一同罷出恐悦申上候引懸ケニ大目附へ恐悦之自  
分及挨拶候畢而三奉行一同檜之間江罷越上席町奉行る恐悦申上候  
尤重き恐悦ニ而廻動有之節者檜之間へ罷出廻動代リニ恐悦申上候  
事也畢而御用所坊主部屋前於廊下御赤飯御酒御吸物御肴二種頂戴  
候右畢而七間廊下へ罷出御小性頭代江謁頂戴もの御札申上候事

○組中間へも御酒被下候

一西新町吉武祐三役介新助義三浦志摩守殿領分大庭郡勝山町鍛冶屋  
和兵衛方へ指遣度人別除願御用番御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞  
届申渡候

一松平伊織殿領分播州佐用郡佐用町姫路屋宗右衛門娘義西新町伊崎  
屋弥市妻ニ五ヶ年以前外八月引受候所今般離縁仕度人別除願右同  
断取計済

一雲州出雲郡下庄村和右衛門悴辰兵衛一人戸川町播磨屋金藏引受度  
人別入願右同断取計済九月七日住宅証文指出

一新魚町村本屋太四郎借屋住作人又五郎夫婦娘右家内三人当五月九  
日出奔仕百日尋仕候処行衛不相知最早百日余ニ相成候ニ付人別除  
願右同断取計済

一牢番渡屋敷和田広治跡屋敷甚大破之旨御繕願牢番加人赤田平次届  
書指出し大目附へ指出候

一中之町茶屋孫三借屋住高野屋宇助夫婦悴茂吉右家内三人林田上之  
町八十助方へ引越度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一大目附佐々木主馬る左之通達有之候

今般初<sup>而</sup>御目見無御滞被為濟候為御祝同心組牢番足輕三軒屋  
番<sup>并</sup>高石垣番<sup>江</sup>御酒被下置候此段可申達候

右之段小頭へ申渡小頭麻上下着用御城<sup>江</sup>罷出立合目附る御酒預り  
<sup>并</sup>成裳二枚致頂戴罷帰ル但彦人分御酒式合当也

右頭宅ニ<sup>而</sup>頂戴可仕之処此節同心組引込多有之候ニ付銘々宅ニ<sup>而</sup>  
頂戴之

一中山百蔵明廿九日る出勤届出候

八月廿九日 快晴

一中山百蔵出勤ニ付加人指戻候段大目附へ相届ケ河村新吾差戻  
候

一兼<sup>而</sup>受取置候同心組加人御使組不殘此間之通罷出候付番割等平日  
之通申付候

一御中間相勤候京平と申もの今般無滞御暇出勿論元魚町る出候ニ付  
元魚町河内屋与七引受度人別入願御中間頭内山洞太夫へ引合之上  
承り届候九月改ニ入

一関貫番賃錢例月之通相濟候

九月 大

月番

御家老

御年寄 黒田要人殿

大目附 伊達与吉郎

大年寄 蔵台孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

九月朔 丙辰旦 快晴

一新左衛門孫八詰合ニ而牢番足輕左之通目見申付候

新抱

式本入扇子

上野団助

内田山七番代

右同断

内田庄藏

右於座敷謁慰斗指出之畢而於書役役屋牢屋御定目書役を誂渡之尤明二日を出番申付候

一兼而油方之ものを申出候因伯江相越候兵庫灘目水車方之もの昨日着候処田中屋久左衛門同道ニ而可来約束之処同人義故障有之此度ハ罷越不申候故当国之引合難出来ニ付直ニ因伯へ相越候旨尤久左衛門義ハ追而可罷越候間其節車方之もの同道ニ而罷越当国之懸合可致候得とも延引ニも相成候間断旁立寄候由申聞尤当国へ入込候而ハ道々油屋共へ御当地油方引請之三人江以来相頼候間申談候様達置候由申聞今昼立ニ而因伯へ罷越候由喜左衛門を申出候此段明後日可及御沙駄候

然ル所翌日又々喜左衛門を申出候者油方三人之もの存寄ニ而久左衛門義參候義格別延引ニ相成候而ハ取計行届兼可申候付久左衛門来候日限等相尋候処同人妻病氣ニ付致延引候事故いつ可参とも難計由申候ニ付左候而ハ当国之取締り行届兼候段申候得者左様之義

ニも候ハ、今般来候三人之もの共当国之取締取計可申尤今般之取計格別之義ニ而も無之当所三人之もの共ハ当所之世話引受御番所御聞濟ニ而被仰付候間以来三人之もの共之知を受ケ相稼候様申達候計之義ニ候間其旨相達不承知之ものハ稼差留置罷帰り申達候得者相濟候事故直ニ取計置因伯へ可罷越左候ハ、爰元ニ十日計も逗留可申旨申候ニ付其旨ニ取計被具候様ニ又々相頼候由引受之もの申出尤今般来候兩人ハ先達而爰元へも見改ニ来候もの共ニ而何れも馴染之ものニ付懸合も致能今般之ものハ水車方之ものト代人故久左衛門を却而嚴敷取計も出来易旁以右之通ニ懸合候段申出候此段明日可及御沙駄事

九月二日 快晴

一油方引受之者三人を願書指出当国諸締り之為水車方之もの井田中屋久左衛門指添来候筈之処久左衛門義ハ故障有之不罷越灘目両組之代人水車新田油屋兵五郎代人伝七住吉組井上屋八藏代人万平并下人壱人当国中之引合之為罷越候ニ付坪井町河原屋治助方ニ十日計逗留為仕度旨願書指出し承り届  
一元魚町久保木屋嘉兵衛借屋住作人文治郎義此度太田舍人江奉公仕候付町内人別指除候様願書指出承り届

一牢番足輕内田庄藏上野団助義今日を出番申付候付右引渡ニ小頭三船孫八部屋目付代江原文藏立会ニ指出牢番加人御使組赤田平治尾崎広助井汲兵四郎を為引渡候処受取渡無滞相濟候段双方を届出候一牢番足輕昨朔日召抱并番代も昨朔日指出相揃候ニ付今日を加人不残指戻候段大目附へ相届候尤新抱申付候ニ付渡方等之義宜頼入候

段勘定奉行上原彦藏へも及通用候

一 萩野藤藏明日の出勤届出候

九月三日 快晴

一 御用日登城

一 綿実取締リニ兵庫水車新田<sup>并</sup>住吉組<sup>の</sup>代人指越取締取計候一件御用番中へ委細ニ申上大目附へも同様之達候

一 西岸院様来ル十日百五拾回御忌ニ付配當場御布施頂戴願出候付大目附中へ及噂候上御用番中へ申達候所御聞濟ニ付勘定奉行<sup>江</sup>も及通用置御聞届之旨申達候

一 西岸院様御年回ニ付大年寄共拜礼願出先格取調候処御同人様百回御忌之節<sup>者</sup>未役所日記無之相知不申且又三浦伴左衛門<sup>の</sup>致伝承候得<sup>者</sup>岸権六相認候郡代勤書ニ<sup>者</sup>大庄屋共拜礼ハ当国御拝領之太守様<sup>の</sup>以来被仰付候事ニ<sup>而</sup>惠照院様以上之御年回ニ<sup>者</sup>御拜不被仰付

先格之由申聞候得共役筋ニ<sup>者</sup>左様ニ認候ものも不見当惠照院様五十回御忌之節<sup>者</sup>大年寄共御拜被仰付候段日記ニ有之其後<sup>者</sup>御代々様御年回御拜被仰付候得共浄光院様百五十回御忌ハ宝曆六年ニ<sup>而</sup>

惠照院様五十回御忌と御同年ニ候得共浄光院様<sup>江</sup>ハ御拜不被仰付左候得<sup>者</sup>浄光院様西岸院様御両代様<sup>江</sup>御拜不被仰付先格と相見<sup>江</sup>候ニ付大目附伊達与吉郎へ其段申達候所以前<sup>者</sup>御代々様之内ニ<sup>而</sup>

も御位牌御内御靈屋ニ被為入候御方様ハ容易ニ御拜も不相成候処近年<sup>者</sup>御代々様不残表御靈屋ニ被為入且又以前<sup>者</sup>大役人以上独礼もの計御拜被仰付候処御新礼以来ハ御徒格以上御目見仕候義ニ

候得<sup>者</sup>当時之姿ニ<sup>而</sup>大年寄も御拜被仰付候当リニ候間御用番中

へ御伺候様ニと被申聞候付其段御用番中へ奉伺候所御聞届被成候

間御拜ニ罷出候様可申付之旨被仰出候付其段又々大目附へ及噂置大年寄六郎左衛門へ申達候

一 右同断ニ付礼元共御拜礼之義も同様ニ可有御座哉之旨伊達与吉郎へ申達候所礼元ハ大年寄とハ格別差別も有之もの<sup>ノ</sup>義ニ候得<sup>者</sup>役筋も可有之義ニ候間得と相考候上ニ<sup>而</sup>被申聞候様ニ被申聞候間何分相考追<sup>而</sup>可相伺旨及挨拶置候

一 上田邑村三四郎方へ七月晦日又八月十三日頃右両度盜賊這入銀錢衣類等八品盜取候触流取計候様大目附<sup>の</sup>達有之取計本書ハ大目附へ指戻候

一 萩野藤藏出勤ニ付加人野田数右衛門今日<sup>の</sup>指戻候段大目附へ相届候

一 船出入内済為取替書下案御用番中<sup>の</sup>被指戻元之姿ニ内済相伺候得<sup>者</sup>思召ハ無之御口ふりニ有之候得共内済好之趣下方へ相聞候<sup>而</sup>者不宜候間拙者限りニ右之旨指合居候様被仰出候尤右下案先ハ思召無之趣也

一 油方之義湯田屋太郎左衛門大坂ニ<sup>而</sup>懸合候手扣佐々木主馬<sup>の</sup>被差戻候

一 菜種俵数当年ハ如何程相廻候積ニ有之哉郡代所<sup>の</sup>尋来蔵合孫左衛門へ申達候所三百拾六俵相廻し可申積ニ有之候段油方<sup>の</sup>書付指出郡代所<sup>江</sup>相廻候所右之内上之菜種ハ四拾五石計と御届有之候<sup>而</sup>可然哉之旨郡代所<sup>の</sup>相談申来蔵合孫左衛門へ相達置候

一 御獵方ニ<sup>而</sup>被取候雀式拾六羽小勘者北嶋唯七<sup>の</sup>相廻り昨年之通致

頂戴候

一昨日一ノ宮於市町久世支配所下河内村市之丞<sup>并</sup>伯州米子半兵衛因  
州母木村友三右三人<sup>江</sup>手を負せ相手立去り候内小性町小文字屋太  
兵衛中之町船屋吉三郎上紺屋町神喜屋梅三郎異名小嶋川要助右四  
人相手ニ候旨申出候間手当申付候様郡代所<sup>ル</sup>申来文蔵左五兵衛百  
蔵茂助指向候所四人共先日已来在宿不仕候由申出候

一右喧嘩相手<sup>モ</sup>不召捕候ニ付御近領迄捕子指向可申哉と御用番<sup>江</sup>  
相伺候所早々指出候様被仰出大目附へも相達左之通指出候

神田栄士

小林浪右衛門

目明孫兵衛

非人式人

右用意銀都合百四拾匁六郎左衛門へ取替申付相渡候尤夜ニ入罷立  
候

一右ニ付加人式人大目附へ申達候所山本弁助高木武兵衛来

一右喧嘩扱ニ安岡町明石屋庄七相懸り候段届出候之旨大年寄<sup>ル</sup>申出  
候付組合預ケ申付置候様大年寄へ申付候

一目明孫兵衛指出候付仮役平助へ申付候

一北郷門兵衛役介野上玄養と申もの内海察州屋守平助借屋ニ指置候  
様ニ御頼ニ付指置度願書指出し承り置候

九月四日 快晴

一一ノ宮喧嘩相手小性町小文字屋太兵衛中之町船屋吉三郎義大坂之  
方へ逃行候趣ニ被察候旨目明甚七考之趣申出昨日指出候捕子之も

の何れ之方へ出候哉難計假令東之方へ出候共大坂迄參候用意ハ無  
之ニ付又々一組大坂迄指向可然哉と郡代<sup>并</sup>大目附へ相談之上御用  
番中へ相伺候処明朝立ニ而指出可然旨被仰出其段大目附へも相達  
大坂御留主居<sup>江</sup>被仰遣被下候様申達候所明朝立ニ而飛脚指出候間  
尋もの<sup>者</sup>名面認指出候様申来四人之もの名面申達候右之内要助と  
申もの<sup>者</sup>当時永尋もの<sup>者</sup>由申遣候右用意銀御渡被下候様勘定奉行  
上原彦蔵へ懸合候所金拾両銀三百匁被相渡組之者兩人<sup>江</sup>相渡候尤  
左之もの共指遣候

江原文蔵

福嶋為助

目明甚七

非人四人

合羽持<sup>モ</sup>人

目明甚七致足痛候付今一人指遣度仮役申付候得共差支有之候ニ

付不能其義同人義右痛ニ而荷物得持不申候間荷持人足<sup>モ</sup>人申付

候様文蔵<sup>ル</sup>相願候ニ付承り届候

一右ニ付同心組加人式人申達候所福嶋為助赤田平次来為助義ハ直ニ  
指向候

一左之もの共一ノ宮喧嘩一件能存候由ニ付新左衛門孫八藤蔵六郎左  
衛門出番一人弁助立会ニ而遂吟味候

安岡町

尋中

明石屋

組合預ケ

庄七

申付候

村永屋

吉右衛門

新魚町

三ツ巴

初五郎

東新町

播磨屋

宗十郎

右之もの相糺候処大体相分り口書可取候処及深更候付又々明五日  
五半時罷出候様申付指戻候右之内村永屋吉右衛門義ハ一向不存候  
得共申方不亘候付手錠申付指戻候

一茅野麩屋元治備中倉敷龜山政吉方へ五日計之逗留ニ而明五日罷越  
度願大年寄承り届指出候同十二日帰ル

一目明甚七出坂申付候付仮役桶屋佐七へ申付候

一吹屋町高瀬屋助八御箱訴一件伺之通取計候様昨日御用番中被仰出  
候付郡代所申談明朝可申渡ニ付手配申付候

一札元共御代々様御年回御拜之義先年々之日記不残書抜キ別紙之通  
大年寄とハ格別差別も有之義ニ候処彼等共義ハ頭徳院様御代明和  
六年結構ニ被仰付候もの義ニ付以来頭徳院様御年回計ニ御拜被  
仰付可然旨考書指添伊達与吉郎へ指出置候

一西岸院様来ル十日百五十回御忌御法事為御知廻状昨日到来写取組  
中へハ昨日指出候処町方之触先格ニ而ハ前日九時より自身番諸事相  
慎と有之候処大隅宮祭礼ニ指支如何ニ付伊達与吉郎へ相尋候所以

前之一夜別事故前日九時より有之候得共當時之御法事ハ前日暮六  
時より相慎候得者宜候間大隅宮祭礼之差支無之候間自身番ハ昼より  
相触慎ハ暮六時より相触候様ニ差図有之候ニ付其旨ニ町触指出候  
一札元山本三右衛門義一ノ宮市中出勤仕無滞今日切ニ而引取候段届  
出候

一新魚町より新職人町へ入横町大溝ニ懸り候二枚石橋壹枚胴折ニ相成  
り損候届書昨日指出御作事普請ニ付大目附へ指出候

九月五日 曇 晴

一吹屋町高瀬屋助八御箱訴一件左之通新左衛門孫八藤蔵六郎左衛門  
出番伴蔵立会ニ而申渡候

船頭町瓜生原屋平兵衛孫

祖父平兵衛義高瀬屋助八

六歳

質入借銀三十日限り濟方申付候

幼年ニ付代人

仲右衛門

但元分百匁也

同町瓜生原屋

公儀被仰出候通質物証抛

字吉

無之ニ付取上ケ不及裁許

他出ニ付代人

市兵衛

吹屋町高瀬屋

助八

公儀被仰出候通平兵衛藤吉

借物ハ質入相違無之ニ付濟方申付候

字吉借物ハ質入証抛無之ニ付取上ケ  
不及裁許候間可致相对候

船頭町

右取計不<sub>レ</sub>宜<sub>二</sub>付<sub>一</sub> 年寄

追込申付候 但日数五日 文五郎

右同断 但日数三日 同 藤右衛門

差扣申付候 但日数三日 齋藤孫右衛門

但他国仕候付罷帰候上

可申付候

叱 蔵合孫左衛門

右之通取計相濟候段御用番<sub>并</sub>大目附へ相届候

○右<sub>二</sub>付蔵合孫左衛門差扣伺出候<sub>二</sub>付不及其義旨申達候<sub>一</sub>尤孫左衛門義ハ不快<sub>二</sub>付名代六郎左衛門へ申渡候事

一立合右同断<sub>二</sub>而<sub>一</sub>左之もの共遂吟味候

安岡町

一ノ宮喧嘩之起リ能存居扱<sub>二</sub>入候<sub>二</sub>付右之趣口書印形取候

但打擲之場所<sub>二</sub>ハ不居合不存<sub>一</sub> 新魚町 庄七

由<sub>二</sub>候<sub>一</sub> 三ツ巴

東新町 初五郎

播磨屋

惣十郎

右口書郡代所へ相廻候上<sub>二</sub>而<sub>一</sub>御用番中へ指出候翌六日大目附へ

出

一同心組目明非人今朝大阪へ出立為仕候段御用番大目附へ相届候

一徳守宮社家対馬娘を昨夜宵之内<sub>二</sub>宮之前<sub>二</sub>而<sub>一</sub>かつき候由近辺之もの

の出合召捕対馬方へ連込候由目明共を呼候由仮目明平助佐助申出

候付急度相札召捕置候様申含候処右ハ雲州湯村<sub>（雲白）</sub>と云魚壳<sub>二</sub>而

紙屋助右衛門方<sub>二</sub>致逗留居候もの<sub>一</sub>由申出候付助右衛門へ急度預

ケ置候様昨夜目明共へ申付取計置尚又今朝右之もの紙屋助右衛門

へ預ケ候間急度番人付置候様<sub>二</sub>大年寄<sub>一</sub>申付させ候

一河面村弥太郎塩当所へ中揚ケ致候義備前<sub>一</sub>生野へ問合有之津山<sub>一</sub>

申参候通り相違無之旨手代<sub>一</sub>返答致候段弥太郎へ相咄候由弥太郎

並屋忠兵衛へ相咄候趣同人認指出候由<sub>二</sub>而<sub>一</sub>喜左衛門<sub>一</sub>指出候要人

殿へ指出候

一兵庫<sub>一</sub>来候油改之もの共今朝爰元致出立従是因伯へ参リ懸道々取

締取計油屋共受印取候間右受書当所之三人へ可相渡候間十日<sub>二</sub>三

人之内菅人勝山迄罷越候様申置罷帰候段届出候追<sub>二</sub>而<sub>一</sub>可及御噂候

一川端又六明六日<sub>一</sub>出勤届出加人一人可帰候処一ノ宮喧嘩一件<sub>二</sub>付

度々出番指出候間不及其義当分留置候

一加人加藤茂助義御蔵立番<sub>二</sub>罷出候付為右代井汲兵四郎来

一昨夜勘定奉行<sub>一</sub>受取候金拾両銀三百匁之仮証文上原彦蔵へ相廻候

一稻荷山下草昨日迄<sub>二</sub>而<sub>一</sub>苅仕廻候段昨日届出候

一御領分菜種四拾五石御廻被成候<sub>二</sub>而<sub>一</sub>も油方指支ハ無御座旨蔵合孫左

衛門<sub>一</sub>申出候<sub>二</sub>付其旨郡代所へ申遣候

一一ノ宮喧嘩一件<sub>二</sub>付久世領市と申もの<sub>一</sub>義久世へ申遣候所人別<sub>二</sub>

無之旨申来候由右書面郡代所<sub>一</sub>相廻リ及一見即刻指戻候

一西岸院様御法事<sub>二</sub>付札元御拝仕度旨願出候段六郎左衛門<sub>一</sub>願出候



＝付最早伺置候段申達候

一御蔵米五拾五匁五分 町米五拾壹匁五分

九月六日 雨 夜大風雨

一ノ宮喧嘩一件懸リ之もの口書御用番中御下ケ被成大目附へ指出  
吟味中組合預ケ申付候段相届候尤右之もの共義最早組合預ケ指免  
他参留申付候<sup>而</sup>も可然旨御用番<sup>江</sup>相伺候処先一兩日見合候様被仰  
出候

一大目附伊達与吉郎<sup>ハ</sup>天明三卯年畑盗人作右衛門善吉右兩人人別之  
義尋来候<sup>ニ</sup>付作右衛門ハ無宿善吉ハ桶屋町人別と申遣候

一牢番上野団助義兼<sup>而</sup>約束仕置候林田上之町御作事中間多四郎娘今  
夕引取婚姻仕候段孫ハ届出候

一京都伏見海道五条上ル森下町近江屋勘兵衛手代新助一人小間物売

＝来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手指出十二月十五日帰

一備前岡山小畑町風屋甚八手代文十郎一人例年之通元結御売<sup>ニ</sup>来候

段右同人宿切手指出ス十二月廿八日帰ル

一御蔵米五拾五匁五分町米五拾壹匁五分昨五日指出候<sup>審次之</sup>認候<sup>ニ</sup>付爰

＝記ス

一尾州和田郡嶋崎之内寺元村高橋伊豆例年之通来候段小性町肥地屋

繁蔵宿切手指出十月三日帰ル

一船出入小瀬村源右衛門打こわし一件龍野吟味有之候<sup>再</sup>吟味<sup>ニ</sup>相

成備前田原村恵助給屋忠治紀伊国屋善兵衛<sup>并</sup>名主兩人大庄屋左右

衛門龍野へ呼出<sup>ニ</sup>相成昨五日致出立候由<sup>并</sup>栗子塚角兩村之ものも

明日罷出候由同日吟味も有之旨<sup>并</sup>備前<sup>ニ</sup>而も竹内又右衛門支配替

＝相成是迄磐梨郡支配之処以後ハ和氣郡支配<sup>ニ</sup>相成候旨尤磐梨郡

支配跡役ハ未相知候旨下説有之由<sup>ニ</sup>而姫路屋甚右衛門<sup>ハ</sup>申出候旨  
蔵合孫左衛門認出候御用番中へ指出シ大目附へも紙面<sup>ニ</sup>而及噂候

一大坂村尾左右衛門<sup>ハ</sup>書状差越住屋市右衛門一件内済相済半右衛門  
<sup>ハ</sup>届出候<sup>未</sup>市左衛門義追込有之旨之由申来何そ間違等も有之事  
哉前後難弁趣<sup>ニ</sup>付市左衛門手前相札候様大年寄へ申達置候右札相  
濟候上<sup>ニ</sup>而可及御沙駄事市左衛門手前相札候<sup>未</sup>当人之手形不相廻  
候付届延引之旨申出則中人之手形指出候

一石州銀山領安濃郡久手村喜八<sup>并</sup>妻娘右三人諸国大社参詣罷出播州  
宋粟郡河呂村<sup>ニ</sup>而喜八相煩送り来候付継送り申付候段郡代所<sup>ハ</sup>通

用有之継送り候様大年寄へ申付候但川部<sup>ニ</sup>而病死<sup>ニ</sup>付不送越候

一ノ宮喧嘩相手召捕<sup>ニ</sup>去ル三日指出候采治浪右衛門孫兵衛非人兩

人亥刻前罷帰リ川下筋相尋候得共行逢不申罷帰候段届出翌七日御

用番<sup>并</sup>大目附へ相届候尤帰リ懸ケ承候得<sup>者</sup>太兵衛吉三郎要助三人

ハ一ノ宮野辺ノ利吉方へ参身支度いたし播州諸社之小難波と申も

の<sup>ハ</sup>方へ立寄り太兵衛義兼<sup>而</sup>大坂案内之処近来不首尾<sup>ニ</sup>付大方四

国路へ可相移哉之風聞<sup>ニ</sup>候旨申出候間野辺之利吉吟味有之候様<sup>ニ</sup>

翌七日郡代所へ及通用候

一ノ宮喧嘩相手之由左之もの共指口<sup>ニ</sup>候間手当申付候様及深更郡

代所<sup>ハ</sup>申来

安岡町江川屋

六兵衛

手錠越繩懸ケ

組合預ケ申付候

同町 村永屋

但腰繩ハ同八日御沙駄

之上指免候

甚吉

上紺屋町高砂屋

金四郎

京町 煙草屋

善治

此もの共ハ不居合得不  
召捕候

他領新田村粉屋

忠助

阿ふら

利七

右ニ付百藏左五兵衛平次并助指所向候所六兵衛甚吉金治三人ハ召捕預ケ置候処善治ハ他出之旨ニ而不得召捕年寄へ帰り次第召捕置申出候様急度申付置候由阿ふら利七と申ものハ福渡町辺之もの、由郡代所方申来為遂吟味候処林田弓之町ニ居候由ニ而直ニ仕懸ケ参候所他参之由ニ而不得召捕尤何方之渡屋敷共不相分候旨申出候ニ付翌七日右之次第御用番中并大目附へ相届且又利七方へハ猶又組指向可申旨大目附へ分ニ而申達置候

九月七日 大風雨

一昨夜方大風雨ニ而追々出水之趣無程注進ニも可及旨内々大年寄共方申越候ニ付出演之手配申付小勤者へも御貸人馬之義内々申遣置候所不及出演引水ニ相成候

一阿ふら利七方へ左五兵衛伴藏指向候所先月十四五日頃不罷帰候旨女房申候ニ而今朝も得不召捕罷帰候右居宅ハ御家老組安藤丹後殿組土井助四郎と申もの、渡屋敷之旨申出候付其段大目附へ相届候一昨夜捕子之もの罷帰候義并太兵衛金治甚吉召捕候義今朝御用番并

大目附へ紙面ニ而相届候

一洪水ニ付御船御船倉不指出候ニ而ハ不相濟候処御藏元分五郎御咎中ニ而甚右衛門一人ニ而ハ御間合兼候間右取計之間内々ニ而文五郎指出度旨大年寄伺出指懸リ候義故承リ届候

一佐久間兵右衛門下屋敷之竹牢屋敷江臥懸リ候段牢番共届出候ニ付

当番兵四郎を以執権へ申遣候

一牢舍人鉄藏病氣申出大年寄へ申達候所(空白)

一院庄川五時前渡船留候段郡代所方申来大年寄へ申達候

一兼田川渡船留リ五ツ半時郡代所方申来大年寄へ申達候

一伏見町筑後屋利兵衛兄佐太郎義関十治長屋へ引越度人別除願承届

一御用日登城

九月八日 晴

一船頭町年寄米屋藤右衛門追込昨日迄ニ而三日ニ相成候間今朝指免

候段出仕之上御両所へ相届候

一京町煙草屋善治昨晚罷帰リ番人付置候段昨夜年寄共届出候ニ付今

朝出仕之上御両所へ相届候

一兵庫水車方之もの去ル五日ニ記置候通罷帰候段御両所へ相届候

一村永屋甚吉江川屋六兵衛高砂屋金治右三人之腰繩御両所へ及御沙

駄候上出番栄治指向繩計免ス

一豆腐十七文売之処以来十九文売仕度願御用番御聞濟之上大目附へ

指出候御聞届申達候

一大豆式斗代 壹匁式分四厘

一薪代 三分

一 壹匁五分四厘

一 拾九文 = 売十丁代 壹匁五分四厘

残手間代 三分

一新魚町金屋文左衛門家守大和屋利兵衛借屋住文五郎独身ものゝ処

因州 = 老母有之病氣申越候付罷帰リ度人別除願御用番御聞濟 = 付

大目附へ差出置御聞届孫左衛門不快 = 付六郎左衛門へ申達候

一 内藤山城守殿領分当国久米北條郡坪井上村兵八悻治兵衛義新魚町

紙屋元吉借屋住作文八養子 = 引受度人別入願右同断取計濟同廿日 住老証

文指出

一 石川主殿頭殿領分備中阿賀郡中津井村宇三郎弟友三郎義京町疊屋

がん養子 = 仕度人別入願右同断取計濟同廿三日住宅証文指出

一 牢屋破損書年番共指出し大目附へ指出候

一 川端又六不快引込小頭を届出候

一 同心組兩人一昨晚罷帰リ今日を出勤仕候付加人式人可指戻処又六

引込候 = 付壹人指戻候段大目附へ相届候高木武兵衛指戻候

一 目明孫兵衛罷帰リ候 = 付仮役佐七今日を指免候

一 女かつき雲州之魚壳紙屋助右衛門方而 敵敷番附置候処殊之外恐

入迷惑仕如何様とも可誤旨段々詫仕候付以来当所へ立入間敷一札

取置可指免孫左衛門伺出候 = 付宜取計候様申達候

一 札元共御拜之義伺置候処大目附伊達与吉郎を左之通御書附を以被

仰出右御置書付ハ写取指戻候

一 札元共義

御代々様御年回之節参拜之義ハ近き

御靈位様江者 相伺可罷出候尤

隆照院様御以上之御方様江者 拜礼

不被仰付候事

伊達与吉郎を猶又口達 = 右御書付之通近き御方様と御座候者 御

親父様御一方様計之義 = 而 御祖父様 = 被為成候而者 御拜不被仰

付御一代様計之御拜伺之上被仰付候事 = 候

今般右之通之御形 = 相極候併右之段下方へ兼而 委敷申聞置候 =

も及間敷候間当役 = 委敷記置右之通度々 = 指図いたし可然と被

申聞候付其趣 = 玉置六郎左衛門へ申達候

一 孤独扶持拾三人分百七拾七匁六分一厘四毛真北類蔵を相廻候大年

寄へ相渡候

一 関貫番賃銀百四拾五匁四分真北類蔵を相廻候受取置候

一 船出入一件龍野再吟味之趣申出候書付要人殿御下ケ被成候

一 備中加陽郡惣社町作屋善兵衛一人例年之通切尺長割煙草紙類卸売

= 来候段堺町西川屋善助宿切手指出十二月廿九日帰

一 小性町小文字屋一号 鈴鹿屋太兵衛義御組中御入込御尋被成候所八

月廿七日を罷出罷帰不申候旨同人妻を届書大年寄指出尋申付ル

一 中之町耐屋藤吉悻吉三郎義御組中御入込御尋被成候所去ル朔日罷

出其後不罷帰旨届書指出右同断申付ル

一 上紺屋町中津屋五郎左衛門借屋住神善屋梅三郎義御組中御入込御

尋被成候処先月廿四日罷出其後不罷帰旨届書指出候右同断申付ル

一 明九日大隅宮祭礼 = 付出役左之通小頭を認出

川端左五兵衛  
出番

福田伴藏

昼廻

神田栄治

赤田平次

一 院庄川兼田川渡船相始候段已ノ刻過郡代所ノ申来大年寄へ相達候  
一大隅宮祭礼ニ付例年之通林田六町焼灯指出候段大年寄届出候

九月九日 快晴

一 重陽ニ付組中相揃罷出謁例之通神酒指出候

一 齋藤孫右衛門細月ノ昨夜罷帰候段届出候

一 大隅宮祭礼無別条相済引取候段出役同心組ノ届出先格之通承置候

一 船出入一件龍野再吟味ニ相成候義弥無相違趣ニ而弓削西川役人出懸ニ爰元ニ致止宿候段藏合孫左衛門ノ書付指出翌十日要人殿へ指出候

一 郡代所ノ通用有之候石州之送り物川部ニ而致病き候間不送越旨郡代所ノ通用有之大年寄へ申達候但去ル六日ニ申来候

一 大目附伊達与吉郎ノ先達ニ而相伺候烟盗人下紺屋町倉敷屋源助御裁許伺之通御領分追払ニ而相当之ものと存候哉弥之処再考承度旨ニ而伺書被指戻尚又得と相考可申上旨申達置候

一 西岸院様御年回ニ付御家中之面々於泰安寺御拝席御定も御座候事哉と伊達与吉郎へ相尋候処左之通被申聞候

御拝席上ノ御定ハ未無之候得共同人兼一己之考ニ者芥子之間御礼席之当を以相考泰安寺御堂疊数を以上下之程を積り候得者大體御奏者番之拝席ハ上之御敷居ノ三疊目之上ニ而可然と被相弁兼其通ニ被致候由左候得者大目附ノ小従人頭迄ハ同席之義故拙者義ハ三疊目之下四疊目之上ニ而可然哉と存

候得共一己之考弁之義故決而御指図ハ不申と被相晰候

一 雲州神門郡今市村西樂寺走雲と申僧為修学久々在京仕此度帰国道中播州揖東郡新宮村ニ而歩行不叶同所ノ送り出し川部村へ送り来繼送り申付候由郡代所ノ通用有之大年寄へ申達候所同夕繼送り候段届出候

九月十日 晴

一 西岸院様御法事ニ付先格之通今町橋詰固メ神田栄治福田伴藏指出候処無滞相済引取候段届出候

一 三船新治今日出勤候ニ付加人御使組井汲兵四郎指戻候其段大目附へ相届候

一 船頭町年寄熊野屋文五郎追込昨日迄ニ而五日ニ相成候間今朝指免候段御用番并大目附へ紙面ニ而相届候

一 勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門手代伊平一人例年之通紺屋形壳ニ来候段堺町西川屋善助宿切手指出

一 御作事中間善八悴長助老人福渡町大工吉左衛門引受度人別入願御作事奉行仮役佐藤郷左衛門へ引合之上承り届

一 西岸院様御法事御拝大年寄共三人仕候段御礼罷出候  
九月十一日 快晴

一 船頭町高瀬屋助八一件御裁許ニ付新左衛門孫左衛門詰合ニ而左之通申渡候尤小頭ハ不快ニ付不罷出候

高瀬屋助八御箱訴一件取計不宜  
等閑候所ノ右之及支義不束之事ニ候  
齋藤孫右衛門  
依之差扣被仰付候 但日数三日

右申渡候段御用番并大目附へ相届候

一 船頭町高瀬屋助八御箱訴一件ニ付相懸リ候もの共御叱有之候処喜左衛門義一人御叱無之ニ付恐入罷在候段新左衛門を以申出候間不及申出ニ筋と及指図候

一 大隅宮祭礼出役之同心組ニ神主ノ駕籠脇之家来を以出役之挨拶申越候由昨年も右之通之挨拶いたし候ニ付出役之挨拶家来を以申越候筋有之間敷義と相答候処西新町年寄井崎屋十右衛門致挨拶神主小原内匠心得違ニ相成相济候由併昨年者相济候事故不申出候処今年又候昨年同様之使差越又々相答候所存寄ニ不相叶候ハ、双方ノ可相届杯と申返答いたし候由ニ付内々申出候ニ付先格相糺候処以前者御貸馬有之其節者馬上ニ而致挨拶候由其後御儉約ニ相成御貸馬不出夫ハ神主御供無之処昨年ノ氏子中ノ駕籠指出駕籠ニ而之供初リ候由申之左候ハ、駕籠ニ而致挨拶候得者先格と申ものニ候得共夫ニ而ハ却而失礼ニ相成不束之咎いたし候と申候処へ尚又年寄十右衛門挨拶ニ懸リ何分内済いたし度申候由申出左候ハ、幸之義ニ候間是迄迎も下社家之面々も及挨拶候由ニ候得者以来ハ出役之挨拶ハ下社家挨拶之節神主小原内匠も宜挨拶申候様ニ申候旨伝言申述置神主罷通り候節者乗打いたし挨拶家来を以申越候様ニ懸合置相济候而可然旨内々及指図候候其趣ニ扱ニ而相济候段新治藤藏ノ申出候

九月十二日 快晴

一 郡代所ノ牢舎人新藏呼出し申来昼廻新治左五兵衛指向取計候入ハ

浪右衛門指向候

一 郡代所ノ無宿盜賊弥太郎入牢申来手形添出番浪右衛門指向取計候一牢舎人丈兵衛療治祐三ニ廻リ相勤未相勝候ニ付鉄蔵共ニ明日ノ修格へ申付候段大年寄申出候

一 新屋敷荒神宵祭ニ付今夕安岡町揚桃灯指出候段大年寄届出承リ置

一 東新町北側ニ而広戸屋利兵衛所持之家屋敷表口式間裏行拾七間但

三歩三厘役也東隣ハ日笠屋市郎兵衛西隣ハ鍛冶屋甚四郎也并裏ニ

三間ニ老間半之納屋老ケ所添質物ニ書入一ヶ月老半之利足ニ而

銀札五百匁鍛冶甚四郎取次ニ而来申四月切ニ借受候段願書指承リ

届同十五日日本証文指出候 壬戌七月八日受戻候

一 牢舎扶持拾人之内貸六俵之証文指出奥書取計候

九月十三日 曇

一 御用日登城

一 御目見被為濟候御祝頂戴仕度配當場願出先例相調候御代々様共被下置候義ニ付御用番中へ相伺候候御聞濟ニ付大目附へ申達勘定奉行へ茂及通用置御聞届大年寄へ申達候

一 西岸院様御布施配當場頂戴之御受書指出し先格之通御用所へ持参口達ニ而申達大目附へ申達置候

一 菜種積登セ御届之石数郡代兩名ニ而大目附へ指出候

覚

七拾老ケ村菜種作高

一百六拾九石五斗七升貳合

内 百貳拾四石六斗七升 油屋共手作手紋

残 四拾四石九斗貳合

右ハ兵庫問屋へ積登申候

右之趣御届申上候以上

未九月

増見右門

三浦十郎左衛門

一大目附る去ル九日違有之候茄子盗人下紺屋町倉敷屋源助御裁許当不当之考左之通大目附伊達与吉郎へ申達候

御領分追払被仰付候間弥相当之ものと奉存候

一船出入龍野御呼出之もの共津山ニ致止宿候書付要人殿御指戻被成候

九月十四日 雨

一斎藤孫右衛門指叩昨日迄ニ而三日ニ相成候間今朝呼出し御免申渡其段御用番并大目附へ相届候但詰合新左衛門六郎左衛門兩人也

一鍛冶町惣道大明神昨夕宵祭ニ付例年之通鍛冶町美濃職人町揚焼灯指出候段大年寄る届出承り置

一小頭三船孫八不快引込新治を以届出候付孫八引込中新治藤藏る助合相動候様ニ兩人江申達置候

九月十五日 晴

一龍野再吟味今般ハ抑る之船出入之起り并片積ニ取計候訳尋有之備前之ものも恵助耆人ニ而ハ答兼候由ニ而田原江出候様申遣候由船頭共姫路屋甚右衛門方へ来相咄候段甚右衛門弁書孫左衛門指出要人殿へ指参指出候尤右ニ付当所船頭共呼出候程も難計ニ付心用意いたし置候様孫左衛門へ相達置并新左衛門へも内々申聞置候尤其ニ而も要人殿江申上置候

一大坂村尾李右衛門長沢清左衛門る書状到来大坂へ指向候組目明非

人去ル十日昼後着坂致翌十一日御番所へ相届途中捕御聞濟之旨返

書来并同心組る小頭へも書状指越播州筋相尋候所弥大坂江出候哉

之趣ニ粗相聞候由申越候書、指出及披見候

一久世御代官早川八郎左衛門殿檢見御用ニ付香々美筋る加茂筋へ被相越夫る勝北郡野田村る来ル廿二日御城下通行之旨他領薪森原る為知越候段郡代所る通用有之候

九月十六日 曇

一牢舎人弥太郎吟味呼出し郡代所る申来出番左五兵衛浪右衛門指向出入取計候

一龍野再吟味ニ而田原恵助船屋忠治悪事相巧候ニ相決候取沙駄并竹内又右衛門ハ弥支配替相違無之旨承り候由藏合孫左衛門弁書指出し要人殿へ紙面ニ而指出候

九月十七日 快晴

一一ノ宮喧嘩相手去ル三日ニ記置候半兵衛友三共ニ因州指構無之市之丞義も久世除帳ものニ而三人共在所構無之旨申来候段郡代所る通用有之

一德守宮祭祀出役名面付左之通小頭代新治る指出

十八日 小頭代 新治

左五兵衛 平治

十九日 小頭代 藤藏

榮治 伴藏

左五兵衛 平次

一東新町北側ニ而鍛冶屋善右衛門家屋敷表口式間半裏行拾七間但三分三厘三毛役也東隣ハ鍛冶屋六右衛門西隣ハ鍛冶屋善六也右家屋敷十三ヶ年已前未ノ三月同町鍛冶屋忠助へ五百匁之質物ニ書入候処此度元利返弁受返し候段届書指出承届

一 右家屋敷此度同町鍛冶屋清助へ代銀壹貫貳百匁ニ相極売渡願書

承届 同廿日屋券  
状書出

一 中之町北側ニ而大笹屋惣十郎家屋敷表口五間半裏行拾七間但六歩

八厘役也東隣ハ兼屋藤吉西隣ハ福茂屋磯吉也右家屋敷之内西之方

ニ而表口壹間半裏行拾七間御役壹歩八厘八毛相添代銀札百六拾匁

ニ相極町内福茂屋磯吉へ売渡願承り届同廿八日売券状指出

一 德守宮宵祭ニ付十八日夕西町不殘揚焼灯指出候段大年寄届出承り

置

一 秋葉宮宵祭ニ付廿三日夕西今町揚焼灯例年之通指出候段届出候

一 関守宮宵祭ニ付廿五日夕西今町揚焼灯例年之通指出候段届出候

一 天神宮宵祭ニ付廿四日夕河原町揚焼灯例年之通指出候段届出候

一 細工町年寄長左衛門病起届出候

一 川端又六義兼而井汲李右衛門孫女妻ニ貫候内約仕置候所母病氣差

重り候ニ付為看病急ニ引取度旨新治る申出承り届

九月十八日 快晴

一 御用日登城

一 林田町山形屋才之丞義当五月十九日出奔仕百日尋申付置候所行衛

不相知最早百日余ニ相成候間除帳仕度願御用番御聞濟ニ付大目附

へ相渡置御聞届申達候

一 久世御代官早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡赤野村丈之助悻實

二 義元魚町徳山朴也後家引受針術為仕度願右同断取計濟同廿五日

住宅証文指出 庚申十一月十三日離縁

一 德守宮祭礼宵祭ニ付先格之通内町関貫九時迄開立番付置候段御用

番并大目附へ相届候

一 大目附出席御用番中より左之通被仰渡候

下紺屋町

烟物盜取候ニ付百敵之上

御領分追払被仰付候

此段可取計候 但伺之通也

同人

伺之通盜賊筋携無之候得共盜賊之妻ニ付

御領分住居不相成立去り可申付候

伺之通盜賊筋携無之ニ付指構無之

御憐愍を以家財指遣候

無宿盜人

百敵之上御領分追払

右同断

五拾敵之上御領分追払

右同断

剽追払

右取計候様被仰渡且又盜賊鉄藏引合候もの伺之通左之通可取計旨

被仰渡候

盜賊鉄藏より質物致取次其上鉄藏 美濃職人町

義十日計も為泊候ニ付追込三日申付

質物代弁銀可申付候

二階町松葉屋

仲平

盜賊鉄藏の質物致取次候ニ付

市右衛門

質物代弁銀可申付候

右之通被仰渡候ニ付右取計之日限ハ郡代三浦十郎左衛門と申談候上ニ而追而可申上旨大目附へ申達置候尤三浦不参ニ付右之通申達候事

一 船出入龍野再吟味之下説并竹内又右衛門支配替被仰付候ニ相違無之跡役多治助太夫と申ものへ被仰付候下説書両通共要人殿御指戻被成其旨大目附へ及御噂置候尤今般龍野へ呼出ニ相成候得者最早井口恵左衛門を不及指出大脇新左衛門可指出候旨大目附へも及御噂置候

一 大坂村尾左右衛門同心組指向候返書来候義先日要人殿江も申上今日大目附へも申達委細ハ大目附中へ申越候旨申来尤自分状之義故旁以不指出旨申達置候

一 追廻河原ニ水車拵御家中之扶持米搗代四分ツ、ニ而片駄賃取持歩迄可仕考書両通去ル十三日上原彦藏を被相廻右書付之趣三役故障無之哉存寄相尋候段大目附を被申聞被相渡候由ニ而相廻り右書面ハ郡代江相廻置候然ル所堺町団屋太郎兵衛も右同様ニ追廻河原ニ水車一ヶ所仕御家中扶持米壹俵ニ付三分宛ニ而搗片駄賃無賃ニ而遠近ニ不拘運送仕右水車余力を以挽臼相添小麦挽粉仕大坂へ相廻度尤運上ハ御指図次第可指上願書指出有之ニ付今日大目附伊達与吉郎へ左之通申達右願書指出置候

此間上原彦藏へ御伝達被成追廻河原ニ水車拵御家中扶持米搗出可申考書尤役筋故障之義無御座候然ル所右同様之願書堺町

団屋太郎兵衛指出郡代所引合之上可相同奉存候所郡代所ニも

水車運上之歎書指出右落着不致内ハ難相濟旨申義ニ而私手前

ニ預リ置候右太郎兵衛水車者搗賃却而壹分下直ニ御座候間御考之一助も可相成候間入御覽候段申述指出置候〇十二月十二日不相成段大目附達有之候

一 早川八郎左衛門殿来ル廿三日御城下通行ニ付御使者被指出今泉「東大番所ニ而相動候間先格之通立宿申付候様大目附伊達与吉郎達有之其段大年寄へ申付候尤御同人通行町分取計先格之通申付候段相届置候

一 水車運上御減少被成下候様ニ大坂屋彦市組屋忠右衛門久米屋鶴藏三津屋平右衛門塩屋七太郎原田屋佐助鍵屋茂助右七人歎書先日指出郡代所へ相廻し候所向方ニも指出候由存寄も有之趣ニ而考中之由ニ相聞預リ置候所右之内組屋忠右衛門願下ケ願書指出郡代所へ懸合候所承り届願書指戻候様ニと申義ニ付右願下之趣承り届願書指戻候

一 川端又六母病氣之所致死去候段届出候

一 西今町野々口屋七郎右衛門役介女子死体致出産大年寄諸吟味立合遂吟味候処別条無之旨先格之通改一札并醫師容体書等指出承り置一 牢番渡屋敷修復相濟候段御作事奉行仮役佐藤郷左衛門を通用有之牢番上野団助も届出候

一 御作事奉行仮役佐藤郷左衛門を□□□□水門唐戸此節取懸り居近々ニ者出来候所右唐戸はめはつし故平日ハ大年寄場合へ成とも預り置洪水之節計相用候様ニ仕度旨申聞候ニ付大年寄へ考申達候右唐



戸出来候ハ、大年寄方へ受取夫の西今町年寄共方へ預ケ置候ハ、可旨翌十九日蔵合孫左衛門申出候

一郡代三浦十郎左衛門義一ノ宮喧嘩一件友三死骸取片着之義ニ付不念有之由ニ指扣伺呉候様頼来御城ニおいて大目附与吉郎へ申達候所左之通被申聞候

郡代役筋懸リ之義ハ兼上原彦蔵へ被仰付有之候義故諸事

同人方可相同筋ニ候間彦蔵を以可被相伺同人故障有之候節

ハ当役方取次候ニ可然義と被申聞候

右之旨十郎左衛門へ申達右之趣ニ候ハ、以来ハ御取次致間敷旨申達置候依之上原彦蔵を以差扣被相伺候処伺之通被仰付跡役上原彦蔵ニ被仰付候由彦蔵ノ通用有之候

一杉山之松茸拾三本一昨十六日御勝手ノ相廻リ致頂戴右ハ御礼ニ不  
及義ニ候得共今日大目附中へ右御礼ニ先日雀頂戴之義も申上候

九月十九日 雨

一徳守宮祭礼ニ付同心組警固指出候所無滞相濟戌刻前引取届出候ニ

付其段御用番ニ大目附へ手紙ニ相届候尤御徒目附高橋三郎太下

目附池上利兵衛罷出候由例年之通十一人分弁当酒指遣候所御徒目附方も例年之通伝言申越候且又昨夜之御徒目附ハ河村市兵衛下目附ハ大潮曾馬治之由両日共無滞届出候

一早川八郎左衛門殿通行ニ付御使者立宿申付候所材木町伏見屋七郎右衛門へ申付候由大年寄より申出候尤立宿ノ御使者勤候もの方へ案内申出候様ニ申付置候間役筋者何方へも不申遣候

一早川八郎左衛門殿通行ニ付町方取計近例之通可申付ニ同心組立宿

も申付候様ニ申達置候

一御城ニ伊達与吉郎方へ罷越相尋置候所吞込宜何分相考候上ニ可及返答由挨拶有之候

一石代御改ニ付米相場建方以来ハ五分あゆみニ申付町米相場も矢張是迄之通ニ建置候段御用所伺済ニ相極候段昨十八日勘定奉行上原彦蔵ノ通用有之蔵合孫左衛門へ申達候

九月廿日 快晴

一船出入一件龍野再吟味之様子榎野屋茂一郎ノ倉敷村春名代治郎へ聞合頼置候処昨晩春名代治郎罷越申聞候者龍野下役之ものへ承り候処源右衛門打こわし一件耳ニハ元之起り不相知候故御裁許も難被成由ニ事之起り船荷積之訳遂吟味申上候様江戸表ノ被仰出仍今般ハ荷割之義遂吟味候処備前ニハ買積之もの迄荷割可致申候も事起り候義ニ付段々吟味候上龍野役人ノ備前出役之役人へ右之通買積之もの迄被致荷割候者慥成証拠有之被仰付候事「相尋

「一」決ニ証拠と申義ハ無之無証拠之義ニ候得者夫ハ元之通ニ被仰付候ニ旨旨相答且又「二」備前役人ノ龍野役人江内々申候者右之通無証拠之義ニ候得共津山町奉行へハ慥成証拠有之旨懸合置候事故必津山へ不漏聞候様相頼候よし強ニ遂穿鑿候ハ、備前役人ハ切腹人も不出来ハ相濟間敷候得共強ニ不及穿鑿候得共備前ハ丸負ケ津山ハ丸勝ニ候由龍野役人相咄此節口書詰致居候よし申聞候旨蔵合孫左衛門認取指出し要人殿へ持参指出し候尤此上右口書写も出来候様之義ニ候ハ、代治郎へ頼置候様ニ孫左衛門へ申達置候然ル所孫左衛門申出候者代治郎義も至ニ繁用之処態々来候事故茂

一郎の酒肴為相送候様可仕旨申聞候付承り置候右ハ龍野役人橋本三平太代治郎承り候由也

一牢舎人利左衛門病氣申出大年寄へ申達候吉武修格へ申付候

一牢舎人鉄藏全快休薬届出候

一船頭町土手御制札之垣江 昨晚牛突懸り少々損候由町年寄申出候段大年寄申出候ニ付大目附へ申遣候

一御代官手代宿新魚町三沢屋与八相勤候所断申出候間同町灘屋弥十郎へ申付候段大年寄届出候

一鍛冶町山形屋惣兵衛義大坂大川丁和泉屋六兵衛方へ廿日計之逗留ニ而明後廿二日出立之願書指出承り届

一大坂江戸堀三町目坪屋新兵衛手代字八一人例年之通腰物小道具売ニ来候段新職人町松野屋十右衛門宿切手指出十二月廿八日帰

九月廿一日 快晴

一牢浚以後ハ左之日数十二日之内ニ而何日と申義其前日之昼迄ニ申出候様穢多頭九郎右衛門へ申付置候段小頭三船孫八申出承り置候

二七四九 右之内ニ而無難之節ハ一ヶ月ニ定度

一西今町磯屋勘治持牛相煩町内角屋吉兵衛ニ療治為仕候処落候由届出候ニ付承り届取捨申付候

一播州龍野下町本屋佐吉一人例年之通書物売ニ来候段新職人町松野屋十右衛門宿切手指出十月朔日帰ル

一鍛冶町鍛冶屋助右衛門家屋敷北側ニ而表口三間裏行十七間但六歩役也東隣ハ「外屋与四郎西隣ハ鍛冶屋惣五郎也右家屋敷并裏之建物不残相添質物ニ書入二町目伏見屋茂七取次ニ而来申ノ十月切迄

ヶ月迄歩半之利足ニ而銀札壹貫三百目借受度願承り届十月朔日本証文指出

一鍛冶町横町西側ニ而鍛冶屋助右衛門家屋敷表口巷間半裏行六間但シ八厘役也北隣ハ塩屋庄助南隣ハ神場屋藤七也右家屋敷二町目伏見屋茂七取次ニ而質物ニ書入来申ノ十月切迄ヶ月迄歩半之利足「

「銀札」 「借受度願承り届右同断

一久世御代官早川八郎左衛門殿明廿二日通行ニ付手配申付置候処那代所左之通申来町分通行相止候付其段夫々江申達候

久世御代官今廿一日上野田村止宿明廿二日槽村野村夫々下高倉村一ノ宮通り田邑村越薪森原村へ被相越候

一大目附も早川殿町分通行相止候段申来候

九月廿二日 晴

一御藏新米五拾六匁五分 町新米五拾貳匁五分

一奈良今井町墨屋伊兵衛手代源助一人例年之通筆白粉卸売ニ来候段京町美濃屋平五郎宿切手指出翌申正月廿九日帰

一杉山之松茸九本勤者る相廻り致頂戴候但昨廿一日相廻り候

一於牢屋明廿三日盜賊御仕置取計候段大目附へ相届御徒目附被指出候様申達

一右取計手配新治藤藏へ申付候

一右ニ付書役大脇新左衛門召連出候中間一人御渡被成候様大目附へ相届候

一右ニ付同心組兩人不足ニ付加人兩人大目附へ申達候処梶間惣平佐藤才助来

一大目附伊達与吉郎ら呼ニ来相越候処左之通被申聞候

牢屋立合之節御徒目附下目附之間へ大脇新左衛門並候由下目

附ハ輕きものなから檢使之役人之間へ取計之役人相交リ候而

ハ不宜候間差別付候様ニ取計可然当向ニいたし而も可宜哉と

被申聞候付何分差別付候様ニ可取計旨及返答置新左衛門へ談

置候尤所ニも可寄義ニ候得共目附組と之間少々明ケ候而並候

ハ、連座ニ而も分別ハ付可申旨申「」

一公儀御用之白牛久世ら江戸へ參候先触板橋ら左之通到来

一白牛 三疋

右ハ早川八郎左衛門御代官所美作国久世村陣屋ら中山道通江戸迄就御用率送候間率人足并飼料宿村ら指出無滯可継送もの也

御用

未九月四日

石見

下野 印

左近 印

飛驒 印

主膳 印

美濃 印

中山道板橋宿ら守山迄夫

ら作州大庭郡久世村迄

右宿々村々

問屋

年寄

名主

組頭

追而此触書早々相廻し承知之旨別紙讀書相認刻限を以継

送り留りら宿村送りを以左近御役所ニ可相返候以上

一御触書之趣拝見承知奉畏候依之御請印奉差上候以上

中山道板橋宿

未九月四日

問屋

八郎右衛門 印

年寄

太郎兵衛 印

覚

御勘定御奉行様方

一御連印御触書之通

但 野田文藏様御役所

御封印之上当宿封印

一宿々御請印帳式冊

右之通野田文藏様御役所ら御渡被遊候間宿々大切ニ御取扱不限

昼夜刻付を以継送り留りら宿村繼を以当宿へ御継戻可被成候以

上

中山道板橋宿

未九月四日

問屋

申上刻

小嶋八郎右衛門印

中山道蕨宿ら守山迄夫ら作州大庭郡久世村迄

右宿々

問屋

年寄

名主

組頭

中

右之通林田東新町へ送り來候ニ付前宿之通左之通受取認新田村へ継送り候

右之通御触書之趣承知奉畏候以上

津山人馬問屋

未九月廿二日

戌上刻

同所東新町

佐右衛門 印

年寄

伊右衛門 印

右之通先觸到來候得共先例無之事故問屋佐右衛門久世へ聞合ニ指遣可然旨大年寄伺出候ニ付宜取計候様申付候尤及深更候義故右先觸ハ翌廿三日出仕之上御両所へ申達候

九月廿三日 曇

一六半時前於牢屋御徒目附藤田弥治兵衛下目附中村林平書役兼帶大脇新左衛門小頭代部屋目附兼三船新治出番中山百藏川端左五兵衛小林浪右衛門「」左之通取計但書役申渡候

所々盜相働先年百敵追払相成候 無宿盜賊

所又立婦盜相働候ニ付劍之上御 鉄藏

領分追払

所々盜相働候ニ付百敵之上

無宿盜賊

御領分追払

弥太郎

右同断ニ付五拾敵之上

右同断

御領分追払

新藏

下紺屋町原田屋利兵衛借屋住

畑物盜取候ニ付百敵之上

盜賊倉敷屋

御領分追払

源助

以下ハ於牢屋御徒目附下目附立会無之 畑盜人倉敷屋源助 当役申渡候 妻

盜賊筋携無之候得共盜賊之妻ニ付 同人悴

岩吉

御領分住居不相成立去り申付ル

十二才

盜賊筋携無之ニ付指構無之

家財指遣候

以下ハ大年寄於宅小頭代部屋目附兼新治立合ニ而申渡候

盜賊鉄藏ノ質物致取次 美濃職人町

其上鉄藏為泊候ニ付追込

仲平

申付候上質物代弁銀申付候

但日数 三日

盜賊鉄藏ノ質物致取次 二階町 松葉屋

候ニ付質物代弁銀申付候

市「」

右取計相濟候事出仕之上御用番并大目附へ相届候但大目附江者

申渡大意相認指出し候且又鉄藏盜ものハ先達而取上ケ郡代所へ

相廻候

一 御用日登城

一 昨夜来之白牛之先触御用番中へ指出候所即刻御下ケ被成候ニ付大

目附へ指出候

一 御目見被為濟候御祝被下ケル日ニ取計配當場御受書指出例之通

御「」持参仕口達ニ而申上候大目附へ指出候

一 龍野再吟味之様子倉敷代治郎申聞候書付要人殿御下ケ被成大目附

へ指出候

一 御用番要人殿一ノ宮喧嘩一件手負人も致全快候処兩人共相手見

覚も無之此上御吟味相願候存寄毛頭無之ニ付少も早く被指免被下

候ハ、何方へ成共参度相願候由ニ候得者此上強而相手人召捕候ニ

も及間敷候間大坂へ指向候捕手之者早々罷帰候様今日之御便ニ申

遣可然旨被仰出候ニ付其旨拙者心「」様ニソ長沢清左衛門へ宜

取計指戻候様ニ申遣候

一 大目附伊達与吉郎先達而從公儀御触有之候祭芸ニ事寄人を集め

芝居等仕候義御停止之御触如何アリ申付候而可然哉郡代と申談存

寄申上候様被申聞候

一 大目附伊達与吉郎申聞候者追払もの取計町奉行郡代一樣ニ無之「

」相成居候而不宜候間天明三年後藤守助伺有之候後之追払もの

不「」郎左衛門不参ニ付熟談之上可申上旨申置候

一 牢屋破損書指出大目附へ指出候

一 堺町団屋太郎兵衛義追廻し水車願書為御考大目附へ内々指出置候

処「」願書被指戻大目附る被申聞候水車も如何可相成哉御評議

不決義故先「」指戻置候間追而水車出来ニ相極候上ニ而考付何れ

共可申上旨被申聞候

一 小性町塩屋七太郎義水車運上減少之願先日一統ニ指出候御歎申

上間「」願下ケ願書指出郡代所引合之上承り届候

一 小性町肥地屋繁藏所持之旅人宿屋株此度新魚町三沢屋与八五相讓

度願指出し承り届

一 兵庫灘目水車方之もの当國中引合何茂以後ハ津山三人之もの指圖

受候様受一札取之相渡候由右懸合之趣委細弁書相認湯田屋太郎左

衛門指出候被見之上御用番中可指出事

九月廿四日 曇

一 雀式拾羽小勘者る相廻り致頂戴候

一 油方る指出候当國中取締懸合之弁書御用番へ持参仕指出候

一 八出天神宵祭ニ付河原町下之「」揚桃灯一ヶ所指出候届大年寄る

申出承置

一 盜賊鉄藏弥太郎新藏御取計昨日相届置候処右三人之罪状大意認出

候様大目附る申来郡代所へ申遣三浦る相廻候儘大目附へ指出候

一 白牛久世の江戸参候先触来候ニ付問屋佐右衛門る問合之書状指遣

候所未出「」定日も相知不申御役人付添参候義ニ而ハ無之急度泊

之様子可定義共不相聞候由稗草牛沓致用意置可申尤当才子る五才

迄五疋居候由何分近々者出立可申と申越候返書大年寄る指出郡

代所へ相廻候

一 ノ宮喧嘩場る立去り候もの召捕ニ大坂へ指向候同心組目明非人

戌ノ刻前罷帰大坂相尋候所京都へ登り候様子ニ付京都へ登り吟味

仕居候所小文字屋「」三郎兩人御尋之様子及承候而同心組旅

宿へ罷出私共義御尋ニ御越被成候由伝「候義ニ奉存候御召捕御指出被下候様ニと名乗出候而召捕罷歸リ候段申出右之通名乗出候位之義又候出奔等之心遣ハ毛頭無之趣ニ付手錠組合預ケ申付置其段御用番中へ罷越相届大目附へハ紙面ニ而相届候尤長沢清左衛門岡久左衛門大目附へ之御用状同心組持歸リ候ニ付自拙者相届候尤拙者也」之義長沢清左衛門申越候得共大目附へハ御用状来候義故不差出御用番へ指出候且又旅用致不足候ニ付大坂ニ而金子拾五兩同心組へ貸渡候由申来且又小嶋川要助義右兩人名乗出候迄三人一所ニ居候所其朝ニ至リ要助義ハ致「兩人之もの申候ニ付尚又相尋候得共不相知候ニ付其儘ニ致置候段同心組届出候右兩人召捕候義郡代所也も及通用候

九月廿五日 晴

一 牢浚昨廿四日申付昼廻リ藤藏伴藏取計候無別条段届出候

一 「州加藤郡三木町形屋与兵衛手代藤兵衛一人例年之通紺屋形壳ニ

来候段西新町山家屋利右衛門宿切手指出十月十二日帰ル

一 備州津高郡妹尾村小判屋太郎兵衛手代一人例年之通畳表御売来候

段右同人宿切手指出十月十二日帰ル

一 筑前遠賀郡柏原浦小平次手代甚兵衛忠藏二人例年之通茶碗類御売

来候段京町田戸屋宗十郎宿切手指出候

一 川端又六江原文藏明廿六日ハ出勤届出候依之加人山本弁助福田伴

藏二人明日ハ指返候段申達候

一 江戸御留主居田中幸助ハ九月十四日出候返書到来左之通申来

一 賈銀師御仕置伺之通ニ而可然候得共当年者恐悦事も段々御

座候御年柄故取計ハ延置候様御用番中御指図之旨尤此方ハ問合之筋ハ追而可申越旨申来候

一 請人無之もの指置其もの悪事有之候節主人之咎之義問合「

下札ニ而答有之書面為心得為見候由指越候但右書面之文

面公儀御役人尋候様相見候

一 白牛通行取扱之義問屋佐右衛門聞合願遣置候処大意左之趣今日

申越候由大年寄ハ書面指出候

一 来ル廿七日久世出立之積泊不相定行懸リニ泊候由尤久世ハ

出「坪井泊之心得之由左候ハ、大体廿八日津山泊リ

一 足輕式人中間式人指添候事其分役人指添無之

一 白牛五疋参候由

一 稗干草生草可致用意候事

一 道筋杖払二人村役一人村境へ迎ニ出可継送事

一 牛部屋五軒飼桶五四足盃可致用意尤飼桶古く候而も不苦き

れいニ洗可用候

一 牛沓不及用意候

「之大意計書拔置候

一 牢舍人丈兵衛休薬届出候

九月廿六日 快晴 夜雨

一 美濃職人町仲平迫込昨日迄ニ而三日ニ相成候ニ付今朝指免其段御

用番并大目附へ席有之ニ付以参相届候

一 同心組出勤ニ付加人兩人指戻候段右同断相届候

一 中之町船屋吉三郎手錠封印損候段大年寄ハ届出明日昼廻リハ相直

候様新治へ申達候

一久世の御用之白牛五疋江戸表<sup>江</sup>被指出候ニ付先格無之義故人馬問屋佐右衛門久世手代松野平作<sup>并</sup>用達園右衛門へ聞合候趣を以大目附へ遂対談候上ニ<sup>而</sup>御用番中へ相伺町分取計左之通相極大年寄へ申達置候

一保頭兩人先立杖払

但町々保頭可申付所一町切ニ代リ候<sup>而</sup>ハ丹合も行届間敷ニ付保頭代リ式人相応之もの見計問屋を雇指出し町分通し候て林田村迄先立申付候

一安岡町年寄老人新田分境へ罷出町分添林田村迄送り可届事<sup>一</sup>止宿ニ相成候ハ、泊迄附添夫のハ京町年寄右同様可付添事

一同心組兩人見へ隠れ警衛

但昼廻リ之体ニ<sup>而</sup>自分羽織前後ニ氣を配見計可及指図

泊ニ相成候得<sup>者</sup>旅宿脇ニ出張可致事但立宿安岡町京町

尤同心組ハ指出ニ及間敷旨大目附と申談御用番中へ相伺

候処指出候様御指図ニ付指出候尤出張前大文字付高張姚

灯指出候

一旅宿 人馬問屋へ申付候 但牛部屋毎ニ掛行燈袴ツツ、掛<sup>之</sup>候

但問屋場裏ニ五疋建之牛部屋とまふきニ<sup>而</sup>雲州様御馬宿之通ニ町入用ニ<sup>而</sup>申付候尤指添足輕中間も町会所ニ為泊

候事

一夜中年寄老人組頭二人代ルく問屋場へ相詰候事

一京町年寄挨拶之事

但止宿ニ相成候ハ、京町年寄罷越指添足輕へ御用事等も御座候ハ、被仰聞候様可及挨拶事

一牛率人足都合十人但疋疋ニ式人ツ、

但工者成もの問屋場を可指出事

一稗干草生草用意可致事

但問屋取計

一飼桶五 四足鹽二 御厩ニ<sup>而</sup>拝借之事

但問屋を拝借之書付指出し役筋を大目附へ相達夫を御厩へ問屋を人足指出受取候事

一飼料雨具弁当持人足 五人

一牛医老人指添候事

但問合ニ<sup>者</sup>牛医之事無之候得共郷中ニ<sup>而</sup>ハ馬医指添送り

候由ニ付市郷取計不同ニ<sup>而</sup>も不互候間申付候尤町分ニ牛

医無之ニ付郡代所へ役筋を懸合新田村迄送り来候牛医相

頼町分も指添候様ニ仕候事尤右謝礼ハ問屋を相応ニ相送

リ候様ニ申付候

一安岡町を組頭二人杖払ニ指添候事

但杖払二人ニ<sup>而</sup>相済候事ニ候処坪井聞合候所杖払之外ニ

二人指出候由ニ付組頭二人指出候様ニ取計候

一前夕坪井へ聞合人足可指出事

一当日遠見人足指出候事

一 旅宿不寝番八人申付候事

一 止宿前大文字附高張姚灯巻張指出候但屏井宿右之通之由。付候。御用番へ例之上指免候。

一 河内播磨御代官大坂谷町二丁目御住居池田仙九郎殿手附奥野右源太手代上野戸作る飛脚指越作州村々当分御預り所ニ相用候間米大豆相場書相廻候様並々之通頼来尤右ハ西吉田堀田殿跡池田仙九郎殿へ御預相成候由ニ而当年初而申来候尤右手代も大坂住ニ候得共吉野郡之もの大坂へ罷出歸り懸ケ右書状持来候由也

然ル所右書面文段ハ並々之通ニ候処上書片書ニ御名殿御役人中様と認指越通例ニ無之致方ニ而候都而御代官直文通ハ御名殿内と認来候得共手代文通ハ御名様と認来候先格ニ而此方よりも御名様と可相認候処様と認候義難致様ニも存候事哉先格片書ニ地名を相認来候然ル所今般右之通不法之片書致来候ニ付郡代并大目附へ遂相談候上ニ而先返書ハ並之通片書ニ地名相認指遣置右不法之認方ハ書損ニ而も可有之哉之旨大坂御留主居へ申遣同人々内々相移候而可然哉之旨御用番中へ相伺候所伺之通取計可然尚又兩役遂相談追而案詞伺候様被仰出候右ニ付承知候旨及返書候

九月廿七日 雨

一 水車運上減少之願堺町三津屋平右衛門桶屋町大坂屋彦市安岡町久米屋鶴藏林田町鍵屋茂助下紺屋町原田屋佐助右五人五通願下ケ願書指出兼而郡代所へ談置候義ニ付承り届願書指戻し是ニ而不殘願下ケ相済

一 白牛之先触左之通到来

覚

一 白牛 三疋

是ハ奉行衆触書之通外白牛式疋

右者就御用白牛五疋明廿七日朝美作国久世陣屋る指立中山道通江戸表へ指出候間右之内三疋ハ奉行衆触書之通相心得率牛送人足差出式疋之分ハ牛率之者指添遣候条得其意於宿村ニ飼料致用意置宰領之者る指図次第差出し可申候尤止宿之義ハ三四里又ハ五六里ニ而泊り可申条無差支様致手配川越船有之場所者前宿る及通達都而差支無之様継送り此先触板橋宿る江戸下谷三味線堀二丁目我等役所へ可相達者也

御判

未 九月廿六日 早川八郎左衛門判

美作国久世る中山道通り

江戸下谷三味線堀二丁目

右宿村

間屋

年寄

庄屋

追而白牛泊宿之義差掛り間之宿ニ泊り候義も可有之其段兼而宿々る間之宿へ及通達無差支様可致候以上

覚

輕尻馬壹疋

右者御用之白牛五疋才領式人牛率式人差添明廿七日朝美作国久



世陣屋差立江戸表へ差出候之間於宿村御定之賃錢受取之当面之馬差出無滞繼立渡船川場等<sup>者</sup>前宿<sup>ら</sup>及通達無差支様取計旅宿之義ハ三四里或ハ五六里之内見合泊リ右四人木錢米代相払致止宿候条宿村毎々旅宿之用意致置都<sup>而</sup>差支無之様取計可被申候此先触早々繼送江戸下谷三味線堀二丁目八郎左衛門屋敷へ可被差出候以上

早川八郎左衛門手代

未九月廿六日

内藤大右衛門 印

割印

貝塚五郎藏 印

美作国久世<sup>ら</sup>中山道通り

江戸下谷三味線堀二丁目迄

右宿々

問屋

年寄 中

庄屋

追<sup>而</sup>於道中差添之もの病氣等<sup>ニ</sup>而人馬相雇候ハ、書面之外<sup>ニ</sup>も断次第差出可給候尤泊宿<sup>ニ</sup>而ハ一泊リ一昼分賄之積を以<sup>テ</sup>言人<sup>ニ</sup>付木錢廿五文白米七合五夕所直段を以受取之弁当を詰可被相渡候以上

覚

一御証文本紙 壹通

一御請印帳 貳冊

外板橋宿役人添書付 壹通

右之通拜見仕承知奉畏候上猶又繼戻候間宿々大切ニ御取扱不  
限昼夜刻付ヲ以御繼戻板橋宿<sup>ら</sup>御届可被成候以上

美作国大庭郡

久世村庄屋

未九月廿六日

助太夫

村々同文送り

同文<sup>ニ</sup>而

安岡町年寄 友七

問屋 佐右衛門

右ハ送り戻状写し

一白牛通行出役付左之通新治<sup>ら</sup>差出候

廿八日昼廻リ<sup>萩野殿藏 神田榮治</sup> 廿九日 同<sup>江原文藏 川増文六</sup>

九月廿八日 晴

一御用日登城

一脇坂淡路守殿預リ所当国英田郡倉敷村善助娘義戸川町笠屋伝治妻

ニ引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候

十月廿九日住宅証文指出ス

一脇坂淡路守殿預リ所当国勝南郡池ヶ原村忠助倅庄藏義西新町山

家屋利右衛門養子ニ引受度人別入願右同断取計濟十一月十八日住

宅証文指出候

一白牛之先触写御用番へ指出候処即刻相戻大目附へ指出候

一白牛之義坪井宿聞合之書付昨夜御用番へ指出今日大目附へ指出候

一白牛ニ牛医指添候義御両所へ申達候

一油方取締帳面御用番中御下ヶ被成候付大目附へ指出候十月三日戻



十月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 松岡治部助

大年寄 齋藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

十月朔日 丙戌 旦 晴

一 京町田原屋伊兵衛売用ニ付因州鳥取川端三丁目うと屋喜左衛門方  
へ四十日計之逗留ニ而明二日出立願大年寄承り届指出十一月十日  
帰

十月二日 快晴

一 御蔵米六拾七石 町米五拾七石

一 元魚町煙草屋園蔵持来候古道具屋株坪井町塩屋善兵衛ニ相讓願承

り届株札名面認かへ相渡候

一 人馬問屋御給米受取証文指出奥印書取計候

一 西川平沢助八高橋金治る例蔵之通米相場書頼来及相答

一 当所油屋共る兵庫へ積廻候菜種不指出彼是延引ニも相成候趣ニ相

聞候付来ル五日迄ニ指揃相廻候様急度可申付旨孫右衛門へ申達候

一 札元見習玉置忠四郎義播州姫路池田屋仁左衛門方へ十五日計之逗留

留ニ而明後四日出立願書大年寄指出先格ニ付承り届

一 一ノ宮喧嘩手負人半兵衛政吉事市之丞吟味中牢番預ケ申来立合又

六指出

十月三日 快晴

一 御用日登城

一 御代官野口辰之助殿支配所備中浅口郡黒崎村与次右衛門義家内五人  
三ヶ年已前已五月船頭町山北屋伊兵衛役介ニ引受居候所此度国  
元へ指返度人別除願御用番御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達  
候

一 美濃職人町乗物屋佐吉借屋住備前屋市右衛門娘みよ義五ヶ年已前  
丑三月土岐伊予守殿領分当国勝北郡美濃村百姓常次郎妻ニ指遣候  
所離縁罷帰候ニ付人別入願右同断取計濟

右ハ五年已前安岡町刻屋佐七借屋ニ居候節常次郎妻ニ差遣其節  
離帳仕村山与吉長屋へ引越其後土岐殿領分へ引込候ニ付今般土  
岐殿領分ノ帰住致候事也

一 御奏者番伊達与吉郎方左之通達有之

豊後方使借来候節之義此間申達置候通ニ候処猶又其上御用人

ニも逢度旨申候哉之旨相尋其段も一所ニ可被申聞御用人ニ逢

度旨申候得者与吉郎罷出候間前日ニ不承候而ハ心得も有之候

義故申達置候尤罷出候得者御使者番齋藤孫右衛門宅へ罷出逢

候間其旨も相達置候様被申聞其段孫右衛門へ達置候

一 德守宮社人難波宰典方へ去ル廿七日夜盜賊這入衣類其外廿一品盜取代積式百七拾式匁八分程之もの候由町触取計候様大目附と達有之写取指の本書ハ大目附江指戻候

一大目附廻状左之通到来

北口御門御普請ニ付来ル七日を往来留り作事御門通行被仰出

候旨為御知申来

右町中組中へ相触候

一 太神楽岡田忠太夫例年之通橋本町武藏屋甚藏方へ来候段夜ニ入大  
年寄届出翌四日大目附へ相届候

一 御払米三百俵六拾式匁六分七厘相場ニ神田屋舛兵衛落札ニ而買取  
候届書指出候但町米五拾八匁六分七厘

一 御蔵米六拾式匁五分 町米五拾八匁五分

十月四日 曇 夜雨

一 出羽守様御先触御宿割等ニ未來候得共大井川無御滞御渡川被成来  
ル九日土居御止宿ニ而十日ニ爰元御通行被成久世御泊ニ相成候  
由七里飛脚問屋江申来猶又御先馬拾五疋先触到来今日通行院庄屋  
之先触致到着候段人馬問屋を申出其段御用番并大目附へ相届郡代

所江及通用候

一同心組加入小林浪右衛門不快引込右代リニ荒木源四郎来

一出羽守様御通行ニ付御道見分小頭大年寄へ申付候

一小野田為治妻妊娠之旨小頭代藤藏届出候

一 茅町広原善吉借屋住竹屋いし娘二月を経閉之処弥妊娠ニ相成月  
取間違之届出候ニ付先格之通取計候様申達候

十月五日 雨

一出羽守様御関札今日通行ニ付人馬問屋を付添之役人江相尋候所十  
日土居御泊ニ而十一日当所御通行久世御泊之本陣先触被為見候由  
問屋を届出候ニ付御用番并大目附へ相届候郡代所江も及通用候

一出羽守様御通行ニ付御道見分小頭代萩野藤藏大年寄玉置六郎左衛  
門諸吟味宮田喜左衛門指出候所町分少々之破損ハ早速申付候由并

宮川仮橋之上ニ洪水之節指置候大石有之且又同所御普請所東橋詰

ニ平石取出し有之御邪魔ニ可相成之旨申候ニ付其段大目附へ紙面

ニ申達且又德守宮裏門東角地子居家敷ニ西へ指出し有之候処損

居甚見苦敷并同所大番所堀之損し繕損し見苦敷旨届出候付寺社取

次三浦十郎左衛門へ申遣候

一 牢舍人利左衛門病氣全快ニ付双方を休薬届出候

一 牢屋下番中間居宅ハ自分普請ニ而上を御貧着無之先格之由ニ候処

此度庄兵衛代リ可召抱所居宅大破新ニ拵候同様之義ニ無之候ニ而ハ

不這入趣ニ付組合自分修復ニ而も初ハ上を御建可被下筋哉ニ被存

候付御作事奉行飯役佐藤郷左衛門へ相尋置候所上を被仰付候儀ハ

無之旨今日申越候

一 御払米三百俵正銀六拾三匁七分八厘落札榎原屋喜助

町米五拾九匁七分八厘

一 御蔵米六拾三匁 町米五拾九匁

一 中之町甲屋幸助方へ一昨三日夕盜賊這入旅人商人之銀并幸助銀五  
拾匁計都合壹貫百拾三匁計盜取候由届書指出目明へ吟味申付候様  
新治へ申付候尤来ル八日可及御沙駄候右ニ付目明甚七呼出し相尋

候所相客家内敵敷遂吟味候得共疑敷無之候得共盜之様子外ハ這入候体とも不相見訝敷もの、由申之候且又難波幸典方之盜賊ハ兼而相雇候他国者留主番ニ指置其もの盜取逃候由申之候

十月六日 晴

一出羽守様御先触到来左之通

以廻状致啓達候少將殿為帰国当月廿一日江戸表被致発駕候依之繼馬三拾三疋繼人足貳百三拾人

下ケ札 江戸ハ伏見迄ハ馬数如此入用之処伏見ハ雲州迄ハ別段ニ馬壹疋入用ニ付而三拾四番之板札壹枚相増候間伏見ハ馬数三拾四疋御手合可被下候

下ケ札 人足付方手配帳面之仕来を以人高相極如此先触仕出候処人足付方相増候訳も有之候ハ、其増人足丈ケ増入用ニ相成候間其御心得を以集置無滞御手合頼存候

駅々無間違御手合頼入存候尤西宮ハ久世迄之内ハ繼馬貳拾五疋繼人足百八拾人入用候

下ケ札 明石津山御領駅之分者繼馬三拾四疋御手合頼入存候

則人馬望之人別板札相記是迄之通銘々ハ相渡置候尤馬之分者壹番ハ三拾三番迄致番付置候依之人足手配帳并印鑑遣之候且又右帳面之外入用之分者例年之通紙切手仕出候間左様御承知可有之候右手配帳一冊印鑑壹枚宛御留置御順達可有之候恐惶謹言

雲州人馬方

九月十七日

渡部次太平  
平井幸三郎

桑原嘉市  
片山良平

板倉助右衛門

武州品川駅ハ東海道大坂通泊州溝口駅迄

宿々問屋中

追啓至時人馬とも少々余分之義も可有之候間其節御手合頼入存候且又同勢多くハ宮ハ桑名ハ直渡候間万場神守佐夜三宿之分ハ印鑑計壹枚宛御留置御順達可有之候以上

右御先触御用番中へ指出し大目附へも相達右ニ付寄せ馬拾貳疋御取計被下候様郡代所へ申遣候

一 牢舎人半兵衛膏薬入呉候様相願候段申出郡代所へ申遣候所在医師町宿迄致持参相待居候得共相牢之ものニ付替出来候ハ、村役之ものへ申付牢屋へ為持遣度之旨申来候付右膏薬相廻り候ハ、入遣候様申付置候間何分牢屋為持被遣牢番とも懸合候様可被成旨申遣候所相牢之ものニ相济医師ハ不指出相济候由申来候

一 ノ宮喧嘩一件町方之もの一向貧着無之ニ付郡代所へ度々致催促候処大目附中へ申談候処在分之物、口書相廻し可申候間支配之ものハ私方ニ而一ト通り致吟味可然之由被申聞候付又々御用番中へ申上直しいたし候上ニ而口書可相廻旨郡代所申来候

一 船頭町高瀬屋助ハ金谷村藤吉借銀三十日限济方申付候処相济不申依之身代限引渡候様可申付旨伺济候間其段高瀬屋助ハ申渡候

様郡代所より申来其段明朝申渡候様大年寄へ申達候尤町役指添受取  
ニ可参義ニ付何日罷越候段届出候様申渡候

一新職人町塗師孫三郎借屋住村上玄宅義百日之願ニ而四国へ罷出先  
月上旬可罷帰候処今以不罷帰日延願も延引ニ罷成恐入候得共今五  
十日之日延願指出承り届十一月廿七日又々  
日延願承り届ル

一新職人町松野屋十右衛門妻義百日計之願ニ而西国巡礼ニ罷出候処  
足痛仕候付今五十日之日延願指出承り届同十六日帰ル

一播州網干塩屋伊兵衛一人例年之通塩物荒物卸売ニ来候段中之町津  
田屋伝助宿切手指出翌正月十一日帰

一播州網干余陸屋惣七一人例年之通八百屋もの卸売ニ来候段右同人  
宿切手指出候翌正月十二日帰

十月七日 晴

一左之通於大年寄宅申渡候

金谷村藤吉借物三十日限濟方 船頭町高瀬屋

被仰付候処得不相弁候ニ付身代 助八

限引渡候様被仰付候間町役組合指添

罷越身代限り受取可申候

右之通申渡候処来ル九日可罷越旨申出候付其段郡代所へ及通用候

一材木町万屋与三兵衛義持家東側長屋建替候ニ付右普請中関貫番所  
南側へ寄せ置度願承り届ル

一中之町甲屋幸助方ニ因州鳥取新町木屋権七同所魚町直七兩人泊リ  
合銀子銀札被盜取右同夕相客甲州義平大坂安堂寺町和泉屋甚兵衛  
備中妹尾橋本屋勘吉右五人泊り合候所盜賊入込候ニ付不殘留置蔽

敷遂吟味候得共手懸り無之依之権七直七義以後申分ハ無之候間相  
客之ものも指帰し兩人之ものも帰度申候ニ付指帰し度旨願出候付  
被盜主兩人并相客三人より一札取置指帰し候様ニ及指図候尤右一札  
ハ取置可申出立之義ハ明日伺之上可及指図候間夫迄ハ留置可申旨  
申達し置候

一牢屋仕切証文指出四俵壹斗三升八合七勺五才返納奥書取計候

一同六俵之内貸証文奥書取計候

一出羽守様御通行ニ付町触例之通指出候

一出羽守様御通行東西土橋ニ而相濟候間御船不及指出旨郡代所申来  
候

一丹後久美浜御代官野村権九郎殿手代中村莊太左衛門清水君平広石  
卷右衛門より例歳之通米相場書頼来及相答

十月八日 晴

一御用日登城

一新職人瀧本屋正藏借屋住作人宇助妹富義去ル巳ノ四月出奔百日尋  
申付候処行衛不相知除帳御聞届之処此間組合之もの備前ニ而行逢

ひ出奔之始末相尋候処全狂気ニ而其節之義一向相覚不申此節本性  
ニ罷成り先非を悔罷帰度相歎候付帰住宅歎書指出御用番御聞濟ニ

付大目附へ指出置御聞届申達候

一船頭町瓜生原屋六藏義吹屋町高瀬屋助八借物三十日限濟方申付置  
候処家内多人数至ニ而困窮ものニ而得不相濟旨願書指出候ニ付身代  
限り引渡候様可申付哉と口達ニ而相伺候処思召無之旨被仰出候付  
大目附へ相達置左之通大年寄宅ニ而申渡候

吹屋町高瀬屋助八<sub>江</sub>借銀三十日 船頭町

限濟方申付置候所不相濟候<sub>ニ</sub>付 瓜生原屋

身代限り引渡可申候 六藏

吹屋町

船頭町瓜生原屋平兵衛へ貸銀 高瀬屋

滯孫六藏<sub>ノ</sub>三十日限り相濟候様 助八

申付置候所不相濟候付身代限り引渡候様申付候間

受取可申候

右取計及深更候付翌九日御用番<sub>并</sub>大目附へ相届候

一中之町甲屋幸助方盜賊一昨日之処<sub>ニ</sub>記置候通御用番中へ相伺候処

思召無之伺之通宜取計候様被仰出其段大目附へ及噂候処大目附存

寄有之都<sub>而</sub>宿屋商売之ものハ客之荷物紛失候得<sub>者</sub>宿<sub>ル</sub>可弁筋之もの<sub>ニ</sub>而ハ無之哉右等之先例又ハ公儀御定ハ無之哉と察度有之候<sub>ニ</sub>

付右等之先例相覚不申且又公儀御定之義ハ取調不申候間猶又得と

相調候上可伺と申置其旨一ト通り御用番中へ御噂申上置律令等見

候得共宿屋之掟無之候<sub>ニ</sub>付先例取調候得共適當之例無之安永十丑

年六月朔日西今町福見屋吉兵衛方<sub>ニ</sub>而旅人三人留置候処内一人兩

人之所持之品を取逃致候処其節之取計惣旅籠<sub>并</sub>当人兼<sub>而</sub>心得之義

承り糺不埒之段申達置其段御用所へ申上旅籠屋之義<sub>ニ</sub>候得<sub>者</sub>甚不

束之旨<sub>ニ</sub>付御裁許ハ追<sub>而</sub>相考可奉伺之旨申置其場<sub>者</sub>相濟候様<sub>ニ</sub>相

見へ候所不日<sub>ニ</sub>右盜賊召捕候<sub>ニ</sub>付其節福見屋吉兵衛追込七日被仰

付候義有之候得共都<sub>而</sub>宿<sub>ル</sub>弁<sub>へ</sub>候義ハ如何可有之哉左様之御風圖

と聞及候悪堂共以後<sub>ノ</sub>致止宿如何様之義申懸候義も難計左様も

難申付筋哉<sub>ニ</sub>も被存尤弁へ候筋<sub>ニ</sub>候得共旅人共金銀ハ勿論荷物等

一切不改候得<sub>者</sub>宿ハ難致もの<sub>ニ</sub>も可有之候得<sub>者</sub>容易<sub>ニ</sub>も難申付義

併再応相考候得<sub>者</sub>初之伺之通宿屋其儘<sub>ニ</sub>いたし置候<sub>而</sub>ハ如何様他

邦之聞へ不<sub>レ</sub>之様<sub>ニ</sub>も可有之哉<sub>ニ</sub>付左之通可申付哉と相伺候処同

之通被仰出大年寄宅<sub>ニ</sub>而申渡候

其方方へ去ル三日之夕盜賊入込 中之町

他所商人所持之銀子盜取候段 甲屋

届出宿屋商売乍致兼<sub>而</sub>不<sub>レ</sub>之処<sub>ノ</sub>右体之義 幸助

致出来不埒之事<sub>ニ</sub>候仍之右吟味中組合預ケ

申付候尤筋々へ嚴敷吟味申付置候得共猶又其方義も

精々心懸ケ手懸リ等可申出候

因州鳥取新町

権七

罷帰度相願候由<sub>ニ</sub>付以後手懸

リ等無之候共申分無之一札取

同

直七

置勝手次第指返し候様申付候

此三人相客<sub>ニ</sub>付留置候所権七

方も指返し候様申候<sub>ニ</sub>付以後

御跡筋有之候ハ、早速可罷越旨

一札取置勝手次第指返し可申旨 備中妹尾橋本屋

申付候 勘吉

但右一札一ト通り及披見大年寄へ指戻候

右取計及深更候<sub>ニ</sub>付翌九日御用番<sub>并</sub>大目附へ相届候

一 材木町万屋与三兵衛持家東側長屋建替候 = 付右普請中石垣<sup>ノ</sup>式間程東へ押出し板囲仕度願書指出見附前御場所柄之義 = 付大目附へ及噂候所承り置候段挨拶 = 付御用所へハ不及御沙駄聞届申達候

一 右同人義御堀<sup>江</sup>足代下し候願指出候 = 付大目附へ指出候

一 御奏者番伊達与吉郎<sup>ノ</sup>出羽守様御通行之砌近例奉札来候間御同勢入込候ハ、人馬問屋<sup>ノ</sup>奉札被遣候ハ、可取次旨相尋御家老中へ之奉札 = 候ハ、人馬問屋<sup>ノ</sup>直 = 山田主膳殿へ可相届御用人中と有之候ハ、伊達与吉郎方へ相届候様 = 申付置候様被申聞其段宮田喜左衛門へ申付置尤右訳ハ院庄<sup>ノ</sup>来候<sup>而</sup>ハ返書間 = 合不申候故問屋 = 而為相尋候義 = 候由且又直 = 返書指出候事故飛脚之者為待置候様被申聞候

一 出羽守様御止宿<sup>ニ</sup>者人馬問屋へ下役指出候義有之御通行<sup>ニ</sup>者如何可有之哉と大目附<sup>ノ</sup>談有之御通行 = 下役指出候例無之旨申達候所左候ハ、及其義間敷旨申聞候付喜左衛門存寄も承り候所同様 = 申候故其儘 = 致置候

一 出羽守様御通行 = 付拙者出役御貸人馬之義大目附へ申達候  
一 大目附伊達与吉郎<sup>ノ</sup>左之通被申聞候

組中間大年寄札元大庄屋<sup>江</sup>御叱申渡ハ御用番何之誰殿被仰渡候段申渡候様先達被仰出右ハ兩役<sup>ノ</sup>相伺候義 = 而御用番<sup>ノ</sup>御聞濟候旨被仰出兩役<sup>ノ</sup>相達候事 = 候処以後ハ右之分ハ御用番何之誰殿被仰渡候段大目附<sup>ノ</sup>相達候間其旨 = 相心得候様被申聞尤御免之節も右同様之事 = 候由

右之通被申聞候付是迄御用番<sup>ノ</sup>直 = 御達有之候処以来御役筋<sup>ノ</sup>御

達有之候<sup>者</sup>平人<sup>ノ</sup>方輕く御取扱被成候意哉と相尋候処重く御取扱被成候付右之通被入御念候義 = 候由被申聞全御日記表之文法 = 付右之通被申候義と被察候

一 米相場書挾板例年之通御作事奉行へ申遣候

一 米相場書之入用素繩油紙指札例年之通大目附上原取之大納戸へ相廻し受取候

一 西今町玉屋吉右衛門常屋文兵衛境之塀争論伺之通宜取計候様御用番中<sup>ノ</sup>被仰渡候近日取計可申事

一 大坂御代官池田仙九郎殿手代文通片書殿付 = 致来候義御館人町人を以向方御館人町人<sup>江</sup>内々相尋候様大坂長沢清左衛門へ可申遣下案御用番中へ相伺候処伺之通懸合候様被仰出大目附へも及噂置書状今晚便 = 指出候

一 大坂長沢清左衛門へ同心組へ貸渡候金子返納之義ハ上原彦蔵へ懸合置候間同日出坂之砌持參可有之旨返書指遣候

一 牢屋火床有明無之不<sup>レ</sup>リ之段申出候付何卒被仰付候様又々伊達与吉郎へ申達置候

一 西新町二文字屋彦太郎義京都烏丸六角下ル二文字屋九兵衛方へ四十日計之逗留 = 而明後十日出立之願書大年寄承り届指出候十一月廿二日帰

一 播州網干丸尾屋六三郎一人例年之通荒物塩物御壳 = 来候段中之町小山屋与三右衛門宿切手指指出候

一 信州木曾筑摩郡藪原宿古屋善吉一人例年之通木櫛御壳 = 来候段右同人宿切手指指出候十月十七日帰



一 御領分久米南條郡井口村善藏妹義美濃職人町財布屋庄助妻ニ引度申度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届ル

一 牢屋中間御擬作並之通彦人半扶持ニ御直被下候様伺書指出置候処不相濟旨大目附被指戻候

一 御蔵米三百俵六拾五匁落札木和屋源兵衛

町米正銀六拾壹匁

一 御蔵米六拾四匁 町米六拾匁

一二階町量屋儀助借屋住鉄炮屋伝兵衛ノ材木町福中屋多助後家へ貸銀指滞箱訴壱通大目附被相渡宜取計候様申来候近日呼出し詔合申聞セ不取上筋可申達事

一 船出入龍野吟味下説書備前不評判李右衛門勝兵衛不調法之一札認候由風聞書蔵合孫左衛門指出翌九日要人殿へ指出候

十月九日 快晴

一 船頭町瓜生原屋六蔵義吹屋町高瀬屋助八江身代限引渡候義昨夜受取後相濟候段大年寄届出御用番并大目附へ相届候

一出羽守様御通行人足百八拾人之御先触ニ候得共いつもの趣ニ者

三百七八拾人用意不仕候而ハ御間合不申候然ル所此節人足甚扨底殊ニ例歳勝間田と申合継立候処当年ハ勝間田龍野預リニ相成当年

ハ郷中人足被差出候ニ付申合出来不申東辺之人足買集候得共当所一駅之働ニ而ハ不罷出由ニ而不殘断いたし旁以人足甚扨底漸町分

ニ而式百余相調候得共其余出来不申旨宮田喜左衛門より申出仍之郷人足相願候旨昨日度々申出事詔ハ相分り候義ニ候得共余り過

分之不足如何ニ致候而も問屋不働之様ニ相見へ外聞も不宣候間是

非町分ニ而致才覚候様再応申達置候所今朝又々喜左衛門罷出昨夜

中迄問屋共色々出精仕候得共人足一向無之候不得止事問屋共相願候由実ニ問屋不働ハ無之旨其段者喜左衛門御受合申候と申出候付

右之段郡代所ニ懸合郷人足百八拾人被申付被下候様相頼遣候所四構触へ可申付旨申来候尤賃錢者定之通式匁式分指遣候由申遣置候

一九時ノ下役新左衛門小頭代部屋目附兼新治出番文蔵源四郎大年寄孫右衛門諸吟味喜左衛門立会一ノ宮喧嘩一件之もの共不殘呼出し

遂吟味候処大体相分り候ニ付左之通申付候尤口書印形ハ迫而可申付事

小性町鈴鹿屋

太兵衛

是迄之通手錠組合預ケ

中之町船屋

吉三郎

右同断

手錠組合預ケ指免

上紺屋町高砂屋

金四郎

他參留申付候

安岡町村永屋

甚吉

右同断

手錠組合預ケ差免

同町 江川屋

六兵衛

差構無之

同町 村永屋

吉右衛門

○右同断

京町 煙草屋

善治

右同断

組合預ケ差免  
他參留申付候

新魚町三ツ巴  
初五郎

右同断

安岡町明石屋  
庄七

右同断可申付処組合預ケ

東新町播磨屋

中不慎月代仕罷出当座難差免

惣十郎

仍之手錠追込申付候

右之通取計候段御用番中へ罷越相届并播磨屋宗十郎義当座難指免

付右之通申付候段申上候処随分宜旨被仰聞候且又村永屋吉右衛門義ハ郡代所の指口之ものニ者無之候得共世評ニ付右之通取計置其節不相届候ニ付今日も相届不申候尤右同様大目附へも紙面ニ而相届候

一三船孫八義段々快方ニ付月代仕度藤藏を願出承り届

一御代官三浦伴左衛門竹内要左衛門大久保正三郎を町作御年貢為吟味近日の町内ニ指出候間若不埒之ものも御座候得者手錠等申付候段例年之通案内手紙来及相答

一金谷村藤吉身代限り高瀬屋助八ニ引渡今日受取相済候段及深更届出候付翌十日御用番并大目附へ相届候

十月十日 雨

一御蔵米六拾五匁 町米五拾壹匁

一京町吉田屋喜八郎義石州銀山料宅野村藤間屋左郎左衛門方へ廿日計之逗留ニ而明十一日出立願大年寄指出承り届ル十一月三日日延願指出候

一堺町西川屋善助方へ大坂南本町四丁目本屋勘兵衛と申もの書物売ニ数年来候所病身ニ相成去暮を得参り不申依之右代リニ備中久保谷郡高浪村角屋伊助と申もの反物うんさい足袋売指越度右勘兵衛内縁之ものニ付相願越候段願書指出承り届

一出羽守様明十一日御通行ニ付取計左之通尤以後之為爰ニ集記置

一御道見分小頭大年寄諸吟味指出候

一町触例年之通指出候

一継馬三拾四足継人足百八拾人之御先触来

一東西川場之義郡代所へ懸合候所土橋ニ而相済候由申来候

一御奏者伊達与吉郎を御同勢入込候ハ、奉札来候哉早々問屋を相尋来候ハ、使之者為待置人馬問屋を取次御家老衆へ来候ハ、御用番御用人ニ来候ハ、御奏者与吉郎へ相届候様被申聞其段喜左衛門へ申付候

一御止宿之節ハ下役并書役指出候得共御通行ニ指出候例無之其段大目附并諸吟味杯と談候上不出候

一町奉行出役御貸人馬大目附へ申達候事

一同心組不足ニ付加人壱人大目附へ申達候

一同心組出役割左之通小頭を差出候

御先平 萩野藤藏 江原文藏  
川端又六 馬駅 三船新治 供 中山百藏  
赤田平治 神田栄治 川端左五兵衛  
朝番加人 梶間宗平 昼番 荒木源四郎 泊 川端左五兵衛  
夜廻 江原文藏

中山百歳

一 御先触繼人足八百八拾人ニ候得共三百七八拾人集不置候而ハ  
御間合兼候所人足至而弘証火也無抛郷人足百八拾人願出郡代所へ懸  
合候所承知ニ而四構触へ申付候由申来候  
一 御本陣 玉置六郎左衛門

本陣詰 榎野屋茂一郎 稻実屋義七郎 野々口屋七郎右  
衛門

外ニ武步中買三人

一 町奉行立宿 林田町 山本三右衛門

一 御徒目附下目附立宿 東新町 鍛冶屋利八

一 御先弘立宿 同町 鍛冶屋権兵衛

一 御持組立宿 安岡町 鍛冶屋長右衛門

但御徒目附下目附御持組立宿名面付ハ大目附へ差出候事

一 人馬問屋出役 問屋目附宮田喜左衛門

一 前夕土居御泊聞合 老者人 但申出候得者御用番并大目附へ相

届候事

一 川辺遠見老者人

一 兼田川遠見老者人

一 玉琳遠見老者人

一 在宿醫師二人本道針医

一 町々保頭同心組御徒目附下目附御先弘

一 今般ハ御二男様之由前田六兵様御同道被成候由右者三助様御

舍弟様ニ而御旗本へ御出被成候御方之由立石広助聞合候由ニ

而郡代所る申来候

一 出羽守様御通行ニ付同心組致不足加人老者人当日切大目附へ申達候  
処梶間宗平来

一 牢内心懸之義有之趣牢番申出候付俄ニ牢ニ浚申付昼廻リ新治藤藏  
取計之候処少も心懸之義無之旨申出候

十月十一日 雨

一 出羽守様昨日戌刻過土居駅ニ御止宿被成今曉七ツ時御発駕被成  
候旨聞合之人足今曉七ツ時過罷帰リ夜明候而御用番并大目附へ相  
届候

一 出羽守様御通行ニ付五ツ半時出宅林田町山本三右衛門方へ罷出相  
待居候所九ツ時過町分へ御懸リ被成例之通白料横町へ罷出御目見  
へ仕候処御駕籠脇る御名様町御奉行増見右門殿と名披露有之候畢  
而御供方御徒体之ものる御目錄金式百疋被下候由ニ而相渡御札申  
上候畢而又々立宿へ引取相待居候所町分無御滞御通行相濟候段安  
岡町る届来候而立宿罷立帰リ懸ケ御用番中へ罷越町分御通行無滞  
相濟候ニ付引取候段相届大目附へハ紙面ニ而馬脇る為指遣相届八  
時過帰宅仕候

一 出羽守様る出役之ものへ左之通被下置候段届出候尤御用日席ニ大  
目附へ可申達事

御先弘三百文、小頭、馬式百文、平組出役江銀式兩ツ、

一 出羽守様御通行繼馬三拾四疋 繼人足四百四人入候由問屋る書付  
指出候

十月十二日 晴

一 小野田為治出勤ニ付加人荒木源四郎指戻其段大目附へ相届候

一 福渡町南側ニ而作人和助家屋敷表口式間裏行拾七間但シ半役也西

隣ハ阿加屋助五郎東隣ハ釘屋又十郎也右家屋敷代銀札百匁ニ相極

町内阿賀屋助五郎へ売渡意願書指出し承り届候同廿八日売券状指

出

一 福渡町南側ニ而久幾屋又十郎家屋敷表口式間半裏行拾七間但四歩

役也東隣者勇屋太助西隣ハ作人和助也右家屋敷代銀百六拾匁ニ相

極作人和助へ売渡意願書承り届右同断

一 撰州大坂嶋之内大宝町万屋善治郎一人例年之通革足袋すいのふ金

とうし売ニ来候段宿切手指出十一月廿九日帰

一 播州網干新在家村加賀屋善七手代善兵衛一人例年之通小間物売ニ

来候段西新町山家屋利右衛門宿切手指出候翌正月二日帰

一出羽守様御通行ニ付人馬問屋入用八百六拾匁八厘有之候由喜左衛

門ノ書付指出候

一 坪井役人瀧口与次右衛門庄田伊三郎ノ飛脚指越伊三郎為交代罷越

与次右衛門罷帰候由例年之通案内之書状指越及相答

十月十三日 快晴

一 御用日登城

一 坪井町高崎屋兵助後家娘ちせ義脇坂淡路守殿預り所当国久米北条

郡南方中村園兵衛妻ニ指遣度人別除願御用番御聞濟ニ付大目附へ

指出置御聞届申達候

一 元魚町久保木屋嘉兵衛後家借屋住中野屋佐助後家かね娘義大坂本

町備中屋徳兵衛方へ兼而奉願逗留ニ参居候所同人方へ引受度旨申

越候間指遣度人別除願右同断取計相濟<sup>辛酉</sup>九月廿八日帰住御聞届

一 牢屋<sup>并兼田</sup>ニ而御仕置もの申渡先格書役ノ申渡来当時新左衛門御

徒格ニ候得共書役兼勤候事故矢張新左衛門指出し為申渡候処先月

廿二日大目附伊達与吉郎ノ達有之目附組と御徒目附之間へ新左衛

門並居申間數旨被申聞左候<sup>而</sup>ハ如何程間を明候<sup>而</sup>も下目附之下座

ニ御徒格之新左衛門連居候<sup>而</sup>甚不都合之ものニ相成且又所ニ寄候

<sup>而</sup>ハ下目附と新左衛門と間を明ケ候義不相成場所も有之被是六ケ

敷取纏候事ニ可相成哉ニ付先例遂吟味候処書役欠候節<sup>者</sup>小頭ノ申

渡候例如何程も有之ニ付以来新左衛門書役致兼帯内<sup>者</sup>書役不指出

小頭ノ為申渡候様大目附伊達与吉郎へ申達候所其通<sup>ニ</sup>而可宜旨被

申聞候付其段新左衛門<sup>并</sup>小頭代萩野藤藏へ申達候且又奉行下目附

と同間之趣も先日噂有之ニ付乍席左之通申達候

一 御仕置もの申渡御徒目附下目附同心小頭書役部屋目附出番と

並居書役ノ申渡候先格之所書役新左衛門御徒格ニ被召出矢張

書役兼帯相勤候ニ付其後ハ万人構着席都<sup>而</sup>出役先格ニ付御徒

目附新左衛門下目附と並居候所今般伊達与吉郎ノ目附之間へ

不交様ニと被申聞付下目附之末席ニ御徒格之もの可居謂無之

ニ付新左衛門書役兼帯之間ハ小頭ノ為申渡書役ハ不指出格ニ

大目附伊達与吉郎佐々木主馬松岡治部助承知之上右之通相極

候又々並之書役出来候節<sup>者</sup>元之通書役ノ可為申渡事

一 右下目附着席之義ニ付先日伊達与吉郎ノ藤左衛門仙波門太吟

味之節守助宅<sup>ニ</sup>而同人指図<sup>ニ</sup>寄下目附同間<sup>ニ</sup>而吟味有之候由

被申聞候付其節出役之ものへも相尋取調候得共何れも申候<sup>者</sup>

次之間又ハ縁側ニ下目附ハ居候様ニ申候ニ付乍席今日伊達与

吉郎へ拙者申達候者先日下目附ハ奉行と同間ニ吟味有之候

様被仰聞候得共拙者共足輕と同間可致トハ兼而不相心得仍之

守助宅吟味之節之義取調候処同間ニハ無之候由ニ御座候以

来も其通ニ相心得居候旨申達候所成程左様之ものニも可有之

由被申聞候

一公儀方先日御触有之候祭礼等ニ托し衣裳を飾り金銀を費芝居体等

致間敷御触当所市町芝居等ニ相障リ候間存寄申述候様兼ニ尋有之

候ニ付右御触者至極御尤之御義於何方も守間敷ト申筋ハ無之義ニ

候得共右御触ハ郷中へ重々被差出候御文段ニ町分へ被仰出候御

文意ハ無之ニ付町分ハ江戸市中之趣ニ附シ是迄之通ニ可然奉存

候旨弁書大目附へ指出候

一伏見町作人才之丞借屋住庄助妻子右両人致離縁高石垣番伊助方へ

指戻度人別除願指出し伊助手前小頭を為相糺候所無相違ニ付承リ

届候

一伏見町作人才之丞借屋住庄助義此度船越庄助と相改黒田昇へ出入

奉公仕度人別除願指出し承り届

一御払米三百俵代正銀六拾四匁九分三厘落札井筒屋源右衛門

町米正銀六拾匁九分三厘

一御蔵米六拾五匁 町米六拾匁

一東新町播磨屋惣十郎手錠追込昨日迄ニ五日ニ相成候間今朝出番

壱人大年寄宅へ指向ケ左之通大年寄を申渡候出番を手錠指免候

東新町

播磨屋

惣十郎

手錠追込指免候

他参留申付候

右之段御用番并大目附へ紙面ニ相届候

一公儀御触左之通大目附廻状到来同心組牢屋三軒屋へ相触候

東海道旅行ニ最寄違ニも無之面々中山道并甲州道中狼ニ往

来致間敷最寄違之面々右両道へ往来いたし候ハ、道中奉行へ

相届候上可致旅行事 委細者触書扣ニ認置候

一目明孫兵衛義常山天王ニ致参詣候処贖銀札板行彫之由元備前者当

時無宿岩之助并当日日雇遣人弁藏と申もの召捕来右板木ハ打穴村

久五郎と申もの右岩之助相頼彫割いたし板木ハ久五郎方ニ致所持

居候由右弁藏を召連打穴村へ参り久五郎相糺板木可取上哉之旨目

明孫兵衛伺出并右板木上さらへ服部薦四郎長屋住義平と申もの久

五郎を相頼候哉之由承り及候由岩之助申候旨孫兵衛申出仍之大目

附松岡治部助へ罷越委細ニ相達久五郎方へハ右弁藏召連孫兵衛指

遣し為相糺先格之通程能内済ニ為取計可申并岩之助義ハ牢番預ケ

ニ取計置可申并服部表屋義平義ハ大目附対談之上組差向直ニ召捕

候様ニと之義ニ付服部薦四郎へ案内手紙指遣出番為治平次指向候

所柴山十治相見へ右義平義ハ近來古市主殿若堂ニ召抱帯刀いたし

候由申聞候付左候ハ、召捕候も不宜候間不取逃様警衛為致置可

申候間十治の家来并受人等指遣可申尤古市も右之段可申遣候間

両家之家来参候内同心組付置可申申談置其旨同心組へ申遣候所折

節右義平義他出いたし留主ニ付相待居候旨申越候間罷帰り候ハ、

不取逃様ニ致警衛古市柴山ノ下人指向候ハ、引渡候上ニ而可引取  
旨申付置右之段又々大目附へ相届候処古市并服部へも其旨可申達  
由被申聞候然ル所無程右義平罷帰リ両家之下人江引渡候上ニ而引  
取候由戌ノ中刻同心組罷帰リ候且又岩之助義ハ夜廻リ百蔵左  
五兵衛ノ牢番預ケ取計候右之段御用番并大目附へも紙面ニ而又々  
相届置候

備前もの当時無宿贖札板行彫

吟味中牢番預ケ申付候

岩之助

目明

孫兵衛 贖札遣弁蔵

打穴村久五郎方へ贖札吟味ニ

召連

差遣候

十月十五日 雨

- 一 二階町井筒屋弥三郎所持之他国受酒株去午十一月元魚町南屋孫三郎へ貸置候処今度取戻度願指出承り届
- 一 右同人受酒株当未十月ノ来ル西十月迄二ケ年之間元魚町龜屋弥兵衛へ貸渡度願書承り届享和元辛酉年十二月猶又今一ケ年追願出ス
- 一 安藤丹後殿今日東武ノ御帰着也
- 一 御払米三百俵代正銀六拾四匁三分八厘落札神田屋宇兵衛
- 一 町米正銀六拾目三分八厘
- 一 御蔵米六拾五匁 町米六拾壹匁
- 一 例年久世江指遣候今十五日一日之米相場書余米三升引去り六拾貳匁五分四厘也相場書大年寄指遣候

十月十六日 雨

- 一 当国中之酒屋共当所油方下知を可相用と申一札印形相揃候由官田喜左衛門差出候追而御両所へ可差出候
- 一 同心組加人赤田平次不快引込ニ付佐藤才助来
- 一 目明孫兵衛左之もの共召連打穴村ノ亥刻頃罷帰リ久五郎相糺候処同人義ハ贖銀札いたし候ニ而ハ無之岩之助弁蔵ノ備前札之板行八拾匁ニ買取此札被遣候ハ、津山札之板行も可買取と岩之助弁蔵ノ久五郎熊五郎金四郎へ致約束置候計ニ而未津山札取扱ハ致不申勿論板木有所も存不申仍之召連參候弁蔵を嚴敷致吟味候処弥右兩人贖札仕候段致白状則板行も同村他家之屋根ニ指込有之取出し相渡候併久五郎熊五郎金四郎も懸り合ニ付召連帰リ右為断庄屋年寄組頭式人指添来候段申出并備前札贖札行迄取上ケ帰リ指出候

上打穴村

久五郎

熊五郎

金四郎

右指添来候もの

庄屋老入

年寄老入

組頭式人

右之通申出候処及深更候事故今夕之所ハ孫兵衛方ニ弁蔵預リ置候様申付候尤明日及御沙駄可申事且又元来右岩之助弁蔵兩人ハ大戸之栄助茂渡之弥太郎と申もの兩人川下ニ而召捕当所へ召連来候処

道<sup>ニ</sup>而取逃し候処孫兵衛行逢供々<sup>ニ</sup>召捕右兩人も同道<sup>ニ</sup>而来打穴村へも右兩人罷越殊之外致世話外<sup>ニ</sup>兩三人も致世話候もの有之<sup>ニ</sup>付何れもへ御褒美被下候様<sup>ニ</sup>孫兵衛申出候

十月十七日 雨

一昨夜之贖札一件御用番へ罷越委細<sup>ニ</sup>申上右久五郎熊五郎金四郎ハ此上已後之締り付誤一札取置候<sup>ニ</sup>可指返旨申上候処近来内済<sup>ニ</sup>いたし候間殊之外銀札猥<sup>ニ</sup>相成候趣<sup>ニ</sup>相聞候間今般ハ内済不聞届表向之取扱<sup>ニ</sup>いたし以来之<sup>レ</sup>リ<sup>ニ</sup>相成候様被成度夫共内済<sup>ニ</sup>可致筋<sup>ニ</sup>相成候ハ、給之引付ケ迷惑為致候上<sup>ニ</sup>而指戻可然思召候間其段得と明日迄<sup>ニ</sup>相考先ツ引付置候様<sup>ニ</sup>被仰出候<sup>ニ</sup>付右之段大目附へも相達置候

一右孫兵衛召連帰候贖札師弁藏義出番百藏左五兵衛指向牢番預ケ申付<sup>ニ</sup>久五郎携候哉之趣新左衛門を牢屋へ指遣岩之助為相糺候所左之趣口書取指出候

贖札ハ弁藏と岩之助兩人申合 元備前津高郡加茂

岩之助彫割仕候<sup>ニ</sup>相違無之 上田村東分出生

且又義兵衛と申もの<sup>ニ</sup>上さらへ 当時無宿

久五郎<sup>ハ</sup>相頼候と申ハ全偽<sup>ニ</sup>而罪を逃れ 岩之助

候為<sup>ニ</sup>申候由且又久五郎<sup>ハ</sup>頼候と申も偽

<sup>ニ</sup>而御座候弁藏<sup>ハ</sup>久五郎へ可売渡旨致約束候迄<sup>ニ</sup>而久五郎熊

五郎金四郎共<sup>ニ</sup>毛頭携無之旨及白状仮口書取置候

右弁藏牢番<sup>ニ</sup>預ケ<sup>ニ</sup>仕候義も今日御両所へ申達置候間別<sup>ニ</sup>相届

不申明日可及御沙駄事且又目明孫兵衛<sup>ハ</sup>申出候<sup>者</sup>昨晚来候金四郎

と申もの申候義古市<sup>ニ</sup>召抱候義兵衛と申もの銀札三拾匁出候ハ、贖札拵可遣旨度々相勸メ候得共同意不仕候由金四郎申候旨申聞候且又牢番団助を以弁藏申出候<sup>者</sup>打穴村弁藏母宅之牛部屋之屋祢と文庫<sup>ニ</sup>贖札未有之段申出候

一牢舎人弥助義昼廻り百藏<sup>ハ</sup>爾申付候所悪口等いたし不相用難捨置旨此間百藏<sup>ハ</sup>申出候付昨日昼廻り藤藏栄治<sup>ハ</sup>ころしめ之為足かせ入させ置候昨日之処<sup>ニ</sup>認落候義爰<sup>ニ</sup>認置候

一小頭三船孫八義昨夜新治を以申出候<sup>者</sup>去ル十三日藤藏を以被仰付候以来牢屋兼田御仕置もの申渡仕候様被仰付候得共右申渡ハ得不仕候<sup>ニ</sup>付御断申上候段申出甚心得違不埒之断<sup>ニ</sup>付自分一存<sup>ニ</sup>而申付候義<sup>ニ</sup>而も無之大目附中へも達之上申付候義<sup>ニ</sup>候得共断之趣夫々御沙駄<sup>ニ</sup>も不及候<sup>ニ</sup>而ハ不相濟義至<sup>ニ</sup>而重き事<sup>ニ</sup>而甚氣之毒<sup>ニ</sup>存候間得と致思慮候上<sup>ニ</sup>而覚悟之義ならは不及是非候得共何分得と致思慮可申聞旨申達即刻新治指遣候処棄取<sup>ニ</sup>罷出留主之由<sup>ニ</sup>而不能

其義候段新治申聞候付今朝新治指遣右之段得と申聞候様申達指遣候所無程新治罷歸り申聞候<sup>者</sup>孫八へ申聞候所出来候義を不出来と申義<sup>ニ</sup>而無御座実<sup>ニ</sup>出来不申義故御断申上候間尚又其段御断申上呉候様申候旨返答申出候付扱々氣之毒千万不便成義<sup>ニ</sup>候得共

此上ハ不及是非義其段夫々<sup>ニ</sup>可申達と及挨拶置兼<sup>ニ</sup>右之筋懸り合之義殊<sup>ニ</sup>今般之申渡之一件伊達与吉郎<sup>ハ</sup>出候事<sup>ニ</sup>付同人<sup>ニ</sup>委細<sup>ニ</sup>申達置候且又昨夜新治申出候節新治義ハ申渡<sup>者</sup>出来候哉と相尋候

処同人義も出来不申候由申聞候以後心得<sup>ニ</sup>も可相成義<sup>ニ</sup>付此段も尋置候

一 御蔵米三百俵代正銀六拾五匁落札能勢屋源助并筒屋源右衛門

町米正銀六拾壹匁

一 御蔵米六拾五匁 町米六拾壹匁

十月十八日 快晴

一 御用日登城

一 賈札師無宿弁蔵義昨晚半番預ケ申付候段出仕之上御両所へ相届候

一 御代官稻垣藤四郎殿支配所当国吉野郡田殿村広山分幸右衛門梓瀨

吉義材木町正木屋才吉家守近江屋孫三郎養子ニ引受度人別入願御

用番御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候同廿二日住宅証文指

出

一 油方三人之ものへ水車方之ものへ相渡候当国中之油屋共受一札御

用番中へ差出置候翌十九日御戻被成候

一 三ツ巴初五郎願置候徳守宮社地ニおいて花相撲之義此節初五郎御

咎中ニ付伏見町小車万吉引受興行仕度願指出右初五郎義ハ此節一

ノ宮喧嘩一件懸り合之者ニ付他参留申付有之候得共家職之義ニ候

得者相撲場へ罷出候而も苦かる間敷哉之旨三浦十郎左衛門と対談

之上大目附へ申達候処同意之旨ニ付御用番中へ指出候処余之家職

共違人集いたし候事ニ候得者如何之もの哉と御察度ニ而一向初五

郎願ハ相止小車万吉別願ニ而も可然何分今一応相考候様被仰出願

書御指戻被成候ニ付右之意味合大年寄へ申達候

一 当所へ入込候他所商人共中絶之人數丈ハ跡入承り届候而も可然哉

之旨大目附ニ対談之上御用番中へ相伺置候

一 藤屋村伝蔵方へ去ル十日夕盜賊這入衣類十六品代積百四匁計被盜

取候段無流取計候様大目附と違有之取計本書ハ指戻し町分無之旨

廿五日届出候

一 賈札引合之ものニ而上打穴村と召連來候久五郎熊五郎金四郎義弥

携無之ニ付為以後一札取置指返し可申旨大目附へ対談之上御用所

へ申上候処思召無之互取計候様被仰出候付右一札下案認指遣孫兵

衛方ニ取置候様申付并備前札賈板行ハ孫兵衛と備前目明へ相渡候

義ハ決而不相成旨久五郎へ相渡指返し候様ニ呉々申付候

一 賈札一件ニ付致世話候もの共五人江相応ニ御褒美被下候様勘定奉

行近蔵伊左衛門へ懸合置候其段孫兵衛へも相移置候尤右御褒美ハ

先格役筋とハ不相伺銀札場取計ニ候尤銀札場と孫兵衛へ直ニ可相

渡旨近蔵伊左衛門と申來候

一 小頭三船孫八義昨日内々伊達与吉郎へ相達置候処今日同人と於別

席被申聞候者昨日御内々御噂有之候義同役江も内々遂相談猶又得

と相考候処御考通と外ニ取計方も有之間敷候間其通御取計有之

可然存候夫とも此上も又々教諭いたし候而も可相用趣も有之候ハ、

其趣御取計候而も可然候得共最早不参義と御察極之義ニも候ハ、

是迄も御教諭被加方無残所趣ニ存候得者直ニ御達有之候而も可然

存候由并組之者御取計ハ御心次第之儀ニ而御相談ニも不及義之処

元來先達而御噂も有之候義猶又今般申渡之義拙者と御対談之義ニ

付極御内々被仰聞候事故一存ニ而も難及御返答極内々得と相考候

上ニ而御返答申候間加人等被仰立候ハ、組之者共不埒有之ニ付加

人式人被仰付候様ニと月番江被仰達可然旨被申聞候仍而下役新左

衛門立合夜ニ入左之通申達候



存寄有之<sub>二</sub>付

小頭

永之暇指遣候

三船孫八<sub>二</sub>申渡

病氣<sub>二</sub>付名代

川端又六

三船孫八義申付之義致違背候段

部屋目附

卒尔<sub>二</sub>致取次候<sub>二</sub>付理解申聞候

三船新治<sub>二</sub>申渡

得共異見も不相加候哉再往断

申出其上其方義も孫八同様之旨申出

役所不相応不埒至極之事<sub>二</sub>候依之

番代申付候間急度御用<sub>二</sub>相立候もの可相願候

後 兩人共部屋目附役申付候

江原文藏

万端入念可相勤候

中山百蔵

前 小頭役申付候万端入念可相勤候

江申渡 萩野藤蔵<sub>二</sub>申渡

右不殘於座敷申渡候右小頭孫八暇指遣候段<sub>二</sub>新<sub>二</sub>小頭申付候付

御擬作増候義故其段御取計被下候様勘定奉行近藤伊左衛門<sub>二</sub>へ翌

十九日及通用候

一右<sub>二</sub>付同心組加入兩人大目附<sub>二</sub>申達置候所福嶋為助加藤清右衛門  
来

十月十九日 晴 風

一ノ宮喧嘩一件之もの共去ル九日遂吟味候もの共六人九時<sub>二</sub>呼出

し新左衛門藤蔵百蔵出番栄治左五兵衛立会<sub>二</sub>而<sub>二</sub>口書印形取之候尤

口書郡代所<sub>二</sub>相廻候

一西今町玉屋吉右衛門常屋文兵衛堺之堺持分之争論去ル八日伺濟之

通今日呼出右立合之上<sub>二</sub>孫右衛門喜左衛門立合左之通申渡候

其方共堺之堺持分之争論

西今町玉屋

訴出候処双方共無証拠之義<sub>二</sub>付

吉右衛門

取上ケ不及裁許候併銘々一方ハ 同町 常屋

可受持筋之義<sub>二</sub>付此度一町中持分

文兵衛

之堺定申付候仍之右争論之場所<sub>二</sub>以来玉屋吉右衛門持分<sub>二</sub>

申付候

西今町

左之通一町中持分之

組頭 八人

堺定申渡尤書付相渡候

年寄 三人

西今町銘々堺之堺持分定

北側

一角屋吉兵衛<sub>二</sub>今田屋伊助迄東堺持

一小倉屋清右衛門<sub>二</sub>紙屋六蔵迄西堺持

南側

一橋本屋儀八<sub>二</sub>公文屋清左衛門迄東堺持

一檜物屋八郎兵衛<sub>二</sub>直屋久米助迄西堺持

以来右之通<sub>二</sub>申付候

右申渡候段御用番<sub>二</sub>紙面<sub>二</sub>而<sub>二</sub>指届候大目附<sub>二</sub>ハ兼<sub>二</sub>不及届旨<sub>二</sub>付

不相届候

一下紺屋町年寄稲門屋藤十郎病死仕候段届出候

一贗札取計<sub>二</sub>付左之通銀札場<sub>二</sub>御褒美被下候段目明孫兵衛吹聴申出

候付以後為心得記置候

三拾匁 目明 孫兵衛  
六拾匁 大戸 栄助  
拾貳匁 高雄 庄五郎  
銀壹匁 東新町 延屋

岩蔵

一生野御代官稲垣藤四郎手代中沢良右衛門勝部三五兵衛の飛脚指越  
河面村弥太郎塩林田村並屋忠兵衛方へ預け置候処此節井堰明候  
付加茂川筋へ引取候間来夏迄ハ忠兵衛へ預け候儀相止候段届出候  
由右案内申来致承知候段及即答候翌廿日御用番へ指出

一 二階町鉄炮屋伝兵衛義材木町福中屋多助後家へ貸銀指滞ニ付致箱  
訴候由ニ而去ル八日大目附方被相渡候ニ付今日呼出し御取上ケニ  
不相成訳得と申聞致納得引取候此段追而大目附へ相達願書可指戻  
候

一 公儀左之通御達有之候由大目附中書面共大目附方被相渡候由郡  
代所へ伝達ニ付早々取調大年寄へ申付右書面ハ自拙者大目附へ指  
戻候

当月八日御勘定奉行中川飛驒守殿方御呼出ニ付大手御番所後御  
勘定所へ御留主居見習河内志津馬罷出候所御勘定組頭支配勘定  
出席ニ而別紙之通申渡有之候間則書付写相廻候右者寛政三年十  
二月御届有之候孝子并奇特者之帳面之内ニ有之候  
先達而被指出候御領分孝行奇特者書上帳之内  
相糺申度分

御名領分美作国

津山船頭町

寛延二年 褒美 げん  
右げん父之名を何と申候哉  
同

久米南條郡八出村

肝煎

右寛政三年為褒美指免候苗字何と名乗候哉  
未十月  
政右衛門  
辛亥  
四十一歳

一 備中国久保谷郡高沼村角屋伊助一人去ル十日御許容之ものニ而反  
物うんさい足袋売ニ来候段堺町西川屋善助宿切手指出十二月廿九  
日帰ル

一 東新町並屋忠兵衛方届書指出先達而御達御座候生野御支配所当国  
河面村弥太郎塩中揚ケ被相頼先月迄ニ都合壹万百貳拾俵中揚仕  
弥太郎手紙を以夫々江引渡相済此節井堰之指支無之ニ付以後ハ加  
茂川筋へ引取候由ニ而引渡相済候段届書指出生野方も申来候事故  
翌廿日御用番へ持参指出候

一 贖札師弁藏摺立候贖札打穴村ニ有之候由有所又々申出候付目明孫  
兵衛へ申付候処昨日村役之ものへ申遣候所今日致持参候由ニ而贖  
札貳拾八匁指出候

一 古市主殿家来義平義可遂吟味ニ付明日廿日八時指出候様申遣候所大  
目附中ハ沙駄無之旨申来候間其段翌廿日大目附へ申達候  
一 御払米三百俵代正銀六拾四匁五分八厘落札神田屋卯兵衛

町米正銀六拾五五分八厘  
一御蔵米六拾五匁 町米六拾壹匁

十月廿日 晴

一贖札懸リニ付古市主殿家来形山義平義八時を呼出し新左衛門藤藏  
文蔵出番又六為助立合縁側ニおいて遂吟味候

古市主殿家来

不及白状候間

形山義平

其儘指戻候

差添立合

駒木順蔵

右之段大目附へ相届候

一中之町作人多十郎家屋敷南側ニ而表口三間裏行拾七間但半役也西  
隣ハ玉田屋藤十郎東隣ハ玉野屋多助後家也右家屋敷同町大笹屋惣  
十郎へ質物ニ書入銀札四百匁一ヶ月一步半之利足ニ而当月十日来  
申ノ二月ニ借用仕度願指出生承リ届同廿八日本証文指出候 西三月  
十二日受返し済

一牢舎人弥助足かせ申付置候処誤入御免歎出候付昼廻リ百蔵栄治の  
指免候

一牢屋下番中間伝助病氣引込ニ付割場を加入取候段上野団助届出候

十月廿一日 晴

十月廿二日 雨

一太神楽岡田忠太夫昨日罷帰候段大年寄届出大目附へ相届候

一牢舎扶持五俵之内貸証文指出奥印書取計候尤右ニ而来月十日迄之  
扶持米有之積也

一贖札師岩之助弁蔵召捕候入用七拾六匁三分小頭を証文指出奥書取  
計候但銀札場へ指出候受取候事也

一西岸院様御法事御赦ニ付寺院歎書附紙指出候様大目附を達有之候  
由郡代所を相廻り候

十月廿三日 晴

一御用日登城

一新魚町三ツ巴初五郎義先達ニ而花相撲相願候処此節一ノ宮喧嘩懸リ  
合ニ付他參留被仰付慎中ニ付時節後れ候間右相撲延行仕度願下ケ  
願書御用番御聞濟ニ付大目附へ指出し聞届申達候

一伏見町小車万吉義徳守宮社地ニおいて霜月上旬晴天五日花相撲興  
行仕度願書右同断取計濟

一二階町鉄炮屋伝兵衛義材木町福中屋多助後家へ相懸リ古借銀滯出  
入致箱訴候ニ付公儀被仰出有之候ニ而取上ケ裁許不相成訳合申達相  
濟候段致付紙御用所へ指出候

一元魚町住屋市左衛門義大坂薬屋半左衛門へ身代切り可相渡之処取  
扱人有之金子相渡濟候段濟口受取書不指越候ニ付其段「人」申遣  
候所対談中致内濟候得 濟口一札可相廻候得共身代限り引渡相成

受取候上ハ濟口一札不指越直ニ半左衛門を御番所 大坂御屋敷 江  
扣届濟候先格ニ候ニ付濟口受取書不相廻候旨扱人善兵衛を申越候  
書面市左衛門指出候ニ付右書面写大坂へ相廻し別紙之通故宜御取  
計候様ニ可申遣旨大目附へ遂相談候処随分其通ニ而可然旨尤御用  
所 江も御沙駄ニも及間敷旨被申聞候付其段大坂御役人長沢清左衛  
門方へ申遣候

一 贖銀一件之もの共死罪取計之義御留主居る延行申來候一件來春取計伺候様御用番中被仰出尤郡代所<sub>ニ</sub>も穢多死罪も有之候間是又同様來春相伺候様伝達仕候様被仰出郡代所へ及通達候

一 古市主殿家來形山義平取計之義大目附へ対談之上御用所へ相伺候処猶又相考候様被仰出候

一 油方引受之三人之もの共抑懸合之砌菜種世話料口錢可遣旨田中屋久左衛門申候所致断候様<sub>ニ</sub>申付候様<sub>ニ</sub>相覚候右口錢はいか程之義<sub>ニ</sub>候哉追<sub>而</sub>御用日迄<sub>ニ</sub>申出候様大目附被申聞喜左衛門へ申達置候

一 船出入一件龍野再吟味甚吉恵助忠治郎杢右衛門善兵衛右五人之口書写倉敷之代治郎三郎平<sub>ノ</sub>檉野屋茂一郎方へ相廻候由蔵合孫左衛門指出し要人殿<sub>江</sub>紙面<sub>而</sub>指出候

一 当所水車へ綿実買入方年々彼是取合も出來候様之趣<sub>ニ</sub>付右御買上ケ方兵庫相場<sub>ノ</sub>四厘<sub>ノ</sub>六厘位ハ高く御買上ケ<sub>ニ</sub>者相成候得とも兵庫へ相廻し運賃丈引下ケ御買上ケ<sub>ニ</sub>相成候故右運賃丈ケ被指免候様喜左衛門考書指出し尤之義<sub>ニ</sub>付勘定奉行上原彦蔵へ懸合候所左様ハ不相成旨被申聞候付其段喜左衛門へ申達候

一 今日御役替有之左之通

大目附役 赤見類助 御使番黒田昇 物頭格上原彦蔵

五拾石<sub>ニ</sub>高直リ御使番格三浦十郎左衛門 詰江戸佐々木主馬

來夏迄詰江戸近藤伊左衛門

一 京都問屋町五条下ル三町目三味線屋仙助と申者三味線張替數年罷越候所去暮病身<sub>ニ</sub>相成得罷越候<sub>ニ</sub>付右代リ<sub>ニ</sub>備中郡早嶋金田屋伝蔵と申者反物うんさい足袋売<sub>ニ</sub>罷越度旨新職人町松野屋十右

衛門指出し承り届

十月廿四日 快晴

十月廿五日 晴

一 細工町年寄指物屋長左衛門病死去ル十九日届出右跡役倅長左衛門へ可申旨大年寄伺出承り届

一 船出入龍野再吟味口書写昨日御用番中御下ケ被成候<sub>ニ</sub>付松岡治部助へ持参指出

十月廿六日 晴

一 船頭町孝子げん父之名面段々吟味為仕候所死絶候<sub>而</sub>委細之義不相分併先年公儀<sub>江</sub>御届も有之候義<sub>ニ</sub>候得<sub>者</sub>公料之市右衛門娘とも難認もの哉<sub>ニ</sub>付後年之人別改帳<sub>ニ</sub>者船頭町出生と有之候得<sub>者</sub>船頭町市右衛門娘と認出候<sub>而</sub>も可然哉と兩所<sub>ニ</sub>兩通相認差出候所大目附<sub>ノ</sub>左之通下案被相渡候<sub>ニ</sub>付対談之上左之通相認指出候尤吟味之次第委細<sub>ニ</sub>認大目附迄指出候所御用番伺<sub>ニ</sub>相成候

覚

船頭町

げん

右父之名御尋被仰出左之通り<sub>ニ</sub>相見へ申候

寛延三<sub>庚</sub>午年正月

船頭町人別御改帳

扣

出生町内

一 四人 安井屋佐右衛門

出生御公料勝南郡飯岡村市右衛門娘

同人妻 ぶり

十月廿六日 増児右門

年 四拾貳歲

右之通認出候所明朝立ニ而江戸迄十日切御飛脚ニ相廻候

同人姉 げん

一元魚町住屋市左衛門義去ル廿三日認置候大坂状今便指出候

年 四拾四歲

一紀州高野山万生院使僧惠敷と申僧上下式人例年之通來候段坪井町

同人娘 そめ

川原屋治助宿切手指出十一月廿六日帰ル

年 拾五歲

十月廿七日 雨  
十月廿八日 晴

右之外相分り不申候以上

津山町大年寄

一御用日登城

玉置六郎左衛門 印

一御代官池田仙九郎殿手附の御名片書殿付ニ致來候義相尋ニ大坂長

寛政十一<sup>己</sup>年十月廿六日 齋藤孫右衛門 印

沢清左衛門へ申遣置候処昨晩返書來此方様御館入町人を以向方館

藏合孫左衛門 印

入町人ニ懸合候所左之通之由

御町

御手附と申者手代と違公儀御直人ニ而候間都而万石以上之御

御奉行所

方をも殿付ニ認候由手代計之文通ニ候得者並々之通様付ニ致

一今般船頭町げん父名面之義御尋御座候ニ付為相糺候処安井屋

候由

佐右衛門と申者家断絶ニ付相分り不申古帳面類并且那寺福泉

右之通申來候間御用番中へ書状指出此方者先日之通片書ハ所付

寺過去帳其外佐右衛門薄縁之者ハ不及申近町中老以上之者共

ニ而文通可仕哉と何置候

迄得と為相糺候処相知レ不申候尤市右衛門義者当町入帳之も

一古市主殿下人義平取計先例取調候処揚屋ものニ而入牢之取計例無

のと者相見へ不申ふり并げん等当町入帳之訳合等も相分り不

之候得とも妙法寺弟子逆敬寺社方と受取候節揚屋へ入置其後御用

申候依之船頭町年寄共より飯岡村庄屋へ為懸合候得共先方ニ

番中惣牢ニ入候様御指図有之候義相見へ候得共如何様之訳と申

而も相知不申猶又福泉寺の飯岡村長樂寺夫の槇山平等院へも

義不相知其外ニも出家社人入牢之取計も相見へ候得共皆寺社方之

懸合候処同院ハ他出ニ而過去帳等相知レ不申追而相調へ向方

取計ニ而役筋ニ而揚屋へ入置其後入牢ニ取計候義無之先ハ出家社

と可申越旨ニ御座候得共難相分趣ニ御座候猶申來候ハ、可申

人ハ結衣結冠ニ而も揚り屋へ入候例之様ニ相見へ候間今般之義平

上候已上

義も受取揚屋へ入置可申旨御用番中へ相同候処右例書御受取被成

追<sub>而</sub>可被仰出旨被仰出候

一 西岸院様百五拾回御忌御赦<sub>ニ</sub>付寺院歎書三浦十郎左衛門<sub>ノ</sub>相廻リ致附紙大目附へ指出候但伊勢屋長右衛門父子常盤屋後家こまかいから藤助三人也

一 油方両種物引受之三人口錢之義懸合も兼<sub>而</sub>有之候哉之旨如何様之義<sub>ニ</sub>哉認出候様大目附被申聞下方承り糺之上左之通認指出候

一 倉敷村弥吉初懸合<sub>ニ</sub>来候節同人之様子承り候処壹石<sub>ニ</sub>四分ツ、口錢貰候哉之様<sub>ニ</sub>相聞候

一 油方三人之もの引受熟談之節向方<sub>ノ</sub>申候<sub>者</sub>両種物積登之員数一兩年見受候上<sub>ニ</sub>而口錢可取計旨申聞候所口錢ハ及断候様被仰付候付其旨及断候

一 油方三人之もの勤金之義<sub>并</sub>口錢等之訳御用番<sub>ノ</sub>御尋有之委細<sub>ニ</sub>申達候

一 一ノ宮喧嘩一件之もの共吟味今少不行届候様<sub>ニ</sub>相見へ候間船屋吉三郎村永屋甚吉高砂屋金四郎右三人責道具取飾り置既<sub>ニ</sub>穢多へ引渡と申場合迄今一応セリ詰可申尤責候義ハ其後伺<sub>ニ</sub>寄<sub>而</sub>可取計旨大目附被申聞候

一 柳土手御藪之竹切置候処致紛失候間急度穿鑿可申付旨大目附被申聞候付其段小頭へ申達目明へ申付候

一 牢浚申付候所無別条旨昼廻り為治清右衛門届出候

一 御払米三百俵正銀六拾四匁七分九厘落札升屋長十郎  
町米正銀六拾匁七分九厘  
一 御蔵米六拾五匁 町米六拾壹匁

一 新魚町福本屋庄助倅太兵衛義今般上原彦藏供<sub>ニ</sub>而 出坂仕度願承り届

届

一 京都二条通相之町茂兵衛と申もの夫婦二人召連小性町中村屋庄助借屋住人浅治方へ来右茂兵衛義<sub>者</sub>浅治弟<sub>ニ</sub>付五十日計逗留為仕度願書承り届尤右ハ浅治実之弟<sub>ニ</sub>而 近縁之もの<sub>ニ</sub>者 候得共右娘ハ芸子体之風聞も相聞候付右体之義有之候<sub>而</sub>者 逗留為仕候事決<sub>而</sub>不相成候間組合年寄<sub>ノ</sub>急度心を付申出候様<sub>ニ</sub>申付置候<sub>一</sub>  
娘一人指置十二月廿日  
三人罷帰ル

十月廿九日 晴

一 関貫番質銀例月之通相濟候

一 西今町直屋孫四郎所持之造酒株当未ノ年<sub>ノ</sub>来申年迄二ケ年之間林田町嶋屋文七引受商売仕度願書承り届

十一月 小

月番

御家老 安藤丹後殿  
御年寄 黒田要人殿  
大目附 伊達与吉郎

大年寄 玉置六郎左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

十一月朔<sup>乙</sup>加旦 快晴

一 御吉事日ニ付麻上下着用五ツ半時登城仕候処御奏者番小須賀貢<sup>ノ</sup>当年<sup>者</sup>先前之通詰合<sup>江</sup>御祝御赤飯被下置候間銘々於役所可致頂戴之旨演達有之類役<sup>江</sup>も及通用候然ル所坊主代御使組給仕<sup>ニ</sup>而於役所頂戴之畢<sup>而</sup>大目附役所へ罷出御奏者番小須賀貢<sup>江</sup>御祝頂戴之御礼申上候尤御赤飯八重<sup>ニ</sup>而塗膳<sup>ニ</sup>居坊主給仕也右畢<sup>而</sup>御用所御下<sup>リ</sup>を相待退出

一 御年寄山田主膳殿<sup>ノ</sup>先月伺置候古市主殿家来義平義同人<sup>ノ</sup>受取候先揚り屋へ入置候様被仰出候其段大目附へも達置候且又古市主殿<sup>ノ</sup>も引渡候様御達有之候段懸合有之候ニ付明二日受取可申尤刻限之義<sup>者</sup>明朝可申達旨申置候

一 ノ宮喧嘩一件再吟味之義一昨日松岡治部助<sup>ノ</sup>達有之候所今一応郡代所<sup>ニ</sup>而も糺有之候上不相糺候<sup>而</sup>ハ吟味之手も不詰様<sup>ニ</sup>有之候間其旨取計度之旨申達候所其段ハ如何様共宜懸合取計可然候旨治部助被申聞候付其段十郎左衛門へ懸合候所不得心之趣<sup>ニ</sup>者相見へ候得共承知候旨返答有之候

一 船出入龍野再吟味口書写松岡治部助<sup>ノ</sup>被相戻藏合孫左衛門へ指戻置候

一 油屋共取締受一札松岡治部助<sup>ノ</sup>被相戻候

一生野<sup>ノ</sup>河面弥太郎塩並屋忠兵衛へ預ケ候義先当年ハ相濟候案内之

書状松岡治部助被相戻候

一 米相場書昨年之通大年寄認指出自分新左衛門孫右衛門打寄致校合奥書印形取計候

一 勝山役人渡部唐兵衛榊原九郎左衛門<sup>ノ</sup>米相場書取<sup>ニ</sup>来昨年之通指遣候

一 久世御代官手代貝塚五郎藏内藤大右衛門<sup>ノ</sup>米相場書取<sup>ニ</sup>来昨年之通指遣候尤今年<sup>者</sup>十月十五日一日之相場書ハ取<sup>ニ</sup>不来候

一 龍野御預り所役人関口作兵衛三沢清太夫大森忠治<sup>ノ</sup>米相場書取<sup>ニ</sup>来昨年之通指遣候

一 西川役人平沢助八高橋金治へ例歳之通米相場書認羽織屋九一右衛門方迄指遣置候

一 牢舍人御仕着例歳之通相調牢番<sup>江</sup>相渡候

但拾一人分數拾弍 但九匁五分<sup>ノ</sup>拾弍匁五分高迄

右代<sup>ノ</sup>百弍拾弍匁五分

一 目明甚七義兼<sup>而</sup>足痛其上及老年難相勤度々退役相願候<sup>ニ</sup>付右願指留候<sup>ニ</sup>付以来定式之町廻り指免候段可申渡旨小頭<sup>江</sup>申達候且又目明孫兵衛へ右之段為相知同人義ハ矢張受前之隔日之廻り是迄之通相勤候様申達候様申付候

十一月二日 曇

一 下津川村銀藏と申もの御藏納通<sup>ニ</sup>落候<sup>ニ</sup>付触流願出候間郡代所へ申談町触指出候様御用番中<sup>ノ</sup>紙面を以被仰出<sup>并</sup>郡代所<sup>ノ</sup>も通用有之町触指出候

一古市主殿家来片山義平儀今日受取揚り屋<sub>江</sub>入候付下番中間加入志  
人大目附へ申立尤私宅へ相廻候様ニ申遣<sub>并</sub>古市主殿<sub>江</sub>も今八時可  
受取間被指出候様申遣候

一古市主殿<sub>江</sub>家来指添片山義平指出し於玄関前小頭藤藏部屋目附百  
藏出番為治左五兵衛立合為請取候大小袴取上ケ手錠申付白洲へ呼  
出し左之通申渡候

先年致贖札間もなく立帰り 古市主殿家来

御家中へ館入帯刀奉公いたし 片山義平

上を不憚致方不埒至極ニ候尚又今般

吟味ニ付揚り屋申付候

右取計候段御用番<sub>并</sub>大目附へ相届候

一御領分西々條郡宗枝村百姓茂右衛門倅豊治義材木町正木屋甚右衛  
門養子ニ引受度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届翌申

九月廿八日離縁

一坪井役人庄田伊三郎<sub>江</sub>米相場書取ニ来去歳之通相廻候

一揚り屋賄料先前<sub>江</sub>一日六拾四文之定と牢屋定法ニ有之所其後<sub>者</sub>違

候ニ付相調候処左之通ニ候

一天明七<sub>米</sub>正月十八日迄一人ニ付一日分六拾四文ツ、

一同正月十九日<sub>江</sub> 一人ニ付一日分九拾四文ツ、

一寛政四<sub>子</sub>五月<sub>江</sub> 一人ニ付一日分九拾六文ツ、

右之通ニ付今般も近例之通九拾六文ツ、之賄ニ申付候尤賄料四拾  
匁之内貸証文小頭<sub>江</sub>指出奥書取計申候

(七行分消し込み)

一丹後久美浜野村権九郎殿手代中村莊太左衛門清水君平広石卷右衛  
門<sub>江</sub>米相場書取ニ来昨年之通指遣候

一大坂谷町二丁目御代官池田仙九郎殿手附奥野右源太上野戸作<sub>江</sub>米  
相場書取ニ来指遣候

十一月三日 快晴

一御用日登城

一雲州大原郡仁和寺村百姓文太郎倅茂吉義安岡町岡屋忠助養子ニ引  
受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候同八  
日住宅証文指出

一新魚町弓削屋多助倅松之助義兼々不所存ものニ付親類組合義絶勘  
当仕度願右同断取計濟

一無宿岩之助弁藏倅贖銀札八拾五匁<sub>并</sub>板木押懸印<sub>并</sub>関迄近藤仁左  
衛門へ相渡候尤先例ハ多く銀札場奉行へ相渡候得共今般<sub>者</sub>始終勘

定奉行と懸合候故近藤<sub>江</sub>相渡候  
一手嶋流講尺来五日<sub>江</sub>相始修白義病身ものニ付一人ニ<sub>而</sub>も迷惑成も  
のニ候間徳山朴也養子官治へ内々為試前講為仕候段宮田喜左衛門

申出候  
一揚り屋中間此間耆人申立候所兩人ニ<sub>而</sub>隔日ニ相勤候事故兩人不申  
立候<sub>而</sub>ハ代り合之もの不参候由上野要助申出其段大目附へ申達候

一揚り屋掛竈損候ニ付引かへ願出大目附へ申達<sub>并</sub>勘定奉行御作事奉  
行へも懸合置候

一新魚町樫野屋茂一郎義南新座人屋之居宅紙漉場ニ八百五拾匁ニ買  
取度願書郡代所へ指出候旨役筋へも願書指出候得共役筋ニ<sub>而</sub>可聞



届義ニ無之故願書指戻候得共其段郡代所へ懸合遣候所今日御聞届  
相濟候由噂有之候

一宿屋頭坪井町河原屋治助る先達而他所商人名面書出候節伊勢榎倉  
修理之進名代東原清藏と申もの認落候間書加へ度願書指出承り届  
候

一二町目北側ニ而川口藤十郎所持之家屋敷表口三間裏行拾七間但半  
役也東隣者富屋茂七西隣者福永屋栄三借屋也右家屋敷代銀壹貫目  
ニ相極同町伏見屋茂七へ売渡度願承り届同六日売券状指出

一京町吉田屋喜八郎義先月十日石州銀山料へ罷越候所今日之日延  
願指出し承り届候

一筑前遠賀郡柏原浦小平次手代義兵衛一人例年之通茶碗類売ニ来候  
段京町田戸屋惣十郎指出

一越中富山向河原町松井屋佐兵衛一人例年之通反魂丹売ニ来候段小  
山屋与三右衛門宿切手指出

一信州木曾筑摩郡葦原宿古屋善吉一人例年之通来候段右同人宿切手  
指出同廿六日帰

一〇〇〇〇水門之唐戸此度ハ樋を石ニ而拵候間唐戸を何方へ成共預り  
置洪水之節相渡候様取計候得者いつ迄も用立候間其趣ニ取計呉候

様御作事奉行仮役佐藤郷左衛門る先達噂有之藏合孫左衛門へ其砌  
考申付候処西今町年寄へ大年寄る預ケ置洪水之節非人取ニ出候様  
申付可然旨申出候付其段佐藤郷左衛門へ申達候処其通取計呉候様  
申聞候処右唐戸先達而出来候由弥預ケ呉候様申聞候得共通用無之  
故未申付候ニ付今日左之通申付候様大年寄申達候

〇〇〇〇水門之唐戸常々 西今町

預り置洪水之節非人取ニ出候ハ、 年寄共江

可相渡候

但非人江も右之段申付置候事

一油方引受之もの共勤金無之勿論口銭も不取義故自他油屋共る疑を  
受ケル々も不行届且又当時之三人之もの共ハ兼而覚悟之義ニ候得  
者相勤候得共後々ハ勤候者も無之道理并不直有之候而も糺候義も  
難致取扱兼候ものニ付忝人ニ付三百匁ツ、并当所油屋之内忝人ツ  
、順番ニ年行事申付彼へ式百匁外ニ筆墨紙代三拾匁被下置候様先  
達而宮田喜左衛門考書指出至而尤成義併油方之義ニ候得者御本途  
被下候ものニ而も無之水車御入用之内る被下可然ものニ付上原彦  
藏へ懸合置候処段々勤弁も付左之通同人より申立有之候由御用番  
中るも先日役筋へも御尋も有之候処今日左之伺之通被仰出候由近  
藤伊左衛門る通用有之候ニ付其段喜左衛門へ申達右年行事申付置  
可然旨申達候尤右被仰出者水車方る可有之由ニ付

一ケ年ニ式百匁ツ、 油方引受之者三人江

但筆墨紙代三人江三拾匁

一ケ年ニ百匁ツ、 油屋年行事忝人江

一ノ宮喧嘩一件之もの共召捕ニ京大坂へ組差遣候入用受取証文今  
日小頭る今日指出候所改裏印等も相濟候処近藤伊左衛門る右証文  
裏印取計渡候得共右証文ハ先例ニ違不束之事共ニ付評議之上可致  
裏印候処風波裏印取計不調法ニ付今暫不受取預り置候様申来候ニ  
付其段小頭藤藏へ申付候

十一月四日 快晴

一 河辺村百姓岩之助方へ先月廿六日夕盜賊這入衣類其外八拾貳品代

ニ積九百拾九匁四分位并銀札百拾匁程被盜取候由触流し取計候様

大目附申来書役へ申付候本書ハ重而之御用日ニ可帰ス事

町方無之旨同廿四日届出候

一 西新町なばや忠兵衛方へ昨夜盜賊這入銀札三拾匁計盜取候由目明孫兵衛并大年寄も口上ニ届出候追而届書可指出答也

十一月五日 時雨

一 銀札場奉行清水覺右衛門之錢七拾箇川下手形相廻り裏書取計候

一下津川村銀藏御藏納通東新町藁屋与七郎宅ニ落有之町触不相廻内

ニ銀藏方へ指遣候由大年寄之届出并郡代所も通用有之候

一 西新町名波屋忠兵衛方へ去ル三日夜七ツ時頃盜人這入銀札三拾匁

計盜取候由届書指出候尤因州之方之盜賊多人込候由目明孫兵衛申

出候ニ付今夕之非人召連受廻りいたし候様申付候右之段明日御用

番中へ可相達候

一 播州網干余子浜兼屋弥七郎悴源治郎一人例年之通小間物卸売ニ来

リ右ハ中之町甲屋幸助客ニ候処此節幸助預ケ中ニ付同町津田屋伝

助之宿切手指出し承り届翌春「月四日帰

一 播州網干平松屋惣九郎一人例年之通小間物卸売来候段中之町小山

屋与三右衛門宿切手指出候翌二月六日帰

一 雲州杵築多久十太夫御師上下三人例年之通且那廻り来候段新職人

町松野屋十右衛門宿切手指出翌正月四日帰

一 播州網干余陸屋武兵衛一人例年之通八百屋物并鏗節売ニ来候段中

之町小山屋与三右衛門宿切手指出ス

十一月六日 晴

一 生野御代官稻垣藤四郎殿手代中沢良右衛門勝部三五兵衛之米相場書取ニ来昨年之通指遣候

一 油方引受之者共被下金之義元来内々之義故水車方之申達可有之

笞之処油屋年行事等有之筋違之様ニも井口恵左衛門杯も存候趣ニ

も相聞役筋之違候得者下方氣受も可宜哉ニ付役筋之違候も可然

旨近藤仙左衛門申聞尤御用番中兼而右之一件御尋も有之候義ニ

も候得者相達候も苦かる間敷哉ニも被存候付近藤仙左衛門と對

談之上左之通申達候様大年寄へ申付候

両種物引受致世話候ニ付年々 油方引受之者

忝人江式百匁宛被下置候 三人江

右同断ニ付年々 油屋之内

百匁被下置候 年行事忝人江

一 右之入用ニ付筆墨紙代三拾匁被下之候

右者年々水車方御役人可被相渡候間其旨可相心得候

一 油屋共之内年行事当年ハ武田屋元右衛門へ可申付勿論最早年内余

日無之事故引続来年中為相勤可申旨喜左衛門申出承り置候

一 石名左十郎義明七日之出勤届出依之加人佐藤才助明日之指戻候段

申付置大目附へ紙面ニ相届候

一 盜賊入込候趣ニ目明共申出候付昨夜之目明共非人四人召連受忍廻

リ申付候段御用番中へ申上并右ニ付当分之内町方一町切ニ金棒挽

受廻り今夕之可申付旨御用番中へ申上候処後刻思召無御座候間且

取計候様被仰出候付其段大目附へ紙面ニ而相届置大年寄江申付候  
一茅町作人松太郎方ニ而戌之刻時分手あやまろニ而綿ニ火移り候処  
早速捻消無難相濟候段大年寄届出承り置候

十一月七日 快晴

一当所油屋共兵庫廻候之菜種申合銘々割合を以相廻来候所油方引受  
之三人之者ハ右之割合不指出役徳ニ致来候処今般之通ニ勤料被下  
候上ハ並之通割合指出候而可然もの哉ニも候得共左候而ハ勤料余  
り残ハ無之様ニ相成如何之ものニ付以後ハ惣高之拾歩一を三人ノ  
為指出候様可申付旨宮田喜左衛門伺出候ニ付亘取計候様ニ申達候  
一新魚町作人百四郎借屋住勝本屋善助倅政吉義風渡罷出不罷帰候ニ  
付届書差出例之通百日尋申付候翌年二月廿八日除帳済

一鍛冶町伊賀屋忠藏借屋住宮崎屋茂吉夫婦為渡世今年ノ亥年まで五  
ヶ年之間御代官早川八郎左衛門殿支配所当国東北条郡小中原村大  
坂屋三十郎方へ奉公仕度願承り届

一安岡町久米屋友七義大坂土佐堀二丁目木屋与兵衛方へ廿日計之逗  
留ニ而明八日立願承り届同廿三日帰ル

一 下紺屋町南側ニ而江戸屋琴治家屋敷表口三間裏行五間式歩五厘役  
也東隣ハ一文字屋市六南隣ハ佐渡屋松五郎也右家屋敷代銀三百匁  
ニ相極新職人町徳嶋屋茂兵衛へ売渡願承り届同十日売券状出

一 下紺屋町南側ニ而作人仁兵衛家屋敷表口四間裏行拾七間但半役也  
東隣ハ山伏知教坊西隣ハ作人市六也右家屋敷代銀四百五拾目ニ相  
極町内紙屋五百吉江売渡願承り届右同断

一 美濃職人町南側ニ而鍛冶町鍛冶新右衛門所持之家屋敷表口五間半

裏行拾七間但一軒六歩役也東隣ハ団屋金七西隣ハ吉田屋平吉也右  
家屋敷代銀七百目ニ相極新職人町高畑生齊江売渡願承り届右同  
断

一 西川役人平沢助八ノ米相場書指遣候返書并高橋金治病死候旨申来  
候

十一月八日 快晴

一 御用日登城申上候御用向無之

一 追払者之取計天明二年以来取調指出候様先達而伊達与吉郎ノ達有  
之候ニ付右取調書付并兩役取計区々ニ者無之段兩役連名ニ而弁書  
添与吉郎へ指出候

一 材木町東関貫損開閉難仕届書大目附へ指出候

一 菜種取締一件之節兵庫灘目代人と勝山落合油屋共取合有之当所油  
方引受湯田屋太郎左衛門取扱致内濟候取計手扣帳面太郎左衛門指  
出并右両所油屋共一札指出及披見候所指而入用之ものニも無之ニ  
付一札ハ翌日六郎左衛門へ指戻右手扣者扣も有之由ニ付受取置候

一 大坂長沢清左衛門へ池田仙九郎殿手附片書之義聞合申来候返書并  
同心組拜借之金子上納延行之断書状指遣候

一 牢屋下番中間伝助今日ノ出動届出候

十一月九日 快晴

一 下紺屋町長江長庵義播州平野中井久太郎方へ四十日之逗留ニ而明  
十日立願書大年寄承り届ケ指出十二月廿三日帰

十一月十日 曇 夜雨

一 上紺屋町南側ニ而熊屋源左衛門家屋敷表口五間裏行十七間但本役  
癸亥閏正月廿六日受返し候(朱書)

也東隣ハ浅屋八十市西隣ハ渡部元端也右家屋敷質物ニ書入当未十

一月ヨ来西十一月切卷ヶ月卷歩半之利足ニ而二階町嶋屋藤吉取次

ニ而六百目借受度願承リ届同廿日本証文指出

一播州豊嶋郡池田村植木屋平兵衛一人例年之通植木売来候段堺町西

川屋善助宿切手指出十二月廿九日帰ル

一備前徒横目枝松鉄右衛門と申もの目明召連孫兵衛方へ来贖札師岩

之助相渡吳候様申聞左様も難成候ハ、備前札贖拵候始末承リ札吳

候様申聞候段孫兵衛申出候ニ付当時入牢致居候間日明共取計ニ著

相成不申之旨及挨拶候様申達候

一手嶋流講尺相濟出席帳喜左衛門指出及一見指戻候

十一月十一日 晴

一牢舎人岩之助病氣申出大年寄へ申達候所藤木良全へ申付候段届出

候

一三町目太刀屋久治義因州鳥取河端三町目独活屋喜左衛門方へ四十

八日計之逗留ニ而明後十三日出立願書承リ届十二月廿五日帰

十一月十二日 快晴

一材木町倉敷屋孫三郎家屋敷表口式間裏行拾五間但式歩半役也右家

屋敷去ル四年以前辰十二月堺町稲実屋徳左衛門取次ニ而百三拾匁

之質物ニ置候処此度元利返弁受返し相濟候段届書指出候

一銀札場奉行の錢八十箇川下ヶ手形相廻り奥書取計候

一牢舎扶持内借五儀之証文指出奥書取計候

一御蔵米六拾六匁 町米六拾式匁

十一月十三日 晴 時雨

一御用日登城

一下紺屋町原田屋利兵衛借屋住倉敷屋源助妻義先達ニ而源助畑物盜取

候ニ付御領分追払被仰付其節同人妻義も立去リ被仰付候所源助と

離縁仕候付帰住居相歎候間悴岩吉引受同居仕度歎書御用番中御聞

濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候

一徳守宮社地花相撲明後十五日ヨ相始候段小車万吉届書指出口達ニ

而御用番并大目附へ相届候

一大坂住御代官池田仙九郎殿手附奥野右源太手代上野戸作の一昨日

米相場書受取候再答指越候所此度ニ片書津山町御奉行役と認指越

候ニ付右書状御用番中へ指出大目附へも及噂候且又右書状受取ハ

名面不相認封状卷通受取候と相認遣候

一備前徒横目枝松鉄右衛門贖札師岩之助受取ニ目明孫兵衛方へ来候

義去ル十日ニ記置候通御用番并大目附へ及御噂候

一町中受廻り并目明忍廻り申付置候所有明月之節ニ余リ這入も不仕

もの故月夜中ハ廻リニ不及旨目明共申出候ニ付今夕ヨ夜廻り相止

闇夜ニ相成候迄相止又追ニ而可相伺旨御用番中へ申上候処御聞濟ニ

付大目附へ相届置其段大年寄并小頭江も申付候

一手嶋流講尺入用左之通宮田喜左衛門ヨ小手形差出自分証文ニ指添

勘定奉行へ相渡受取喜左衛門へ相渡候尤右証文宛所勘定所と相認

候事

五拾式匁六分八厘

一銀札場奉行の錢十四箇川下ヶ申来裏印取計候

一三船新治義悴藤四郎番代ニ指出度願書指承リ届明後十五日目見取

計候様申付候

一 錢通用百弍文

一 菜種取締一件当国中油屋共受一札勘定奉行ノ戻候付喜左衛門へ指戻候

一 来春芝居興行之義三役申談候処先来春ハ当役ノ相願候様ニ兩役ノ申聞候

一 牢浚申付并牢舍人利左衛門義墨筆持候様ニ相聞候付小頭藤藏指向為相札候処無別条旨藤藏百藏榮治届出候

一 材木町北側ニ倉敷屋孫三郎家屋敷表口式間裏行拾五間御堀切但式歩役也東隣ハ車屋佐五郎西隣ハ嶋野屋惣兵衛也右家屋敷代銀弍百匁ニ相極嶋野屋惣兵衛へ売渡度願書承リ届同廿五日売券状指出ス

一 役所書類入置候櫃つまり候ニ付櫃之類欠所銀ニ調度旨大目附伊達与吉郎へ相断候所承知候旨挨拶有之候右ニ付相調候様新左衛門へ申達

一 町医師牢屋療治ニ罷越候節牢屋大門開キ候様ニ内々相款候趣相聞相札候処同心組ニ至迄御用ニ致出入候ものハ不殘潜リノハ出入不致大門開キ候所町医師計無其義候処是迄ハ南路次ノ致出入候故格別不相分候処当秋ノ南路次致切候故町医師計潜リノ致出入雨天之節別ニ致迷惑候由相聞候ニ付相札候所日々同心組廻リ出入ニも大門開キ候由ニ付以来町医師出入之節も大門開キ候様牢番共へ可申付旨小頭へ申付候

十一月十四 晴

一 大坂長沢清左衛門ノ返書到来元魚町住屋市左衛門義大坂伏見屋半右衛門へ薬代滞出訴内済ニ相成候得者別段ニ表立御届ニ及不申候旨申来候

一 札元三船八郎右衛門義大坂堂嶋中三町目山崎八郎右衛門方へ廿日計之逗留ニ明十五日出立仕度願書指出候ニ付御用番中へ持參相候候処後刻御聞届之旨申来其段大目附へ相届候上ニ御聞届申達候十二月十一日帰ル

一 豊後国浄土寺使僧上下式人兩掛挾箱苧荷為持今晚罷越候ニ付兼申付置候旅宿坪井町羽織屋九一右衛門方へ案内仕置兼被仰付置候使僧振之義相尋候所方向も致焼失旧記等無之先規之形一向不相分候間明日植木左士殿方へ罷越委細對談之上ニ相勤可申旨申候由人馬問屋ヨリ届出候段大年寄申出其段御奏者番小須賀貢へ紙面ニ相届植木左士も及通用候所明昼後參リ候様ニ相違具候様申来其段問屋ノ及通用候様大年寄へ申達候

十一月十五日 雨

一 三船新治番代同人悴藤四郎目見申付先格之通扇子箱指出し新左衛門藤藏文蔵百藏立合ニ謁ス

一 徳守宮社地花相撲今日ノ可相始処雨天ニ付延引仕候段届出其段御用番并大目附へ紙面ニ相届候

一 豊後府内浄土寺使僧妙參義西岸院様御法事無御滞相濟候御届ニ罷越候段御役人中へ相届具候様申候旨宿羽織屋九一右衛門ノ大年寄届出其段寺社奉行小須賀貢ニ相届候尤使僧振合之義ハ植木左士對談之上之義ニ付同人ノ違も可有之ニ付其段不相札申出之儘相居

候段端書ニ申遣候尤植木へ承り候所御家老中五之使僧ニ付先格之  
通御徒目附取次ニ被指出候由ニ相聞候

十一月十六日 晴

一 德守宮社地花相撲今日五相始候段勸進元五届出候ニ付御用番并大  
目附へ相届候

一 大目附廻状左之通到来

江戸表五飛脚到来

一 大守様益御機嫌克被成御座先月廿五日御用番松平伊豆守殿へ

一 五節旬月並御登城被成度段御願書御先手深津主水殿ヲ以被指

一 出無御滞御受取被置候処同廿七日御願之通被仰出候ニ付当月

一 朔日初而月並御登城被成無御滞御礼被仰上候段申来候段為御

知

一 右同断ニ付御奏者番中五廻状到来

一 右為御飲来ル十八日御徒格以上并御日見相濟候部屋住ニ至迄

一 四ツ一登城可有之候

一 右廻状両通写取組中大年寄へ指出候

一 德守宮花相撲無別条引取候段為治栄治届出候但御徒目附河村市兵  
衛

十一月十七日 時雨

一 京町田原屋伊兵衛義備後福山大黒町唐沢宇兵衛方へ廿五日計之逗  
留ニ而明後十九日出立願大年寄承り届指出候

一 一ノ宮喧嘩一件懸り合之上紺屋町髪結梅三郎義昨夜罷帰候段届出  
候ニ付一又六為治指向ケ手錠懸ケ組合預ケ申付置其段御用番并

大目附へ相届候

一 御蔵米六拾七匁 町米六拾三匁

一 錢通用百文

一 德守宮相撲無別条引取候段百蔵清右衛門届出候但御徒目附河村市  
兵衛

一 久世廻米明日五川下ケ相始り候段郡代所五通用有之候ニ付例年之  
通番人申付候様大年寄へ申達候

十一月十八日 快晴

一 御用日并月並五節旬御登城御願濟ニ付去ル朔日御首尾克御登城被  
遊候恐悅申上ニ付御徒格已上嫡子迄麻上下着用五ツ半時惣登城

一 先月廿一日初而御内書御頂戴被成候ニ付右恐悅も今日一所ニ申上  
有之候段演達有之候○右恐悅ニ付組中間迄御酒被下置候右式認落

候ニ付爰ニ記置候

一 於七間廊下例之通御小性頭代調有之御奏者番五三奉行迄一同罷出

一 テ初而御内書御頂戴并五節旬月並御登城御願濟ニ而去ル朔日御登

一 城被為濟恐悅申上候畢而三奉行御用所へ罷出右恐悅申上候引懸ケ

一 大目附も恐悅及挨拶畢而檜之間五も罷出右同様恐悅申上候濟ム

一 御用日申上候御用向無之旨申上引取

一 一ノ宮喧嘩相手太兵衛吉三郎召捕ニ文蔵為助京都迄指遣候入用去

一 ル二日ニ認置候通致奥書指出候得共甚不束之趣も相聞候付勘定奉  
行へ対談取戻勘定致直し申付左之通致奥書自分義御城五持參委細

勘定奉行近藤平井五対談之上相渡候

金拾壹兩壹歩貳朱

銀九百六匁六分壹厘八毛

ノ大体壹貫五百八拾九匁分壹厘八毛位

一 成覚寺義来ル廿一日ノ廿日之間且家之者壹兩人召連町中夜念仏修行願御聞届之旨寺社取次藤本十兵衛ノ通用有之候ニ付大年寄へ申達候

一 来春之芝居願指出候間御用番中へ可相伺哉兼而公儀御触ニ付而ハ御評義も有之候事故及御相談候様大目附へ申達候所今暫見合可然何分自是可及御指図旨被申聞候

十一月十九日 雨

一 豊後府内浄土寺使僧明誓義今朝出立仕候段宿羽織屋九一右衛門并大年寄ノ届出候付其段御奏者番小須賀貢へ相届候

一 徳守宮社地花相撲二日加日追願勸進元小車万吉指出寺社取次藤本十兵衛へ引合之上御用番中へ持参相伺候処後刻御聞届被成候段手紙ニ而申来右願書御聞届之旨大目附へ相届置御聞届之旨大年寄へ申達候

一 三船藤四郎義先格之通昨日迄見習申付今日ノ致出番候然ル所今少未熟ニ相見へ候ニ付屋敷番計相動候様ニ申付候右ニ付加人今日ヨリ可指戻処永々相動候ニ付一日休息申付明日ノ指戻候様ニ申達候

十一月廿日 晴

一 三船藤四郎致出番候付加人御使組加藤清右衛門今日ノ指戻其段大目附へ相届候

一 徳守宮花相撲無別条引取候段又六栄治届出候

一 御蔵米六拾八匁五分 町米六拾四匁五分

十一月廿一日 快晴

一 徳守宮花相撲無別条引取候段左十郎為助届出候  
一 明日牢屋致吟味候ニ付加人兩人当日切ニ申立候処尾崎広治赤田平次来

十一月廿二日 曇

一 播州有馬辻堂茂兵衛一人例年之通筆白粉卸壳甲屋幸助方へ来候処同人義御預ケ中ニ付中之町津田屋伝助宿切手指出候十二月廿五日 帰

一 船頭町北側ニ而錢龜屋六松後家かね家屋敷表口式間巷尺裏行六間巷尺但半役也東隣ハ内野屋善七西隣ハ安井屋平七也右家屋敷代銀百目ニ相極組合川口屋清吉へ売渡度願書承り届

一 東新町鍛冶平左衛門借屋住新吉義御領分林田村新蔵方へ引越度願下方引合相濟候段申出承り届

一 河原町作人定七借屋住元結屋龜太郎兄清兵衛夫婦娘三人当三月四日 国遍路ニ罷出候処追々日延願指出尚又今日之日延願差出承り届

一 坪井町小倉屋喜助義善右衛門と改号願承り届  
一 播州網干平松屋佐十郎一人例年之通焼灯張替来候段宿中之町小山屋与三右衛門宿切手指出候翌年二月六日帰

一 於牢屋今九時ノ新左衛門藤蔵文蔵左五兵衛栄治立合左之もの共遂吟味候

小性町

鈴鹿屋

太兵衛

中之町

鮎屋

吉三郎

上紺屋町

神喜屋

梅三郎

同町

高砂屋

金四郎

安岡町

村永屋

甚吉

一石名左十郎義今日牢屋出役申付候所彼是我儘申募及遅刻不埒之段  
小頭藤藏部屋目附文藏ハ届出候付引込相慎居候様ニ申付候  
一石名左十郎義勤指留慎申付候付今日之加人老人ハ暫留置候段大目  
附へ相届尾崎広助残置候

十一月廿三日 快晴

一御用日登城

一備前赤坂郡土師方村弥平次夫婦二人二階町山手屋弥太郎家守宮借  
屋住金川屋伊助実父母ニ付引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目  
附へ差出置御聞届申達候十二月十日住宅証文指出候  
一大目附松岡治部助ハ先達而從公儀被仰出候神事等ニ事寄芝居等催

金銀を費間敷御触ニ付当所芝居興行并一ノ宮市町見せ物并柳土手  
芝居并祭礼ねり物等致来候通ハ為致候而も苦かる間敷哉と申大目  
附考書御留主居へ被相廻候付存寄被相尋候処何之存寄も無之旨兩  
役共申達右書付右門ハ指戻候

一石名左十郎義每々我儘申募難捨置ニ付左之通小頭於宅申渡候

存寄有之ニ付憐愍を以番代申付候 石名左十郎

急度御用ニ相立候者早々可相願候

一以前御持組相勤當時海老原極人殿出入奉公相勤居候毛受時治義今  
般同心組新抱ニ申付今朝新左衛門藤藏文藏百藏出席ニ而例之通三  
本入扇子箱持参目見申付候尤右新抱取計候段大目附勘定奉行へ相  
達候

一同心組京大坂江指遣候入用去ル十八日認置候通勘定奉行裏印濟候  
ニ付右証文小頭藤藏へ相渡候処今日銀札場へ罷出金子受取右金子  
ニ文藏為助致出金都合金拾五兩藤藏ハ致上納候ニ付大坂長沢清左  
衛門江今日之御飛脚ニ指戻候

一右一件文藏為助不埒至極ニ付勘定奉行近藤伊左衛門平井半平へ対  
談之上左之通新左衛門小頭部屋目附立合ニ而申渡候

其方共義今般鈴鹿屋太兵衛 同心組

鮎屋吉三郎召捕ニ京都迄指遣候 江原文藏

入用取計方兩人共重々不埒至極 同心加人御使組  
之事ニ候表立及御沙駄候而者不 福嶋為助  
輕義ニ付格別之憐愍を以場合切ニ而内々叱置候  
以来急度可相慎候



小頭江申渡

旅御用召捕者之節往来雜用

御定三百拾錢を以銘々遣ひ合可申候

臨時入用等も令儉約御入用少ニ取計可申義ハ

勿論之事ニ候尤右臨時入用弘立候ハ、可成丈

受取手形取之可差出候

右之趣相組之者共へ得と申聞已來心得違無之様ニ可取計候

一二階町豊屋太助家守長八借屋住片山真丈夫婦娘右家内三人此度御

領分勝南郡河辺村岩之助借屋へ引越度人別除願下方引合相濟候段

申出候付承り届

一御領分東南條郡野介代村孫右衛門娘義戸川町南京屋市右衛門家守

金屋庄吉妻ニ引受度人別入願右同断承り届

一桶屋町内海泰州義娘召連三ヶ年之間脇坂殿預り所倉敷村金谷来貝

介方へ罷越度去午四月奉願罷越候処此度勝手ニ付罷帰候届書指出

承り届

一桶屋町内海泰州娘義御城代組岡本茂市妻ニ指遣度人別除願指出承

り届ル

一去ル十八日徳守宮花相撲警固左十郎又六昨廿二日百蔵為治右兩日

無別条段届出候認落候付爰ニ記置候

一徳守宮社地花相撲無別条今日切ニ而相濟引取候段文蔵左五兵衛届

出候ニ付其段御用番#大目附へ相届候尤大目附へハ相撲中組差出

候所無別条引取候段申達候

一野村順兵衛方へ去ル十三日夕盜賊這入衣類六品盜取候町触取計候

様大目附より達有之写取触流取計本書ハ指戻候

一御蔵米六拾九匁五分 町米六拾五匁五分

一一ノ宮喧嘩一件之もの共明廿四日九時呼出候段夫々手配申付候

十一月廿四日 晴 夜雨

一一ノ宮喧嘩一件之もの共左之通九時呼出し新左衛門藤蔵百蔵六

郎左衛門喜左衛門出番又六為助立合ニ而遂再吟味口書詰印取之候

小性町鈴鹿屋太兵衛 中之町鮎屋吉三郎 上紺屋町神喜屋梅

三郎 安岡町村永屋甚吉 同町江川屋六兵衛 同人父太郎一

京町煙草屋善治 同人妻 上紺屋町高砂屋金四郎

右口書#郡代所被取候口書共不殘大目附松岡治部助へ紙面ニ而

指出候

一牢屋下番中間御擬作少殊ニ居屋敷も大破ニ付望候ものも無之処御

中間頭飯役北嶋唯七る以前御作事中間相勤候音吉と申もの横山之

ものニ候処藁等も致所持居候ニ付致取繕可這入旨申候由ニ而小頭

ノ小頭へ懸合候処人物も宜ものニ由ニ付召抱可然旨及挨拶置候処

今日召抱明日見習申付候段小頭ノ申来候旨小頭藤蔵ノ届出候

十一月廿五日 快晴

一牢舎人岩之助療治二廻リ相濟候処未不相勝負双方ノ申出代リ之医

師申付候

一大目附伊達与吉郎ノ呼ニ来相越候処岡田繁太郎義昨晚開ル出大小

を帯居候ニ付同心組を借り大小をもき為取度旨極内々願出候間仲

ケ間之内ノ頼有之候ハ、同心組貸し渡可申旨極密々被相達候由被

申聞且又井口恵左衛門来り右ニ付同心組貸呉様相頼候ニ付百蔵

榮治時治又六加人為助五人ニ小頭藤藏指添井口恵左衛門宅へ指向

# 同人ノ頼ニ付足かせニツ為持遣候然ル所岡田繁太郎宅ニ而松尾

延助佐藤郷左衛門へ対談之上片原紺屋町ニ扣居向方ノ任案内繁太

郎宅へ罷越候処同人義刀拔はなし候故打寄取ノ延助郷左衛門ノ頼

ニ付繩を懸ケ足かせを打相渡罷帰リ候然ル処刀をもぎ候節切先少

々又六足ニあたりわつか之義ニ者候得共向方ノ之挨拶ニ寄而跡見

春鷗療治を受候処動之処筋ニ懸リ候故歩行不致候様ニ申候ニ付下

紺屋町へ人足申付駕籠ニ而相送り候由ニ為助義も少々棒あたり痛

有之春鷗膏藥等指遣候尤明日日ノ八時治致出番候ニ付為助義ハ可指

返之処右痛有之候間引込致保養全快之上可指返旨申達置候

十一月廿六日 時雨

一 備中都郡早嶋金田屋伝藏手代栄八と申もの上下式人うんさいもん

ば足袋卸売ニ来右ハ先月廿三日承リ届候京都問屋町五条下ル三町

目三味線屋仙助代リニ相願候ものニ而当年初ニ来候段新職人町松

野屋十右衛門宿切手指出候十二月廿八日帰

一 御藏米七拾匁 町米六拾六匁

一 川端又六昨晚致怪我保養申付候付加人御使組彦人大目附へ申達候

処高木武兵衛来

十一月廿七日 曇

一 闇夜ニ相成候ニ付先日之通町方一町切金棒挽九時後ノ夜廻リニ目

明共非人四人召連九時後ノ受廻リ可申付旨御用番中へ罷越相伺候

処即刻同濟ニ付其段大目附へ相届置大年寄ニ小頭ニ申付候

一 目明共右之通受廻リいたし候故町内金棒挽廻リハ指免候様大年寄

へ申付候

一 牢舎扶持五俵之内貸証文奥書取計候尤去ル十三日之内貸来月へ式

斗五升七合五勺持越候積之処也

一 勢州朝熊岳明王院使僧議中坊宝藏坊休加坊悦中坊上下八人例年之

通且那廻リ罷越候段新魚町三沢屋与八宿切手指出

一 安岡町鍛冶長兵衛後家孫しげ義当月十三日之夜罷出不罷帰所々相

尋候得共行衛不相知旨届書指出候付先格之通百日尋申付候翌三月

十八日除帳

一 新職人町塗師孫三郎借屋住村上玄宅義当五月四国へ罷出十月六日

日延願指出候所土佐国ニ而足痛仕候付又々五十日日延願承リ届

一 牢舎人幸十郎義下番中間へ致悪口難捨置旨牢番ノ申出依之去ル廿

五日昼廻リ又六為助ノ足かせ取計候去ル廿五日認落候ニ付爰ニ記

置

一 船頭町田原屋稻藏借屋住作人辰藏ニ娘右家内式人太田村庄吉方へ

引越度人別除願下方引合相濟候段申出候付承リ届

一 船頭町北側ニ而安井屋平七家屋敷表口式間壱尺裏行七間但半役也

東隣ハ内野屋善七西隣ハ錢龜屋六松後家也右家屋敷之内東之方ニ

而表口壱間五寸裏行七間御役式歩五厘指添代銀札廿七匁五分ニ相

極組合内野屋善七へ売渡度且又西之方ニ而表口壱間五寸裏行七間

御役式歩五厘指添代銀札廿七匁五分ニ相極同町川口屋清吉へ売渡

度願承リ届十二月朔日売券状指出

一 江州多賀成就院使僧玄乘坊上下式人例年之通來候段新職人町松の

屋十右衛門宿切手指出翌年三月廿二日帰ル

一石州銀山領安濃郡見原村甚七と申もの西国ニ罷出吉野郡宮本村ニ  
而病氣付送り出し川部村へ送りに來候ニ付継送り候様ニ申付候由郡  
代所ノ通用有之候ニ付継送り候様大年寄へ申達候

十一月廿八日 快晴

一御用日登城

一昨夜四半時頃當番文藏使ニ指出候所田町御門外御堀端ニ左之通

津山御下中者博奕高なし各々御出可被成候

建札いたし有之候段申聞候付直ニ取寄今日登城之上大目附へ指出  
候

一土屋但馬守殿領分当国吉野郡朝石村嘉右衛門悴勇助義河原町高瀬  
屋重助借屋住林藏養子ニ引受度人別入願御用番中御聞濟ニ付大目  
附へ指出置御聞届申達候

一備前岡山家中池田隼人家來薄田作兵衛娘義北山修齋養女ニ引受度  
人別入願尤右娘妊娠八ヶ月ニ相成居候由願書右同断ニ付御聞届申  
達候十二月六日住宅証文指出

一桶屋町髮結幸七義八月十日出奔届出尋申付置候所行衛不相知百日  
余ニも相成候ニ付除帳願右同断取計濟

一材木町北側万屋与三兵衛持家東長屋建替候ニ付地形八寸計上ヶ候  
間御堀石垣も右ニ准東西式間高サ八寸築上ヶ度願書指出候付右願  
書大目附へ指出委細談置候所猶取調之上返答可有之由ニ候

一當暮御褒美申達書式通御用番中へ指出置候

一西一ノ宮村勘右衛門悴富治義昨廿七日詰米御藏納通彦船頭町方  
二階町迄之間ニ而落候由町触願出候間郡代江申談宜取計候様御用

番中ノ被仰出右書付大目附ノ相廻り町触取計本書ハ指戻候捨人寄之候  
由郡代所

名申來候

一布原村斉右衛門方へ当月十六日晚方盜賊這入衣類二ツ代ニ積三拾  
匁位之品盜取候由触流右同断ニ付取計濟

一勝部村源三郎方へ去ル九日夕盜賊這入衣類其外五品代積廿八匁五  
分位之品盜取候触流右同断ニ付取計濟

一井口村佐七方へ去ル廿四日夕盜賊這入衣類四品代ニ積四拾七匁位  
之品盜取候由触流候右同断ニ付取計濟

一田中新左衛門長屋住次助義茅町大工幸右衛門養子ニ引受度人別入  
願尤右治助義他所送り手形も有之段申出候付承り届

一材木町車屋岩五郎養父清藏義去ル十五日常山へ參詣仕候由ニ而  
罷歸候ニ付親類組合相尋候得共行衛不相知段届書指出候ニ付先例  
之通百日尋申付候翌年三月廿二日歸住

一中之町玉の屋藤十郎役介嘉兵衛義八月二日甲州身延山へ參詣罷出  
候処足痛仕候付今五十一日延願承り届翌年二月廿七日又五十一日  
延願指出申聞四月十二日  
又日延願指出

一材木町孤独喜助病氣指重り候段届出部屋目附中山百藏見分指向候  
処無別義例之通一札并容体書取罷歸り候処同夕相果候段大年寄ノ  
届出候追而之御用日可及御沙駄事

一御藏米六拾九匁 町米六拾五匁

十一月廿九日 雨

一関貫番賃銀例月之通相渡候

一ノ宮村ニおいて昨夜無宿嘉市と申もの帳外鬼太と申ものニ被切

候処右嘉市親類町方ニ有之戸川町平田屋平八妻ハ同人姉東新町野

田屋与市事当時磯右衛門ハ同人弟之由ニ付相糺呉候様郡代所ノ申

来為相糺候所兩人共義絶勘当之義ニ付如何様ニ相成候而も指構不

申旨口上書指出候付郡代所へ相廻候

一備中津宇郡妹尾村小判屋太郎兵衛手代儀八一人例年之通疊表御壳

ニ来候段西新町山家屋利右衛門宿切手指出候翌正月二日帰

一牢舎人幸十郎義去ル廿七日足かせ打置候所段々致詫言歎出候付昼

廻リ百歳時治ノ指免候

一牢舎人弁蔵病氣申出候ニ付大年寄へ申達候所吉武祐三江申付候段

申出ル

大年寄 蔵合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

十二月朔甲旦 晴

一徳守宮振鬮有之候ニ付昼廻之者宮脇町ニ少々見合具候様下山伊織

右小頭江相頼候由申出并神社取次藤本十兵衛も御使組兩人受取

警固指出候得共万一異変有之候ハ、申合取鎮具候様挨拶有之候ニ

付昼廻リ文蔵為治へ其段申付候

一東西新町中之町夜廻リ無沙駄之旨目明共ノ申出候付急度相廻候様

大年寄へ申付候

一御奏者番大目附方廻状兩通到来左之通

大守様益御機嫌克先月十一日御袖留御伺書被指出候即夕御伺

濟ニ付同十五日御袖留御祝儀被為濟且又十六日御家督後初而

上使を以御鷹之雁御拝領被成候右御袖留恐悦ニ付来ル三日御

赤飯吸物御酒被下候間大番組以上五半時小徒人以下坊主迄九

半時并嫡子之面々迄登城被仰出候

右写取小頭并大年寄へ指出候

十二月二日 曇

一昨夜受廻リ栄治左五兵衛時治広助へ申付所々心当リ之所為遂吟味

候処別条無之旨今朝届出候

一郡代所ノ一ノ宮村帳外鬼太事多吉牢番預ケ申来出番栄治指向取計

候尤宿賄之由申来候

十二月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 小須賀貢

十二月三日 初雪

一大守様御袖留御同濟ニ而被為濟并御鷹野雁初而御頂戴被成候恐悦  
申上ニ付御徒格已上麻上下着用惣登城御嘉例之通七間廊下ニおい  
て御小性頭代謁御奏者番ル三奉行迄一同罷出上席御奏者番ル右恐  
悦申上候畢而三奉行御用所江能出恐悦申上候引懸ケ大目附ヘ恐悦  
及挨拶畢而檜之間罷出右恐悦申上候畢而坊主部屋前之於御廊下三  
奉行一同御赤飯御吸物御肴二種御酒頂戴候畢而又々七間廊下ニお  
いて初之通御小性代謁而頂戴ものノ御札申上候濟〇右恐悦申上  
之節同列不參有之名代相勤候節二度罷出候其節大目附代り合と両  
人一緒ニ罷出候節席順ニ跡ヘ付罷出候事哉又ハ兩人之義故一列ニ  
罷出可然哉と平井半平〇伊達与吉郎ヘ相尋候所同道一列ニ罷出候  
様ニと指図有之候由平井半平〇通用有之候為後々記置候〇右恐悦  
ニ付組中間迄御酒被下置一

一札元妹尾平兵衛義備前岡石関町赤穂屋直助方ヘ十五日計之逗留ニ  
而明後五日出立之願書御用番御聞濟ニ付大目附ヘ指出置御聞申  
達候同十四日帰

一材木町孤独喜助病氣見分一札并容体書御用番江指出候并同夕致落  
命候段申上候大目附ヘも同断相届勘定奉行ヘも及通用候

一材木町方屋与三兵衛東長屋普請ニ付地形八寸計上ケ度願先月廿八  
日伊達与吉郎ヘ申達置候所御堀石垣之義ハ先規之形少も動候事ハ  
不相成義ニ而御作事ニ而も御届なしニ者不出来義ニ相極候間右願  
書指戻候由被申聞候尤是迄少々ていろいろ候而動候所も有之候得共  
今更致方も無之義ニ付以前之義ハ其儘ニ捨置可然候得共以後ハ不

相成事之由被申聞候付其段大年寄ヘ申達右与三兵衛普請致懸ケ候  
所ハ土台ニ而も上ケ置候様ニ申置候

一揚り屋中間不寝番相勤候所火体無之難義候段歎出無余義趣ニ付大  
目附ヘ相達置候

一当春大脇新左衛門を受取ものニ因州ヘ指遣候節弓張焼灯受取候ニ  
付其節役所付ニ留置度旨伊達与吉郎ヘ申達候所先規無之事故不相  
成旨被申聞返置候所先日岡田繁太郎一件之節弓張無之故箱焼灯三  
張燃し持人無之甚不弁理ニ有之候ニ付弓張焼灯被相渡候様伊達与  
吉郎ヘ申達置候

一盜もの触流之品二宮西今町坪屋藤十郎方ニ質ニ取有之并触流ニ者  
無之候得共置人同人之質物有之由届書両通指出し郡代所ヘ相廻候  
布原村右衛門井口村七被盜もの  
ニ相違候之旨郡代所迄來

一牢舎人半兵衛疵痛候由届出候ニ付下地郡代所ニ而之療治懸ケ之も  
のニ付郡代所申遣候

一牢屋下番中間乙吉此度新抱ニ相成候ニ付小頭藤蔵召連來玄関敷台  
而目見取計候右ハ寛政九丁年二月五日庄右衛門召抱之節之例  
ニ取計候事

一下紺屋町江戸屋源治夫婦悴琴治乙吉右家内四人石名平太兵衛長屋  
へ引越度人別除願承り届

一二階町三保屋十右衛門家守松本屋喜助借屋住嶋木屋音治孫金蔵義  
伊達与兵衛殿家來中嶋文吾養子ニ指遣度人別除願承り届

十二月四日 晴

一牢舎人半兵衛疵所痛候段申出昨日郡代所ヘ申遣候所在医師も手遠

之義 = 付町外科「」之候ハ、申付呉候様郡代所ノ頼来藤木良全へ申付候

一 寺社取次藤本十兵衛ノ先日中間候者 江州多賀成就院使僧玄乘坊寺社役所へ願出候者 数年御当所へ来り候所当年ニ限り宿切手判錢一人ニ壹匁ツ、宿屋頭へ取候ニ付指出候様宿松の屋十右衛門ノ申聞候得共例年ニ無之義故伺出候間相糺呉候様申聞候ニ付自分返答ニ寺社役所へ可願出筋ニ無之義と被存候左様之義ハ何れニも役筋へ可申出筋ニ付夫々役筋へ届出候様可被申聞旨及挨拶置如何様之訳ニ而右之通当年初ニ判錢之義申候事哉と大年寄へ為相糺候所陰陽師寺社山伏等ハ年々配札ニ来候ニ而前ノ判錢取不申商売人ハ一人ニ壹匁ツ、判錢取候先格ニ候所当夏宿屋客帳面改申付候節陰陽師等宿屋帳ニ無之ニ付何れ同家へ来候事故宿屋帳ニ一所ニ書戴指出候様申付候右ニ付宿屋頭心得違右帳面ニ一所ニ書戴候得者 商売人も同様之義ニ付判錢壹匁ツ、取立候筋と相心得右之通ニ申達候由尤無同右之通申達候段ハ不調法恐入候段申出候ニ付大年寄共存寄承り候所以前無之義ニ而も商売人と差別ハ無之事故一様ニ判錢取候様被仰付候ニ而も可然申出候ニ付旧記取調候所延享四五年太田定右衛門波留帳ニ陰陽師山伏米買綿実藍玉売ハ宿帳ニ不戴ものと有之ニ商売人ハ宿切手壹通ニ付壹匁判料為指出宿屋頭へ取来候事と有之候尤当時配札ニ来候もの取調申付候処無株之処へも参り来も有之都合貳拾人計も有之内十人程ハ御札等献上候ものも有之候得者 不残判錢取候様ニも難致ものニ付旧格之通以来左之通ニ申付候様大年寄へ申付候

一 当夏宿屋相改候節陰陽師も一所ニ帳面ニ付出候様申付候得共以来ハ藍玉売之通別帳ニ名面認可指出候

一 商売人之外ハ宿切手判代不取来事故矢帳商売人計古格之通宿切手壹通ニ付壹匁ツ、取可申候

但今般宿屋頭ノ指出候客付帳面之末ニ被仰付之受書扣有之右扣ニ者 老人ニ付判代壹匁と有之候得共夫ハ認違ニ候間以来一通ニ壹匁取候様申付候

右受書扣役所ニ者 却ニ而無之ニ付写取置候

一 牢浚申付候所無別条段百歳武兵衛届出候

一 大目附小須賀貢ノ柏原前車場之前ニ雲州もの行倒居右ハ組屋忠右衛門「」下男之弟之由下目届出候間組屋下男之方へ為引取可

申若又右同人「」申義無之候ハ、無宿ものノ義故□□へ為引取養育仕候様可申付之旨申来候ニ付其段大年寄へ申付候処組屋忠右衛門呼出し遂吟味候処同人召仕雲州者治助と申ものノ弟ニ相違無之ニ付引取候様申付候所奉畏直ニ罷越受人方へ預ケ致養育候存寄ニ而罷越相尋候得共最早居不申尤彼義とらしくもの酒客之義故定而 醉臥居候事ニ而も可有之哉何れニも近辺ニ一向居不申候段届出候処及深更候間翌五日早朝右之旨大目附へ相届候

十二月五日 快晴

一 西今町坪屋藤十郎方へ昨晚安岡村清右衛門使栄藏と申もの布子一ツ質物持参仕候処藤十郎義在宿不仕右名面ハ此方盗もの持参之もの故見せ候もの如何と心付候様子見受預ケ置罷帰リ其後一向参り不申候段届書指出尤右面体目明へ相咄候処先達ニ迄致入牢居候盗

賊鉄藏と申もの<sup>ニ</sup>而<sup>ル</sup>必定可有之旨申候段申出候<sup>ニ</sup>付取逃候段甚不  
念之至<sup>ニ</sup>候重<sup>ニ</sup>而<sup>ル</sup>来候ハ、如何様<sup>ニ</sup>致候<sup>ニ</sup>而<sup>ル</sup>も留置可申假令疵付候<sup>ニ</sup>  
も不苦旨申付置右届書郡代所へ相廻候

一吉野郡桑石村庄兵衛悴喜市義当六月京町岩佐孝順借屋住置屋多吉  
方へ来居候所指返し届書指出承り置

一京町豊屋太助借屋住大坂屋吉兵衛夫婦去ル廿七日之夕罷出不罷帰  
全出奔候体<sup>ニ</sup>候由諸道具書付も添指出候<sup>ニ</sup>付先格之通百日尋申付  
候尤姚灯屋之義故張かへ姚灯等諸方<sup>ヲ</sup>来預り有之旨申出候付預り  
候分聡と相知候程ハ組合年寄立合相渡受取書取置候様申付候翌年  
四月三日除帳

十二月六日 晴

一伊勢内宮藤波神主名代松井奎衛と申御師一人例年之通来候段新職  
人町松野屋十右衛門宿切手指出同十五日帰ル

一伊勢山田御炊太夫名代西左助と申御師一人例年之通来候段右同人  
宿切手指出翌正月廿四日帰ル

十二月七日 快晴 夜雨

一安岡町坪屋与八郎所持之自国受酒株去ル辰七月西新町岸田屋伊「  
」貸置候処今般取戻候届書指出候

一安岡町坪屋与八郎所持之自国受酒株西新町高松屋太助へ譲渡度願  
書指出承り届ル

一京都野岩山長床坊使僧正覚坊上下式人例年之通来候段新魚町三沢  
屋与八宿切手指出

一村井庄藏前関貫番所今朝植木浅四郎通り懸り見受候処燃出し小頭

藤藏へ為知藤藏父子浅四郎供々<sup>ニ</sup>消留候由小頭<sup>ノ</sup>届其段御用番<sup>并</sup>  
大目附へ届置遂吟味候様大年寄へ申付候右口書指出候ハ、明朝御  
咎可奉伺事

一備中小坂部水谷弥之助殿内中嶋幸右衛門近藤武左衛門<sup>ノ</sup>例年之通  
米相場書指遣候為挨拶釜敷紙式朱到来及相答候

十二月八日 快晴

一御用日登城

庚申十一月廿三日離縁帰町——

一小性町杉屋七兵衛悴柳藏義内藤山城守殿領分当国久米北条郡坪井  
村善藏養子<sup>ニ</sup>指遣度人別除願御用番中御聞濟<sup>ニ</sup>付大目附へ指出置  
御聞届申達候

一脇坂淡路守殿預り所当国勝南郡勝間田村丈藏娘義戸川町播磨屋  
七左衛門引受度人別入願右同断取計済同十六日住宅証文指出

一馬指共式拾五人式割五年賦拜借当年迄<sup>ニ</sup>而<sup>ル</sup>上納相濟候間猶又右同  
断借返し拜借壹貫百匁之願書勘定奉行へ懸合之上右同断取計済

一馬持共例年之通老人<sup>並</sup>大豆式俵半ツ、拜借願右同断取計済

一左之通御用番中へ相同置候処後刻伺之通宜取計候様御紙面<sup>ニ</sup>而<sup>ル</sup>被  
仰出候<sup>ニ</sup>付其段大年寄宅<sup>ニ</sup>而<sup>ル</sup>申渡候様申付ル

京町分引村井庄藏前

昨朝番所致出火不埒至極<sup>ニ</sup>候

関貫番人

依之追込申付候 但日数三日

定平

京町月番年寄

右<sup>ニ</sup>付急度叱

清左衛門

右取計相濟候段御用番<sup>并</sup>大目附へ相届候

一來ル十二日寒中御機嫌伺有之ニ付御用日十二日ニ相成候段大目附  
の演達有之候

一西岸院様御赦ニ付役筋考指出置候所伊勢屋長右衛門義丹後殿思召  
有之再考仕候様大目附の被相達候

一他所商人以前之人數程ハ承リ届候<sup>而</sup>も可然哉之旨御用番中へ伺置  
候処右弁書指出候様松岡治部助申聞認差出候

一御藏米七拾匁 町米六拾六匁

一阿州名面郡高原村直兵衛手代平左衛門一人例年之通藍玉壳ニ来候  
段船頭町今岡屋態吉の宿切手指出候申五月廿日帰

一阿州板野郡成瀬村曾右衛門一人例年之通藍玉壳ニ来候段右同人宿  
切手指出し右同断

一阿州板野郡高房村新兵衛一人右同断ニ付右同人宿切手指出候右同  
断

十二月九日 快晴

一西岸院様御赦ニ付伊勢屋長右衛門義再考書大目附小須賀貢<sup>江</sup>持参  
指出候

一大目附伊達与吉郎の鈴鹿屋多兵衛鮎屋吉三郎於京都召捕候節日野  
屋久五郎致内通候ニ付小嶋川要助取逃候事ニ<sup>而</sup>ハ無之哉と昨日尋

有之候ニ付目明甚七呼出し相尋候処決<sup>而</sup>左様之義ハ無之右三人ニ  
ハ五条橋之上ニ<sup>而</sup>行逢候ニ付方便を以日野屋久五郎方へ致同道罷

越候由申候ニ付其段今日罷越及返答候

一久世御代官早川八郎左衛門殿手代田辺新五兵衛の書状指越御城米

川下ケいたし船頭町今津屋平藏方へ積越候間火盜之難無之様ニ例

歳之通頼来及即答置例歳之通桶屋町へ申付候様大年寄へ申達候

一大坂長沢清左衛門へ金子致返納候処致落手候由ニ<sup>而</sup>文藏為助受取  
手形戻り候

一船頭町孝子げん事飯岡村長樂寺の致吟味候処右げんふりハ市藏娘

ニ<sup>而</sup>可有之と申来候書面福泉寺の船頭町年寄へ為見候由ニ<sup>而</sup>大年  
寄の指出候何れ駈と不相分書面ニ付追<sup>而</sup>御用日之節松岡治部助へ

可指出候事

一堺町稲野屋徳左衛門方へ今晚七ツ時分盜賊這入候得共目覚候ニ付  
紛失物無御座届書指出追<sup>而</sup>御用日可及御沙駄事

一西新町英田屋新治方へ去ル七日夜盜賊這入候得共何も取り不申候  
由届書指出右同断取計

一同町玉木屋伝吉方へ右同夕盜賊這入銀札式拾匁計盜取候届書指出  
候右同断可取計事

一右之通盜賊入込候<sup>者</sup>定<sup>而</sup>夜廻り等閑之ものも可有之哉ニ付別<sup>而</sup>嚴  
敷申付候様大年寄へ申付候此段も追<sup>而</sup>可及御沙駄事

一新魚町鉄炮屋庄助家守孫三郎借家住柳哉夫婦二人去月廿五日罷出  
不罷帰出奔之体ニ候旨届書指出候付例之通百日尋申付候

十二月十日 晴 風

一船出入之義ニ付久世手代関口兵平の三浦十郎左衛門方へ飛脚指越  
船出入ニ付候<sup>而</sup>者塩等之差支も有之其外諸色久世支配所差支之義

も有之ニ付久世於役所内濟為取扱候度間懸リ之御役人中へ談候上  
無伏藏申越候様申来候書面松岡治部助の被相渡役筋存寄御尋被成



候段御用番中被仰出候旨昨夜申来候付右書面及見候之処何とやら  
久世<sup>五</sup> 双方呼出内濟取扱候様之文段も相見へ候付先其段相尋遣  
其上之義と奉存何れ八郎左衛門殿存懸りと申様之取向候ハ、幾  
重も及断候外ハ無之義と御座候旨今朝松岡へ参り申達置候

一 御廻米昨九日迄ニ積切候段御藏元文五郎届出候

一 阿州名面郡桑嶋村夫右衛門手代次右衛門一人例年之通藍玉壳来候  
段京町今出屋半兵衛宿切手指出候申五月廿日帰

一 阿州名面郡桑嶋村平次兵衛手代庄助一人右同断来候段右同人宿切  
手指出右同断

一 阿州板野郡中富村兵助手代佐助一人右同断来候段右同人宿切手指  
出候右同断

一 伊勢山田村田三太夫名代高田十蔵と申御師上下式人例歳之通旦那  
廻りニ来候段新職人町松野屋十右衛門宿切手指出翌年三月十九日  
帰ル

一 伊勢山田河北助太夫名代辻田善治と申御師一人例歳之通来候段右  
同人宿切手指出候翌年四月十一日帰ル

十二月十一日 快晴

一 京町分引受村井庄藏前関貫之番人追込昨日迄三日ニ相成候ニ付今  
朝指免其段御用番<sup>#</sup>大目附へ相届候

一 船出入ニ付久世手代取扱度旨申越候返書下案昨日松岡治部助へ指  
出置候処昨夜主膳殿<sup>ハ</sup>呼ニ来罷越候処松岡治部助ハ筆談ニ<sup>而</sup>者不  
相濟候間三浦伴左衛門指遣候様ニ申出候得共御席之思召ハさつぱ  
りと及断可然義と思召候<sup>■</sup>其旨同意ニも候ハ、返書下案認直し指

出候様被仰出左様いたし度筋ニ<sup>者</sup>候得共内濟申懸候義を役人<sup>ハ</sup>及  
断と申筋ハ難相成義ニ候間一ト通り之内濟備前<sup>ハ</sup>懸合候様ニ御取  
向候義ハ役人共ニおいてハ毛頭存慮無之義ニ候得共其御役所<sup>五</sup>御  
呼出候又ハ御多懸り之申様ニ御取向有之候<sup>而</sup>ハ致迷惑候間其段<sup>者</sup>  
及御断候段申遣可然哉と即答ニ申上候処其旨相認指指出候様御差図  
ニ付今朝認指指出候

一 船出入之義ニ付妙願寺<sup>ハ</sup>樫野屋茂一郎へ被申聞候由ニ<sup>而</sup>大年寄へ  
申出藏合<sup>ハ</sup>申出候<sup>者</sup>妙願寺院家当夏岡山へ被相越大組名倉勝六と  
申ものと懸意ニ出会有之右ハ竹内又右衛門懸意之ものニ付船出入  
之義共被及咄候義も有之候処夫切之事ニ候処右同人<sup>ハ</sup>妙願寺へ使  
指越右出入妙願寺貫ニ取扱呉候様ニ頼来候由ニ<sup>而</sup>聞合も有之様之  
趣茂一郎へ院家<sup>ハ</sup>咄有之候段申出要人殿ニも御間柄之義ニ<sup>而</sup>内々  
ハ御承知之様ニ相聞候付妙願寺<sup>ハ</sup>卒忽之返答有之候<sup>而</sup>ハ不亘義ニ  
付要人殿へ罷越内々右之段申上何卒妙願寺<sup>ハ</sup>返答ニ<sup>者</sup>是迄之内濟  
懸合ハ備前へ勝せ付相濟度御取向ニ付不及貪着義と存候今般被仰  
下候様ニ竹内不取計ニ<sup>而</sup>行纏ニ相成候ニ付何卒下地之通之趣ニ<sup>ノ</sup>  
双方積合ニ致度と長敷懸合ニ候ハ、成ル不成ハ不存不及貪着程之  
義<sup>者</sup>有之間敷筋と被存全是迄之懸合不行届故不濟と被察候間今般  
被仰下候旨を以今一応竹内<sup>ハ</sup>懸合有之候共又ハ下方ニ<sup>而</sup>為御懸合  
候共御取計之上ニ<sup>而</sup>不相濟節<sup>者</sup>妙願寺取扱可申上向方<sup>ハ</sup>も同様之  
寺院扱ニ被懸候ハ、如何様とも御世話可致候ハ、返答有之候様ニ  
致度旨要人殿<sup>五</sup>申上候処其段御月番へ罷越申上候様ニ御差図ニ付  
主膳殿へ其旨委細ニ申上置候処夜ニ入要人殿<sup>ハ</sup>先刻申上候妙願寺

返答振之義主膳殿ハ丹後殿ハ御談有之候処御存寄無之拙者申上候  
通ニ被仰合候様ニ申来候間其旨認指指出候様ニ申来認差出候

一 牢舎人岩之助療治昨日迄ニ而二廻り相濟候付今日ハ吉武修格江申  
付候段届出候

一 牢舎人利左衛門丈兵衛病氣申出大年寄ハ申達候

十二月十二日 時雨

一 御用日并寒中御機嫌伺ニ付御徒格以上惣登城於七間廊下例之通御

小性頭代謁御奏者番ハ三奉行迄一同寒中御機嫌伺申上濟

一 備前岡山富田町香登屋文太郎夫婦二人茅町松太郎引受度人別人願  
御用番御聞濟ニ付大目附ハ指出置御聞届申達候同廿三日住宅証文

差出

一 配當場ハ今般御袖留御祝義ニ付頭徳院様之節御袖留御元服と二ツ  
頂戴仕度旨願出遂吟味候処其通ニ相違無之併二ツ被下候筋之もの  
共不相考候得共先例有之義ニ候得者強而難申付筋之ものニ付日記  
書拔并戒善院様御来之御例書相認大目附ハ指出遂相談候処可被下  
筋之ものニ者無之候得共正敷先例有之義ニ候得者致承知間敷恐悦  
之義ニ彼是申候而も恐入候事ニ候間乍不筋も今般者任御先例被下  
置候得共此已後ハ決而不被下候間其旨堅受書等取置是切ニ而後來  
之御形ニ不相成様ニ駈と申付置御袖留御元服と二ツ被下候ハ外ハ  
有之間敷之旨小須賀貢被申聞至極尤之了簡ニ付其旨を以御用番中  
へ相伺候処伺之通宜取計候様被仰出候ニ付其段明日大年寄ハ可申  
含事

一 堺町福本屋勘七借屋住作人久右衛門義六十四才ニ罷成候処親類等

も無之其上病身ニ罷成手足不相叶不得止事孤独扶持數出相違も無  
之義ニ付其段御用番中へ相伺候処御聞濟ニ付大目附ハ指出置勘定  
奉行ハも及通用候上ニ而御聞届申達候

一 西新町英田屋新治玉木屋伝吉堺町稲野屋徳左衛門方へ盜賊這入候  
義去ル九日記置候通御用番中へ申上候処届書御指留ニ付大目附ハ

ハ口達ニ而申達置候

一 船頭町孝子げん事飯岡村長樂寺ハ福泉寺江申越候書状去ル九日記

置候通松岡治部助ハ指出候所即刻被差戻大年寄へ相渡候尤右長樂  
寺殊之外致世話候ニ付為挨拶町内ハ干菓子一折位差送り候様ニ可

取計旨藏合孫左衛門伺出宜取計候様ニ申達候

一 加人尾崎広助不快引込ニ付赤田平次来

一 世上物騒盜賊沙駄有之ニ付今夕ハ目明非人召連受廻り二組ニ申付  
候段御用番御聞濟ニ付大目附へ相届置其段小頭へ申達候尤右ニ付  
今日ハ目明仮役平助へ申付候段届出候

一 桶屋町髮結幸七義出奔ニ付先月廿八日除帳濟之処同人義ハ家持ニ

付右家屋敷御取上ケ入札ニ取計候段御用番并大目附へ相届右入札  
取計候様大年寄へ申達候但表口二間裏行拾貳間也

一 世上物騒之処兎角無宿もの致徘徊候趣ニ相聞候間先達而も申渡候  
通一組切稠敷遂吟味候様大年寄へ申渡候并町家中共関貫番不束之  
趣ニ相聞候ニ付急度申付候様大年寄へ申渡候

一 佐々木東馬方へ今晚盜賊這入手籠筒ハ盗取右内ニ御藏通并大札  
三百匁札三四拾匁其外書物等品々有之候由遂吟味候様大目附ハ

達有之尤今晚日明共も申出早々手配申付置候所久原甫雲長屋も

の疑敷取沙駄相聞仍之大目附へ達置出番文蔵左五兵衛目明兩人差  
向左之通遂吟味候尤立合新左衛門藤藏計

久原甫雲長屋住

吟味中牢番預ケ

角治

同人

受人<sup>江</sup>渡指戻候

妻

疑敷義無之ニ付指戻候

同人方客人備前もの

松兵衛

右角治受人

上受人船頭町

牢屋賄仕候様ニ申付候

彦兵衛

下受人下紺屋町

重蔵

右角治義不致白状候得共少々詞之転々も有之ニ付牢番預ケ申付候  
同人妻<sup>并</sup>松兵衛ハ一向手懸リ無之ニ付差戻候尤妻義ハ受人心を付  
候様ニ申付其段久原甫雲へも申遣置候右取計候段及深更候付翌朝  
御用番<sup>并</sup>大目附へ紙面<sup>ニ</sup>而相届候

一水谷弥之助殿へ米相場書相届候由田中幸助<sup>ハ</sup>鈴木甚右衛門受取書  
相廻リ候

一大目附松岡治郎助<sup>ハ</sup>追廻し水車之義郡代勘定奉行之考も有之不相  
成ニ相極候間役筋へも右同様之願書出居候由ニ付指戻候様被申聞  
候付堺町丸亀屋勘治水車願書指戻候

十二月十三日 時雨

一 小野田為治義昨日出番之所昼之内左五兵衛へ頼置致他出夜ニ入候

而も不罷帰御用向差支不埒ニ付小頭宅<sup>ニ</sup>而左之通申付候

出番之処中間頼置及深更候<sup>而も</sup> 小野田為治

不罷帰不埒至極ニ候依之追入<sup>(三)</sup>申付候

相慎可罷在候 但日数三日

一 桶屋町庄蔵と申鏡磨いたし候もの佐々木東馬方盗人之義ニ付心懸  
リ之風聞も有之候ニ付番百蔵文蔵指向為相糺候処何之心懸りも  
無之段申出候併手を懸ケ候事故組合預ケニ申付置候

桶屋町 才三事

組合預ケ申付候

右ハ何方<sup>江</sup>も不相届候

庄蔵

一 船出入取扱久世関口兵平<sup>ハ</sup>申越之返書下案指出置候所又々松岡治  
部助存寄有之同人指出候返書下案御用可被成ニ付存寄御尋被成甚  
不立文段も有之候ニ付愚意ニ不叶旨御用番<sup>江</sup>申上候処左候ハ、又  
々認差出候様昨日被仰出今朝相認御用番中へ紙面<sup>ニ</sup>而指出候  
一一ノ宮喧嘩一件ニ付鈴鹿屋太兵衛鮎屋吉三郎於京都召捕候節目明  
甚七老巧故法便を以取扱長敷名乗出候様ニ為致納得事静ニ召連来  
候趣追々及承甚奇特之至ニ付小頭宅<sup>ニ</sup>而左之通為申渡候

鈴鹿屋太兵衛鮎屋吉三郎於京都 目明

召捕候節其方義手立を以納得為致 甚七

事静ニ召捕候節老工と申奇特千万神妙之至ニ候

折も有之候ハ、可及御沙駄ニ候得共先此段賞詞置候

一 公儀御触到来当十月二日下総国香取郡鳥羽村<sup>ニ</sup>而養母すへを源兵

衛と申もの及殺害候ニ付右源兵衛人相書を以御尋被仰出候尤右儀

之通心懸ケ無之候得者来ル十八日迄ニ証文指出候様ニ大目附中よ

り申来惣町并組中へ相触候

一 田町貫實受廻リ昨夜小頭藤藏へ申付候所何方も無別条旨今朝届出

候尤是迄書役小頭兩人廻リ改来之処新左衛門義被召出下役ニ被仰

付候間以来者改廻リ無用候旨新左衛門へ申達候尤小頭一人ニ而も

如何ニも候得共藤藏一人ニ而も不苦旨申ニ付一人ニ此度ハ申付候

以来忝人ニ而も可然候得共兩人ニ致候方宜時分ニ書役出来候間

之義故小頭部屋目附兩人ニ申付候而も可然義ニ有之候

一 野村権九郎殿手代村田多藏広石卷右衛門兩人下原宗持迄罷越候由

明十四日通行之先触来候段人馬問屋ヲ申出尤手代通行御届申上候

義無之候得共今般ハ論所へ杭打ニ被相越候由他領方も迎等も手

当も有之趣ニ相聞候間申上ニ而申出候付郡代所へ為知候处在分ハ

道案内も指出候間町分も保頭位ハ指出可然義ニ者無之哉と十郎左

衛門ヲ申越候付其段大目附小須賀貢ニ及相談候処何分是迄之調同

役寄り合品ニ寄り御用番へ相伺候而從是可及御指図旨被申聞候後

刻紙面ニ而申来リ候者御用番中へ相伺候御領分論所ニ来候事故

町分保頭忝人道案内指出可申旨申来候付其段大年寄へ申達候尤保

頭指出一町ノニ代リニ而者却而<sup>不問</sup>之義も可有之候間保頭代リ

ニ問屋方人足忝人指出し町分通し候ハ、忝人ニ而案内いたし候様

ニ申付候

一 船出入ニ付久世ニ返書之義今朝指出置候処又々松岡治部助存寄有

十二月十四日 曇 風

一 加人赤田平治引込ニ付原為太郎来

一 牢舎人弁藏岩之助療治二廻リ相濟当人ハ跡療治相願候得共最早休

薬仕候而も可然旨吉武修格申出休薬申付候

一 無宿植右衛門と申もの不埒之義致直訴不届ニ付牢番預ケ申付候段

郡代所ヲ申来牢屋立合出番柴治差向取計候

一 船出入取扱之義久世ニ返書昨夜申上候通ニ郡代ニ被仰付候段御用

番主膳殿ヲ申来候

一 野村権九郎殿手代西新町玉屋庄七方へ立寄暫居候而八半過頃町分

罷通り相濟申候段届出翌十五日大目附へ相届候

十二月十五日 雪 昼後晴

一 新職人町北側ニ而作人忠七所持之家屋敷表口七間裏行拾壹間但弍

軒役也東隣ハ松野屋十右衛門西隣ハ塗師屋喜平次也右家屋敷代銀

弍貫百目ニ相極福渡町跡見春鷗へ売渡願承り届同十八日売券状

指出候

一 安岡町北側ニ而鍛冶屋長兵衛後家家屋敷表口四間半裏行九間但一

軒一步弍厘五毛役也東隣ハ鍛冶屋文右衛門西隣ハ鍛冶屋五兵衛也

右家屋敷之内表口壹間半裏行九間御役三步七厘五毛指添代銀札百

八拾匁ニ相極鍛冶屋五兵衛へ売渡願承り届同廿六日売券状指出

一 茅町北側ニ而利七後家所持之家屋敷表口三間裏行三間半但壹歩半

役也東隣ハ婦屋<sup>ふま</sup>元治西隣ハ広原屋善吉也右家屋敷代銀弍百匁ニ相

極安岡町桶屋庄兵衛へ売渡願承り届同廿五日売券状出

一 西今町南側ニ而鳥羽屋源十郎家屋敷表口三間裏行拾五間但五歩役

也東隣ハ山田屋平助西隣ハ坪屋藤十郎也右家屋敷代銀壹貫八百匁  
ニ相極町内正田屋平兵衛へ売渡願承り届同十七日売券状指出  
一久原甫雲長屋もの明十六日牢屋吟味可致候間夫々手配小頭<sub>江</sub>申達  
候

十二月十六日 晴

一太田村五右衛門と申もの構場へ立帰召捕候間牢番預ケ申付候段郡  
代所<sub>ヲ</sub>申来出番為治罷出居合居候付為取計之候尤宿賄也

一小野田為治追込昨日迄<sub>ニ</sub> 而三日ニ相成候付今朝差免候

一因州八上郡谷口村長と申女四国遍路罷出備中賀陽郡太井村<sub>ニ</sub> 而病

氣付治療差加へ快相成候得共歩行不相叶同所<sub>ヲ</sub>送り出候由古城村

へ送り来り継送り候様申付候段郡代所<sub>ヲ</sub>通用有之大年寄へ申達候

一<sub>下</sub>紺屋町南側<sub>ニ</sub> 而作人久五郎家屋敷表口式間小半裏行拾七間但半

役也西隣ハ大工藤助東隣ハ元魚町堺也右家屋敷代銀札百目ニ相極

町内作人与市へ売渡願承り届同十八日売券状指出候

一<sub>種</sub>油三匁八分売候処菜種高直ニ付三匁九分売ニ仕度届書指出承り  
届

一今九時<sub>ノ</sub>牢屋へ相越新左衛門藤藏文蔵為治榮治立合<sub>ニ</sub> 而左之もの

遂吟味候

久原甫雲長屋住

水を以牢問いたし候得共不及白状

角治

右之段乍席御用番主膳殿へ罷越及御沙駄候所如何様共見込之通勝

手次第宜取計候様被仰出候

一御袖留御元服御祝義配当場へ被下候義去ル十二日認置候通之義ニ

付其段孫左衛門へ申合全体申立候共不被下筋<sub>ニ</sub> 者候得共以前被下  
候義有之義ニ付今般切ニ被下置以来ハ惣座頭へも申聞決<sub>而</sub>例ニ  
たし頂戴ハ仕間敷と申一札認出候ハ、此度限之義<sub>者</sub>強<sub>而</sub>願立可遣  
と申聞置候所配当場兩人罷出組頭共へも援々申聞候所納得仕右之  
通一札可仕候間此度限ニ被下置候様相願候段大年寄申出候ニ付其  
段御用番中へ罷越申上候右序ニ付配当場古都御賞詞之義左之通弁  
書御用番中へ差出置候

一御吉凶共ニ配当場へ被下以前<sub>ノ</sub>警女座頭共参り次第銘々之位階定  
之通被下置候故甚多分之義も有之候処御儉約ニ付天明三卯年<sub>ノ</sub>古  
都へ被仰付惣錢と申当時之形ニ取極いつ<sub>ニ</sub> 而も御祝壹ツ分五百匁  
と相定候右ハ惣座頭不為之義<sub>ニ</sub> 而甚不承知之事ニ候所古都義殊之  
外骨を折り申なため当時之形ニ相成永々御規矩も立且ハ格別之御  
儉約ニ相成候事ニ候処先役守助如何様之存合ニ候哉右御賞無之今  
以甚不快之趣ニ相聞実ニ尤成義ニ付いつそ序も有之候ハ、申立可  
遣と差合居候所今般之一件ニ付大目附小須賀<sub>ニ</sub> 及内談候所尤成  
ル義ニ付御宅<sub>ニ</sub> 而御用番中へ内々申達候様被申聞候付右弁書相認  
今日御用番主膳殿へ申上置候

一他所商人共当所宿屋へ参り来宿切手<sub>ニ</sub> 而承り届候もの銘々之株ニ  
付数多有之候処致中絶不来もの間々有之明株ニ相成もの余程有之  
候処新ニ参候ものハ不承届致来ニ付近来ハ内々<sub>ニ</sub> 而来候ものも有  
之哉之趣却<sub>而</sub>不<sub>レ</sub>之義ニ付先<sub>前</sub>ノ参来之人数程ハ承り届度旨先達  
<sub>而</sub>以来大目附<sub>并</sub>御用番<sub>ニ</sub> 相伺置候所此間松岡治部助<sub>ノ</sub>弁書指出候  
様申聞左之通認出置候所今日御用番主膳殿<sub>ノ</sub>伺之通御聞届被成候

間右人数丈ハ勝手次第届候様御宅ニおいて被仰出候ニ付翌十七日松岡治部助へ其段相達置大年寄へ申達置候

他所商人以前宿屋へ来り宿切手指出候もの大体百三拾七人計有之候処右之内致中絶當時不来もの五拾七人有之殘而八拾人計當時来候もの御座候

一右商人之内故障有之不来節者大体十ヶ年る内中絶之もの者何商売之ものニ而も宿屋の跡入願次第吟味之上承り届十ヶ年余も致中絶候者ハ承り不届先格ニ御座候併右年数御定等睨と御座候事ニ而も無御座先前之致来御座候

一此度相伺候跡入承り届候而も可然哉ニ申上候前段五拾七人之ものハ何れも十四五年以上三拾年余中絶之ものニ御座候以上一南新座町水抜あしく候ニ付奥<sup>不詳</sup>□之前ニ溝被仰付候右水抜桶屋町へ落し水返抜候様ニ可申付旨勘定奉行平井半平去ル十二日通用有之大年寄へ申達候様今日喜左衛門へ申付候

一植木左士長屋住宇助娘義元魚町辻屋喜助養女ニ引受度人別入願左士<sup>五</sup>引合之上承り届候

十二月十七日 時雨

一上紺屋町髪結梅三郎手錠封印損候段大年寄る届出昼廻り文蔵為太郎へ申付候

一加人御使組高木武兵衛引込可児政助来

一惣町暮之大割左之通指出見改差戻候

式貫九百六拾九匁九分八厘 但去暮るハ五百八拾九匁七分九厘増

一桶屋町髪結幸七出奔ニ付跡役左助と申もの申付候段大年寄申出候一御衣服御袖留と御祝二ツ今般頂戴願出候得共以後ハ二ツ頂戴ハ仕間敷と申一札配當場兩人の差出書役<sup>五</sup>預ケ置候

一公儀る今般人相書を以御尋之もの惣町大年寄組中高石垣番迄先格之通心懸り無之一札何茂指出候

一真壁論所出役野村権九郎殿手代との問合之由ニ而も真壁幸太郎の金岡迄御用船賃尋来り例歳金岡出役御役人船ちん式拾七匁ニ而も候間其段可申遣尤式拾七匁ニ而もハ不足相立候間其段ハ惣船持共へ割付候由ニ候且又自分雇ハ五拾匁ツ、ニ有之候由可申遣旨下案差出郡代所へ相談申遣候処向方へも昨日聞合有之蔵元へ相尋候処相对雇五拾匁と申候段申遣置候由申来其旨宜及返書候様ニ大年寄へ申達候

一暮之町触例歳之通指出候

一目明非人扶持<sup>#</sup>非人頭被下米<sup>#</sup>廻候付羽織代受取例年之通証文差出奥書取計候

一牢舎扶持八俵之内貸証文指出奥書取計候但当月十八日迄賄残り式斗三升五合有之

一揚屋扶持内貸四拾匁之証文指出奥書取計候

一目明仮役平助不快ニ付仮役差免松尾屋源之丞へ去ル十五日申付候段小頭る届出候

十二月十八日 快晴

一御用日登城

一因州知頭郡用ケ瀬村長右衛門娘義桶屋町桶屋清七養女ニ引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候同廿二日住

宅証文差出

一中之町甲屋幸助義他所商人之銀子被盜取候付組合預ケ申付置候得とも一向手懸りも出来不申且又被盜候商人ノ詫言も不申際限も無之義ニ「」最早御裁許有之ニ而も可然ニ付伺書御用番中へ指出置候

一公儀ノ人相書を以御尋もの町中ニ自分召仕ニ至迄疑敷義無之ニ付先格之通証文三通ニ相認大目附へ指出候

一御袖留御祝儀願之通今般ニ限り二ツ分被下候段大年寄へ申渡候一牢舎人半兵衛疵再發療治ニ廻リ相濟候得共未相勝候ニ付又々藤木良全へ申付候段大年寄ノ届出候

一今日九時ノ牢屋へ罷越立合新左衛門藤藏文蔵出番左五兵衛時治左之通遂吟味候  
御用番へ及御沙駄候上木馬ニ而 久原甫雲長屋住  
拷問取計候得共不及白状 角治

一御蔵米七拾匁五分 町米六拾六匁五分  
一 大坂谷町御代官池田仙九郎殿手代織田權藏ノ作州御預リ所村々々請ニ相用候間十月十五日一日之米相場書相廻候様ニ申来是迄久世へ相廻候通ニソ差遣候

一郡代所ノ無宿盜人庄右衛門入牢切手相廻リ認かへ手形差遣左五兵衛取計候

一 大坂綿実絞油屋共ノ大坂御役人ニ願書指出し以前者綿実大坂へ相廻リ候処当時ニ而ハ世話人出来兵庫へ買留候間大坂へ不相廻致難

義候間以後ハ大坂へ相廻候様触達被仰付被下候様願出候写平井半

平ノ相廻リ内々大年寄へ為見油方三人之ものへも及相談候様ニ申達候  
十二月十九日 快晴

一 真壁論所へ罷越候野村權九郎殿手代広石卷右衛門一人明廿日罷通候先触到来ニ付先日之通道案内可指出旨大年寄伺出其旨取計候様及差図

一 榎野屋茂一郎義当春已来船出入ニ付他所聞合ニ懸合等毎度相働候ニ付為御酒代三拾匁被下候様仕度大年寄申出右之旨伺書相認御用番へ持参指出候

一 郡代所ノ昨日入牢之盜賊吟味ニ付呼出申来出番文蔵指向取計候尤今夕ハ「」義も有之ニ付牢屋へハ不指戻追而又々入牢可申越旨申来候

一 大目附廻状到来北口御門御修覆出来ニ付来ル廿三日ノ通行相始御作事御門通行相止候段申来町方組中へ相触候  
十二月廿日 雨

一 真壁論所へ来候野村權九郎殿手代広石卷右衛門壱人当町罷通り先日之通林田「」庄七方へ立寄暫陣取昼後罷立町分通行無滞相濟尤先日之通道案内壱人馬問屋より指出候段大年寄ノ届出其段大目附計へ相届候且又今壱人之同役井田多蔵ハ下原村ノ直ニ備前路へ罷帰候由郡代所ノ通用有之

一 郡代所ノ昨日呼出候牢舎人庄右衛門義又々入牢申付候段申来出番為治指向取計候

一 京都二条通新相之町糺屋茂兵衛夫婦娘二人右四人十月廿八日小性

一 京都二条通新相之町糺屋茂兵衛夫婦娘二人右四人十月廿八日小性

町中村屋庄助方へ来り逗留いたし居候処娘よそ不快ニ付残置三人  
今朝罷帰候付右娘老人百日計之逗留日延願指出承り届翌年四月四  
日帰

一西川役人平沢助八大谷代藏之例年之通為寒中見廻纏節三十酒式升  
指越為相答候

十二月廿一日 晴

十二月廿二日 少雪 晴

一御城米昨日迄ニ積切候段今津屋平藏届出候

一西新町高松屋太助所持之自国請酒株当未十二月ノ来ル卯十一月迄  
八ヶ年之間同町岸田屋伊三郎借受商売仕度願承り届丑閏八月十八  
日取戻ス

一檜野屋茂一郎義船出入ニ付他所懸合為仕候往来入用左之通大年寄  
指出奥書取計候明日勘定奉行へ可相渡事

五拾三匁四分六厘

一牢屋弘左之通小頭ノ指出奥書取計候

貳百九匁三分六厘

内五拾匁役所払 残 而 百五拾九匁三分六厘

一牢舍人服薬料証文左之通小頭指出奥書取計候

貳百八拾匁五分 且又認落ニ付廿八日ニも薬代受取候

但薬九百三拾服但老服ニ付三分宛膏薬拾五片 但一片

ニ付老分宛

一板目明酒代非人受廻り他所行酒代無宿者賄代左之通証文小頭指出  
奥書取計候

百貳拾九匁四分八厘七毛

内三拾貳匁五分目明分 九拾六匁」 一厘七毛非人分

十二月廿三日 曇

一御用日登城

一豆腐十九文売之処大豆高価ニ付貳拾文売仕度願御用番御聞濟ニ付  
大目附被指出置御聞届申達候但算様書左之通

大豆貳升 七拾匁相場ニ 而 老匁四分

三分 薪代

ノ老匁七分

右大豆貳升豆腐十丁ニ相成廿文売ニ 而 手間代三分有之

一船持五十四人先前ノ老貫八百匁年賦拜借仕候処当暮迄ニ上納相濟  
候間夫々借返し老貫八百匁仕度願書勘定奉行へ引合之上御用番中  
へ相同右之通取計濟

一上紺屋町広屋伝藏借屋住千草屋源藏後家七拾八才ニ罷成老病相煩

親類無之孤独扶持歎出遂吟味候処無余義趣ニ付右同断取計濟

一雲州松江監町山城屋惣治夫婦式人橋本町朝倉屋与十郎引受度人別

入願右同断取計濟同廿九日住宅証文指出

一於御用所大目附出席御用番主膳殿方左之通被仰渡候

役筋格別出精相勤候ニ付 大年寄

米五俵被下之候 藏合孫左衛門

手嶋流講釈諸事引受致世話候付 諸吟味

銀三拾匁被下之候 宮田喜左衛門

手嶋流講釈出精相勤候ニ付 北山修伯



銀三拾匁被下之候

右<sup>者</sup>本座敷奉行直申渡尤下役小頭大年寄詰合<sup>二</sup>而

亡父朴也手嶋流講尺相勤候<sup>二</sup>付

徳山養吾

銀三拾匁被下之候

玉屋伊右衛門

手嶋流講尺之節出精緻世話候付

二月屋弁右衛門

銀拾五匁ツ、被下之候

菊屋清左衛門

糒屋伊助

福永屋幸蔵

生駒屋治右衛門

樗野屋茂一郎

町棟梁

出精相勤候<sup>二</sup>付

伊兵衛

米式俵ツ、被下之候

弥五郎

配當場之義<sup>二</sup>付数年出精

配當場

心懸候<sup>而</sup>奇特之事<sup>二</sup>候依之

古都

白銀三枚被下之候

常々心懸ケ能不寝番同様<sup>二</sup>

戸川町閑貫番人

相勤候段奇特之至<sup>二</sup>候依之

藤十郎

鳥目老貫文指遣候

右<sup>者</sup>大年寄於宅取計候尤閑貫番人藤十郎義右之段今日大目附へ遂

内談候上<sup>二</sup>而御用番中へ相伺伺之通御用番中<sup>二</sup>御直<sup>二</sup>被仰出候義

<sup>二</sup>者候得とも彼義へ御本途被下<sup>二</sup>無之欠所銀被下候義<sup>二</sup>候間伺之

上役筋之取計<sup>二</sup>候間其旨<sup>二</sup>相心得可申依之取計濟候共彼一人へ御

用番<sup>并</sup>大目附へも不及届之旨大目附小須賀貢<sup>二</sup>被申聞候

一左之通伺之通宜取計候様御用番中<sup>二</sup>被仰出小頭藤藏部屋目附百藏

大年寄宅へ指向取計候

中之町

因州之商人内々<sup>二</sup>而留置当十月三日<sup>二</sup>甲屋

幸和元年三月十三日 商人所持之銀子紛失届出兼々 幸助

宿屋株 差免候 不<sup>レ</sup>リ之所<sup>二</sup>右之及支義且又二夜已上ハ可届出

所無其義内々<sup>二</sup>而指置<sup>并</sup>右紛失之砌も取計不行届

重々不埒至極<sup>二</sup>候依之宿屋株取上ケ追込申付候但日数七日

右御褒美被下<sup>并</sup>御叱取計相濟候義及深更候付翌廿四日御両所<sup>江</sup>紙

面<sup>二</sup>而相届候

一樗野屋茂一郎義船出入<sup>二</sup>付他所聞合<sup>并</sup>懸合等出精相勤候<sup>二</sup>付御酒

代三拾匁被下候様伺書去ル十九日指出置候処未妙願寺懸<sup>リ</sup>取扱懸

り合も有之候事故追<sup>而</sup>一所<sup>二</sup>被下取計候様御用番中<sup>二</sup>被仰出右伺書

御差戻し被成候

一西岸院様御赦<sup>二</sup>付先年御中間相勤候嘉六義寺院歎候通被差免候間

寺社取次<sup>江</sup>対談之上申渡候様大目附<sup>二</sup>達有之寺社取次三浦十郎左

衛門へ及対談候処右嘉六親類<sup>者</sup>西今町倉吉屋忠兵衛<sup>二</sup>候間彼へ

申渡候様<sup>并</sup>明後廿五日可取計之旨申達候

一川端又六義疵致平愈今日出勤仕候付加人原為太郎指戻其段大目附

へ相<sup>一</sup>

一目明弥兵衛引込<sup>二</sup>付仮役田はこ屋善治へ申付候段小頭届出候

一 大坂綿実絞油屋共願大年寄へ為見候所少々存付も有之趣ニ付上原

被帰候上ニ而可申談旨平井半平申談願書指戻置候

一 油方年行事へ当年之勤料何程相渡可然哉之旨平井半平と相談有之

候ニ付喜左衛門へ考申付候処先月七日被仰付候間二ヶ月分拾六匁

六分六厘被下置可然と認差出其儘平井半平へ相廻候

一新田村福寿院真經誦いたし来正月十八日と町方相廻り候段御聞

届相成候段寺社取次三浦十郎左衛門と通用有之大年寄并小頭へ申

達置候

一 久世手代田辺新五兵衛出役先西北條郡真經村と書状指越同村百性

安右衛門と西今町仲屋忠左衛門へ田はこ式百斤代百六拾九匁壳渡

候処代銀指滞出訴添簡を以当人指出候ニ付宿屋へ為引取置御用番

中へ糺候上無相違候ハ、濟方可申付旨紙面ニ而相伺候処後刻伺之

通取計候様被仰出候右訴状之趣ニ而仲屋忠左衛門名代ニ西新町

半兵衛と申もの買取候由ニ而是迄下方ニ懸ケ合最早百匁ハ相渡

今六拾九匁滞有之山形屋惣兵衛内濟取計候由願付ニ付其段急遂吟

味可申出旨大年寄へ申達候所右西新町半兵衛と申ものハ一昨日出

奔いたし居申候段申出候付左候ハ、仲屋忠左衛門山形屋惣兵衛弁

書指添右半兵衛出奔届書急ニ差出候様ニ申付置候

一 目明共非人召連受廻りいたし候と右人数引分ケ所々ニ残立番相改

候方却而宜旨仮目明源之丞申出候段一昨日小頭申出如何様共宜取

計候様ニ申達置候

一 孤独扶持式百七拾六匁七分四厘平井半平と相廻り大年寄へ相渡候

一 関貫番賃銀百五拾匁四分右同断受取

十二月廿四日 快晴

一 大目附小須賀實と紙面ニ而大熊鞞負殿下屋敷ニ箆筒捨有之候ニ付

致封印置候由御届有之依之御家老中へ御届有之候所役筋へ引渡候

様鞞負殿江御差図有之候間受取候様申来引続大熊殿執権西川善平

持参小頭指出受取候下役自分共立合見改候処御蔵通并式升切手巻

枚其外書類少々有之候得共雨ニ濡れ一向不相分其儘受取候段及直

答小頭ニ封印為致置大目附へ相越其段相届右箆筒佐々木東馬方紛

失之ものニ無相違候間佐々木留主引受鈴木忠之進へ可相渡哉と申

述候処其趣ニ取計候様指図ニ付右之段鈴木忠之進へ案内申達置候

一 久世手代添簡持参之真經村安右衛門と右願付之出訴内濟取組候間

御吟味御指延置被下候様願書宿紙屋助右衛門加印ニ而大年寄へ指

出候由大年寄と指出承り届置其旨御用番中へ罷越申上置候尤大目

附へも及噂置候

一 御袖留御祝昨日配当仕候由御受書指出し来ル廿八日可及御沙駄候

一 牢舎人角治昼賄不指越候旨届出久原甫雲へ申遣候

一 右同人疝痛不食ニ付医師願出大年寄へ申達候

一 牢浚申付候所無別条段百歳時治届出候

十二月廿五日 晴

一 下役小頭部屋目附大年寄諸吟味立合左之通於白砂申渡候

其方親類以前御中間相動候嘉六義 西今町

西岸院様百五拾回御忌御赦ニ付 倉吉屋

御家中徘徊被指免候此段可申達候 忠兵衛

右申渡相濟候段御用番并大目附へ相届候

一 佐々木東馬方紛失之小簞筒留主引受鈴木忠之進長沢定吉同道<sup>ニ</sup>而

一 八十五拾六匁八分

並屋忠兵衛

受取ニ被來送り書を以相渡候尤受取書取置候

ノ四貫百九拾三匁四分

一村山良哲長屋住三治娘義二階町高田屋治助借家住魚嶋屋權右衛門

式歩之割

悴豊三郎妻ニ引受度人別入願承り届

一 壹貫三百九拾七匁八分

改役武人<sup>江</sup>

一 関貫番賃銀例年之通今日相渡候

五厘之割

一 銀札場奉行清水覺右衛門ノ紙面ニ而是迄西今町紙屋六藏へ錢小売

一 三百四拾九匁四分五厘

小遣文吉へ

場申付置候処同人義指留右跡同町小酒屋長七<sup>江</sup>申付候段通用有之

三厘五毛之割

中買共酒代

承り置候

一 式百四拾四匁六分壹厘

一 牢舎人角治義藤木良全致診察候所難捨置由申出候間受人ノ良全方

三厘五毛之割

繰屋頭三人<sup>江</sup>

へ薬貰ニ参候様被仰付候様大年寄申出其段久原甫雲へ申遣候

一 式百四拾四匁六分壹厘

一 繰綿口錢左之通可割渡旨大年寄伺出承り届

右指引ノ残リ

繰綿口錢覚

五百五拾九匁壹分三厘過札有之

一 百三拾式匁

豊屋喜兵衛

一 三貫七百廿九匁

能勢屋源助

一 式百九拾五匁

大坂屋鉄五郎

一 壹貫四百五匁

高瀬屋勘右衛門

一 壹貫四百式拾八匁

並屋忠兵衛

ノ六貫九百八拾九匁

十二月二六日 雨

右割渡左之通

一 坪井役人庄田伊三郎ノ例年之通歳末為祝義鯉節廿來及相答

一 七拾九匁式分

但六歩之割下同

豊屋喜兵衛

一 式貫貳百三拾七匁四分

能勢屋源助

一 百七拾七匁

大坂屋鉄三郎

一 八百四拾三匁

高瀬屋勘右衛門

り届

一 菜種油三匁九分売之処種高直ニ付今日ノ四匁売ニ仕度届書指出承

十二月廿七日 快晴

一郡代所々牢番預ケ五右衛門義出牢追払申付候間牢屋立合申来百藏  
差向取計候

一牢舎人服薬等調落有之候由<sub>ニ</sub>而左之員数受取証文指出奥書取計小  
頭へ指戻候

式百三拾六貼 代七拾八分

一牢舎人角治痛所<sub>ニ</sub>付療治申付右服薬受人<sub>ノ</sub>致世話候様久原甫雲<sub>江</sub>

申達人<sub>ノ</sub>貴受煎し指出候所右<sub>者</sub>牢問<sub>ニ</sub>寄<sub>而</sub>之痛之義<sub>ニ</sub>候得<sub>者</sub>宿

<sub>ノ</sub>相弁候筋<sub>ニ</sub>者無之<sub>ニ</sub>付以後ハ牢屋療治<sub>ニ</sub>申付候間其旨取計候段

牢番団助へ申付其段久原甫雲へも紙面<sub>ニ</sub>而申遣候

一船出入之義樫野屋茂一郎書付を以藏合孫左衛門へ申出候由<sub>ニ</sub>而孫

左衛門<sub>ノ</sub>指出候<sub>者</sub>昨廿六日塚角銀主横部常陸助茂一郎方へ来船出

入之義殊之外借前致当惑候由<sub>ニ</sub>而御郡代<sub>ノ</sub>双方下方ハ兎も角も是

非内濟取扱具候様御頼之由尤竹内又右衛門も其席<sub>ニ</sub>居合候<sub>而</sub>之事

<sub>ニ</sub>候由幾重<sub>ニ</sub>も備前不調法之段平詫<sub>ニ</sub>いたし是非内濟取持具候様

相頼置即刻罷帰候段認出し其儘黒田要人殿<sub>江</sub>紙面<sub>ニ</sub>而指出候所右

弁書之内御不審之所丹後殿御附紙<sub>ニ</sub>而御戻被成右訳合今一応相尋

指出候様申来其段孫左衛門へ申遣候

一桶屋町髪結幸七家屋敷南側<sub>ニ</sub>而表口式間裏行拾貳間但半役也南隣

ハ田野邑屋茂兵衛北隣ハ水内屋半八也右家屋敷御払落札<sub>ニ</sub>而拾五

匁<sub>ニ</sub>買取候段同町作人長藏右代物廿分一共<sub>ニ</sub>指出候

十二月廿八日 曇

一御用日<sub>并</sub>歳末御祝義申上<sub>ニ</sub>付大役人以上有役之面々麻上下着用四

時<sub>不欠之</sub>殘登城例之通於七間廊下御小性頭代謁御奏者番<sub>ノ</sub>三奉行迄一同  
歳末之御祝義申上候畢<sub>而</sub>三奉行一同<sub>ニ</sub>御用所へ罷出歳末御祝義申  
上候引懸ケ大目附へ歳末之及挨拶候

一福渡町阿賀屋助五郎家守万五郎借屋住喜庵方へ去ル廿四日盜賊這  
入蒲団一ツわた入沓ッ盜取候届書依之触流御用番中伺濟<sub>ニ</sub>付大目  
附へ指出置町触指出候

一御袖留御祝儀配當場頂戴之御受書例之通御用所へ持參口達<sub>ニ</sub>而申  
上候大目附へ指出候

一大三十日町方関貫不殘開置立番申付候段例年之通御用番<sub>并</sub>大目附  
へ相届候

一町方夜廻り目明非人忍廻り大晦日切<sub>ニ</sub>而相止候段御用番<sub>并</sub>大目附  
へ相届候

一船出入一件樫野屋茂一郎弁書之内御尋之趣申達置候処認差出候付  
其儘御用番中へ指出候所要人殿<sub>ノ</sub>龍野御裁許口之趣茂一郎<sub>ノ</sub>倉敷

村代二郎三郎平へ懸合承り繕可申上旨<sub>并</sub>茂一郎弁書之内懸合候主  
意大意認有之候右之趣常陸助へ懸合弥其趣<sub>ニ</sub>も備前<sub>者</sub>可相濟哉常

陸之助へ懸合之上申上候段被仰出候付其段孫左衛門へ申含候

一米綿懸合冥加銀左之通大年寄納証文指添差出候付致奥書勘定奉行  
平井半平へ相渡候所受取書指越箆筒へ入置

八百三拾八分 但米式拾石壹枚<sub>ニ</sub>付四分宛  
綿拾本壹枚<sub>ニ</sub>付式分宛

一戸川町関貫番人藤十郎為御褒美去ル廿八日被下候鳥目欠所銀渡り  
付拙者受取証文勘定奉行へ相渡候

一 牢番の例年之通蒔しゆるふ八まんし等受取手形指出大目附上印取之牢番へ相渡候

一 林田上之町忠藏後家方へ去ル十五日盜賊這入衣類六品代式拾式勿三分計之品盜取候触流し取計候様大目附る違有之取計本書ハ指戻候

一 三町目太刀屋久治義道具屋頭相勤古格之通規矩相糺当時者急度捉も立締りも行届全同人勤切ニ付為褒美工面ものゝ内々内々ニ而三拾欠指遣度大年寄伺出承り届候

十二月廿九日 雨

一 来正月二日五半時麻上下着用御徒格以上并御目見相濟候部屋住ニ至迄出仕候様大目附廻状到来

一 上紺屋町広屋伝藏借家住千草屋源藏後家孤独扶持拾三匁勘定所下代伝左衛門持参受取大年寄へ相渡候

一 西今町下横町ニ而大工屋伝兵衛家屋敷表口五間半裏行七間半但式歩三厘役也南隣八万屋市右衛門北隣ハ湯田屋太郎左衛門也右家屋敷鍛冶町鍛冶「右衛門取次ニ而質物ニ書入銀札五百匁一ヶ月壹歩半之利足ニ而来申ノ十月切」借「願書指出承り届同三十日証文指出候文化元甲子年六月請返候断出ル

一 播州宍保郡新宮阿め屋庄七と申もの橋本町蓬萊屋佐市伯父之処一昨日同人方へ来ル折節病氣指起候ニ付正月廿日頃迄逗留為仕度願書承り届正月廿四日追願

一 牢舎人半兵衛義快候ニ付明晦日切ニ而休業仕候段牢番団届出候一牢番上野団助申出候由ニ而小頭藤藏へ申聞候者以前者無之事ニ候

所後藤時分る寒中「相成候得者罪人共へむしろ壹枚ツ、余分ニ相渡来候由山七申候趣申出候ニ付下方吟味申付候所荒物抔申候も冬へ相成候得者むしろを壹式束も壹度ニ指出候事年々有之由申候穢多頭九郎右衛門へ相尋候所古代ハ無之事ニ候所後藤時分るむしろ壹枚ツ、御渡被下候由申候并火床むしろ并番所むしろも御渡被下候事ニ候由申候旨申出候付左候ハ、是迄致来之通相渡可申勿論暖氣ニ相成候ハ、牢渡之時分取上ケ可申旨申付候

十二月晦日 晴曇風

一 中之町甲屋幸助追込昨日迄ニ而七日ニ相成候間今朝指免候段御用番并大目附へ相届候

一 船出入龍野御裁許口檉野屋茂一郎聞合之手段同人考之通思召無之旨要人殿る被仰出候付大年寄へ申達候

一 仮目明善治義今夕切ニ而仮役指免候段小頭届出候

津山郷土博物館紀要第二十三号

津山松平藩町奉行日記十七

平成二十一年三月三十一日発行

編集 津山郷土博物館◎  
発行

岡山県津山市山下九二番地  
印刷 二葉印刷

岡山県津山市中島四二一五

